
文部科学省認可通信教育

レポート課題集

C | 心理専門編

2018

レポート課題集

2018

C

心理専門編

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2020年9月30日到着分まで

「環境心理学」「障害児の心理」など例外有。
今後変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学 通信教育部

目 次

福祉心理学科関連専門科目

CC2149・CC2103	福祉心理学	18
FA2531	2018～ 心理学概論A	24
FA2532	2018～ 心理学概論B	29
FA2501	～2017 心理学概論	34
FB2533	2018～ 心理学実験ⅠA	37
FB2534	2018～ 心理学実験ⅠB	43
FB2505	～2017 心理学実験Ⅰ	49
FB2506	～2017 心理学実験Ⅱ	57
FB3508	～2017 心理学研究法Ⅰ	64
FB3509	～2017 心理学研究法Ⅱ	77
FC2540	2018～ 社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	84
FC2514	～2017 社会心理学	92
FC2541	2018～ 社会・集団・家族心理学B（家族心理学）	94
FC2515	～2017 家族心理学	100
FC3542	産業・組織心理学	102
FC2523	～2017 産業心理学	109
FC2689	人間関係論	110
FC3504	～2017 環境心理学	113
FD2502	～2017 生涯発達心理学	121
FD2516・FD2527	児童青年心理学	131
FD2544	2018～ 老年心理学A	141
FD2545	2018～ 老年心理学B	146
FD2517	～2017 老年心理学	151
FE2547	2018～ 教育・学校心理学A（教育心理学）	154
FE2513	～2017 教育心理学	161
FE3548	2018～ 教育・学校心理学B（学校心理学）	162
FE3518	～2017 障害児の心理	168
FF3550	2018～ 感情・人格心理学	176
FF2511・FF2528	～2017 人格心理学	182

FF3553	2018～ 心理的アセスメントⅠ	185
FF2519	心理アセスメント	191
FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	193
FF3503	～2017 臨床心理学	195
FF3520	～2017 心理療法	201
FF3521	～2017 心理療法各論	210
FF3551	司法・犯罪心理学	214
FF3524	～2017 犯罪非行心理学	221
FG2682	カウンセリングⅠ	222
FG2683	カウンセリングⅡ	224
FG3695	カウンセリング演習Ⅰ	226
FG3696	カウンセリング演習Ⅱ	228
FH3560	2018～ 知覚・認知心理学	230
FH3510・FH3530	～2017 認知心理学	235
FH3561	2018～ 学習・言語心理学	237
FH3512	～2017 学習心理学	242
ZZ5991	卒業研究	243

特講・福祉心理学

FT2604	～2017 特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）	254
FT2605	特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）	256
FT2608	特講・福祉心理学8（ストレスとつきあう心理学）	258
FT2609	特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）	260
FT2617	特講・福祉心理学17（認知行動療法）	262

共通基礎科目・専門選択科目B群

DA3146・AB1146	統計情報を見る眼	264
---------------	----------	-----

『レポート課題集』の構成

掲載冊子・ページは、下記の「科目別索引」で探してください。

■2018年度版の冊子を発行するもの（PDF版も通信教育部ホームページに掲載）

A-I	社福指定科目編	
A-II	精保指定科目編	注意：社福・精保の共通科目は、A-Iに掲載されています。
B	共通基礎・福祉専門編	
C	心理専門編	本冊子

※他に『客観式レポート集』を発行。共通基礎科目・心理専門科目の客観式レポート課題が掲載されます。

■2018年度版の冊子を発行しないもの

D	特別支援編	2018年 PDF 版を通信教育部ホームページに掲載（または2015年冊子版を参照のこと。ただし一部変更あり）
E	2008年度以前入学者科目 社会福祉士指定科目	2015年 PDF 版を通信教育部ホームページに掲載（または『レポート課題集2014（心理・教職編）』を参照のこと）
F	高等学校福祉科教員免許状 関連科目	

各科目の関連を示した履修系統図は、2018年度入学者は『学習の手引き2018版』を、2017年度以前入学者は『レポート課題集C（心理専門編）2017』p. 204～207を参照してください。

科目別索引

ページ数が記載されていない科目は、下記でご確認ください。

A-I	社福指定科目編
A-II	精保指定科目編
B	共通基礎・福祉専門編
C	心理専門編
D	『レポート課題集2015』または通信教育部HP「レポート課題一覧」
E・F	『レポート課題集2014』または通信教育部HP「レポート課題一覧」

～2008	2009年度以降入学者履修不可
2009～	2008年度以前入学者履修不可
～2011	2012年度以降入学者履修不可
2012～	2011年度以前入学者履修不可
～2017	2018年度以降入学者履修不可
2018～	2017年度以前入学者履修不可

ア行

CC3079	2009～	医学一般	A-I
CC3106	～2008	医学一般	E
DF3147		医療・福祉経済論	B
DE2113		NPO論	B

カ行

CL2065	2009～	介護概論	A-I
CL2120	～2008	介護概論	E
EA4193	2009～	介護技術	B
EB4903		介護実習	学習期間終了
EB4701・EB4741		介護実習事前事後指導	学習期間終了
EC3708		カウンセリング (教職免許状取得希望者向け)	F
FG2682		カウンセリングⅠ	222
FG2683		カウンセリングⅡ	224
FG3695		カウンセリング演習Ⅰ	226
FG3696		カウンセリング演習Ⅱ	228
AB1020	～2017	科学的な見方・考え方	B
AB1032		科学的な見方・考え方	B
FH3561	2018～	学習・言語心理学	237
FH3512	～2017	学習心理学	242

FC2515	～2017	家族心理学	100
DH3144		家族法	B
FC3504	～2017	環境心理学	113
AH1018		観光と文化	学習期間終了
FF3550	2018～	感情・人格心理学	176
AB1033		基礎演習	B
AB1145・DA2145		基礎演習	B
FE2547	2018～	教育・学校心理学A(教育心理学)	154
FE3548	2018～	教育・学校心理学B(学校心理学)	162
FE2513	～2017	教育心理学	161
EC2301		教育原理	F
EC4904		教育実習	学習期間終了
EC4710		教育実習の事前事後指導	学習期間終了
AH1037		教育の歴史と思想	B
EC3706		教育方法論(視聴覚教育等を含む)	F
EC5913		教職実践演習(高)	学習期間終了
EC2702		教職論	F
DD4124・DD4196		ケアマネジメント論	B
EG4734		(軽度)発達障害教育総論	D
EG4733		(軽度)発達障害者の心理	D

FF4559	2018～	健康・医療心理学	2019年度より開設
AK1016	～2017	健康科学	B
EG4736		言語障害教育	D
AH1006		現代社会を見る眼	2008年版
DF3110		公衆衛生学	B
CM3069	2009～	更生保護制度論	A-I
CA4108		公的扶助論	A-I
EC3703		高等学校教育課程の意義と編成	F
CL2064	2009～	高齢者福祉論	A-I
CL2117	～2008	高齢者福祉論	E
DH4115		国際福祉論	B
AH1019		子どもと社会	2008年版
AL1011		コミュニケーション英語	B
EG4736		コミュニケーション障害教育	
		→言語障害教育	D

サ 行

FG3680		産業カウンセリングⅠ	学習期間終了
FG3681		産業カウンセリングⅡ	学習期間終了
FC2523	～2017	産業心理学	学習期間終了
FC3542		産業・組織心理学	102
EG3737		視覚障害教育総論	D
EF3719		肢体不自由教育	D
EE4723		肢体不自由者の心理、生理・病理	D
FD2516・FD2527		児童青年心理学	131
CL2066	2009～	児童・家庭福祉論	A-I
CL2116	～2008	児童福祉論	A-I
EG4735		自閉症教育総論	D
FF3551		司法・犯罪心理学	214
FC2540	2018～	社会・集団・家族心理学A (社会・集団心理学)	84
FC2541	2018～	社会・集団・家族心理学B (家族心理学)	94
FC2514	～2017	社会心理学	92
CE4073	2009～	社会調査の基礎	A-I
DD4114		社会病理学	学習期間終了
CN3130	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅰ	E
CN4131	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅱ	E
CN3082	2009～	社会福祉援助技術演習A	A-I
CN4083	2009～	社会福祉援助技術演習B	A-I
CN5084	2009～	社会福祉援助技術演習C	A-I
CP5901	～2008	社会福祉援助技術現場実習	E
CP5132	～2008	社会福祉援助技術現場実習指導	E
CP5907	2009～	社会福祉援助技術実習	A-I
CP3190	2009～	社会福祉援助技術実習指導A	A-I
CP5191	2009～	社会福祉援助技術実習指導B	A-I
CE3070	2009～	社会福祉援助技術総論	A-I
CE3071	2009～	社会福祉援助技術論A	A-I
CE3072	2009～	社会福祉援助技術論B	A-I
CJ3126	～2008	社会福祉援助技術論Ⅰ	E
CJ3127	～2008	社会福祉援助技術論Ⅱ	A-I
CJ4128	～2008	社会福祉援助技術論Ⅲ	E
CJ4129	～2008	社会福祉援助技術論Ⅳ	E
AH1050		社会福祉学入門	B
CA3104		社会福祉原論(職業指導を含む)	A-I
DA2050		社会福祉の基礎	B
DH4111		社会福祉法制	B
DF4112		社会保険論	2008年版
CA4107		社会保障論	A-I
CM4076		就労支援サービス論	A-I

FE3518	～2017	障害児の心理	168
EH4906		障害者教育実習	学習期間終了
EH4740		障害者教育実習の事前・事後指導	学習期間終了
ED3718		障害者教育総論	D
FE3549		障害者・障害児の心理	2019年度より開設
CD2118		障害者福祉論	A-I
EA2195	～2017	障害の理解	B
FD2502	～2017	生涯発達心理学	121
AB1332	～2017	情報処理Ⅰ	B
AB1034		情報処理の基礎	B
DK4692		職場のメンタルヘルス	学習期間終了
FF2511・FF2528		人格心理学	182
FJ3562	2018～	神経・生理心理学	2019年度より開設
AH1049		人権と福祉	B
CC3081	2018～	人体の構造と機能及び疾病	A-I
DK3690		人的資源論	学習期間終了
FF2519	～2017	心理アセスメント	191
FA2501	～2017	心理学概論	34
FA2531	2018～	心理学概論A	24
FA2532	2018～	心理学概論B	29
FB3508	～2017	心理学研究法Ⅰ	64
FB3509	～2017	心理学研究法Ⅱ	77
FB3538	2018～	心理学研究法A	2019年度より開設
FB4539	2018～	心理学研究法B	2019年度より開設
FB2505	～2017	心理学実験Ⅰ	49
FB2533	2018～	心理学実験ⅠA	37
FB2534	2018～	心理学実験ⅠB	43
FB2506	～2017	心理学実験Ⅱ	57
FB3535	2018～	心理学実験ⅡA	2019年度より開設
FB3536	2018～	心理学実験ⅡB	2019年度より開設
FF3554	2018～	心理学的支援法Ⅰ	2019年度より開設
FF4557	2018～	心理学的支援法Ⅱ	2019年度より開設
FF4558	2018～	心理学的支援法Ⅲ	2019年度より開設
FB3537	2018～	心理学統計法	2019年度より開設
FF3553	2018～	心理的アセスメントⅠ	185
FF4556	2018～	心理的アセスメントⅡ	2019年度より開設
FF3520	～2017	心理療法	201
FF3521	～2017	心理療法各論	210
AK1040		睡眠改善学	B
AS1024		スポーツ(バングルフ)	学習期間終了
AS1023		スポーツ(バレーボール)	学習期間終了
AS1043		スポーツの心理学	B
EA3194	～2017	生活行動と人体	B
AH1026		政治学の基礎	B
CQ4140		精神医学	A-II
CS4139		精神科リハビリテーション学	A-II
CU3151	2012～	精神障害者の生活支援システム	A-II
CQ3136		精神保健学	A-II
CW4141	～2011	精神保健福祉援助演習	A-II
CW3157	2012～	精神保健福祉援助演習A	A-II
CW4158	2012～	精神保健福祉援助演習B	A-II
CW5159	2012～	精神保健福祉援助演習C	A-II
CR3138・CR3148	～2011	精神保健福祉援助技術各論	A-II

CR3156	2012～	精神保健福祉援助技術各論	……	A-II
CR3153	2012～	精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	…	A-II
CR3154	2012～	精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	…	A-II
CR3137	～2011	精神保健福祉援助技術総論	……	A-II
CX5902	～2011	精神保健福祉援助実習	……	A-II
CX4908	2012～	精神保健福祉援助実習A	……	A-II
CX5909	2012～	精神保健福祉援助実習B	……	A-II
CX4188	2012～	精神保健福祉援助実習指導A	…	A-II
CX5189	2012～	精神保健福祉援助実習指導B	…	A-II
CT3150	2012～	精神保健福祉のサービス	……	A-II
CT4152	2012～	精神保健福祉の制度	……	A-II
CS3155	2012～	精神保健福祉の理論	……	A-II
CS3133	～2011	精神保健福祉論Ⅰ	……	A-II
CT3134	～2011	精神保健福祉論Ⅱ	……	A-II
CT4135	～2011	精神保健福祉論Ⅲ	……	A-II
EC3707		生徒指導論（進路指導を含む）	……	F
AK1005		AK1039		
	～2017	生命の科学	……	B
AK1042		生命の科学	……	B
AA1001	～2017	禅のこころ	……	B
AA1031		禅のこころ	……	B
EC4709		総合演習	……	（学習期間終了）
ZZ5991		卒業研究	……	243

夕 行

CA3105		地域福祉論	……	A-I
FH3560	2018～	知覚・認知心理学	……	230
EF3727		知的障害教育	……	D
EE4721		知的障害者の心理	……	D
EE4722		知的障害者の生理・病理	……	D
DD3119		知的障害者福祉論	……	B
EF3730		聴覚障害教育	……	D
EE4725		聴覚障害者の心理	……	D
EE4726		聴覚障害者の生理・病理	……	D
EG4732		重複障害教育総論	……	D
AB1035		データ分析とプレゼンテーション技法	……	B
AB1146		DA3146		
		統計情報を見る眼	……	264
EC3705		特別活動の指導法	……	F
ET3771		特別支援教育支援員概論	……	（学習期間終了）
AT1027		特講（子どもの貧困）	……	開設未定
AT1029		特講（地域と生活）	……	B
DT5205		特講・社会福祉学5	……	A-I
DT5206		特講・社会福祉学6	……	A-II
DT2217		特講・社会福祉学17（ACT）	……	B
DT2219		特講・社会福祉学19		
		（コミュニティソーシャルワーク）	……	B
DT2250		特講（防災士研修講座）	……	B
FT2604	～2017	特講・福祉心理学4		
		（スクール・カウンセリング）	……	254
FT2605		特講・福祉心理学5		
		（自分さがしの心理学）	……	256
FT2608		特講・福祉心理学8		
		（ストレスとつきあう心理学）	……	258
FT2609		特講・福祉心理学9		
		（コミュニティ心理学）	……	260
FT2617		特講・福祉心理学17		
		（認知行動療法）	……	262

ナ 行

FC2689		人間関係論	……	110
AH1017	～2017	人間と教育	……	B
AJ1004		人間と宗教	……	2008年版
DD2215		認知症介護論	……	B
FH3510		FH3530		
	～2017	認知心理学	……	235

ハ 行

EG4734		発達障害教育総論	……	D
EG4733		発達障害者の心理	……	D
DD2211		発達障害者の地域支援	……	B
DD3161		発達障害者の理解と支援	……	B
FD3543	2018～	発達心理学	……	2019年度より開設
FD3546	2018～	発達臨床心理学	…	2019年度より開設
FF3524	～2017	犯罪非行心理学	……	（学習期間終了）
EF3729		病弱教育	……	D
EF4731		病弱教育総論	……	D
EE4724		病弱者の心理、生理・病理	……	D
EC3704		福祉科の指導法	……	D
DH3121		福祉機器論→福祉用具と生活支援	……	B
CC4080	2009～	福祉行財政と福祉計画	……	A-I
CE4074	2009～	福祉経営論	……	A-I
DH3123	～2008	福祉計画法	……	B
DE4125	～2008	福祉施設管理論	……	B
DH2109		福祉思想論	……	B
CC2101		福祉社会学	……	A-I
CC2103		CC2149		
		福祉心理学	……	18
FP5571	2018～	福祉心理学演習	…	2019年度より開設
AH1003	～2017	福祉と経済	……	B
AH1021		福祉と生活	……	（学習期間終了）
CB3063	2009～	福祉法学	……	A-I
CB3102	～2008	福祉法学	……	E
DA2142		福祉ボランティア活動	……	B
DF3121		福祉用具と生活支援	……	B
DE3143		福祉リスクマネジメント	……	B
AJ1008		文学入門	……	2006年版
AH1036		法の基礎	……	B
AH1007	～2017	法の基礎（日本国憲法を含む）	……	B
CD4075	2009～	保健医療サービス論	……	A-I
AB1002		ボランティア論	……	B

ラ 行

FF2522		ライフサイクルと福祉心理学	……	193
DF3122		リハビリテーション論	……	B
FF3503	～2017	臨床心理学	……	195
FF3552	2018～	臨床心理学概論Ⅰ		
		……	……	2019年度より開設
FF4555	2018～	臨床心理学概論Ⅱ		
		……	……	2019年度より開設
AJ1009		歴史を見る眼	……	（学習期間終了）
AJ1038		歴史を読み解く	……	B
DL3280		レクリエーション概論	……	（学習期間終了）
DL4282		レクリエーション事業	……	（学習期間終了）
DL4281		レクリエーション実技	……	（学習期間終了）
DK4691		労働法	……	（学習期間終了）
FD2517	～2017	老年心理学	……	151
FD2544	2018～	老年心理学A	……	141
FD2545	2018～	老年心理学B	……	146

『レポート課題集』の活用方法

昨年度までは、「スクーリング講義概要」は『試験・スクーリング情報ブック』に記載されていましたが、今年度から『レポート課題集』に記載されます。

科目名・担当教員名など

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を記載しています。「R：レポート+科目修了試験」「SR：スクーリング+レポート」「R or SR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』2018版p. 14、2017版p. 12、その他の版p. 4（またはp. 2）で確認ください。

履修方法=Sの科目については、レポート課題はなく、教科書もないものが大半です。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、1単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「1年以上」と記載のある科目は、1年生以上（2～4年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

主としてレポート添削指導をおこなう教員名を記載しています（S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、一部科目のレポートは添削指導員が担当する場合があります。

科目の概要

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を記載しています。意識して学習を進めてください。

●教科書

レポート学習やスクーリング時に使用する教科書を記載しています。在学中に変更になる場合もありますので、今年度学習するにあたり必ずご確認ください。

【スクーリング時の教科書について】

教科書が変更された科目について、通常変更後2年間は、変更直前の教科書を所持している方に対し、必要に応じて配慮をいたします。

教科書が変更されて2年以上経過した科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合、所持していない方は事前に購入などをお願いいたします。

なお、通信教育部へ購入を申込む場合は、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき、事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封のうえ余裕をもってお申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない教科書の料金はお問い合わせください。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」にあげられた「卒業までに身につけてほしい力」との関連で記載したものです。

●科目評価基準

評価するにあたり、評価の計算方法を記載しています。

2018年度以降の科目評価の算出方法は下記の通りです（入学年度により計算方法が異なります）。

■2014年度以降入学者の評価計算方法

計算上、「優」「良」「可」などの評価を4点満点で得点換算し、『レポート課題集』記載の評価割合で計算されます。

◇レポート評価

評価	優	良	可
レポートの得点換算	4	2	1

◇スクーリング評価 or 科目修了試験

評価	秀	優	良	可
試験の得点換算	4	3	2	1

※レポート評価に、「秀」はありません。

◇科目評価の計算式

例) 科目評価基準が、レポートa%+スクーリング試験or科目修了試験b%の場合 (a%+b%=100%)

$$\text{科目評価得点} = \frac{\sum \{ (\text{レポートの得点換算の合計}) \times a\% \}}{\text{レポート課題数}} + \text{試験の得点換算} \times b\%$$

◇科目の評価

科目評価得点	4.0	4.0未満～2.5以上	2.5未満～1.5以上	1.5未満～1.0以上
科目評価	秀	優	良	可
100点満点換算	100～90相当	89～80相当	79～70相当	69～60相当

※2017年度以前の単位修得科目の評価にも「秀」が加わります。

2017年度以前の単位修得科目の科目評価の計算方法は、『レポート課題集2017』記載のとおりです（上記の方法では計算されません）。

※100点満点換算は「秀」「優」「良」「可」の位置づけの理解のために、参考に記載しております。

■2013年度以前入学者の評価計算方法

計算方法は2014年度以降入学者と同じですが、2013年度以前の入学者に「秀」の評価はつきません。

スクーリング

【会場によって担当教員が異なる科目】

会場により担当教員が異なる科目があります。会場ごとの講義概要を記載していますので、スクーリング受講前に必ずご確認ください。

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度以前である科目も多いため、以前の教科書にもとづく講義の場合があります。その際は、最新の教科書を所持している方に対しては、必要に応じて配慮します。

また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。「オンデマンド・スクーリング用の講義概要」は、「TFUオンデマンド」の「各種申込」より確認してください。

【その他スクーリング受講上の留意点】

『学習の手引き』の「スクーリング」をご確認ください（掲載している章は入学年度により異なります）。

●スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング時に、特に学んで欲しいポイントを記載しています。

●講義内容

コマごとのテーマ・内容が記載されています。なお、テーマの記載に当たって、スクーリング試験を分けていますので、たとえば、回数＝1～9と表記されている科目のスクーリングのコマ数は8コマです。

●スクーリング 評価基準

評価するにあたり、判断基準の割合などを記載しています。スクーリング試験にあたっての補足事項（持込の可否など）も記載されています。

●スクーリング事前学習

スクーリングを受講するにあたり、事前に学習しておいてほしい事項を記載しています。記載されていなくても、教科書を一読したり不明な用語を調べておいたり、レポート課題について考察しておくことをお奨めします。また、受講中（後）も、疑問点について意欲的に調べることが望まれます。

予習・復習により、学習が深まり、学習効果の向上が期待できます。

●スクーリング事後学習

スクーリング受講後に、学習（復習）してほしい事項を記載しています。その他、スクーリング受講で得た知識を踏まえ、未提出のレポートがある場合はレポート課題に取り組みましょう。また、「到達目標」を達成できるよう各自で知識をさらに深める学習をしてください。

講義中に紹介された参考図書を読んだり、スクーリングで得た知識を、受講後の職場や家庭での実践に役立て、知識を自分のものとすることも非常に大切な事後学習となります。

レポート学習

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを15回（一部の科目を除く）に分けて記載しています。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は十分理解したことになります。テーマ部分の（ ）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。学習内容をより深めたい場合は、参考図書を活用することをお奨めします。なお、参考図書を読むことが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認してください。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』6章（2017・2018版は4章1節）の「レポート学習」をご確認ください。

なお、福祉心理学科専門科目の大半の科目は、一部の課題が○×式や選択肢式などの「客観式レポート」です。「TFUオンデマンド」上で解答するか、『客観式レポート集』を利用して郵送で提出してください。

●アドバイス

レポート課題に取り組むにあたってのアドバイスが記載されています。よく読んでレポートに取り組ん

てください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行います。レポートは学習の成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

【レポートにおける観点別ルーブリック評価】

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことからの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①～④のいずれか2つ以上が満たされている。	①～④の3つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年(初版)・引用ページ(引用の場合)を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。 ※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ(※課題により要求されない場合もある)	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて(事例を挙げる等)まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は伺えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

科目修了試験

●評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が記載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしばって学習してください。

福祉心理学科 関連専門科目 留意事項

福祉心理学科の専門必修科目（専門選択必修科目）、専門選択科目A群の2018年度の学習開始にあたっての留意点です。

全学生へのご案内

●カリキュラムが2018年度入学者と2017年度以前入学者で大きく異なります

- ・2018年度入学者より福祉心理学科のカリキュラムが大きく変わりました。2017年度以前入学者と科目名称・単位数などが異なる科目が多くあります。また、2018年度は2017年度以前入学者のみが受講できるスクーリングもあります。
- ・スクーリングは2017年度以前入学者と2018年度入学者とが一緒に受ける科目も多くあります。本冊子の利用やカリキュラムに関する学友同士の情報交換の際は入学年度によってカリキュラム・科目名称・単位数が異なる場合があることにご注意ください。

(例) 2017年度以前入学者「心理学概論」－ 2018年度入学者「心理学概論A」「心理学概論B」

●各科目ともスクーリングの受講をお奨めします

- ・慣れるまでは教科書を読んでも専門用語が多く難しく感じることも多いかもしれません。その場合は、スクーリングを受講することをお奨めいたします。スクーリングを受講し、教科書や参考図書を読み進めていくうちに、心理学的な考え方に慣れてきて「わかった」ということが増えてきます。
- ・心理学は私たちのこころや行動を扱っていますので、具体例と結びつけて考えてみてください。

●『福祉心理学科スタディ・ガイド』も活用ください

- ・本学福祉心理学科の先生からのメッセージを掲載しています。参照のうえ学習を進めてください。

●「心理学」の用語辞典

下山晴彦編集代表『誠信心理学辞典（新版）』誠信書房、2014年（領域別）

外林大作ほか編『誠信心理学辞典』誠信書房、1981年（五十音順）

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年（五十音順）

のいずれか 1 冊は購入し手元に置いておくことをお奨めしています。

●教科書より平易な入門書もご利用ください

教科書や辞書の文章が難しく感じる場合は、下記のようなよりやさしい心理学の入門書で心理学のイメージをつかんでいただくこともお奨めしています。

- ・大井晴策監修『史上最強カラー図解プロが教える心理学のすべてがわかる本』ナツメ社
- ・青木紀久代・神宮英夫編著『カラー版徹底図解 心理学』新星出版社
- ・渋谷昌三著『面白いほどよくわかる！心理学の本』西東社
- ・植木理恵著『ゼロからわかる ビジュアル図解 心理学』KADOKAWA

※他にもありますので、書店などでさがしてみてください。

- その他、この『レポート課題集』や『試験・スクーリング情報ブック』、『学習の手引き』、『With』でご案内の留意点をご覧ください。

2018年度入学者へのご案内

●2018年度は、新カリキュラム開始1年めのため、開講されていない科目があります。2019年度以降に開講される科目は『学習の手引き2018版』p. 69～72「開設授業科目一覧」でご確認ください。

●受講条件・受講上の注意・スクーリング受講にあたっての留意事項等が課される予定の科目

【2018年度開講科目】「心理学概論B」「老年心理学B」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」「ライフサイクルと福祉心理学」「産業・組織心理学」 留意事項は各科目欄参照（上記科目の留意事項は強制ではありません）。

【2019年度以降開講科目】「心理学実験ⅡB」「心理学研究法A・B」「臨床心理学概論Ⅱ」「心理学支援法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「心理的アセスメントⅡ」「神経・生理心理学」「福祉心理学演習」「卒業研究」

※2019年度以降開講科目の受講条件・留意事項の詳細は未定です。また、「卒業研究」の受講条件は2019年度受講の場合と、2020年度以降に受講の場合で変更される予定です。

※科目名にA・Bが付されている科目は、A・Bの受講の順序の指定はありません。また、「カウンセリングⅠ」と「カウンセリングⅡ」の受講の順序の指定はありません。実験科目は「心理学実験ⅠA」から受講することを推奨しますが、「心理学実験ⅠB」「心理学実験ⅡA」からの受講も可能です。

●卒業にあたって会場スクーリング受講が必須の科目

・「心理学実験ⅠA」

●単位修得期限が2022年度の科目

・「児童青年心理学」 スクーリング開講は2019年度まで。

●会場スクーリングが隔年開講予定の科目

・『学習の手引き2018版』p. 69～72参照。特講科目については本冊子p. 14参照。

●2018年度入学者の「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格取得について

・現在は「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格が取得できる課程ではありません。p. 15～16の特例要件による取得もできません。

2017年度以前入学者へのご案内

※2018年度以降の変更点です。

●「客観式レポート」の導入（共通基礎科目・心理系専門科目のみ）

・スクーリング受講の有無にかかわらず、一部のレポート課題を「客観式レポート」（穴埋め式、○×式等「別レポート」と同様の形式）に変更します。

・「客観式レポート」は、「TFUオンデマンド」上で解答、またはレポート提出台紙に貼り付けて郵送（解答用紙は別冊『客観式レポート集』よりコピー）してください。

・2単位の科目でレポートが2課題ある科目の場合で、1課題分を「別レポート」で合格している場合は、もう1課題は必ず「論述式レポート」になります（「客観式レポート」は利用できません）。

・レポート課題の変更にともない、「生涯発達心理学」などでは合格済みレポート課題の課題番号が変更される場合があります。

●科目名称などが変更になる科目（「産業心理学」「犯罪非行心理学」）

①2018年3月31日までに上記2科目の単位を修得した方：科目名の変更はありません。「産業心理学」の単位修得者は「産業・組織心理学」の、「犯罪非行心理学」の単位修得者は「司法・犯罪心理学」の履修はできません。

②2018年3月31日現在、「産業心理学」「犯罪非行心理学」を履修登録済みで単位未修得の方

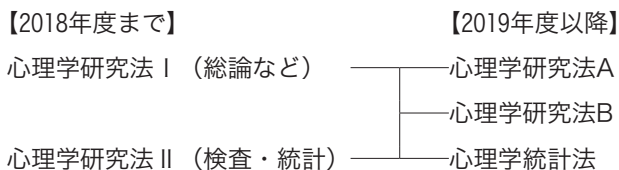
- ・「産業心理学（2単位 履修方法：SR）」→「産業・組織心理学」（2単位 履修方法：RorSR）に変更。
- ・「犯罪非行心理学（2単位 履修方法：SR）」→「司法・犯罪心理学」（2単位 履修方法：SR）に変更。
- ・「産業心理学」「犯罪非行心理学」でのスクーリング合格の評価は引き継がれます。レポートに合格済みの場合は「論述式レポート課題」（2単位め課題）の合格として引き継がれます。
- ・「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」のレポート課題は2課題（客観式レポート+論述式レポート）ですので、2018年4月以降の単位修得にはレポート2課題の合格が必要となります。

●スクーリング単位が変更になる科目（予定を含む）

- ・2017年度までのスクーリング単位が2単位の科目について、2018年度から「人格心理学」「児童青年心理学」「認知心理学」のスクーリング単位が2単位から1単位に変更になります。
- ・2019年度以降は「生涯発達心理学」「臨床心理学」のスクーリング単位が1単位に、「心理学概論」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理療法」のスクーリング日数などの変更が予定されています。

●「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」科目内容変更の予告

- ・「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」について現行の学習内容でのスクーリング受講が可能なのは2018年度まで、レポート提出および「心理学研究法Ⅰ」の科目修了試験受験が可能なのは2020年度（2021年3月）までといたします。
- ・2017年度以前入学者も2019年度以降に、現行の「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を2020年度までに単位修得をするか、「心理学研究法A」「心理学研究法B」「心理学統計法」の3科目に分けて学習をするかを選択していただきます。



- ・上記変更にともない、下記の場合は福祉心理学科卒業や認定心理士取得にあたって、とくに問題はありません。

①「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を2020年度までに2科目とも単位修得する方。

※2018年度までに「心理学研究法Ⅱ」のスクーリングの受講が必要になります。

②「心理学研究法A」「心理学研究法B」「心理学統計法」の3科目を2019年度以降に単位修得する方。

※以上により、①2018年度までに「心理学研究法Ⅱ」のスクーリングを受け遅くとも2020年度までに「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得するか、②2018年度には「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」については学習に着手せず、2019年度以降に「心理学研究法A」「心理学研究法B」「心理統計法」の3科

目の単位修得するかのいずれかをお奨めします。

- ・2020年度までに「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得に至らない場合には、当該科目の一部のスクーリングやレポートが合格していても、その合格が「心理学研究法A・B」に引き継がれない可能性があります。
 - ・2019年度以降の福祉心理学科卒業のためには、専門必修科目の「心理学研究法Ⅰ」の代わりに「心理学研究法A」の単位修得でもよいこととなります。
- 単位修得期限が2018年度の科目
- ・「障害児の心理」「環境心理学」
- 単位修得期限が2022年度の科目
- ・「児童青年心理学」 スクーリング開講は2019年度まで。
 - ・「老年心理学」「人格心理学」「心理療法」「認知心理学」 2022年度までは4単位科目として開講。2023年度以降は2単位科目として単位修得が可能になる予定。
- 2019年度以降に開設予定の科目
- 「心理学統計法」「福祉心理学演習」（2単位 履修方法：SR）
「健康・医療心理学」「神経・生理心理学」（2単位 履修方法：RorSR）
「発達臨床心理学」（1単位 履修方法：S）
- 履修方法などは変更されることがあります。「福祉心理学演習」は受講条件が付されます。
- 会場スクーリングが隔年開講予定の科目
- ・「人間関係論」「人格心理学」「心理アセスメント」「ライフサイクルと福祉心理学」「認知心理学」「学習心理学」
 - ・特講科目は原則として当該年度のみ開講ですが、「特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）」、「特講・福祉心理学8（ストレスとつきあう心理学）」、「特講・福祉心理学17（認知行動療法）」、「特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）」は隔年開講を予定しています。
- 2017年4月生以前入学者の「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格の特例要件による取得
p. 15～16参照
- 会場スクーリングの受講が必須の科目
- ・卒業のために 「心理学実験Ⅰ」または「心理学実験Ⅱ」いずれか1科目
 - ・認定心理士取得のために 「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」の3科目
- 受講条件・スクーリング受講にあたっての留意事項のある科目
- ・「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」「心理療法」「臨床心理学」「カウンセリング演習Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」「ライフサイクルと福祉心理学」 詳細は各科目欄を参照
- 受講の順序指定のない科目
- ・「カウンセリングⅠ」と「カウンセリングⅡ」
「カウンセリング演習Ⅰ」と「カウンセリング演習Ⅱ」
「心理学実験Ⅰ」と「心理学実験Ⅱ」
「心理学研究法Ⅰ」と「心理学研究法Ⅱ」
- の間の受講の順序の指定はありません。「Ⅱ」を「Ⅰ」より先に受講しても大丈夫です。

「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格取得について

新設された心理専門職の国家資格「公認心理師」国家試験受験資格を得るためには、大学で必要な科目を修めて卒業した後、所定の業務に2年以上従事するか、所定の大学院に進学・修了することが必要です。

「臨床心理士」など他の心理系の資格と同様、資格取得は狭き門になることが予想されます。また、現在、心理職の需要は福祉職ほど多いものではなく、公認心理師の需要が将来どのように伸びていくのかは、まだ分かりません。

2017年4月までに入学の正科生は、法令上の特例要件を満たせば、実習・演習科目なしでの受験資格の基礎資格が取得（＝「大学で必要な科目を修めて卒業」を満たす扱いとなる）でき、所定の大学院の受験が可能となります。

法令上の特例要件を満たすために通信教育部で単位修得すべき科目は下記のとおりです。

公認心理師の経過措置対応科目表2018（2017年度4月入学者まで対応 ※1）

No. (条件)	大学における必要な科目名	通信教育部における必要な科目 (2010～2017年度単位修得 ※2)	通信教育部における必要な科目 (2018年度単位修得)	備考
I 3科目 以上選択	1 心理学概論	「心理学概論」		
	2 臨床心理学概論	「臨床心理学」		
	3 心理学研究法	「心理学研究法Ⅰ」		
	4 心理学統計法	「心理学研究法Ⅱ」		
	5 心理学実験	「心理学実験Ⅰ」 + 「心理学実験Ⅱ」		2科目 必修
II 4科目 以上選択	6 知覚・認知心理学	該当科目なし	「認知心理学」	
	7 学習・言語心理学	「学習心理学」 + 「児童青年心理学」 or 「老年心理学」 ※3	「学習心理学」	
	8 感情・人格心理学	「人格心理学」 + 「老年心理学」 or 「児童青年心理学」 ※3	「人格心理学」	
	9 神経・生理心理学	該当科目なし		
	10 社会・集団・家族心理学	「社会心理学」 + 「家族心理学」		2科目 必修
	11 発達心理学	「生涯発達心理学」		
12 障害者・障害児心理学	「障害児の心理」			

III	13	心理的アセスメント	「心理アセスメント」	
	2科目 以上選択	14	心理学的支援法	「心理療法」
IV		15	健康・医療心理学	該当科目なし
		16	福祉心理学	「福祉心理学」
	2科目 以上選択	17	教育・学校心理学	「教育心理学」 「教育心理学」 or 「特 講・福祉心理学4（ス クール・カウンセリン グ）」
		18	司法・犯罪心理学	「犯罪非行心理学」 「司法・犯罪心理学」
		19	産業・組織心理学	「産業心理学」 「産業・組織心理学」
V	1科目 以上選択	20	人体の構造と機能及び疾 病	「医学一般」
		21	精神疾患とその治療	「精神医学」

※1 本対応表は、2017年度4月までの入学者を対象としています。(2017年度10月生以降は対象となりません)

※2 2009年度までの単位修得科目については、別途ご相談ください。

※3 「児童青年心理学」または「老年心理学」は、No.7・8に同じ科目を使用することはできません。

なお、2017年10月以降入学の方は特例要件による受験基礎資格の取得はできません。

福祉心理学科関連 専門科目

「特講・福祉心理学」の科目内容は、p. 253～263をご覧ください。

※2018年度より、多くの科目について「別レポート対象課題」であった論述式課題が客観式レポート課題に変更となりました。

※R・SRどちらで受講する場合も、1（～2）課題分は客観式レポート課題となります（一部科目を除く）。

※『レポート課題集2017』記載の論述式課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください（一部科目を除く）。

福祉心理学

科目コード

CC2149・
CC2103

単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR(講義)

1年以上

渡部 純夫

※本科目は、入学年度により科目コードが異なります。

2018年度以降入学者→CC2149

2017年度以前入学者→CC2103

科目の概要

■科目の内容

現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。

福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。

■到達目標

- 1) 一人一人の幸せ追求とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。
- 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。
- 3) 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
- 4) 虐待についての基本的知識を身につける。

■教科書(「人格心理学」と共通)

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年

(最近の教科書変更時期) 2010年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
 今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
 岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
 水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
 村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年
 藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
 岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
 村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
 佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）
 宮原和子・宮原英種著『福祉心理学を愉しむ』ナカニシヤ出版、2001年（第2版、2006年）
 白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
 小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
 安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「福祉心理学」をどのように活用すれば、人々の幸福感が高まり、生活の質の向上につなげることが出来るのかを学びます。そのためには、「心理学」の考え方が必要になります。「心理学」を日常生活にどのように応用させればよいかを、自分なりの創造性を駆使して考えられるようにして下さい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者の生きがい	社会的生きがい、反社会的生きがい、思い出
2	知能	言語的知能、動作的知能
3	認知症の問題行動	徘徊、異食、暴力、性の逸脱
4	問題行動への対応	「福祉心理学」の視点と対応の仕方
5	高齢者の性	性と生・死との結びつき
6	高齢者の喪失体験	友人関係の喪失・経済的喪失・仕事の喪失
7	人生のまとめと死への準備	人生をふり振り返りまとめることの意義と死との向き合い方
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

高齢者の個々の幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える①	心の学の誕生とその歩み キーワード：行動主義、ゲシュタルト、精神分析	心理学の歴史を振り返ることにより、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える②	現代の心理学から未来へ キーワード：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。
3	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード：知覚、認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。
4	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」ことの仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか③	「考え行う」ことの仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念についてを学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、文化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から キーワード：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助のあり方を考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

【2018年度以降入学者】

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2018年度以降入学者は、1単位めが客観式、2単位めが論述式になります。

【2017年度以前入学者】

1 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2017年度以前入学者は、1単位めが論述式、2単位めが客観式になります。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不応を起すこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておくことが必要になります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うこととなりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

客観式課題 アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

論述式課題 アドバイス

- (1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践の見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。

- (2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。
- (3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。
- (4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか

心理学概論A

2018～

科目コード

FA2531

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	佐藤 俊人

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、本科目とあわせて p. 29 「心理学概論B」(科目コード: FA2532、2 単位、履修方法: RorSR) も参照してください。

科目の概要

■科目の内容

心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。

心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただくことをめざします。教科書・レポート学習では基礎的な理論を学び、スクーリングでは心理学諸理論をどう日常生活と関連づけて考えるかを学びます。

■到達目標

- 1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。
- 2) 心理学の成り立ちをや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。

■教科書(「心理学概論B」と共通)

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門(四訂版)』培風館、2016年(四訂版でなくても可)

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

■履修登録条件

この科目は、「心理学概論B」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかについて、心理学の成り立ちと関連づけながら学ぶ。
2	心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
3	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
4	日常生活の中の学習理論①	古典的conditioningの基本について学ぶ。
5	日常生活の中の学習理論②	古典的conditioningの応用可能性について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論③	オペラントconditioningの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
7	スクーリング試験※	

※連続で「心理学概論B」も受講する方は、「心理学概論A」でのスクーリング試験はありません。「心理学概論B」の最終コマに2科目分の試験を受験します。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。教科書は主として図表の確認のために使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで取り上げた心理学理論を実学としてどう応用するかを考えていただきます。

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
1	心理学とは (p. 1～4)		心理学とは何を目的としたどのような学問であるかを理解するとともに、心理学の歴史と諸領域について理解する。	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使ってどのような情報を収集するのか、そしてどのような領域に分類されているのかを理解しておくことにより、心理学全体のイメージがわかりやすくなります。
2	パーソナリティと適応 (臨床心理学) 1 パーソナリティの諸理論 (p. 35～42) 第1部2章2. 1	①	さまざまなパーソナリティ理論について理解する。	心理検査によってパーソナリティを測定することは心理学の課題の一つですが、測定されるべきパーソナリティについて理解することにより、次に学習する心理検査の理解がスムーズになります。パーソナリティの理論には様々なものがあり、それぞれ難解なものです。必要に応じてテキスト以外の情報を得ながら、時間をかけてゆっくりと理解してください。
3		②		
4		③		
5	パーソナリティと適応 (臨床心理学) 2 心理テスト (p. 42～50) 第1部2章2. 2	①	心理アセスメントで使われる心理テストの全体像を理解する。	心理検査には、性格検査、知能検査その他様々な目的の検査があり、その中でも質問紙法、作業検査法、投影法などの手法にわかれています。これら心理検査の基本を学ぶことにより、心理検査の長所と短所を自分なりに考えてみてください。
6		②		
7	学習と動機づけ・情動 (行動心理学) 1 古典的条件づけ (p. 101～108) 第II部4章4. 1	①	心理学における「学習」とはどのようなものかを理解する。その基本的な学習理論である古典的条件づけについて正しく理解する。	レモンを見ただけで、食べてもいないのに唾液が出ます。どうしてこのような現象が起こるのでしょうか。また、この現象を私たちの日常生活に応用するにはどうしたらいいのでしょうか。様々な生理的反応を考え、古典的条件づけの応用性について考えてみましょう。
8		②		
9	学習と動機づけ・情動 (行動心理学) 2 オペラント条件づけ (p. 108～p114) 第II部4章4. 1	①	オペラント条件づけに関する古典的な実験を知ることにより、オペラント条件づけのしくみと、その長所、短所を理解する。	私たちは日常的に「いいことをしたら賞」を、「悪いことには罰」を与える、与えられることに慣れてしています。オペラント条件づけを正しく理解することにより、賞罰の与え方、その危険性などについて考えてみましょう。
10		②		
11	記憶・言語・思考 (認知心理学 I) 1 記憶 (p. 125～138) 第III部5章5. 1	①	記憶の種類や特徴について理解するとともに、新しい課題に直面した時に人間や動物はどのようにそれを解決するのかについての諸理論を理解する。	私たちは、新しい課題を解決するために様々な方法をとっています。やみくもにやってみることもあれば、こうすればできるはずという、見通しを立てることもあります。
12		②		

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
13	感覚・知覚（認知心理学Ⅰ） （p. 153～177）	①	感覚器から入ってくる情報を、私たちは脳で解釈（認知）して判断している。人間の認知が決して現実、事実をそのまま受け取っているわけではないことを理解する。	感覚器から同じ情報を受け取っても、その理解は一人ひとり違います。それぞれの脳で自分らしく判断しているということを理解しましょう。
14	第Ⅳ部 6章 6.1～6.6	②		
15	まとめ 心理的支援の方法の立案		心理的支援のプログラムを提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている事例を具体的に探してみて、具体的にどのようなプログラムを提案できそうかを考えてみてください。そしてそのプログラムはどのような心理学的理論に関連しているものなのかを確認しながら考えることが必要です。なお、実際に心理的支援を行う必要はありません。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版 p. 108～114 三訂版 p. 100～105 改訂版 p. 14～16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみて

いいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみると、おのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずで
す。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられ
たのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それ
は「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？ おそらく3日もたてばもとの行動に戻って
いたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み
砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

心理学概論B 2018～			科目コード	FA2532
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1 年以上	佐藤 俊人	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、本科目とあわせてp. 24「心理学概論A」（科目コード：FA2531、2単位、履修方法：RorSR）も参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学概論A」 p. 24参照。

■到達目標

- 1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。
- 2) 心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。

■教科書（「心理学概論A」と共通）

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（四訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

■履修登録条件

この科目は、「心理学概論A」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブツは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「心理学概論A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
2	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
3	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。
4	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
5	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
6	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
7	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
8	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
1	社会的行動（社会心理学）①個人と社会（p. 5～18） 第1部1章1. 1～1. 3		社会心理学研究の諸理論を理解する。	多くのストレスは対人関係に起因するものです。社会心理学の基本を学ぶことにより、自由に活動しているように見える個人が、いかに社会的な要因によって縛られているかを考えてみましょう。
2	社会的行動（社会心理学）②コミュニケーション（p. 18～33） 第1部1章1. 4～1. 7		集団の中でも個人の動きについて、社会心理学的な視点から理解する。	社会心理学の諸理論は、自分の周りに実際にある事例などを考えながら学習することが、理解をより深めます。日常生活の中で、心理学がどのように観連しているのかを考えながら学習してみましょう。
3	パーソナリティと適応（臨床心理学）3 適応と防衛機制（p. 50～70） 第1部2章2. 3～2. 6	①	フラストレーションに関する理論を理解するとともに、私たちがフラストレーションと戦うために持っている防衛機制について理解する。	様々な不適応状態についての基本を概観するとともに、そのような状態に対する心理的支援の方略としてどのような方法があるのか、その基本を学び、将来の臨床心理学的な支援への足がかりをつかみましょう。
4		②		
5	成熟と成長（発達心理学）1（p. 71～82） 第2部3章3. 1～3. 2	①	発達とは青年期までだけのものではなく、超高齢社会にも対応した発達観があることを理解するとともに、発達心理学における研究方法について理解する。	人間の発達の様相を研究する様々な方法がありますが、それぞれ長所と短所があります。また、例えば遺伝の力を確かめているような研究でも環境要因を排除できていなかったり、因果関係と相関関係を混同していたりする例も少なくありません。自分なりに疑いながら考えてみましょう。
6		②		
7	成熟と成長（発達心理学）2（p. 82～99） 第2部3章3. 3～3. 5	①	発達に関する古典的な研究について理解する。また、研究の倫理についても考える。	発達心理学では、例えば代理母実験のように、現代では倫理的に実施できないような研究も多くなされてきました。また、人間の親子関係を理解する出发点として、他の動物たちとの比較もされてきました。これら貴重な研究を理解することにより、人間の発達について自分なりに考えてみましょう。
8		②		
9	学習と同期づけ・情動（行動心理学）3 動機づけ、情動（p. 114～124） 第2部4章4. 2	①	動物に行動を起こさせる動機について、本能的なものから社会的なものまで理解する。また、感情というものがどのように生じているのかを理解する。	動物の行動には、さまざまな動因が考えられます。本能的なものであったり、社会的なものであったりしますが、その理論を把握することにより、誰かに何かを行動してほしい際の心理的支援に結びつけることができます。また、感情の発生について脳の働きと観連づけて考えてみると、心理療法への応用も可能になるでしょう。
10		②		

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
11	記憶・言語・思考 (認知心理学Ⅰ) 2 言語・思考 (p.138~150) 第Ⅲ部 5章 5.2~ 5.3	①	思考に及ぼす言語の影響 に関する諸理論を理解す る。また、「知能」に関 する諸理論を理解し、自 分なりに知能を考える。	何ができれば知能が高いのか、については 大変難しい問題です。第2章に取り上げら れている知能検査を参照しながら、知能に 関する諸理論を学んでみましょう。さまざ な問題解決の方法について学んでみましょ う。特に試行錯誤学習や洞察学習について は、学習と動機づけの章と観連づけながら 考えてみてください。
12		②		
13	心的活動の生理学的 基礎 (生理心理学) (p.179~199) 第Ⅳ部 7章 7.1~ 7.9	①	脳の機能に関する基本的 な情報を理解する。	脳科学の発展により、人間の思考や感情を 脳内物質や電気信号レベルで説明されるよ うになってきましたが、それでもなお説明 しきれない部分はたくさん残されています。 脳の各領域の機能を理解しながらも、 脳科学で心を説明する限界なども考えなが ら学習してみましょう。
14		②		
15	まとめ 心理的支援 の方法の立案		心理的支援のプログラム を提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている 事例を具体的に探してみ、具体的にどの ようなプログラムを提案できそうかを考え てみてください。そしてそのプログラムは どのような心理学的理論に関連しているも のなのかを確認しながら考えることが必要 です。なお、実際に心理的支援を行う必要 はありません。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロウによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子ども

はさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版 p. 93 図 3-33、三訂版 p. 87 図 3-27、改訂版 p. 143 図 6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

心理学概論

～2017

科目コード

FA2501



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	佐藤 俊人

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「心理学概論A」「心理学概論B」の2科目の内容を学ぶため、下記記載の「■講義内容」「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 24「心理学概論A」（科目コード：FA2531、2単位、履修方法：RorSR）とp. 29「心理学概論B」（科目コード：FA2532、2単位、履修方法：RorSR）の2科目をあわせて参照してください。

※3日間13コマのスクーリングは2018年度が最終開講の予定です（2019年度以降は同一年度に2日間8コマのスクーリングを2回受講する必要があります）。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかを学ぶ。
2	心の構造①(精神分析的な視点から)	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
3	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
4	日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
5	日常生活の中の学習理論②	古典的条件づけの応用可能性について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
7	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
8	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
9	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。
10	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
11	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
12	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
13	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
14	スクーリング試験	

■レポート課題

1 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2016』記載の1単位めの課題に合格した方は、4単位めの課題は『レポート課題集2016』の課題で提出してください。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2017』記載の3単位めの論述式課題に合格した方は、1単位めの課題は『レポート課題集2017』の課題で提出してください。

1単位め
アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロウによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版 p. 93 図 3-33、三訂版 p. 87 図 3-27、改訂版 p. 143 図 6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがまになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがまな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

2単位め
アドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」

には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版 p. 108～114 三訂版 p. 100～105 改訂版 p. 14～16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然にってしまうのか、を考えてみてもいいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみるとおのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜついってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずで、スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるのでしょうか？おそらく 3 日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

3・4単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

心理学実験 I A <small>2018～</small>			科目コード	FB2533
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	SR(実験)	1 年以上	佐藤 俊人・大関 信隆 柴田 理瑛	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に「心理学実験 I」を履修登録した方は、p. 49「心理学実験 I」（科目コード：FB2505、2 単位、履修方法：SR）を参照してください。

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということ明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験 I A・I B」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
- 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
- 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
- 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
- 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
- 6) 実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験 I B」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし 補訂版』有斐閣アルマ、2017年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学

（教科書配本方法）

教科書 1）：履修登録時に配本します。

教科書 2）：【福祉心理学科】＝入学時に配本済みです。

【社会福祉学科・科目等履修生】＝通信教育部ホームページから閲覧してください。冊子版の配本を希望される場合は、履修登録後、『学習の手引き2018版』巻末様式25、または

『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙の「教科書特例配本希望届（無料）」をご利用いただき、郵送またはFAX（または同様の内容を記載してugr@tfu-mail.tfu.ac.jpあてにメール）でお申込みください。

（スクーリング時の教科書）教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■単位修得方法

①事前レポート（客観式1課題）提出・合格+②スクーリング受講+③実験レポート（2つ）提出・合格で単位を修得します。

①事前レポート（客観式1課題）提出・合格：スクーリング受講前に、『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

②スクーリング受講：2日間連続で受講してください。

③実験レポート（2つ）提出・合格：2種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

■科目評価基準

事前レポート評価10%+スクーリング（実験レポート）評価90%

■レポート提出期限

会場	事前レポート	実験レポート
仙台	スクーリング初日に持参または事前に「TFUオンデマンド」上で解答	2018年8月31日
東京		2018年9月30日

■受講上の注意

実験科目については、「心理学実験ⅠA」から受講が望ましいですが、「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA」からの受講も可能とします。「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA」からの受講する場

合の留意点は、p. 44 「心理学実験ⅠB」【受講上の注意】参照)。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？ アルカリ性の液体をつけると…？ 理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。2つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■スクーリング講義内容・進め方

スクーリングでは、「刺激の弁別閾」、「ミュラーリヤー錯視」という2つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（東京会場では「心理学実験ⅠB」と連続して受講する場合3日間のスクーリングとなり、2日めに2つの実験を行います）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3	刺激の弁別閾②	実験実施。
4	刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。

7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	まとめ	心理学実験ⅠAを終えて、あらためて実験計画・仮説検証の考え方、考察の仕方などを復習する。

▶実験1「刺激の弁別閾」 (担当 仙台会場：大関信隆 東京会場：佐藤俊人)

刺激の弁別閾とは、2つの刺激の強さの違いを区別する感覚の分解能に関する閾（感覚の相違を引き起こす境界）のことです。本実験では人間の触覚について、恒常法や極限法といった精神物理学的測定法を用いて、その弁別閾を推定する実習を行います。

▶実験2「ミュラー・リヤーの錯視」 (担当 仙台会場：柴田理瑛 東京会場：佐藤俊人)

私たちの知覚は、物理的世界のまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中に行った2つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答するか、スクーリング受講時に持参してください。

また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください（p.41在宅学習9のポイントの7）。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいってください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	科学と実証 (教科書1) 第1章)	心理学でなぜ実験を行うかを理解するとともに、因果関係と相関関係の違いや、因果関係を確かめることのむずかしさについて理解する。	小さな子どもが、数年間のうちに「身長も高くなり」同時に「知能も高くなった」からといって、「身長が高い方が知能が高い」という結論にはなりません。因果と相関の違いを理解することで、心理学で因果関係を確かめる重要性とむずかしさを考えてみましょう。
2	さまざまな実験法 (教科書1) 第7章)	研究の目的によって使い分けられる、さまざまな実験法についての全体像をとらえる。	まずは、テキストの随所に出てくる「独立変数」「従属変数」について、事項索引(教科書1) p. 347~)で探して理解しましょう。その上で、それぞれの実験法の長所と短所、短所を補うための工夫などを考えてみましょう。
3	研究の実施 (教科書1) 第14章)	心理学実験の研究計画や論文・レポート作成の際の章立てを理解する。	特に7節の「研究の立案と実施」については十分に理解し、研究計画や論文・レポート作成の基本について学んでおきましょう。
4	結果の解釈 (教科書1) 第15章)	実験を行い、その結果を解釈する際の留意事項について理解する。	まず、6章の剰余変数に関する部分を読み直してみましよう。その上で、実験で扱わなかった要因の可能性などを考え、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えてみましょう。
5	統計的分析 (教科書1) 第16章)	実験の目的と実験計画に応じた統計的な分析の基本を学ぶ。統計の具体的手法を学ぶよりも、どのような場合にどのような統計が使えるかのイメージをとらえる。	難しいイメージのある統計的分析ですが、何を確かめるための分析かを考えることにより、身近なものに感じられます。統計的手法は実験の中心ではなく、実験結果をまとめる際の「道具」にすぎないことを念頭に置きながら全体のイメージをとらえましょう。
6	研究報告 (教科書1) 第17章)	心理学研究における論文、レポート執筆の基本について理解する。また、表17-1により、論文の標準的な構成について学ぶ。	論文、レポート執筆にはそれぞれの学問分野独特のルールや表現方法…いわば方言があります。一見面倒くさそうですが、これらの基本を身に着けることにより、必要な情報をわかりやすく的確に他者に伝える力がつき、心理学のレポート作成以外の場面においても応用できるはずです。
7	実験の意味・実験レポートの書き方 (教科書2) II章 p. 48~73)	実験の意味や具体的な実験レポートの書き方について学ぶ。	簡単な手続きによって、心理学的現象を実験によって確かめることが可能です。剰余変数や交互作用などの危険性もありますが、まずは簡単な実験により、心理学実験の面白さを理解することが大切です。
8	論文の作成 (教科書2) IV章48 p. 174~194)	学術論文の作成について学ぶ。	学術的な研究論文は、実験レポートの延長上にあります。実験や調査によって人間の心理を把握する面白さを実感できたならば、ぜひ卒業研究にもチャレンジして頂ければと思います。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	各自が選んだ単位 認定レポート課題	スクーリング終了後1課 題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで 取り組んでください。

■事前レポート課題

『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

■アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。

心理学実験 I B 2018～			科目コード	FB2534
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	SR(実験)	1年以上	佐藤 俊人・山口 奈緒美	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に「心理学実験 I」を履修登録した方は、p. 49「心理学実験 I」（科目コード：FB2505、2単位、履修方法：SR）を参照してください。

■科目の内容

「心理学実験 I A」 p. 37参照。

■到達目標

「心理学実験 I A」 p. 37参照。

■教科書（「心理学実験 I A」と共通）

「心理学実験 I A」 p. 37～38参照。

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験 I A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「心理学実験 I A」 p. 38参照。

■単位修得方法

①スクーリング受講+②実験レポート（2つ）提出・合格+③単位認定レポート（1課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：2日間連続で受講してください。

②実験レポート（2つ）提出・合格：2種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p. 46記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。未提出の場合、単位は与えられません。

※「東京会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30%+スクーリング（実験レポート）評価70%

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備考
仙台	2018年8月20日	2018年12月24日	仙台2018年9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2018年8月31日
東京	2018年9月30日	2018年12月24日	—

■受講上の注意

実験科目については、「心理学実験ⅠA」から受講が望ましいですが、「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA」からの受講も可能とします。

実験科目で、「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA」から受講する方は、『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所、および「心理学実験ⅠB」から受講する方に送る資料を熟読してきてください。さらに、「心理学実験ⅠA」事前課題を「心理学実験ⅠB」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答するか、開始時に持参してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理学実験ⅠA」 p. 39参照。

■スクーリング講義内容・進め方

スクーリングでは、「印象形成におよぼす背景効果」, 「長期記憶の検索」という2つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（東京会場では「心理学実験ⅠA」と連続して受講する場合3日間のスクーリングとなり、2日めに2つの実験を行います）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成とい

う一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション・印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
2	印象形成②	実験実施。
3	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
4	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
5	長期記憶の検索②	実験実施。
6	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
7	心理学実験を深める	心理学実験の考え方の整理、論述式単位認定レポート課題の解説

▶実験1「印象形成におよぼす背景効果」 仙台会場：山口奈緒美 東京会場：佐藤俊人

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるとともに、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験2「長期記憶の検索」 (担当 佐藤俊人)

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどうのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか（ストラテジーという）を実験的に調べます。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中に行った2つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「心理学実験ⅠA」 p. 40参照。

なお、「心理学実験ⅠA」を受講する前に「心理学実験ⅠB」を受講する方は、とくに『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章（p. 41在宅学習9のポイントの7）などの熟読を念入りに行ってください。さらに、「心理学実験ⅠA」事前課題を「心理学実験ⅠB」開始時に持参してください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

「心理学実験ⅠA」 p. 41～42参照。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題① (担当) 佐藤俊人	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね7個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題② (担当) 山口奈緒美	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差をあげ、説明し、対策を述べなさい。
課題③ (担当) 柴田理瑛	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものであると思うか、考察しなさい。
課題④ (担当) 大関信隆	心理学の方法論の一つとしての実験（法）の意義について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「東京会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 44記載の期限内に提出してください。レポート用紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいて結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚で）。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

課題① アドバイス

スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのかも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能で

しょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数（刺激の種類によっても変わりますが3～5くらい？）からマジックナンバーである7をはさんで、覚えているのが無理な数（15以上？）まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないのでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が 7 ± 2 になればマジックナンバー7が検証されたこととなります。もし実験の結果がマジックナンバーが 7 ± 2 から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えばチャンクという考え方も有効なのではないでしょうか。

課題2 アドバイス

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たちの判断につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

課題3 アドバイス

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

課題4 アドバイス

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われれます。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯ふ瞰かん的に眺められるかと思えます。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて $+\alpha$ の考察を試みることもよいかもしれません。

■参考図書

課題1：金城辰夫編『図説現代心理学入門 四訂版』培風館、1996年（「心理学概論A・B」の教科書 p. 127～128）

課題2：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ 13）サイエンス社、1991年 ほか、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題3：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、2005年

北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、2010年

丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996年

椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995年

梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版 心理学事典』平凡社、1981年

<http://www.kecl.ntt.co.jp/IllusionForum/ja/visual.html> (ホームページ「錯視について」)

<http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/> (ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」)

課題4：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年

小牧純爾著『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、2000年

利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993年

宮原英種・宮原和子監修 加知ひろ子・武藤幸穂著『心理学実験を愉しむ—心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、2003年

大山正・中島義明編『実験心理学への招待』(新心理学ライブラリ8)サイエンス社、1993年

中島義明著『実験心理学の基礎』誠信書房、1992年

B. フィンドレイ著 細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996年

心理学実験 I <small>～2017</small>			科目コード	FB2505
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(実験)	1 年以上	佐藤 俊人・大関 信隆 山口奈緒美・柴田 理瑛	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降は「心理学実験 I A」「心理学実験 I B」の2科目の内容を学ぶため、レポート課題が2課題となり、同一年度に8コマのスクーリングを2回受講する必要があります。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを中心にしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験 I・II」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
- 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
- 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
- 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
- 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
- 6) 実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験 II」「心理学研究法 II」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし 補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（第3版でなくても可）

※福祉心理学科の方の教科書配本方法

・新入生は入学時に配本します。

※社会福祉学科・科目等履修生の方の教科書配本方法

- ・教科書1)は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得者について、教科書2)は上記3科目と「心理学研究法Ⅰ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得者について、配本希望をいただいた方に発送します。『学習の手引き2012-2016版 or 2017版』巻末様式25、または『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙の「教科書特例配本希望届(無料)」をご利用いただき、郵送またはFAX(または同様の内容を記載してugr@tfu-mail.tfu.ac.jpあてにメール)でお申込みください。

(最近の教科書変更時期) 2017年10月

(スクーリング時の教科書) 教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■単位修得方法

①事前レポート(客観式1課題)の提出・合格+②スクーリング受講+③実験レポート(4つ)提出・合格+④単位認定レポート(1課題)提出・合格で単位を修得します。

①事前レポート(客観式1課題)提出・合格:スクーリング受講前に『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

②スクーリング受講:4日間(東京会場は3日間)連続で受講してください。

③実験レポート(4つ)提出・合格:4種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

④単位認定レポート(1課題)提出・合格:スクーリング受講後に、p.54記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、p.51記載の期限までにレポートを作成して提出してください(字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内)。未提出の場合、単位は与えられません。

※「東京会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30%+スクーリング(実験レポート)評価70%

■レポート提出期限

会場	事前レポート	実験レポート	単位認定レポート	備考
仙台	スクーリング初日に持参または事前に「TFUオンデマンド」上で解答	2018年8月20日	2018年12月24日	仙台2018年9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2018年8月31日
東京		2018年9月30日	2018年12月24日	—

■受講上の注意

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」に受講の順序指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは、どちらを先に受講していただいても結構です。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？アルカリ性の液体をつけると…？理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。4つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■スクーリング講義内容・進め方

スクーリングでは、「刺激の弁別閾」、「ミュラーリヤー錯視」、「印象形成」、「長期記憶の検索」という4つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（仙台会場は1日1つずつの実験を行い4日間、東京会場は2日めに2つの実験を行い3日間のスクーリングとなります）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3	刺激の弁別閾②	実験実施。
4	刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	中間まとめ	心理学実験前半を終えて、あらためて実験計画・仮説検証の考え方、考察の仕方などを復習する。
9	印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
10	印象形成②	実験実施。
11	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
12	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
13	長期記憶の検索②	実験実施。
14	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
15	心理学実験を深める	心理学実験の考え方の整理、論述式単位認定レポート課題の解説。

▶実験1「刺激の弁別閾」 (担当 仙台会場：大関信隆 東京会場：佐藤俊人)

刺激の弁別閾とは、2つの刺激の強さの違いを区別する感覚の分解能に関する閾（感覚の相違を引き起こす境界）のことです。本実験では人間の触覚について、恒常法や極限法といった精神物理学的測定法を用いて、その弁別閾を推定する実習を行います。

▶実験2「ミュラー・リヤーの錯視」 (担当 仙台会場：柴田理瑛 東京会場：佐藤俊人)

私たちの知覚は、物理的世界のそのまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

▶実験3「印象形成におよぼす背景効果」 (担当 仙台会場：山口奈緒美 東京会場：佐藤俊人)

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるとも

に、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験4「長期記憶の検索」 (担当 佐藤俊人)

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか(ストラテジーという)を実験的に調べます。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中に行った4つの実験のレポート100% (それぞれ100点満点の平均点) で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規(グラフを書くのに必要)、電卓(携帯電話の電卓ではないもの)、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安: 5~10時間)

『客観式レポート集』に記載の客観式レポート課題に取り組み、スクーリング受講時に持参してください。

また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』のII章を熟読してきてください(p. 41在宅学習9のポイントの7)。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいってください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

「心理学実験I A」 p. 41参照

■事前レポート課題

『客観式レポート集』に記載の「心理学実験I 事前レポート課題」に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題① (担当) 佐藤俊人	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね7個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題② (担当) 山口奈緒美	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差をあげ、説明し、対策を述べなさい。
課題③ (担当) 柴田理瑛	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものかと思うか、考察しなさい。
課題④ (担当) 大関信隆	心理学の方法論の一つとしての実験(法)の意義について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「東京会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 51記載の期限内に提出してください。レポート用紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいて結構です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚で)。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

課題① アドバイス

スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能でしょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数(刺激の種類によっても変わりますが3~5くらい?)からマジックナンバーである7をはさんで、覚えているのが無理な数(15以上?)まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないのでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が 7 ± 2 になればマジックナンバー7が検証されたこととなります。もし実験の結果がマジックナンバーが 7 ± 2 から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えば

チャックという考え方も有効なのではないでしょうか。

課題2 アドバイス

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たちの判断につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

課題3 アドバイス

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

課題4 アドバイス

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われれます。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯瞰かん的に眺められるかと思えます。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて $+\alpha$ の考察を試みることもよいかもしれません。

■参考図書

課題1：金城辰夫編『図説現代心理学入門 四訂版』培風館、1996年（「心理学概論A・B」の教科書 p.127～128）

課題2：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ 13）サイエンス社、1991年 ほか、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題3：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、2005年
 北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、2010年
 丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996年
 椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995年
 梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版 心理学事典』平凡社、1981年
<http://www.kecl.ntt.co.jp/IllusionForum/ja/visual.html>（ホームページ「錯視について」）
<http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/>（ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」）

- 課題4：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
小牧純爾著 『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、2000年
利島保・生和秀敏編著 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993年
宮原英種・宮原和子監修 加知ひろ子・武藤幸穂著 『心理学実験を愉しむー心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、2003年
大山正・中島義明編 『実験心理学への招待』（新心理学ライブラリ8）サイエンス社、1993年
中島義明著 『実験心理学の基礎』誠信書房、1992年
B. フィンドレイ著 細江達郎・細越久美子訳 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996年

心理学実験Ⅱ <small>～2017</small>			科目コード	FB2506
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(実験)	1 年以上	中村 修・吉田 綾乃 平川 昌宏・平泉 拓	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2019年度以降は「心理学実験ⅡA」「心理学実験ⅡB」の2科目の内容を学ぶため、同一年度に8コマのスクーリングを2回受講する必要があります。

※「心理学実験ⅡA」「心理学実験ⅡB」は、2019年度から開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを中心にしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。
- 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマにのっとった意味づけ（考察）をすることができる。
- 3) 研究記述のフォーマットにのっとり、レポートを作成することができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし 補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年10月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄 p. 49～50をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■評価の方法・基準

①スクーリング受講（4日間）+②実験レポート（4つ）提出・合格+③単位認定レポート（1課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：仙台会場4日間連続で受講してください。

②実験レポート（4つ）提出・合格：4種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書いているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p.62記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30%+スクーリング（実験レポート）評価70%

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備考
仙台	2018年8月30日	2018年12月24日	9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2018年8月31日

■受講上の注意

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」に受講の順序指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは、どちらを先に受講していただいても結構です。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験Ⅱと心理学実験Ⅰが目的とするものは半分同じで、半分異なると言っていいでしょう。

「同じもの」は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして〇〇な行動をするのだろうか？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいのでしょうか？この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうか、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

次に「異なるもの」ですが、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う4つのテーマは以下に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■スクーリング講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「鏡映描写」、「概念学習」、「社会的影響」という4つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学における実験の意義および仮説検証のロジックの説明
2	系列学習法①	テーマおよび実験方法の説明
3	系列学習法②	実験実施
4	系列学習法③	データ分析と実験レポートの記述法
5	鏡映描写①	テーマおよび実験方法の説明
6	鏡映描写②	実験実施
7	鏡映描写③	データ分析と実験レポートの記述法
8	概念学習①	テーマおよび実験方法の説明
9	概念学習②	実験実施
10	概念学習③	データ分析と実験レポートの記述法
11	社会的影響①	実験実施
12	社会的影響②	テーマおよび実験方法の説明
13	社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法

▶実験1「系列学習法」 (担当 平川昌宏)

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な3タイプのうち系列学習法(ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法)を実習し、系列位置効果(呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること)について調べます。

▶実験2「鏡映描写」 (担当 平泉 拓)

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験3「概念学習」 (担当 中村 修)

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目(抽象)し、また他の特性群を無視(捨象)することによって、任意のカテゴリー(概念)を「心」の中につくりあげると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます(ところで何が同じ?)。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

▶実験4「社会的影響」 (担当 吉田綾乃)

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中の4つの実験のレポート100%(それぞれ100点満点の平均点)で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規(グラフを書くのに必要)、電卓(携帯電話の電卓ではないもの)、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安:5~10時間)

『福祉心理学科 スタディ・ガイド』のII章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習 9のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実験と観察 (教科書 1) 第 2 章)	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。
2	実証の手続き (教科書 1) 第 3 章)	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作 (教科書 1) 第 4 章)	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。
4	従属変数の測定 (教科書 1) 第 5 章)	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制 ①：固体内変動の統制 (教科書 1) 第 6 章)	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。
6	剰余変数の統制 ②：直接的な統制 (教科書 1) 第 6 章)	実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。	実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	仮説とその検証 (教科書2) IV章49・50 p. 195～204)	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。
8	独立変数・従属変数とデータ収集法 (教科書2) IV章51 p. 205～211)	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかけるとともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	スクーリング終了後1 課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1 課題選択

課題① (担当) 平川昌宏	系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。
課題② (担当) 平泉拓	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。
課題③ (担当) 中村修	次の4つの尺度について、日常生活の中から2つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような4つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度 (nominal scale)、②順序尺度 (ordinal scale)、③間隔尺度 (interval scale)、④比率尺度 (ratio scale)。
課題④ (担当) 吉田綾乃	社会的な手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 58記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。

課題① アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題2
アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておく、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしている人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独特のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずですよ。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題3
アドバイス

この課題では、4つの尺度の概念弁別がきちんとなされているかが評価ポイントとなります。心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書を参考になさった方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらっては、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

課題4
アドバイス

スクーリング時の解説、配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけではなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題1：スクーリング時に紹介します。

課題2：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題3：山内光哉著『心理・教育のための統計法〈第3版〉』サイエンス社、2010年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、2003年

課題4：アロンソン、E. 岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル 第11版 人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミクス 集団と群集の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年

心理学研究法 I

～2017

科目コード

FB3508

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR	2年以上	佐藤 俊人・吉田 綾乃 大関 信隆・平川 昌宏

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2019年度からの科目内容が大幅に見直しされる予定です。「心理学研究法 I・II」の学習に着手した方は2018年度中の単位修得を強く推奨します（最終単位修得期限：2020年度）。2019年度以降の「心理学研究法A・B」の単位修得に際しては、2019年度以降の課題内容にもとづいてレポート提出・スクーリング受講を行っていただくため、合格したレポート課題やスクーリング受講が無効になることがあります（p. 13参照）。

科目の概要

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験 I」、「心理学実験 II」として科目が設定されているので、ここでは、**実験法以外の方法**について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法 II」のスクーリングにおいて解説する予定になっています。

心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つこととなります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。

なお、この科目のスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。

■到達目標

- 1) 心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。
- 2) 独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。
- 3) 心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。
- 4) 「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることができる。

■教科書（教科書2）は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 大村彰道編著『教育心理学研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、2000年
- 2) 『福祉心理学科 スタディ・ガイド（第3版）』Ⅲ章 東北福祉大学（第3版でなくても可）
（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書1）は履修登録時に配本します。

※教科書2）の配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄p. 49～50をご覧ください。
（スクーリング時の教科書）教科書1）『教育心理学研究の技法』は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編著『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著『心理学研究法』放送大学教育振興会（NHK出版）、2003年
 海保博之・大野木裕明・岡市広成著『心理学研究法 [新訂]』放送大学教育振興会、2008年
 大野木裕明・渡辺直登著『心理学研究法（改訂新版）』放送大学教育振興会、2014年
 高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣、2004年
 『心理学マニュアル 研究法レッスン』『心理学マニュアル 面接法』『心理学マニュアル観察法』『心理学マニュアル 質問紙法』『心理学マニュアル 要因計画法』北大路書房、1997～2000年
 高橋順一ほか編著『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
 日本発達心理学会監修『心理学・倫理ガイドブック』有斐閣、2000年
 『発達研究の技法』『臨床心理学研究の技法』『社会心理学研究の技法』『性格研究の技法』『認知研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、1999～2000年
 大山正監修『心理学研究法1～6』誠信書房、2011～2015年
 『心理学研究法』（1～17）東京大学出版会
 三浦麻子監修・著『なるほど！ 心理学研究法』（心理学ベーシック1）北大路書房、2017年
 N. J. サルキンド著・畑中美穂訳『心理学研究法のキホンQ&A100』新曜社、2017年
 W. J. レイ著・岡田圭二訳『エンサイクロペディア 心理学研究方法論』北大路書房、2003年
 森正義彦・篠原弘章『心理学研究法』培風館、2007年
 伊藤正人『心理学研究法入門』昭和堂、2006年
 吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006年
 大山正ほか著『心理学研究法』サイエンス社、2005年
 丹野義彦編『臨床心理学研究法』誠信書房、2004年

山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房、2001年
 鈴木淳子著『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版、2002年
 松浦均・西口利文編『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版、2008年
 安藤清志・村田光二・沼崎誠編『社会心理学研究入門』東京大学出版会、2009年（補訂新版2017年）
 やまだようこ編『現場（フィールド）心理学の発想』新曜社、1997年
 田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・選択必修科目・選択科目A群の科目から7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（心理学実験を含めても可・提出していれば不合格や未採点のものがあったても可 S科目はレポートがないので含められない）。くわしくは、『レポート課題集C（心理専門編）』参照のこと。

■スクーリングで学んでほしいこと

この科目は、心理学において使われるいくつかの代表的な方法のうち、「観察法」「面接法」「質問紙法」についてとりあげ、これらの基本的理解を図ることを目指しています。まず、最初の1・2コマで心理学における方法論について全般的な講義を行います（担当 佐藤俊人）。その後、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれについて2コマずつ講義を行い（担当 「観察法」平川昌宏、「面接法」大関信隆、「質問紙法」吉田綾乃）、これらの方法の特徴およびその効用と限界について具体的に解説していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容	担当
1	心理学研究法概説①	心理学における研究の進め方	佐藤
2	心理学研究法概説②	方法論についての概論	佐藤
3	質問紙法①	質問紙法の基本的理解と実際	吉田
4	質問紙法②	質問紙法の効用と限界、実施の際の留意点	吉田
5	観察法①	観察法の基本的理解と実際	平川
6	観察法②	観察法の効用と限界、実際の際の留意点	平川
7	面接法①	面接法の基本的理解と実際	大関
8	面接法②	面接法の効用と限界、実施の際の留意点	大関

■講義の進め方

1・2コマめは配付資料と板書で進める。3～8コマめはパワーポイントと配付資料をもとに進める。質問紙法・観察法・面接法のそれぞれの時間に、確認小テストをおこなう。

■スクーリング 評価基準

- ・授業への参加状況（10%）＋「観察法」、「面接法」、「質問紙法」に関するスクーリング試験（各30%、合計90%）により評価する。
- ・各試験では、単なる知識の確認ではなく、各研究方法の特徴をふまえたうえで、指定されたテーマあるいは自分自身の興味・関心に基づいて、適切な研究計画を立案することができるかどうかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

受講者は、受講前に本冊子「心理学研究法Ⅰ」のページ、さらに『福祉心理学科 スタディガイド』のⅢ章「心理学研究に取り組む」をよく読んできてください。

■スクーリング事後課題（2単位めレポート）

スクーリング終了後、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を実際に用いた研究論文を配付します。配付された研究論文の中から1つを選び、そこで用いられている方法についてまとめ、考察を行うことが「心理学研究法Ⅰ」のレポート2単位めの課題となります（くわしくは、『レポート課題集C（心理専門編）』を参照してください）。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学における様々な研究技法 (教科書Ⅰ) 1章)	心理学研究において、様々な研究技法（アプローチ）を習得することの重要性を理解する。 キーワード：研究技法、観察、面接、質的分析、質問紙調査、実験	テキストでは、著者の研究を具体例とし、自分の研究アイデアを実現する上では様々な研究技法を習得し、使い分けることの重要性が述べられています。この点を学習し、これ以降の学習の動機づけとしてください。
2	観察法の基本的理解 (教科書Ⅰ) 2章1節)	観察法の2つの流れについて、さらには、それらを使い分けることの重要性について理解する。 キーワード：自然科学的観察法、参与観察	以下の点について説明できるように学びを進めてください。 ・自然科学的観察法の考え方と基本原則 ・伝統的な観察法の限界とそれを補う手法としての参与観察 ・2つの観察法はどのような目的で用いられるのか

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	観察法の実 際① (教科書1) 2章2節)	自然観察法を用いた研究事例にふれること で、自然観察法によるデータ収集の方法 とデータの分析手法について理解する。 キーワード：自然観察法、符号化	研究事例では、2～3歳児の「泣き」や 他児の「泣き」に対する反応の個人差を 検討するために、自然的観察法が用いら れています。その際、「泣き」のエピ ソードやそれに対する反応を符号化し、 分析可能なデータとすることが大切にな ります。具体的な符号化の方法や内容に 着目しながら、理解を深めていってくだ さい。
4	観察法の実 際② (教科書1) 2章3節)	実験観察法を用いた研究事例にふれること で、実験観察法によるデータ収集の方法 とデータの分析手法について理解する。 キーワード：実験観察法	研究事例では、子どもの「恐れ(用心深 さ)」や「てれ」の表出についてデータ を得るために、実験観察法が用いられて います。この研究事例を通して、実験観 察法の利点について考えながら、学習を 進めていってください。
5	観察法の手 順と留意点 (教科書1) 2章4節)	・自然観察法と実験観察法の違いとそれ ぞれの利点・欠点について理解する。 ・観察法における現象の切り取り方やそ の記述の仕方について理解する。 ・観察データの信頼性と妥当性をチェッ クすること・倫理性を意識することの 重要性を理解する。 キーワード：偶発的観察法、組織的観察 法、日誌法、事象見本法、時間見本法、 場面見本法、逐一行動描写法、カテゴ リーチェック法、評定尺度法、観察者 (評定者)がおかしやすい誤り、操作的 定義、生態学的妥当性	まずは、観察法を自然観察法と実験観察 法の2分し、それぞれの利点と欠点につ いて整理していってください。また、観 察法を用いた別の研究を見たときに、現 象の切り取り方や記述の仕方という観点 からその研究を整理できるように、理解 を深めていってください。
6	面接法の基 本的理解 (教科書1) 3章1節)	・「面接法(調査面接)」と「日常会話」 の違いについて理解する。 ・「面接法(調査面接)」の利点と留意点 について理解する。 キーワード：リサーチクエスション、臨 床面接、調査面接	「面接法(調査面接)」と「日常会話」の 違いについては、3点指摘されていま す。次に面接法を用いた研究実践を学ぶ 際に、この3点がどのように具体化され ているかを確認していけるよう、学習を 進めてください。
7	面接法の実 際① (教科書1) 3章2節)	構造化面接を用いた研究事例にふれること で、構造化面接によるデータ収集の方法 とデータの分析手法について理解する。 キーワード：構造化面接、ラポール、プ ロトコルデータ	研究事例では、絵本における挿絵間の因 果関係の理解がどのように発達するの かを検討するために、構造化面接が行わ れています。具体的な構造化の内容、さら には、データを分析する際の具体的指標 などに着目しながら、学習を進めてくだ さい。また、研究協力児が面接に際し過 度に緊張しないようになされた工夫につ いても学ぶ意義があると思います。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	面接法の実際② (教科書1) 3章3節)	非構造化面接を用いた研究事例にふれることで、非構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：非構造化面接、記述モデル、仮説生成	研究事例では、母親の適応（発達）過程の特異性・独自性を検討するために、非構造化面接が行われています。非構造化面接とデータ分析を通じた仮説形成の過程について学びを進めてください。
9	面接法の手順と留意点 (教科書1) 3章4節)	・面接法の特徴、その利点と限界（留意点）について理解する。 ・面接法の手続きと各過程における留意点を理解する。 キーワード：再現可能性・追試可能性、プロトコル分析	面接法の利点と留意点について、第7回目の学習内容と合わせて説明できるよう、学習を進めてください。
10	質問紙法の基本的理解 (教科書1) 5章1節)	・質問紙法の利点と限界（留意点）について理解する。 キーワード：構成概念	テキストには「教育心理学研究のいくつかのアプローチの中で、質問紙法によるアプローチはもっとも多用されている」と述べられています。質問紙法のメリットとデメリットについて他の研究法と比較しながら理解するようにしてください。
11	質問紙法の実際① (教科書1) 5章3節)	・研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 ・相関、重回帰分析、分散分析といった分析法がどのような目的で用いられているかを理解する。 キーワード：相関、重回帰分析、分散分析	各分析法の簡単な説明が、テキスト第5章第5節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。
12	質問紙法の実際② (教科書1) 5章4節)	・研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 ・因子分析がどのような目的で用いられているかを理解する。 キーワード：因子分析	11回目の学習と同様に、因子分析の説明がテキスト第5章第5節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。
13	質問紙法の手順と留意点 (教科書1) 5章5節)	・質問紙法の手続きと各過程での留意点について理解する。 ・既存する質問紙を使用する場合、その尺度名だけでなく、具体的な質問項目についてもチェックすることの必要性について理解する。 ・「相関関係」と「因果関係」の違いについて理解する。 キーワード：尺度の信頼性、尺度の妥当性、相関関係、因果関係	尺度の「信頼性」と「妥当性」について説明できるようにしましょう。質問紙法を用いた研究では、変数間の相関関係を踏まえて、変数間の因果関係について検討することがあります。「相関関係」と「因果関係」の違いを正しく理解することは、結果の考察を行う上でも重要になります。「相関関係」と「因果関係」の違いについて説明できるように学習を進めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	心理学研究の基本① 仮説を立てる (教科書2) III章20)	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 キーワード：仮説、独立変数、従属変数	14回目・15回目の学習内容はこれまでの学びの前提にある、「心理学研究を進めるにあたって基本となる事柄」です。今回の学習内容の観点からこれまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。
15	心理学研究の基本② 構成概念を具体化し、測定する (教科書2) III章21)	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念、構成概念の具体化、評定尺度法	14回目と同様に、今回の学習内容の観点から、これまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。

■レポート課題

この科目は2単位です。したがって、提出しなければならないレポートは2つですが、課題は5つ設定してあります。1単位めは、課題1～3の中からいずれか1つを選んでレポートを作成し提出してください。2単位めは、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講するかどうかによって、取り組む課題が異なります。つまり、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講しない人は課題4に、受講する人は受講後に課題5に取り組むレポートを提出することになります。

なお、1単位めの課題と2単位めの課題のうち、どちらの課題を先に行っても構いません。ただし、2単位めの課題が「観察法」「面接法」「質問紙法」の理解を問う課題であるのに対して、1単位めの課題が各研究法に関する理解を応用して自身で研究計画を立てる課題になっていますので、2単位めの課題を先に行った方が、1単位めの課題もより容易に取り組むことができると思います。

1 単位め (1課題選択)	<p>課題1 気の長い人と短気な人を観察法によって見分けるための研究をするとしたら、どのような観察を行うかを中心に、研究計画を立てなさい。</p> <p>課題2 小学生における食事の好き嫌いに影響する要因について面接法で研究するとします。半構造化面接によって調査を行うとしたら、どのような研究計画になるか考えなさい。</p> <p>課題3 子どもの攻撃性の高さに対するテレビの影響というテーマで、質問紙法を使って研究するとしたら、どのような研究をするか、研究計画を立てなさい。</p>
2 単位め	<p>課題4 (「研究法Ⅰ」スクーリングを受講しない人はこの課題を行ってください) 「観察法」「面接法」「質問紙法」のそれぞれについて、その方法の効用と限界(留意点)を述べなさい。</p> <p>課題5 (「研究法Ⅰ」スクーリングを受講する人はこの課題を行ってください) 「心理学研究法Ⅰ」スクーリング終了時に配布される研究論文の中から1つを選び、 I. 選択した研究の①目的、②仮説、③方法をまとめなさい。 II. 選択した研究と同じ目的や仮説で研究を行うとすれば、あなたは「観察法」「面接法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか、そして、なぜその方法を選択するかについて述べなさい。 課題5の場合、レポート課題記載欄は研究論文名を記載してください。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが一部変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■レポート提出上の注意

- (1) この科目のレポートは、**1単位ずつ提出**してください。1単位の課題の字数は2,000字程度ですが、4,000字程度まで記入することも可です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。
- (2) 1単位めの課題が取り組みにくく感じる方、再提出が続く方は、この科目のスクーリングを受講してから提出してください。
- (3) 2単位め課題4や旧2単位めレポート課題に合格した方もスクーリングを受講することができます。その際、2単位め課題5の提出は不要です。
- (4) スクーリングを受講しない方は、通常の科目と同様に科目修了試験受験の必要があります。この科目のスクーリング試験、科目修了試験ともに、心理学研究法の基礎的な理解がないと合格が難しい傾向にありますので、充分学習をしてから臨んでください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

課題1～3は、同じ種類の課題ですので、まとめて解説します。それぞれの課題には、テーマと使用方法が指示されています。この科目の目標は、研究法を学習することにあるので、それぞれの方法についての学習を進めたいうえで、つまり、それぞれの方法について十分理解したうえで、指示に従って研究の計画を立てるとというのが課題です。次のような学習の進め方をし、そのうえで、以下に示すような内容のレポートにまとめてください。

- (1) 教科書の1章を読んで、研究の進め方についての全体的な理解を図ってください。
 ここには、研究の進め方についての一般的な考え方と、実際の研究に基づいた研究の進め方の例とが書かれています。1節の1と2をまず読み、次に3節を読んで理解してから、2節の事例を読んだ方がわかりやすいかもしれません。また、2章以降のそれぞれの方法についての理解を確立した後で、もう一度2節を読むと、より一層理解が深まると思われます。
- (2) 次に、それぞれの方法(2章から5章)について理解します。それぞれの方法について1節に「～法への招待」、2節に研究紹介、3節に「～法の手順と留意点」という構成で書かれていますので、まず1節を読んで、その方法についての基本的な理解を確立し、次に3節を読み、一般的な理解が進んでから、2節の研究例を通してその方法についての具体的な理解を図るという学習の仕方が望ましいでしょう。
- (3) この段階で、**観察法、面接法、質的分析、質問紙法**の4つの方法についての理解ができたことになります。次に、**課題1～3**のどれかを選んで、そこで使うことになっている方法について改めて読みなおして、理解を確実なものにしてください。特に、各章2節を参考にすることになりますので、そこはしっかり読みましょう。なお、課題2に取り組む際「半構造化面接」の意味を辞典、参考図書で調べて理解する必要があります。
- (4) いよいよ課題に取り組みます。それぞれに示されているテーマは漠然としていますので、まず**研究の**

目的をはっきりさせることから始めます。つまり、そのテーマにそって、最終的に何を明らかにしたいか、ということをもまず考えなければなりません。課題1は「気が長いか短気か」ですからはっきりしていますが、次のように取り組むとよいでしょう。「気の長い・短い」は、心理学ではこれまでどのような分野で扱われてきたのでしょうか。これから研究計画を立てようとするテーマに関連した行動のある程度特定することが必要です。例えば、「気の長い・短い」は、これまでもよく「のろま・ぐず」とか「せっかち・早とちり」などと称されてきたものに近いかもしれないことに気づくでしょう。そこで、その行動は日常生活のどんな場面でよく見かけるか考えてみてください。このように研究しようとする行動とその「気の長い・短い」の（自分なりの）定義をし、仮説を立てて研究内容を絞り込むことです。その後、研究対象、観察場所、時間、観察行動などを考えてください。観察の手法は、自然的観察だけでなく、その行動が良く見かけるように仕掛けた実験的観察でもよいでしょう。組織的な観察法を用いる場合は、観察チェックに必要な行動カテゴリーをどんなものにするか考えることが必要です。その後の結果処理、すなわちデータがどう示されれば仮説が検証されると言えるのかを考えると良いでしょう。課題2は「食事の好き嫌い」としか指定していないので、「食事の好き嫌い」ということをどのように捉えるかを具体的に考えなければなりませんし、同時に、「影響する要因」といっても、さまざまに考えられるわけですから、どんな要因を取り上げるかということも考える必要があります。課題3も、「テレビの影響」といってもいろいろ考えられるので、そこをどう捉えるか、ということがポイントになります。

- (5) 研究についての具体的なイメージができれば、次は「仮説」を立てるという段階です。「仮説」というと難しく聞こえるでしょうが、単純に言えば「どのような結果を予想するか」ということです。課題1でいえば、「気の長い人と短気な人の行動の違いは、こういうところに現れるだろう」と予想することであり、課題2では「食事の好き嫌いは、こういう要因が影響しているのではないか」と考えることであり、課題3では「子どもの攻撃性に影響するのは、テレビのこういう面ではないか」と考えることです。

この仮説がないと、研究計画が立てられないので、頑張って考えてください。

- (6) 実際に研究を行うとなるといろいろ制約が出てきますが、ここでは机上で計画を立てるという課題なので、実行可能かどうかは考えないで、自由な発想で計画を考えてください。上記の仮説が明らかになったとして、いよいよ具体的な研究計画を考えます。研究計画の具体的な内容については、課題ごとに説明します。仮説を明らかにした上で、

- ①課題1：1) 観察の対象をどのような人にするか また、その人数
2) 観察の場所と時間
3) どのような行動を観察対象とするか◎
4) 観察の仕方と記録の仕方◎
5) 観察が終わった後で、どのように分析するか
- ②課題2：1) 面接の対象をどのような人にするか また、その人数
2) 面接の内容（具体的な質問）と記録の仕方◎
3) 面接調査が終わった後で、どのように分析するか
- ③課題3：1) どのような子ども（年齢・性別など）を質問紙調査の対象とするか

子どもたちが低年齢で質問紙に答えることが難しい場合は、どのような人たちを質問紙調査の対象とするか

2) どのような質問紙（具体的質問項目）を使うか◎

質問紙には、①視聴時間の長さや視聴時間帯あるいは単独視聴が多いのか複数（例えば家族で）視聴が多いのか、視聴番組の内容といった「テレビの見方や内容など」について＝独立変数を測定するための質問項目と②「攻撃性（の量的・質的な違い）」＝従属変数を測定するための質問項目が含まれていることとなります。①については、「仮説」にしたがってどのような内容をどのような項目で尋ねたらよいか考えてください。また、②については、全部で6項目とします。そのうち、3項目は「すぐに暴力をふるう」「言葉遣いが荒い」「つまらない、ささいなことでイライラする」とし、残り3項目は攻撃性を調べる上で適切な項目を自分で考えてください。ぜひ心理学関連の辞典、辞書で「攻撃性」の意味を調べて見てください。その際、上で挙げた3項目の単純な言い換え（たとえば、「簡単に手を挙げる」「乱暴な言葉を使う」「ちょっとしたことで腹を立てる」など）にならないよう注意してください。

3) 調査の仕方

4) 調査が終わった後で、どのように分析するか

どの課題も、教科書のそれぞれの方法の「研究紹介」に示されている研究例を参考に計画を立ててください。紹介されている研究ほど綿密な計画でなくて構いませんが、基本的には同じような内容になります。また、レポートのポイントは、◎がついた項目です。

(7) レポートの内容

レポートは、次のような内容にしてください。

- 1) その課題を選んだ理由
- 2) 研究の目的と仮説
- 3) 研究計画
- 4) その課題に取り組んで考えたこと、難しかった点、工夫したところ、疑問、感想など

2単位め アドバイス

(1) 課題4

この課題は、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講しない人が、2単位めの課題として取り組むものです。レポート作成にあたっては、1単位めの課題のアドバイスで述べた(1)と(2)の内容が非常に重要となります。教科書（とりわけ第2章、3章、5章の3節）をよく読み内容を理解してから課題に取り組んでください。

心理学の研究を進める上では、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」によって用いられる方法が異なります。また、それぞれの方法を通して得られるデータの性質（データの数や内容）や検査実施上の利点・留意点（一度に得られるデータの数、調査者や調査協力者の負担など）も異なります。したがって、実際に研究を行う際には、研究の目的や対象、仮説に合わせて、どの方法を用いるかを選択しなければなりません。では、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれによって、明らかにできる事柄、できない事柄はどのようなことなのでしょう？ また、それ

その方法によって得られたデータの特徴や実施上の利点・留意点はどのようなことなのでしょう？
以上の内容について、それぞれ「効用」と「限界（留意点）」に分けて整理し、レポートを作成してください。

(2) 課題5

この課題は、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講する人が、2単位めの課題として取り組むものです。「研究法Ⅰ」のスクーリングでは、「研究法の成り立ち」「観察法」「面接法」「質問紙法」に関して、その内容や効用・限界について解説していきます。また、この4つのテーマについて、より具体的に理解してもらうために、適宜実習を行います。そして、スクーリング終了後、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を実際に用いた研究論文を配布します。課題5は、これらの配布された研究論文の中から1つを選び、まず、その研究の①目的、②仮説、③仮説を確かめるために用いられている方法とその詳細についてまとめます。さらに、④あなたなら仮説を確かめるためにどの方法を用いるかについて考えを述べるのが課題となります。

レポートは、次のような内容で作成してください。

①研究の目的

心理学研究においては、研究者が関心を向けた要因（従属変数）に対して影響を及ぼす別の要因（独立変数）が考えられ、この独立変数と従属変数の関係について検討が行われます。たとえば、『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅲ章の「心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント」について見てみると、清兵衛は「桶の売り上げ」に関心を向け（従属変数）、それに影響を及ぼす要因（独立変数）として、「風が吹くかどうか」や「店の雰囲気」を取り上げています。では、選択した研究論文において、研究者は独立変数、従属変数としてどのような要因を取り上げているのでしょうか。言い換えれば、どのような要因とどのような要因との関係を見ることが目的となっているのでしょうか。この点についてまとめてください。

なお、「①研究の目的」と次に述べる「②研究の仮説」は、研究論文では多くの場合、「問題と目的」の中に書かれています。また、研究によっては論文の題目を見るだけで、独立変数や従属変数が何であるかわかる場合があります。たとえば、「○○が××に及ぼす影響」といった題目であれば、○○が独立変数であり××が従属変数であることがわかります。

②研究の仮説

「①研究の目的」で述べた独立変数と従属変数について、独立変数は従属変数に対してどのような影響を及ぼすのでしょうか？ この点について研究者が調査前に考える「仮の答え」が仮説となります。たとえば、先ほどの例を再び用いると、清兵衛は「風が吹くかどうか」という独立変数が「桶の売り上げ」という従属変数に対して、「風が吹くと桶の売り上げが下がってしまう」という方向ではなく、「風が吹くと桶の売り上げが上がってくれる」という方向で影響を及ぼすことを仮説として考えています。そして、実際の研究では、データを集め分析した結果に基づいて、その仮説が正しいかどうかについての検討が行われます。ここでは、選択した研究論文の中でどのような仮説が考えられているかについてまとめてください。

なお、研究論文においてはこの仮説が必ずしも明確に書かれているわけではありません。その場合、研

研究者がどのような仮説を考えていたかについて論文の中から読み取ることが重要となります。このレポート課題でも、「①研究の目的」で明らかにした独立変数と従属変数との関係について、つまり、**独立変数が従属変数に及ぼす影響の方向**について読み取り明記してください。

③研究の方法

ここでは、大きく [A. 調査の手続き] と [B. 独立変数と従属変数とを測定するために用いられた尺度] についてまとめてください。以下、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれについて詳しく説明していきます。

「観察法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが観察の対象となっているか。また、その人数
- 2) 観察の場所や状況、所要時間
- 3) 観察方法（自然観察法か実験的観察法か）
- 4) 観察の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている行動カテゴリーや基準。そして、その行動カテゴリーや基準の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容、そして、従属変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容を分けてまとめてください。

「面接法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが面接の対象となっているか。また、その人数
- 2) 面接が行われた時期、所要時間
- 3) 面接方法（構造化面接か非構造化面接か半構造化面接か）
- 4) 面接の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている質問の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた質問内容と、従属変数を調べるために用いた質問内容を分けてまとめてください。

「質問紙法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが質問紙調査の対象となっているか。また、その人数
- 2) 調査の仕方（質問紙の配布方法や回収方法）
- 3) 用いた質問紙や尺度。そして、その具体的な項目

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている尺度とその具体的項目。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた尺度や質問項目と、従属変数を調べるために用いた尺度や質問項目とを分けてまとめてください。

④あなたなら「面接法」「観察法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか

選択した研究論文では、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を用いて研究が行われています。「観察法」「面接法」「質問紙法」にはそれぞれそれを用いる効用と限界があります。つまり、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」さらには「どのような仮説を確かめたいのか」などについて、得意な部分と不得意な部分がそれぞれあるのです。そして、研究計画を立てる際にはこのような各研究法の効用と限界についての理解に基づき、研究の方法を選択することが必要になります。

では、選択した研究論文と同じ目的や仮説のもとで研究計画を立てる場合、あなたなら「面接法」と「観察法」と「質問紙法」のうちどの方法を選択するでしょうか。ここではその方法と選択理由について述べてください。もちろん、研究論文と同じ方法を選択しても構いません。ただし、その選択理由として「選択した論文で用いられていた方法であるため」というのはやめてください。たとえば、「この研究は○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、××という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）を用いるのが適切だと考える」といった形でまとめるようにしてください。さらに、「この研究は○○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、△△という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）はあまり適切ではないと考える」といった主張を付け加えても構いません。

科目修了試験

■評価基準

- ・問題設定の条件を満たしているか。
 - ・的確な言葉を用いて、論理的に説明されているか。
 - ・具体例を挙げてという設定に対し、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。
- 以上の観点によって評価を行う。

心理学研究法Ⅱ ～2017			科目コード	FB3509
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR	2年以上	中村 修・平川 昌宏 柴田 理瑛	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2019年度からの科目内容が大幅に見直しされます。「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の学習に着手した方は2018年度中の単位修得を強く推奨します（最終単位修得期限：2020年度）。2019年度以降の「心理学研究法A・B」の単位修得に際しては、2019年度以降の課題内容にもとづいてレポート提出・スクーリング受講を行っていただくため、合格したレポート課題やスクーリング受講が無効になることがあります（p. 13参照）。

科目の概要

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。この科目では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。

■到達目標

- 1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。
- 2) 手順ののっとり統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。
- 3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし 補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年10月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄 p. 49～50をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）スクーリング時は教科書は使用しません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判

的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■単位修得方法

- ①スクーリング受講+②1単位めレポート（課題1）（スクーリング時に持参）合格+③1単位めレポート（課題2）（スクーリング受講中、または指定された期日まで提出）+④2単位めレポート（スクーリング受講後に提出）合格にて単位を修得します。

■科目評価基準

1単位めレポート評価10%+2単位めレポート評価50%+スクーリング評価40%

スクーリング

■スクーリング受講条件

※この科目はスクーリング受講が必須です。

- (1) スクーリング申込締切日までに、福祉心理学科専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群のなかから7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（実験科目を含めて可、特講科目などS科目は含まれない）。
- (2) スクーリング事前学習をすませてください。『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み、要約レポート=レポート課題1単位めの課題1を作成し、スクーリング初日開始時間に提出すること。

※課題の内容については、p. 81~82「レポート課題」「アドバイス」を参照してください。

■スクーリングで学んでほしいこと

1・2コマめで検査法全般に関する講義を行い、3・4コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日めには、 χ^2 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。

▶心理検査法について

- ・心理検査法とは 検査法実施上の留意点
- ・知能検査（ウエクスラー系・ビネー系）の概要と留意点
- ・発達検査の概要と留意点
- ・性格検査（Y-G性格検査など質問紙法、ロールシャッハテスト・TATなど投影（映）法、作業検査法）の概要と留意点

▶心理統計について

- ・心理統計学の基礎についての講義（仮説演繹法、実験的研究と相関的研究、心理統計がなぜ必要か、

サンプリングと剰余変数の統制、統計的仮説検定の流れなど

・統計処理（有意差検定、相関分析等）についての講義（解説）と演習

■講義内容

回数	テーマ	内容	担当教員
1	心理検査法①	知能検査法と発達検査法の概要と留意点	平川
2	心理検査法②	性格検査法（質問紙検査法及び投影法）の概要と留意点	平川
3	心理統計①	心理統計の基礎	平川
4	心理統計②	統計的仮説検定とその手続きの概要説明	平川
5	心理統計③	質問紙調査法に基づくデータ処理の概要説明	柴田or中村or平川
6	心理統計④	記述統計についての講義と演習	柴田or中村or平川
7	心理統計⑤	相関・連関についての講義と演習	柴田or中村or平川
8	心理統計⑥	有意差検定についての講義と演習	柴田or中村or平川

■講義の進め方

配付資料と板書を基にした講義と、統計処理実習等の個人作業を行います。

特に5～8回目では、 χ^2 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義と実習を行います。具体的には、ある仮説を確かめるために計画された架空の調査研究及びその調査によって得られた架空のデータを用います。そのデータに対して、実際に統計処理ソフトSPSSを使って「 χ^2 検定」「t検定」「相関分析（無相関検定）」を行います。そして、その分析結果に基づいて仮説が支持されたかどうかの判断をするという課題をしていただきます。

■スクーリング 評価基準

事前課題の提出状況30%と、事後課題の提出および採点70%によって評価します（この科目はスクーリング試験は実施しません）。

■スクーリング事前学習・事前課題（学習時間の目安：5～10時間）

受講生は本冊子の「心理学研究法Ⅱ」のページ（p. 77～83）をよく読んでください。

さらに、スクーリング事前学習として、1単位めレポート（課題1）「要約レポート」が課されています。「要約レポート」はスクーリング初日に必ず持参してください（郵送しないこと）。

■スクーリング事後課題

この科目の1単位めレポート（課題2）は、スクーリング期間中または終了後決められた期限必着で提出してください。

2単位めのレポートは、原則としてスクーリング受講後に提出してください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学研究法 1 レポート作成のためのヒント① (教科書2) III章20)	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 キーワード：仮説、独立変数、従属変数	心理学的な研究を行う上で最も基本となるのは、問いを立てて仮説を考えることです。「桶屋の清兵衛」というストーリーを通して、仮説の立て方、独立変数・従属変数の設定、仮説の検証について学び、それぞれについて説明できるようになりましょう。
2	心理学研究法 1 レポート作成のためのヒント② (教科書2) III章21)	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念、質問紙、構成概念の具体化、評定尺度法	心理学では身長や体重のように実体があるものだけでなく、雰囲気のように目に見えないもの（物理的には測定できないもの）を測定することがあります。このような構成概念を測定する際のプロセスについて学び、説明できるようになりましょう。
3	検査法 週刊誌やテレビの“心理検査”は科学的か (教科書1) 第12章)	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と専門家が利用する検査法の比較から、専門家の利用する心理検査の背景にある理論を理解する。 キーワード：ロールシャッハテスト、臨床心理学、投影法、妥当性	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と、専門家が利用する心理検査の比較から、科学と疑似科学の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。検査法における理論的背景を理解しておく、次回以降で学習する妥当性や信頼性についての理解が容易になるでしょう。
4	妥当性の検証と信頼性の評価 (教科書1) 第12章)	検査の妥当性を検討する過程を理解し、妥当性と信頼性の違いについて学ぶ。 キーワード：仮説検証、妥当性検証、収束的証拠、弁別的証拠、信頼性	検査の妥当性や信頼性を満たす条件について整理しながらそれぞれの特徴についてまとめると理解しやすいでしょう。週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査は妥当性や信頼性を満たしているかについて考えてみましょう。
5	検査得点の解釈と標準化 (教科書1) 第12章)	検査を実施・解釈するにあたって、検査得点（素点）の標準化と検査手続きの明確化について学ぶ。 キーワード：規準、規準集団、パーセンタイル順位、標準得点、検査の標準化	心理検査によって得られた素点を解釈するには、あらかじめたくさんの人に心理検査を実施して得たデータを利用して、解釈のための基準を作成する必要があります。この点について理解できると、専門家が利用する心理検査とそうでない心理検査の弁別がより容易になるでしょう。
6	心理検査法に関する研究 (教科書1) 第12章)	心理検査に関連した研究を学ぶことで、近年の心理検査をめぐる発展について理解する。 キーワード：紙筆式検査、個別式の検査、テスト理論、相関の希薄化、項目反応理論、項目特性曲線	近年、心理検査に関連する研究領域では、紙筆式の検査だけでなくコンピュータや項目反応理論を利用した検査法の開発が進められています。このような発展は検査者・被検査者にとってどのような利点があるかについて自分なりに考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	結果の解釈一般化をめぐる問題② (教科書1) 第15章)	心理学の実験によって得た結果を一般化する際に問題となる事象を通して、実験的研究の限界と実験結果の妥当な解釈について学ぶ。 キーワード：母集団、標本、無作為抽出、剰余変数	実験的研究では、母集団（第16章参照）の性質を実験結果（標本）によって推定する際に、しばしば問題が生じます。多くの実験では大学生を対象としていますが、その実験結果を人類全体に適用することはできるのでしょうか。教科書を熟読し自分なりに考えてみましょう。
8	統計的分析① 記述統計 (教科書1) 第16章)	得られたデータの特徴を図表や、数値を用いた的確・効率的に把握するための方法を学ぶ。 キーワード：平均値、標準偏差、相関係数、外れ値	ここでは、実験によって得られた加工前のデータから、そのデータの特徴や傾向を見出すための基本的な分析方法を学びます。平均や標準偏差など基本的な概念について自分なりに整理し、説明できるようになりましょう。
9	統計的分析② 推測統計と統計的検定 (教科書1) 第16章)	得られたデータに対して統計的分析を行うことの意味と実際に行う際の留意点について学ぶ。 キーワード：推測統計、統計的検定、有意水準	実験条件間の平均値などについて、見た人の主観的な判断によって「差がある・差がない」などと解釈が異なることはなぜ問題なのかを考えてみましょう。また、このような問題を防ぐために使用される、統計的検定の基本的な考え方について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>課題1は、スクーリング初日開始時間に提出してください。課題2は、スクーリング受講中、または受講後指定された期日までに提出してください。</p> <p>課題1 『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み原則的な研究の流れについて要約レポートを作成しなさい。その際、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いること。</p> <p>課題2 当日わたされたデータを講義内容をふまえて統計的手法を用いて分析し、その結果をわかりやすく整理した後、仮説が支持されたか否かを検討しなさい。</p>
2 単位め	<p>原則としてスクーリング受講後に提出すること</p> <p>パーソナリティ検査における質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べ、代表的な検査をそれぞれ1つずつ解説しなさい。</p>

※提出された2単位めのレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め 課題1 アドバイス

この課題は、スクーリング初日開始時間に提出してください（事前郵送は不可。必ず当日持参）。

要約レポートの作成要領は下記のとおりです。

- 1) A4判用紙（または原稿用紙）使用1,000字以上 ワープロ・パソコン可（手書きも可）。1行めに学籍番号・氏名を記載。返却はいたしませんので、コピーを手元に残しておいてください。
- 2) 要約は、文中太字の語句を中心にまとめてください。また、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いてください。書式は自由（箇条書きや図解の使用も自由）です。

3) この要約レポートはスクーリングの講義内容の理解を深めるための予習にあたるものですので、自分なりの理解でまとめてください。

**1単位め
課題2
アドバイス**

この課題は、スクーリング受講中、または受講後指定された期日までに提出してください。提出用紙はスクーリング実施中に配付します。

レポート課題では、具体的な研究例のデータに対して、

- ・その研究の仮説を確認する
- ・仮説の検討に用いる分析手法を選択する
- ・SPSSを用いて実際に分析する
- ・SPSSの分析結果を読み取り、どういう結果が得られたかを文章と表でわかりやすくまとめる
- ・仮説が支持されたか否か結論をくださ

という作業を一人で行い、レポートにまとめていただきます。

多くの受講生にとっては、何のために統計処理をするのか、また、その結果は何を意味しているかということについては、ほとんど知識がなく戸惑うことが多いのではないかと予想されます。その点についても、スクーリング中に説明しますので、講義をきちんと聴くということと、ある程度予習をして「統計学」ということについても基礎的な学習をしてくることを期待しています（前述の「事前学習」参照）。

**2単位め
アドバイス**

パーソナリティ検査（性格検査）は、検査の仕方によって「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などに分類されます。この課題は、まず、それぞれの方法について、その考え方、長所と短所などを解説することが求められています。そして、それぞれの方法を使った代表的な検査を各1つ（合計3つ）選んで、その検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などについて説明するというのが、課題の後半部分です。

なお、この課題は、

- (1) 質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分
- (2) それぞれの代表的な検査の各1つについて、検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などを解説する部分

で構成する必要があります。

2単位めの課題では、4,000字程度まででまとめていただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

(1)の「質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分」がこの課題の中心となりますので、(2)については簡略にまとめてください。

このレポート課題は、スクーリングの講義内容および適当な参考書を見つければ書ける内容になっています。参考書入手が困難な受講生は、スクーリングの際に図書館を利用して、レポートの材料を集めておいた方がいいでしょう。なお、参考文献を明記することを忘れないでください。

原則としてスクーリングを受講してから、「2単位めのレポート課題」に取り組むことを推奨します。

2単位めのレポートは、通常のレポート用紙に記入して、提出してください。

■参考図書

●心理検査に関するもの

- 松原達哉編著『心理テスト法入門 [第4版]』日本文化科学社、2002年
大村政男・花沢成一・佐藤誠著『心理検査の理論と実際 (第4版)』駿河台出版社、1998年
塩見邦雄編著『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
願興寺礼子・吉住隆弘編『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版、2011年
水田善次郎著『心理検査の実際』ナカニシヤ出版、2001年
渡部洋編著『心理検査法入門』福村出版、1993年
村上宣寛著『心理テストはウソでした』講談社+α文庫、2008年

●心理統計に関するもの

- 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年
岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
大村平著『改訂版 統計のはなし』日科技連、2002年
松田文子ほか著『わかって楽しい心理統計法入門Ver. 2』北大路書房、2012年
丸山欣哉ほか著『学生のための心理統計法要点』おうふう、2009年
村井潤一郎・柏木恵子著『ウォームアップ心理統計』東京大学出版会、2008年
山内光哉著『心理・教育のための統計法<第3版>』サイエンス社、2010年
山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004年
芝田征司著『数学が苦手でもわかる「心理統計法入門」』サイエンス社、2017年
豊田秀樹著『心理統計法 [新訂]』放送大学教育振興会 (NHK出版)、2017年
鵜沼秀行・長谷川桐著『はじめての心理統計法 [改訂版]』東京図書、2016年
南風原朝和著『心理統計学の基礎』有斐閣、2002年
南風原朝和ほか著『心理統計学ワークブック』有斐閣、2009年
田中敏著『実践心理データ解析 (改訂版)』新曜社、2006年
森 敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房、1990年

社会・集団・家族心理学A (社会・集団心理学) 2018～			科目コード	FC2540
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1 年以上	吉田 綾乃	



※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
 ※2017年度以前に入学した方は、p. 92「社会心理学」(科目コード：FC2514)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

社会心理学は、人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問です。私たちの社会的行動には不可解な現象が数多く存在します。それらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けています。社会心理学は様々なアイデアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようと試みています。講義では、できるだけ多くの興味深い研究を具体的に紹介しつつ、私たちの持つ心のメカニズムについて考えます。そして人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とします。

■到達目標

- 1) 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解し、説明できる。
- 2) 人の態度および行動に関わる諸要因について理解し、説明できる。
- 3) 集団および文化が個人に及ぼす影響について理解し、説明できる。

■教科書

池上知子・遠藤由美著『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社、2008年
 (最近の教科書変更時期) 2009年4月
 (スクーリング時の教科書) 上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

基礎編：初めて学ぶ人へ

吉田寿夫著『人についての思い込み I・II』北大路書房、2002年

心理学ジュニアライブラリのシリーズの一冊であり、読みやすいでしょう。

1 単位めの対人認知に関する課題の参考になります。

岡本浩一著『社会心理学ショート・ショート』新曜社、1986年

トピック中心のわかりやすい内容になっています。

認知的不協和理論や態度変容に関する実験内容が詳細にまとめられています。

2 単位めの態度変容に関する課題の参考になります。

藤本忠明・東正訓著『ワークショップ 人間関係の心理学』ナカニシヤ出版、2004年

社会心理学の研究が人間関係の問題と関連づけて分かりやすく紹介されています。

Q&Aがあり、自分の理解度を評価することができます。

応用編①：テキストだけでは物足りない人へ

山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書、2001年

概念の正確な把握や知識の整理に有効です。辞書としても利用できます。

末永俊郎・安藤清志著『現代社会心理学』東京大学出版会、1998年

社会心理学の領域が網羅され、また個々の研究内容についても詳細な説明があります。参考図書も充実しています。

池田謙一・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子著『社会心理学』有斐閣、2010年

幅広いテーマを取り上げており、広く社会心理学の知識を深めたい方にお勧めします。

応用編②：社会心理学およびレポート課題に関連する知識を深めたい人へ

E. アロンソン著『ザ・ソーシャル・アニマルー人間行動の社会心理学的研究』サイエンス社、1994年

著名な社会心理学者による読み応えのある一冊です。

小坂井敏晶著『社会心理学講義』筑摩書房、2013年

フランスのパリ第八大学で教鞭をとる日本人社会心理学者によるテキストです。

T. ギロビッチ著『人間この信じやすきもの』新曜社、1993年

人間の認知の偏りがなぜ生じるのか、いかに克服するかを論理的に解説しています。

R. チャルディーニ著『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか（第2版）』誠信書房、2007年

R. チャルディーニ・N. J. ゴールドスタインほか著『影響力の武器 実践編』誠信書房、2009年

態度形成や態度変容について幅広い視点から理解することができます。

S. アイエンガー著『選択の科学』文藝春秋、2010年

盲目の女性社会心理学者による「選択」に関する研究が面白くまとめられています。

R. バウマイスター・J. ティアニー『WILLPOWER意志力の科学』インターシフト、2013年

影響力のある社会心理学者のひとりであるバウマイスターの研究がわかりやすくまとめられています。意志力について悩んだ事のある方にお勧めします。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、社会心理学における研究アプローチの特徴を説明した後に、①対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解するために、社会的認知や自己に関連する実証研究や理論を紹介します。次に、②人の態度および行動に関わる諸要因について理解するために、態度形成や態度変容に関する諸理論を具体的事例と関連付けながら紹介します。さらに、③集団および文化が個人に及ぼす影響について理解するために、社会的影響や集団過程に関する古典的研究から、文化心理学における新しい研究知見までを幅広く取り上げます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会心理学とは 対人認知①	社会心理学研究の視点 ゲシュタルト理論、期待効果、ネガティビティ・バイアスなど
2	対人認知② 態度①	スキーマ、ステレオタイプ、偏見の自己制御モデルなど 認知的不協和理論、自己正当化、説得など
3	態度②	承諾を生むルール（返報性・一貫性）、プロパガンダなど
4	自己	自己認知、自己評価、自己と動機づけなど
5	対人行動	援助行動と攻撃行動など
6	集団と個人①	他者存在の影響、集団意思決定、同調など
7	集団と個人②	リーダーシップ、集団間差別など
8	文化と人間 まとめ	文化的自己観など 心理学の知識をいかすために
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料により講義を進めます。現実の出来事や自分自身のものの見方や行動を見直すきっかけになるような社会心理学の研究成果を紹介していきます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（論述式、教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1部1章・2章・3章、第3部8章・10章を中心に読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会心理学とは(序章)	社会心理学の学問的特徴を理解し、社会心理学の研究アプローチの特色、その背景にある理論や人間観を理解する。 キーワード：相関的研究、実験的研究、実験者効果、「場」理論、素朴な科学者、認知的倏約家、動機づけられた戦術家など	社会心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。社会心理学における人間観の変遷について理解しておく、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	対人認知(第1部1)	対人認知の心的過程について学ぶ。印象形成の古典的理論、対人記憶の主要な理論、対人認知のプロセスモデルの特徴を理解する。対人認知の歪みおよび対人認知の個人差が生じるメカニズムについて理解する。 キーワード：ゲシュタルト理論、ネガティビティ・バイアス、対人記憶のネットワークモデル、期待効果、アクセシビリティ効果、ステレオタイプ、2過程モデル、暗黙の人格理論、認知的複雑性など	私たちが「ありのまま」に他者を見ることが如何に困難なことであるのかについて、先行研究を通して理解しましょう。そして、自分自身が持っている対人認知の「クセ」について考えてみましょう。
3	社会的推論①帰属(第1部2)	他者を含む社会的現象一般に対する推論プロセスの特徴について学ぶ。 キーワード：内的帰属、外的帰属、対応推論モデル、共変モデル、スキーマ、自動的特性推論、オートマティシティ、ブラインディング など	自分自身の経験や具体的な社会的出来事を思い浮かべながら帰属過程の特徴について理解すると分かりやすいでしょう。私たちが日常的に行っている推論が自動的かつ直感的なプロセスによって支えられていることを理解することがポイントです。
4	社会的推論②バイアス(第1部2)	社会的推論におけるエラーとバイアスに関与している心理要因について学ぶ。推論の歪みによる誤った信念や知識の形成が生じるメカニズムについて理解する。 キーワード：ヒューリスティックス、基本的帰属のエラー、行為者-観察者バイアス、セルフ・サービングバイアス、コントロール幻想、合意性バイアス、錯誤相関、自己中心性バイアス、仮説検証型判断 など	バイアスやヒューリスティックスがなぜ生じるのかについて、認知的要因と動機的要因に着目しながら理解するとよいでしょう。バイアスやヒューリスティックスを低減するためにはどうすればよいか自分なりに考えてみましょう。
5	態度(第1部3)	態度がどのように形成されるのかについて学ぶ。態度の強度や持続性、態度と行動との一貫性に及ぼす認知過程の影響について理解する。 キーワード：認知的一貫性理論、認知的均衡理論、認知的不協和理論、精緻化可能性モデル など	「○○が好きだ」「××が嫌いだ」といった態度はどのようにして形成されるのでしょうか。説得効果はどのような要因から影響を受けているのでしょうか。誰もが日常生活の中で経験している「態度形成」と「態度変容」について認知的一貫性の観点から考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	説得的コミュニケーション (第1部3)	説得過程の規定要因について、メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因の観点から学び、態度変容の心的メカニズムについて理解する。 キーワード：メッセージの反復効果、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、予告、接種理論、自我関与、態度のアクセシビリティ理論 など	普段の生活のなかで行われている説得だけではなく、企業や政府、メディアなどが行っている説得事例についても考えてみましょう。現代社会ではどのような場面で説得が行われているのでしょうか。個人間の説得だけではなく社会的な場面で行われている説得についても考えてみましょう。
7	感情 (第1部4)	感情の生起過程および、情報処理アプローチの観点から感情が人の思考や判断、行動に及ぼす影響について理解する。 キーワード：シャクターの情動2要因説、認知-感情独立仮説、気分一致効果、感情ネットワークモデル、気分効果の非対称性、気分維持修復動機 など	近年、「感情」が私たちの思考や行動に大きな影響を及ぼしていることが明らかになってきました。主観的な「感情」経験について、感情が持つ機能と特徴を理解することを通して客観的に考えてみましょう。
8	自己認知 (第2部5)	自己理解に社会的・文化的要因が及ぼす影響について学ぶ。自己認知の情報源、自分を把握するための主な様式、セルフ・スキーマが他関連情報の処理に及ぼす影響について理解する。 キーワード：自己概念、自己知識、個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティ、自己カテゴリー化理論、自己ステレオタイプ化、セルフ・スキーマ、自己呈示、自己概念の複雑性 など	私たちは誰もが「自分はこのような人間だ」という考えを持っています。自分自身に対する認知が「どのように」形成されたのか、どのような場合に変化するかについて考えてみましょう。「自己」に対する認知が、自分だけではなく、他者とのコミュニケーション場面においても影響を及ぼしていることを理解することが重要です。
9	自己評価 (第2部6)	自己評価について、自尊感情、社会的比較理論、自己評価維持モデル、自己評価における重要他者の影響、愛着の観点から学ぶ。自己評価が心の健康を左右するメカニズムについて理解する。 キーワード：自尊感情、ソシオメータ理論、顕在的自尊感情、潜在的自尊感情、自尊感情の功罪、社会的比較、自己評価維持モデル、重要他者、愛着、内的作業モデル など	自己評価は自尊感情だけではなく対人コミュニケーションや心の健康とも密接に関わっています。自己評価が持つ様々な機能について学び、自己評価を適切なレベルに維持することの重要性について考えてみましょう。
10	自己と動機づけ (第2部7)	自己認知に関わる動機について学ぶ。自己認知が自己関連情報の選択、判断、記憶、評価に及ぼす影響について理解する。 キーワード：自己査定動機、自己確証動機、自己高揚動機、ポジティブ幻想、自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング、自己制御 など	私たちは「自分について知りたい」「自分がよい人間だと思いたい」など様々な自己に関連する動機を持っています。自己関連動機がどのような行動と結びついているのか理解しましょう。また、社会生活における自己制御の重要性について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	対人行動 (第2部8)	自己意識が行動に及ぼす影響、援助行動および攻撃行動の生起メカニズム、社会的排斥がもたらす諸問題について学び、他者に対する行動を規定する要因について理解する。 キーワード：自己意識、私的自己意識、公的自己意識、社会的不安、没個人化、自己開示、返報性、援助行動、攻撃行動、社会的排斥 など	他者に対する好ましい行動や好ましくない行動は「なぜ」生じるのでしょうか。自己意識や社会的不安、没個人化などが他者に対する行動に及ぼす影響を理解し、好ましくない行動を抑制するための対策について考えてみましょう。
12	人間関係 (第2部9)	人間関係の成立と維持、発展に関与する要因およびその背後にある原理について学ぶ。 キーワード：人格的特徴、身体的特徴、類似性－魅力仮説、熟知性、単純接触効果、近接性、報酬性、SVR理論、社会的交換理論、投資モデル、衡平モデル、互惠モデル、対人的葛藤、錯誤帰属、恋愛の色彩理論 など	人間関係を説明するために様々なモデルが提唱されています。各モデルが検討している人間関係の種類や進展度に注意しながら理解すると分かりやすいでしょう。また、恋愛関係、友人関係および勢力関係において重要となる要因の違いを理解しましょう。
13	集団と個人 (第2部10)	集団が個人に及ぼす影響および個人が集団全体に及ぼす影響について学び、集団と個人の関係における相互規定性を理解する。 キーワード：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、社会的補償、社会的インパクト理論、集団思考、集団極性化、集団規範、同調、少数派の影響、リーダーシップ、社会的ジレンマ、内集団バイアス、社会的アイデンティティ理論 など	集団のなかに入ると「なぜ」ひとりの時とは異なる行動が生じるのでしょうか。集団が個人に及ぼす影響の良い面と悪い面について考えてみましょう。また、個人が集団全体を動かすために重要となる要因について理解しましょう。
14	健康と幸福 (第2部11)	人々の精神的健康や幸福に社会構造や心の社会性が及ぼす影響について学ぶ。 キーワード：心理的免疫システム、ストレス、コーピング、ソーシャル・サポート、親密関係の負の効用、反実思考 など	親密な対人関係はストレス源となることもあれば、ストレスに対処するための処方箋になることもあります。どのような場合に、対人関係が薬あるいは毒になるのかについて考えてみましょう。
15	文化と人間 (第2部12)	文化と人間に対する社会心理学の考え方を学ぶ。文化に対するアプローチの仕方の違いを理解する。 キーワード：普遍主義、文化相対主義、文化心理学、文化的自己観、集団主義－個人主義、異文化適応	私たちを取り巻いている「文化」は知らず知らずのうちに私たちの思考パターンや行動に影響を与えています。文化がどのように人々の心的過程や行動に影響を及ぼしているのか、また人々の行動が文化に及ぼす影響について理解しましょう。そして、文化と人間との相互規定性について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	態度変容における説得の影響について、自分自身が経験した事例をあげながら説明しなさい。また、説得を防ぐための方法について自分の考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストを読む際には、その内容が日常生活のどのような場面について述べているのか、具体的に思い浮かべながら読んでください。レポート課題は、誰もが日常的に経験している、態度を決める、態度を変えろといった「態度形成・態度変容」に関するものです。自分の日々の経験を、社会心理学の理論や研究知見から捉えなおしてみてください。

レポート作成にあたっては、教科書だけに頼るのではなく、他の文献も参考にするようにしてください。また、自分自身の言葉で述べるのが最も大切ですが、テキストの内容を理解した上でまとめていることがわかるように、テキストで紹介されている社会心理学的な用語を用いて、その現象が「なぜ」生じたと考えられるのか、ご自身の考えをまとめてください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

私たちは、「この映画が好きだ」、「この意見に賛成である」など、さまざまな対象に対して何らかの態度をもっています。しかしながら、このような態度は、常に変わらないわけではありません。これまでに周囲の人から説得され、自分の態度を変化させたことがある人は多いでしょう。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した「態度変容」について「説得」という側面から考えていただきます。

レポートを作成する際には、テキストの第3章：態度を参考にしてください。説得が成功するか否かは、メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因によって左右されます。これまでに自分が経験した説得（説得する側・される側のどちらの経験でもよい）による態度変容が、どのような要因によってなぜ生じたのか、テキストで紹介されている、メッセージの反復効果、恐怖喚起、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、自我関与、気分状態などのキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。その他にも、認知的不協和理論、精緻化可能性モデルなどの理論に基づいた考察もよいでしょう。また、今日でも報道が続いている振り込め詐欺など、悪質な説得を避けるためにはどうすればよいのか、直接経験、予告、被説得性、接種理論に関する記述などを参考に、ご自身の考えを述べてください。

科目修了試験

■評価基準

以下の項目を考慮しながら総合的に判断します。

- 1) 出題意図の正しい理解
- 2) 心理学的概念に対する正しい理解
- 3) 回答内容の論理性と説得性
- 4) 主張の論拠が示されているかどうか（引用あるいは参照された研究の適切性など）

社会心理学

～2017

科目コード

FC2514



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	吉田 綾乃

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 84「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」（科目コード：FC2540）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 84「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」（科目コード：FC2540）を参照してください。

■レポート課題

1 単位め	対人認知における歪みがなぜ生じるのか、自分自身が経験した事柄をあげながら説明しなさい。また、その克服方法について自分の考えを述べなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

テキストを読む際には、その内容が日常生活のどのような場面について述べているのか、具体的に思い浮かべながら読んでください。レポート課題は、誰もが日常的に経験している、他者を判断する、他者から判断されるという「対人認知」に関するものです。自分の日々の経験を、社会心理学の理論や研究知見から捉えなおしてみてください。

レポート作成にあたっては、教科書だけに頼るのではなく、他の文献も参考にするようにしてください。また、自分自身の言葉で述べるのが最も大切ですが、テキストの内容を理解した上でまとめていることがわかるように、テキストで紹介されている社会心理学的な用語を用いて、その現象が「なぜ」生じたと考えられるのか、ご自身の考えをまとめてください。

1 単位め アドバイス

私たちは、「あの人は冷たい人だ」と他者を判断することもあります。逆に「あなたは冷たい人だ」と他者から判断されてしまうこともあります。このような他者の判断（対人認知）は、人が自分の中で「判断」した結果であり、「事実」とは異なっている可能性があります。皆さんも、周囲から誤解されていると感じたり、あるいは自分が他者を誤解していたことに気がついたことがあるのではないのでしょうか。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した対人認知の歪み

について、社会心理学的な側面から考えていただきます。レポートを作成する際には、テキストの第1章：対人認知を参考にしてください。テキストに紹介されているように、対人認知の歪みは、期待効果、ステレオタイプ、暗黙の人格理論、ネガティビティ・バイアスなどによって引き起こされることが明らかになっています。また、この課題はテキストの第2章：社会的推論も参考になります。たとえば、対人認知の歪みをもたらす要因として、スキーマ、錯誤相関、仮説確認型判断、仮説確認バイアスなどの影響を考えることができます。これまでに自分が経験した対人認知（判断する側・される側のどちらの経験でもよい）の歪みが、なぜ生じたと考えられるのか、テキストで紹介されているキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。そして、そのような対人認知の歪みを克服するためには、どうすればよいのか、認知的複雑性や、印象形成の2過程モデルなどの研究も参考に、ご自身の考えを述べてください。

2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

社会・集団・家族心理学B (家族心理学) 2018～

科目コード

FC2541



単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR(講義)

1年以上

平泉 拓

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 100「家族心理学」(科目コード: FC2515)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。

家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点(家族システム理論)を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。

■到達目標

- 1) システムとしての家族を説明することができる
- 2) 家族が個人に及ぼす影響を説明することができる
- 3) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる

■教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣、2008年

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

(スクーリング時の教科書) 配付資料をもとに進めるため、教科書は使用しません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館、1999年
- 2) 平木典子・中釜洋子著『家族の心理 家族への理解を深めるために（ライブラリ 実践のための心理学3）』サイエンス社、2006年

その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、前半部で家族をシステムとして理解する視点を、後半部では事例を交えながら家族面接の方法を扱います。スクーリングを通じて家族を理解し、援助するための視点を習得してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	家族システム	家族とは何か、家族心理学はどのような学問かを学ぶ
2	コミュニケーション	コミュニケーション理論の基礎を学ぶ
3	家族関係の査定	ジェノグラム の書き方、見立て方について学ぶ
4	家族面接の基本姿勢	家族面接の基本姿勢を学ぶ
5	家族面接の方法①	ブリーフセラピーを体験し、面接の手順を学ぶ
6	家族面接の方法②	ブリーフセラピーを体験し、面接の手順を学ぶ
7	事例検討	事例と対応のポイントを学ぶ
8	家族面接の方法③	コンプリメント、パラドックス、ユーモア
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、具体的な事例を含めながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（100%：持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の1章・2章・6章・8～10章・13章を中心に読んできてください。

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■参考図書

若島孔文編 『家族療法プロフェッショナル・セミナー』金子書房、2010年

若島孔文著 『ブリーフセラピー講義』金剛出版、2011年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族システム理論 (第1章)	家族という事象をとらえるための基盤である、家族システム理論について理解する。 キーワード：社会構成主義、家族システム理論、階層性、円環的因果律、第一次変化と第二次変化	身の回りの家族を例にして、家族をシステムとしてみてください。家族をシステムとしてとらえることができると、2回目以降の学習内容がより深く理解できます。
2	家族を理解するための鍵概念 (第2章)	家族という事象をとらえるための3つの鍵概念ー構造、機能、発達について理解する。 キーワード：構造、機能、発達、ジェノグラム、エコマップ	身の回りの家族を例にして、ジェノグラムとエコマップを描き、学習内容を整理してみましょう。
3	独身の若い成人期 (第3章)	若い成人期の発達課題と危機について理解する。また、将来の家族形成に向けた予防的アプローチについて理解する。 キーワード：親密性、親密さへの恐怖、自己分化、情緒的遮断、親役割代行、配偶者選択、アサーション	家族という事象は、結婚する前の若い成人期、あるいはそれ以前からすでに始まっていると考えられます。三回目は、若い成人期のどのような側面が後の家族生活に影響するか、といった点について理解してください。
4	結婚による家族の成立期 (第4章)	新しい家族生活のスタートとなる新婚期の家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：家族システムの結合、非合理的思い込み、カップルダンス	夫婦は家族の最も基本的かつ中心的なサブシステムです。夫婦が新婚期にどのような課題に直面するか予測できると、夫婦で課題と危機に対処することができます。4回目は、新婚期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	乳幼児を育てる段階 (第5章)	妊娠・出産・子育てによって生じる家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：伝統的性別役割観、仕事と家庭のバランス、拡大家族、親の機能、父親の育児参加	乳幼児を育てるなかで、夫婦関係は変化し、夫婦の役割は変更されます。夫婦が子育てに取組み、父親が子育てに積極的に関わることができるようになることが大切です。5回目は、育児期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
6	小学生の子どもとその家族 (第6章)	小学生の子どもとその家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：エアポケット、発達の加速現象、三角関係、養育システムの再編成、成員の個性化、ギャング・エイジ	思春期の子どもは、発達・成長が著しく、学校など家族以外の場面のなかで精神的に成長します。6回目は、学童期の子どもがいる家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
7	若者世代とその家族 (第7章)	青年が親離れする過程、親が青年を手放していく過程で生じる、家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：移行期、チャムシップ、ピア関係、自我同一性、	思春期・青年期に入った子どもは自立の準備を進めていきます。7回目は、中年期の家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
8	老年期の家族 (第8章)	高齢期の家族が抱える発達課題と危機について理解する。 キーワード：人生の統合、多世代の関係性の再構築	高齢者やその家族は、ケアが必要な「受け身の存在」になりやすいです。このような中で、高齢者と家族がより自律的に生き生きと暮らすためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
9	家族への臨床的アプローチ (第9章)	家族療法の発展史、代表的な理論モデル、他のアプローチとの違い、代表的な技法について理解する。 キーワード：多世代家族療法、構造的家族療法、MRI家族療法、ミラノ派家族療法、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ジョイニング、多方向への肩入れ、リフレーミング	4回目から8回目までの裏テーマになっていたのは「家族内のルールの変更」でした。家族療法の理論モデルはいずれも、家族内のルールの変更を支持し、家族が自律的に問題を解決することを援助するものです。9回目は、個人を対象とする心理臨床と、家族を対象とする心理臨床の違いは何か、という観点から家族療法について理解してください。また、コラム⑨「家族療法の魅力」を読み、家族療法の特徴について理解を深めてください。
10	夫婦関係の危機と援助 (第10章)	夫婦関係の危機とカップル・セラピーについて理解する。 キーワード：カップル・セラピー、離婚のプロセスと発達課題、再婚家庭のプロセス、ステップファミリー	現代の家族のあり方は多様であり、離婚や再婚など人々が選択する家族の形はさまざまです。10回目は、離婚と再婚のプロセスについて特に整理してください。そのうえで、カップル・セラピーの留意点について、カップルとセラピストそれぞれの観点から理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	子育てをめぐる問題と援助 (第11章)	社会の守りの中での子育ての必要性について理解する。 キーワード：障害者・児、児童虐待、育児不安、親支援、親業トレーニング、家族再統合プログラム	いつの時代でも、地域や親族の支えがないと家族は子育てをすることができません。孤立した環境のなかで「育てにくい子ども」を育てている親だけでなく、多くの親は育児への不安とストレスを抱えながら子育てをしています。11回目は、親支援や子育て支援のプログラムを知り、その必要性について理解してください。
12	家族が経験するストレスと援助 (第12章)	災害、病気、子育てなど、家族が経験するストレスと援助について理解する。 キーワード：あいまいな喪失、グリーフ（悲嘆）、段階理論、ウェルビーイング、医療的家族療法、リジリアンス、多世代家族療法、ナラティブ・アプローチ	問題を抱えない家族は存在しません。12回目は、自然災害、家族メンバーの喪失、一過性・慢性の病気への罹患、事件や事故への遭遇などを取り上げます。そして、どのような行動が家族メンバーの助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
13	家族の中のコミュニケーション (第13章)	家族療法のコミュニケーション学派の理論について理解する。また、DVと暴力のサイクルについて理解する。 キーワード：コミュニケーションの公理、ダブルバインド仮説、コミュニケーションの悪循環、解決志向アプローチ、家族神話、DV、暴力のサイクル、アサーション	セラピストのツールは、単純化すると言葉のみです。「言葉はもともと魔法である」といわれるように、セラピストは「言葉」により「変化」を作っていきます。13回目は、このような考えの基盤となる、コミュニケーションの5つの公理を理解してください。また、「解決しようとするのが問題を維持させる」というパラドックス（逆説）についても理解してください。身の回りの家族を例にすると、学習が深まります。
14	女性と家族 (第14章)	家庭内外にあるジェンダーの問題を扱い、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について理解する。 キーワード：ジェンダーのレンズ、ジェンダー・センシティブ・サイコセラピー	社会文化に敏感な視点をもった心理療法は、それ自身が単独で成立するものではなく、あらゆる心理療法に浸透するべき要素です。14回目は、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について、もっとも重要な事項はなにかを考察してください。その際、コラム⑭「心理療法に必然的に生じる“力関係”にどう取り組むか」を読み、理解を深めてください。
15	男性と家族 (第15章)	父親と夫をどう理解し援助するかについて理解する。 キーワード：パワーとコントロール、恐れと思い込み・信念	夫・父親をどのように理解し関わるのがより効果的な援助につながるのだろうか。15回目は、父親や夫であることをめぐる葛藤と不安について、理解を深めてください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、5つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束 (Bind)”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることになります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えることができます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わず相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験では、家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて論述形式で出題します。教科書で学んだ内容とキーワードを自分なりに理解しているか、具体例を示しながら論述できているかという観点から評価します。

家族心理学

～2017

科目コード

FC2515



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	平泉 拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p.94「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.94「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。

■レポート課題

1 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題での提出は2017年9月で締め切りました。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

1 単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、5つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束（Bind）”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることとなります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えられます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わず相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変

化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

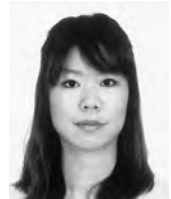
2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

産業・組織心理学

科目コード

FC3542



単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR(講義)

2年以上

山口奈緒美

※2018年度に「産業心理学」(科目コード:FC2523)から科目名が変更されました。これから学習される場合は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

産業心理学はモノやサービスの生産や消費といった場面における人々の行動や心理過程を明らかにする学問で、研究内容は①「組織行動」、②「人事」、③「安全衛生」、④「消費者行動」の4つに大別されます。組織行動領域では、ワークモチベーションや意思決定、チームワークなどが、人事領域では採用や選抜の方法、キャリア発達支援、人事評価などが研究対象となっています。安全衛生領域では、ヒューマンエラーや安全工学、職務ストレスなどが、消費者行動領域では購買行動、広告効果、心理的会計などが研究対象となっています。これら4領域の研究を通して、組織全体が持続して目標を達成し、組織の中で働く人々が効率よく成果を収め、自己成長しながら、他の人と協働して、安全に働くことの実現を目指しています。また、わたしたちは、生産者として生産にかかわり、消費者として消費にかかわっています。これら双方の立場の観点から、今日の産業に携わる人々の心理を探ることも産業心理学のねらいです。スクーリングでは上記①、③、④を、教科書やレポートでは②を学びます。

■到達目標

- 1) 組織成員の心理について、ワーク・モチベーション、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる。
- 2) 組織が組織成員に及ぼす影響を、集団意思決定や公正といった観点から説明できる。
- 3) 産業場面における効率性と安全性の両立について、科学的管理理論やヒューマンエラーといった観点から説明できる。
- 4) 職場における問題(キャリア形成を含む)に対して必要な心理的支援とその方法について説明できる。
- 5) 消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる。

■教科書

高橋 浩・中嶋励子・渡邊祐子著『社会人のための産業・組織心理学入門』産業能率大学出版部、2013年(スクーリング時の教科書)スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力のうち、とくに、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

1 単位めレポート評価10% + 2 単位めレポート評価40% + スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

産業・組織心理学の入門書としては以下の5冊がおすすめです。

1) 柳澤さおり・田原直美 編著『はじめて学ぶ 産業・組織心理学』白桃書房、2015年

産業・組織心理学を理解するために必須の用語や理論が網羅的に示されていて、全体像が把握しやすいです（それゆえ、各理論に対する説明はやや簡潔ですので、自分なりに掘り下げるべく学習が必要でしょう）。また、実際の企業における例や事例が新しくて豊富ですので、現実的な問題と知識を関連付けて考えやすいように工夫されています。

2) 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久著『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2006年

たいていの産業・組織心理学の本は4つの研究領域ごとに章立てが行われますが、この本は大学4年生が就職活動をして、職に就き、組織で働いていくというワークライフのプロセスを展望しながら構成されています。それゆえ、新社会人となってから経験することを時系列で学習することができるよう工夫されています。こちらも入門書ですので、専門用語や理論については更に深めて学習が必要です。

3) 山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2007年

産業・組織心理学で扱われる用語集のような本です。初学者向けに各概念や理論が分かりやすく説明されています。

4) 田中堅一郎編『産業・組織心理学エッセンシャルズ（改訂三版）』ナカニシヤ出版、2014年

こちらも産業・組織心理学についての網羅的な概論書です。この本の特徴は、ひとつの事柄に関する研究の流れが分かりやすく書かれている点です。モデルや用語の意味を理解するだけでなく、あるモデルが提示され、そのモデルに対するどのような批判が生じ、どのように改良されたモデルが提出されたか、という流れを知るのに良い本だと思います。

5) 井上枝一郎 編著『心理学と産業社会とのかかわり』八千代出版、2013年

産業・組織心理学は心理学の知見を応用したものですが、この本は、心理学と産業社会にどのように役立っているのかが分かりやすい内容になっています。事例編が設けられており、実際の事例を取り上げて心理学的に解説している部分が興味深いです。

■事前に学習してほしい科目（任意）

2017年度以前入学者：「心理学概論」「社会心理学」

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「社会・集団・家族心理学A（社会心理学）」

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	産業心理学とは	産業心理学の歴史と発展、4領域の説明
2	ワーク・モチベーション	ワーク・モチベーションの内容理論と過程理論、モチベーションを高める心理的支援
3	キャリア観の発達	キャリアに関する諸理論、キャリア形成に関する支援
4	ジョブ・ストレス	ストレスに関する諸理論、ストレスに関する支援
5	生産性と安全性の両立	科学的管理法、動作研究、ヒューマンエラー
6	集団の影響(1)	集団と生産性、集団と意思決定
7	集団の影響(2)	リーダーシップとチームワーク
8	消費者行動	消費者の購買意思決定と広告の効果
9	スクーリング試験	

※講義内容はやむをえない事情により変更することがあります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

また、在宅学習15のポイントのうち、1から7、14から15がスクーリング事前学習に該当します。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義で学んだ内容を現実生活に当てはめ、気になった事象について理論を用いて説明できるように、繰り返し取り組んでみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	産業・組織心理学とは (第1章)	産業・組織心理学が誕生した経緯と発展過程、現在の産業・組織心理学が取り組んでいる4つの研究領域を理解する。 キーワード：ミュンスターベルクの3部門体系、組織行動、人事心理学、作業心理学、消費者行動	産業・組織心理学がどのような歴史社会的背景のもとに発展してきたのか、どのような社会的要求に応じてきたのかを整理してみましょう。そして、今日、どのようなことが研究されているのか、4つの領域を区別できるようにしましょう。
2	組織と個人 (第2章)	組織や組織成員への見方の変遷を知る。また、組織として機能するための条件を知る。 キーワード：組織の機械観と有機体観、経済人モデル、社会人モデル、自己実現人モデル、複雑人モデル、部門と階層	組織に対する見方や理解の仕方は、産業心理学の発展とともに変遷してきています。それと同時に、組織で働く人々に対する見方もまた変遷しています。どちらについても、どのような変遷をたどったのかを整理しましょう。また、組織を組織足らしめるにはどのような条件が必要なのかを押えておきましょう。
3	組織行動(1)： 職場集団と人間関係 (第3章)	個人が組織集団に与える影響と、組織集団が個人に与える影響の双方向性を理解する。 キーワード：集団発達、集団規範、集団凝集性、集団意思決定	職場集団がどのような特徴をもつのか、規範と凝集性という観点から理解しましょう。また、これらが人々の生産性にどう影響するのかもまとめましょう。最後に、集団であるが故に生じる、意思決定の特徴も整理して学んでください。 ※集団意思決定については、参考図書の4)第4章がとても参考になります。
4	組織行動(2)： ワーク・モチベーションの内容理論 (第4章1～2節)	なぜ人は働くのかということについて、動機づけの観点(特に内容理論)から理解する。 キーワード：内容理論、欲求階層理論、ERG理論、XY理論、達成動機、衛生要因と動機づけ要因	働く意欲は組織における人々の行動に大きな影響を与えます。なぜ人々は意欲を持って働くことができるのかについて、意欲の種類を明らかにした数々の理論をまとめて内容理論とよびます。どのような種類の意欲があるのかまとめましょう。
5	組織行動(3)： ワーク・モチベーションのプロセス理論 (第4章3～4節)	働く動機づけについて、過程理論を学ぶ。 キーワード：プロセス理論、公平理論、期待理論、目標設定理論	働く意欲の種類を明確にするだけではなく、それらがどのような状況的要因によって変化するのかを説明したものをプロセス理論とよびます。いくつかの理論が示されているので、それぞれの理論を理解しましょう。
6	組織行動(4)： 組織とコミュニケーション (第5章)	一般的なコミュニケーション理論を理解した上で、組織におけるコミュニケーションの類型と生産性への影響について学ぶ。 キーワード：コミュニケーションのタイプ、コミュニケーションスキル、コミュニケーション・ネットワーク・モデル	組織におけるコミュニケーションは、私的なコミュニケーションとは異なるいくつかのポイントがあります。それが、組織の第1目標である課題の達成に与える影響を整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	組織行動(5): リーダーシップ (第6章)	好ましいリーダーシップとは何かについて学ぶ。 キーワード: 特性アプローチ、行動アプローチ、状況適応アプローチ	リーダーシップに関する研究の流れを、特性アプローチ、行動アプローチ、状況適応アプローチの順に概観し、リーダーシップを説明するのに足りない要因を順次取り入れてきた経緯を理解しながら望ましいリーダーシップについて考えてみてください。
8	人事心理学(1): 人事アセスメント (第7章)	人事評価における個人差の測定について、事前評価と事後評価を学ぶ。 キーワード: 採用選考のアセスメント、人事交差のアセスメント、評価の信頼性と妥当性、評価エラー	採用選考や人事考査に用いられるツールの信頼性と妥当性について理解しましょう。同様に、評価者が犯しがちな評価時に生じるエラーもまとめましょう。
9	人事心理学(2): 能力開発 (第8章)	従業員の能力開発について、その重要性と方法を学ぶ。 キーワード: 職務遂行能力、能力開発、OJT、Off-JT	なぜ従業員の能力開発が必要なのか、どのような能力を開発する必要があるのか、どのように能力を開発するのか、3つの観点からまとめましょう。
10	人事心理学(3): キャリア発達とその支援 (第9章)	キャリア発達とその支援の方法について学ぶ。 キーワード: キャリアの発達理論、キャリアサイクル、キャリアアンカー、六角形モデル、トランジション論、キャリア・デベロップメント・プログラム	キャリアという語がもつ意味を理解し、勤務経験とともにキャリアがどのように発達していくのかについて説明した理論を整理してみましょう。また、キャリアを継続的に発達できるように組織が提供している内容についても理解しましょう。
11	人事心理学(4): 産業・組織における カウンセリング (第10章)	産業・組織におけるカウンセリングの意義を学ぶ。 キーワード: カウンセリング、認知行動療法、論理療法、短期療法、カウンセリング・プロセス	カウンセリングが産業や組織にどのように役に立つのかについて理解しましょう。特に、人事労務管理や労働法規および従業員規則などの知識を深めることは、従業員を組織に復帰させるために必要な知識です。
12	作業心理学(1): 仕事の能率と安全 (第11章)	作業能率と安全性をどのように両立すべきか、「働く人」を中心に据えたモデルを学ぶ。 キーワード: 時間研究、動作研究、ヒューマンエラー	テイラーの科学的管理法によって徹底した効率化が行われましたが、それだけではエラーを回避することができません。人の基本的特性を知り、エラーを防ぐにはどうすればよいか理解しましょう。
13	作業心理学(2): 職業性ストレスと メンタルヘルス (第12章)	ストレスに関する代表的な理論やモデルを知り、職業場面において特徴的なストレスモデルを学ぶ。 キーワード: 汎適応症候群、ライフイベント研究、心理学的ストレスモデル、NIOSHの職業性ストレスモデル	安全に働くためにはストレス労働者のストレス負荷を減らすことが求められます。ストレスについての知識を深め、職場ではどのようなことがストレスとなり、またストレス反応を生じさせるのかを整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	消費者行動(1): 消費者行動 (第13章)	消費者行動のプロセスと主な影響要因について学ぶ。 キーワード：購買意志決定モデル、イノベーション普及モデル	消費者はどのように購買商品を決めているのかについて、プロセスと個人内要因について整理しましょう。
15	消費者行動(2): マーケティングリサーチ (第14章)	消費者のニーズや自社製品の評価、広告効果などを把握する研究方法について学ぶ。 キーワード：定量調査、定性調査	どのような商品やサービスが消費者のニーズをとらえるのか、販売促進計画をどう立てるのかについて、科学的な検討が必要です。定量調査と定性調査について区別して理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	公平理論を参考にして、どのような制度であれば評価者や被評価者にとって満足感が高い人事考課制度になるのかを論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

職場やアルバイト先で、なぜこんなにがんばっているのに評価されないのだろうと感じたことはないでしょうか。このレポート課題では、よりよい人事考課を実現するために、どのような仕組みがあればよいのかを考えてみたいと思います。現状ではどのような考課が行われており、そこにどのような心理学的なエラーが生じるのかをまとめ、評価される側の公平感についての理論を参考にした上で、どのような考課システムが望ましいのか、ご自分の意見を述べてみてください。具体的な作成要領は以下に示します。

最初に、人事考課制度の仕組みについて説明してください。現在、どのような目的で、どのような項目が評価されているのかをまとめましょう。テキスト第7章第3節「人事考課制度の目的と仕組み」を参考にしてください。

次に、評価者（管理者）の視点から、人事考課制度について考えてみましょう。ここでは、あくまでも評価者からの視点から書き、決して被評価者の視点を混ぜてしまわないように注意してください。評価者が陥りがちな心理的な評価エラーにはどのようなものがあるのでしょうか、また、どう対策を採ればよいのでしょうか。さらには、人事考課に必要な評価者の姿勢についてもまとめてください。テキスト第7章第4節「人事考課制度の運用」を参考にしてください。

最後に、被評価者の視点から、どのような人事考課制度が「公平だ」と感じられるのかについて、公平

理論について説明を行った上で、論じてください。公平理論はテキスト80頁に説明がありますが、自分の貢献度と結果のつりあいが、他者のそれとつりあうかどうかによって、人々はその処遇が公正かどうかを判断するという理論です。こうした観点から、どういう場合に被評価者は人事考課制度を「不公正」と感じるのでしょうか、逆に言えば、どのような制度であれば、「公正だ」と感じるのでしょうか。被評価者が「公正である」と感じられるために必要な要因（評価者に求められること、組織に求められること、システムに求められること）を区別して書いてください。

■レポート 評価基準

- ・現状の人事考課について明確に説明できているか
- ・公正理論について明確に説明できているか
- ・労働者の納得を導く人事考課について、公正理論にもとづいて説明できているか。その際、評価される側の心理プロセスを論じることができているか。

科目修了試験

■評価基準

問題は、論述式と選択式の両方があります。論述式の問題に関しては、複数の知識を関連付けて問いに答えることができているかどうかを問います。また、選択式の問題では、ひとつひとつの理論や用語の意味だけではなく、それを現実場面当てはめると人々の行動がどうなるか予測できるようにしておくとういことと思います。

産業心理学 <small>～2017</small>			科目コード	FC2523
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR (講義)	1 年以上	山口奈緒美	



※2018年度から、科目名・科目コード・履修方法が「産業・組織心理学」（科目コード：FC3542、履修方法：RorSR）に変更されました。レポート課題も2課題に変更されています。

※これから履修登録される場合は、p. 102「産業・組織心理学」を履修登録してください。

※2017年度に「産業心理学」を履修登録した方で、2018年3月までに単位未修得の場合は、4月上旬に履修登録している科目名称が「産業・組織心理学」に変更されます。

※論述式レポートに合格していてスクーリングが未受講の方は、客観式レポート課題に解答してください。

※2017年度に単位修得した方は、科目名「産業心理学」のままです。

人間関係論

科目コード

FC2689



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	山口奈緒美・熊谷 智博

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2018・2019年度開講予定です。

※この科目のスクーリングは、仙台・オンデマンド開講分を山口奈緒美先生、東京開講分を熊谷智博先生が担当します。

科目の概要

■スクーリングで学んでほしいこと

人間関係は私たちにとって必要であり、また避ける事の出来ない問題でもあります。この人間関係について主に心理学の観点から理解し、日々の生活に役立てる方法を学んでもらえるよう講義を進める予定です。講義で扱ったトピックを自分の経験と照らし合わせながら理解してもらいたいと思います。

■到達目標

- 1) 日常場面での人間関係について、理論的に理解できる。
- 2) 自分自身の人間関係についての経験を理論的に説明できる。
- 3) 対人葛藤場面での解決方法を学び、自分なりに応用する事ができる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

▶仙台・オンデマンド開講分 山口奈緒美

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	人間関係の時系列的視点①	人間関係の始まり
2	人間関係の時系列的視点②	人間関係の維持
3	人間関係の時系列的視点③	人間関係の崩壊、対人葛藤の原因と解決
4	人とのかかわり①	受容と拒絶
5	人とのかかわり②	拒絶感受性

6	人とのかかわり③	ソーシャルサポート
7	人間関係にかかわる多様なバイアス	人間関係をゆがめるバイアス
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義はパワーポイントを用いて進めます。受講者には講義で用いるスライドにもとづいて作成された資料をお配りします。

この資料は、受講者が適宜工夫して記入し、受講者オリジナルのノートとして作成しやすいように作られています。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（100%：配付資料と自筆のノートのみ持込可。図書類は持込不可）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

人間関係がどのように始まり、深まり、維持されているか、あるいは崩壊してしまうかについて、ご自分の人間関係を見直してみてください。また、自分が日頃、他者を受容したり拒絶したりしているかどうか、分析してみてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の人間関係について考察する際、講義で紹介したさまざまな実験のように、どの事柄が人間関係に影響を及ぼしているか、あるいは及ぼしていないのか、明確に区別できるように現実の分析力を高めてください。

■参考図書

藤森立男編著『人間関係の心理パースペクティブ』誠信書房、2010年

奥田秀宇著『人をひきつける心 対人魅力の社会心理学』サイエンス社、2008年

浦 光博著『排斥と受容の行動科学 社会と心が作り出す孤立』サイエンス社、2009年

▶東京開講分 熊谷 智博

■スクーリング講義内容

様々な人間関係とその特徴について解説します。

回数	テーマ	内容
1	人間関係とは	人間関係と親密さについて
2	恋愛と友人関係	親密な人間関係、特に友人と恋愛の違い
3	家庭での人間関係	夫婦関係と親子関係、高リスク家族など
4	学校での人間関係	児童・生徒の人間関係、いじめ
5	透明性の錯覚	他人との意思疎通について
6	集団での人間関係①	社会的促進、ただ乗り、内集団びいき
7	集団での人間関係②	社会的アイデンティティ、集団間葛藤
8	質疑応答	講義内容についての質疑応答
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、具体的な話題も含めながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

環境心理学

～2017

科目コード

FC3504



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	柴田 理瑛

※この科目は、2017年度以前入学者を対象に2018年度まで開講します。スクーリング受講、レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です（新規履修登録はできません）。

※この科目の会場スクーリングは2018年度は開講しません。

※オンデマンド・スクーリングは2018年度開講します。

科目の概要

■科目の内容

「環境心理学」は「心理学」の研究分野の一つです。「心理学」の大きな目的の一つは人間理解にあるのですが、「環境心理学」はとくに、ヒトと環境とのさまざまなかかわりのあり方を通して人間を理解するといってもよいでしょう。よく“人は人によって人となる”などといわれますが、これは人と人的環境、もっと大きくとらえれば人と社会的環境とのかかわりについて述べたものです。また私たちは、毎日の生活を快適にするために、部屋のインテリア、採光、温度などに配慮します。これは物理的環境に手を加えていることになります。街の景観や都市計画、産業地帯の整備などは、はるかに規模の大きいものになるわけです。それによって私たちは快適感や満足感を味わうことができる一方で、目的や方法が身勝手に、環境への配慮の足りないものであれば、環境を汚染し取り返しのできない破壊を地球に残してしまうことにもなります。

この科目では、人間の成長発達に及ぼす環境の影響や、快適環境作りなど、基礎と応用の両面にわたって勉強しながら、一方では破壊、他方では保全といった、相反する行動を行う人間の心の世界をも考えてみたいと思います。

■到達目標

- 1) 環境心理学の代表的な研究について内容を説明できる。
- 2) 環境心理学の応用的な研究について内容を説明できる。

■教科書

岩田紀編著『快適環境の社会心理学』ナカニシヤ出版、2001年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考文献

広瀬幸雄編 『シリーズ21世紀の社会心理学11 環境行動の社会心理学－環境に向き合う人間のこころと行動』 北大路書房、2008年

佐古順彦・小西啓史編 『朝倉心理学講座12 環境心理学』 朝倉書店、2007年

三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部編 『Q & A環境問題50』 日本経済新聞出版社、2010年

鈴木浩明著 『快適さを測る』 日本出版サービス、1999年

遠山益著 『人間環境学』 裳華房、2001年

日本生理人類学会 居住環境評価研究会編著 『生理人類学から見た環境の科学』 彰国社、2000年

楨原著 『環境心理学——環境デザインへのパースペクティブ』 春風社、2004年

渡辺光雄・高阪謙次編著 『新・住居学（改訂版）』 ミネルヴァ書房、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、人間と環境を一つのシステムとしてとらえ、物理的な環境と社会的環境における人間の心理について学びます。初めに、環境心理学の成り立ちを学び、職場環境や居住環境の快適性について概観し、地球温暖化などの環境問題といったテーマに焦点を当てながら、皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。各テーマの代表的な研究だけでなく、応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して環境心理学についても総合的な理解を深めていただきたいと思います。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	環境心理学の成り立ち	環境心理学の成り立ちについて
2	住宅環境と居住性	居住環境の機能性・快適性・安全性について
3	オフィス環境の快適性	オフィス環境の機能性・快適性・安全性について
4	地球環境と人間	共有地の悲劇・グローバル・チェンジについて
5	環境保全の実践	環境配慮行動・リスク認知について
6	まとめ	
7	スクーリング試験	

■講義の進め方

プレゼンテーションと配付資料を活用しながら授業を進めます。環境心理学のそれぞれの分野における代表的な研究内容と実験について、視聴覚メディア等を視聴することもあります。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込可）で評価します。具体的には、スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書『快適環境の社会心理学』を所持している方は第一章に目を通しておくようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	環境－人間行動への関心（1章）	環境の定義や環境心理学の起源について学ぶことで、環境心理学の特徴を理解する。 キーワード：人間と環境の関係、個人決定観、環境決定観、相互作用観、覚醒理論、人間－環境システム論	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。学習心理学における様々な理論の変遷について理解しておく、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	都市環境と人間①（2章2.1-2.3）	都市の定義や特質について学びながら、都市の快適性と過密の人に対する影響を理解する。 キーワード：都市の特質、都市化の進行、都市的行動様式、都市の快適性、クラウドイング	都市のもつ特質について触れながら、都市の快適性や、都市の抱える問題について自分なりに整理しましょう。また、人口密度が高いことが必ずしもクラウドイングを生起させない理由について考察してみましょう。
3	都市環境と人間②（2章2.4-2.5）	様々な環境刺激が人間の行動に及ぼす影響および都市と都市に居住する人々の社会行動との関係について学ぶ。 キーワード：騒音、刺激過剰負荷、都市と犯罪、都市と援助行動、都市と人間関係	ここでは都市環境の快適性について、騒音や都市の気象といった物理的な環境刺激だけでなく、犯罪や援助行動といった人間関係が都市の快適性に及ぼす影響について考察してみましょう。
4	自然環境と人間（3章）	自然環境の特徴について学び、自然環境と人間のかかわりについて理解する。 キーワード：自然環境、景観評価の精神物理学的モデル、景観評価の心理学的モデル、ストレスからの回復	自然という単語の定義を通しながら、改めて自然の意味を考えて見ましょう。また、自然環境と人間に関する研究に触れながら、自然は人にとってどのような価値があるのかについて自分なりに考察してみましょう。
5	住宅環境と居住性①（4章4.1-4.3）	居住環境の快適性にかかわる諸要因について学び、動線を考慮した平面計画について理解する。 キーワード：快適性、住宅の機能、平面計画	住宅の快適性や機能性を規定する要因について物理的側面と心理的側面から整理してみましょう。また、住宅内における人の行動を考慮した平面計画について、自分の家と比較検討してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	住宅環境と居住性② (4章4.4-4.6)	住宅内部の安全性やインテリアのデザイン計画について学び、環境心理学を活かした住宅計画について理解する。 キーワード：安全性、インテリアのデザイン計画、様式、住宅計画	住宅内部の安全性、デザイン性について学びながら、住宅環境の快適性について理解しましょう。また、環境心理学的な知見が住宅計画にどのような影響を与えているのかについて考察してみると良いでしょう。
7	超高層集合住宅(5章)	超高層住宅が居住者の心理的行動的側面に及ぼす影響について学ぶ。 キーワード：超高層住宅、住環境ストレス度、子供の自立の遅れ、子供の遊び、妊産婦に与える影響、防犯性	本章では、超高層住宅が居住者の心理的・行動的側面について、建築学、住居学、保健学といった観点から学びます。超高層住宅ならではの特徴や問題について考察してみましょう。
8	オフィス環境の快適性① (6章6.1-6.4)	オフィス環境に関する研究を学びながら、オフィスが抱える問題やオフィスの生産性を規定する要因について理解する。 キーワード：居住後評価、開放感、生産性	本章では、これまでのオフィス環境に関する研究やその手法(POE、SD法など)を学びながら、どのような要因がオフィス環境の快適性に寄与しているのかについて理解しましょう。また、オフィスの快適性と生産性について自分なりに考察してみましょう。
9	オフィス環境の快適性② (6章6.5-6.6)	オフィスの快適性と個人スペースの関係を学び、未来型のオフィスについて学ぶ。 キーワード：個人スペース、プライバシー、オープンプラン・オフィス、バーチャル・オフィス	本章では、オフィスの快適性について物理的な要因だけではなく、心理的な要因の重要性について学びます。特に、オフィスにおける個人スペースの広さが快適性に与える影響を自分なりに考察してみましょう。
10	学校環境の快適性① (7章7.1-7.2)	環境心理学的アプローチの観点から、学校環境の快適性について学ぶ。 キーワード：動的な環境体験、居場所性、相互交流、ふれあい空間、行動セッティング	学校とは、知識獲得の場だけではなく、多様な日常生活を送る場でもあります。このような学校の快適性には、活動にふさわしい機能だけでなく、その活動を支える雰囲気や仲間との相互交流について配慮する必要があることを理解しましょう。
11	学校環境の快適性② (7章7.3-7.4)	キャンパス空間の快適性やデザインプロセスについて、実践例を通してながら、快適な学校環境のデザインには何が必要かを学ぶ。 キーワード：キャンパス空間、物理的環境因子、組織的環境因子、仲間関係因子、生活の質、コミュニティ・デザイン	快適なキャンパスの条件には、多様な行動セッティングの整備だけでなく、物理的環境の整備だけでなく、学生や教員の好みなどの心理面についても配慮する必要があることを理解しましょう。また、キャンパス内部だけでなく、周辺部の環境についても包括的にデザインすることの意義について考察してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	地域環境と快適性 (8章)	地域環境と快適性について、主に物理的環境を対象とし、よりよい環境を創出するための方法を学ぶ。 キーワード：国民生活指標、国民生活指標、ISM法、評価関数モデル、整備水準と満足度、施設の配置と満足度、効率性と公平性	本章では、住居やオフィス、学校などの建物の内部環境ではなく、建物の外部環境について学びます。地域の快適性を評価するには、どのようなアプローチがあるのか、どのような要因が地域の快適性を規定するのかについて理解を深めましょう。
13	地球環境と人間 (9章)	地球規模の環境問題について触れながら、問題の構造とその解決方法について学ぶ。 キーワード：共有地の悲劇、グローバル・チェンジ、エーリッヒの方程式、環境ハザード、リスク知覚、社会的ジレンマ、行動的介入	地球規模で生じる環境問題は、人間生活の快適性を最大限向上させようとしてきたことが1つの原因と考えられています。個々人が生活の快適性を最大限追求するのではなく、皆が協調し適度な快適性を維持するためにはどうすればよいか、自分なりに考察してみましょう。
14	環境保全と環境教育 (10章)	国際的な比較を通して、日本における環境教育のあり方と環境保全について学ぶ。 キーワード：ユネスコ、UNEP、ストックホルム会議、ベオグラード憲章、トビリシ会議、モスクワ会議、ボランティア活動、公害、環境倫理	環境問題の解決における環境教育の果たす役割について、国際的な取り組みの変遷と日本における取り組みを学びましょう。また、このような国際比較を通して、日本における環境教育の実践とそのあり方について、どのような要因が重要な役割を担っているかについて考察してみましょう。
15	環境保全の実践 (11章)	環境社会心理学の観点から、環境保全の実践に関連する諸問題について学ぶ。 キーワード：環境配慮行動、リスク認知、責任帰属の認知、対処有効性の認知、段階的要請法、役割演技法、社会規範評価、便益費用評価、実効可能性評価、アクション・プログラム	環境に配慮した行動を実行するまでの意思決定プロセスと、その行動を規定する要因を整理しましょう。また、環境配慮行動を引き出すためにはどのようなアプローチがあるのかについて考察してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	職場環境あるいは居住環境のどちらかを選び、その機能性、快適性、安全性について、具体例をあげながら、望ましい環境条件について論じなさい。
2 単位め	地球温暖化はなぜ起こるのか、その原因と考えられる人間の心理と行動について説明し、地球環境を守るために私たちが今行わなければならないことは何かを論じなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

私たちの日々の生活で最も身近な「家」あるいは「職場」環境の機能性、快適性、安全性と、私たち人間の環境破壊によるさまざまな環境問題について考えてもらいます。どちらもきわめて日常的かつ重要な

問題ですので、日ごろの自分の考えを生かしながら、具体的で現実味のあるアイデアを述べてください。解決策は意外と身近なところにあるものです。

■ 2つの課題に共通する留意点

1. レポート全体の構成

レポート全体の構成について注意深く考えてみましょう。大きくは、導入・議論・結論の3部構成にし、それぞれ順に15%、70%、15%くらいの割合にするとバランスが良くなるでしょう。

2. 「段落」、「一文」についての意識を高める

その段落で読み手に伝えたいことは何でしょうか？ 読み手に何を伝えたいのか、段落ごとに意識しながら書きましょう。また、次の段落につなげる際には、段落間のつながりがスムーズで無理のないものかを考えてみましょう。そのようにして一つひとつの段落を積み上げていくつもりで全体を書いてみましょう。同様に、一つひとつの文章間のつながりも、なめらかで強引なところはないか見直し、文章単位でも推敲を重ねてください。主語と述語が一致しない文章がないか、長すぎる文章がないかをチェックしてみてください。(レポートでの「です・ます」調、体言止めなどはふさわしくありませんので使用しないように。)

3. 参考文献・引用文献について

引用文献とは、その中の文言を引用した文献です。その文献の著者・出版年・タイトル・出版社をレポートの最後に明記しなくてはなりません。本文中に、例えば、「広瀬(2008)は…」や「…である(広瀬, 2008)」などと表記した場合には引用文献となりますので、その原典を引用文献として記載してください。テキスト中で紹介されている研究をレポートに引用する場合、テキストを参考文献として挙げるだけでは不十分です。レポート本文で上述のような表記〔(広瀬, 2008) など〕をするなら引用文献として扱ってください。原典は参考にした図書(章)の最後にまとめられていますので、そのままの形式で記載してください。一方、参考文献とは、レポートを書く上で漠然と参考になったという文献です。これも最後に参考文献として著者、出版年、タイトル、出版社の情報を挙げてください。

4. パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

1単位め アドバイス

テキスト第4章「住宅環境と居住性」、第5章「超高層集合住宅」、あるいは第6章「オフィス環境の快適性」をよく読んでください。それらの知識を参考にしながら、今お勤めの職場環境、あるいは今お住まいの居住環境(建物そのものと立地条件など)を、どのように改善したら機能性、快適性、安全性の点から見てよりよい環境になるかを論じてください。

なお論述に当たっては、プライバシーの観点から判断して、許される範囲で結構です。よりくわしいアドバイスは下記のとおりです。

1. 概念の定義

職場環境か住居環境のどちらかを選び、その環境における機能性、快適性、安全性とは何か、3概念それぞれについて、自分はどのような意味でこの言葉を用いるかを述べてください。その際、「○性とは…のことである」などの文章を使うとよいでしょう。

論じようとする概念を定義することは、自分が何について述べようとしているのか、自分が論じるのはどの範囲なのかを読者に伝えることです。何について述べようとしているのかを最初に読者に示すことによって、レポートの書き手と読み手が同じことについて考えられるようになります。例えば、「快適性」とは何のことでしょうか？身体的な心地よさを指しているのか、精神的なそれを指しているのか、両方なのか、あるいはもっと別なものを指しているのか、さまざまな解釈があり得ます。書き手と読み手が同じ事象について考えることができるよう、概念を定義する必要があるのです。

2. 定義した範囲内におさまる具体例

定義ができたなら、自分が定義した範囲内に収まる具体例を示すようにしましょう。その際、定義と具体例の一貫性を保つよう心がけましょう。そうすることによって、脱線することなく議論することができます、読者に説得力をもって働きかけることができます。

3. 最後にまとめの段落をつくりましょう

住居環境（職場環境）の機能性、快適性、安全性についてそれぞれ論じ終えたら、最後にまとめの段落を作ってレポート全体を締めくくるようにしましょう。今まで論じてきたことをまとめ、どのような住居環境（職場環境）が理想とされるのかについて、自分の考えをまとめるようにしてください。

2単位め アドバイス

テキストのパートⅢ「地球環境の保全」を参考にしてください。環境を汚染し、破壊するような結果をもたらした人間行動の多くは、おもに経済的価値を第一とする考え方に根ざしており、それに政治的価値重視の考えが重なるとその規模も極端に大きくなる傾向にあります。改善のためには、いろいろな機会を利用しての啓蒙と、一人ひとりが、面倒がらずに保全のための努力を地道に継続するしかありません。自分の日々の生活を振り返り、地球市民の一員としての責任を果たすためにも、ぜひ改めて考え、実行してみてください。よりくわしいアドバイスは下記のとおりです。

1. 地球温暖化による異変

地球温暖化による異変について、砂漠化や温暖化など、ご自身の関心のあるものでよいので、1～2つ位のトピックスに絞って具体的に紹介してください。実際のデータや数値などを示しながら、客観的に書きましょう。

2. 地球温暖化

温暖化がなぜ生じたのか、その原因を考えて書いてみましょう。その際、温暖化を導いた人々の心理的原因とそれによって引き出される行動的原因に注目してみましょう。

3. 原因を取り除く具体的行動と、それを促進する具体的アプローチは？

原因まで記述できたら、その原因を取り除くために我々ができることを具体的に書くとよいでしょう。その際、どのような心理学の知見や考え方がそれを促進することができるのかを調べて紹介してください。環境問題の難しさは、環境破壊を抑制する日常的な行動（例えばエコバックや公共交通機関の利用など）が大切であるという人々の認識は十分にあるのに、実際にはそれをあまり行わないところにあります。どのような心理学的知見を活用すれば、こうした問題を少しでも解決できると思いますか？ その際、テキストにある専門用語を単に並べて述べるのではなく、その専門用語が何のことを意味していて、それがどのように課題の解決に役立つのかを自分の言葉で述べましょう。この分

野を初めて学ぶ人にも分かるように心がけて書くと良いレポートになると思います。大いに自分の考えを述べてください。

レポートの一番の目的は、課題についてさまざまな資料や文献を調べ、調べたことをもとに自分が「何を」「どう考えたのか」を読み手に分かりやすく伝えることです。自分の考えや主張を段取りよく相手に説明することは日常生活でも重要なスキルだと思います。レポート作成を通して、ぜひこのスキルを身につけていただけたらと思います。がんばってください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

生涯発達心理学

～2017

科目コード

FD2502



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	中村 修

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。

※2018年度のスクーリング受講者までスクーリング単位2単位(12コマ)ですが、2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

科目の概要

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょう？さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょう？この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。もちろん「生涯発達心理学」という科目名ですから発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるわけですが、では生涯という視点で人を理解するとはどのようなものなのでしょう？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

- 1) 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
- 2) 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
- 3) 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。
- 4) 発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。

■教科書

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学－生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2014年

(最近の教科書変更時期) 2017年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を必ず持参してください。旧教科書の方も旧教科書を必ずお持ちください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1994年 *旧教科書
- 2) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ 機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年
- 3) 無藤隆・やまだようこ編『生涯発達心理学とは何か—理論と方法』(講座生涯発達心理学1) 金子書房、1995年
- 4) 本郷一夫編『シートブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社、2007年
- 5) 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学(第2版)』ミネルヴァ書房、2009年
- 6) 無藤隆・中坪史典・西山修編著『新・プリマーズ 発達心理学』ミネルヴァ書房、2010年
- 7) 無藤隆・子安増生編著『発達心理学』東京大学出版会、2011年
- 8) 氏家達夫・陳省仁著『発達心理学概論』放送大学教育振興会、2011年
- 9) 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン 生涯発達心理学(第2版)』ナカニシヤ出版、2012年
- 10) 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013年
- 11) 高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学15講』北大路書房、2014年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

発達という概念はつかみやすいようでとらえづらいかもかもしれません。スクーリングでは、発達という概念のそもそもの部分の説明と、生涯を区分した発達期ごとの説明を行っていきますが、区分してあると言っても一人の人間が生涯にわたって発達していくという「つながり」はあるわけです。前後の時期のつながりや「積み重なっていくもの」もあるでしょう。せっかくのスクーリングの機会ですから、教科書のページ通りではなくあちこち行ったり来たりしながら講義することで、「区分しつつ、つなげて理解する」という背反したことを目指していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達するとはどういうことか、何が発達をもたらすのか	発達とはどういうことを意味するのかについて、昔の発達心理学と現在の生涯発達心理学での考え方の違いを明確にする。また、発達の要因として遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。
2	乳幼児期①：乳児—養育者間コミュニケーションと愛着の発達	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解を行う。特に愛着の発達について、①アタッチメントとは何か、②アタッチメントの発達の流れ、③アタッチメントの個人差について理解する。
3	乳幼児期②：認知機能の発達	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、基本的な用語と設定された発達段階の特徴について理解した上で、乳幼児期の認知発達について理解する。
4	乳幼児期③：ことばと遊びの発達	ことばの発達と遊びの発達のそれぞれのプロセスとそれらの共通の基盤を理解する。
5	乳幼児期④：社会性の発達と心の理論	「心の理論」とはどういうことか理解する。共感性という観点から仲間（同年代他者）との関係の中でみられる社会性の発達を理解する。
6	乳幼児期⑤：自己及び自己制御の発達	「自己の芽生え」とはどういうことか理解する。そして自己制御の発達について理解する。
7	青年期の発達①：自己認知とアイデンティティ	エリクソン及びマーシャの言説に基づき、アイデンティティとは何かを理解する。また、成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
8	青年期の発達②：対人関係	特に同年代他者との関係から、友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。また、青年期における親子関係の変化を理解する。
9	成人期：キャリア発達	特にキャリア発達という観点からの成人期の発達を理解する。特に、①アイデンティティの再体制化とは何か、②世代性とは何かを理解する。
10	老年期：サクセスフル・エイジングとは	老年期における認知機能の変化及び補償、パーソナリティの発達について理解する。また、エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。
11	発達をつまづき	発達障害とその臨床・支援について概略的な理解を行う。
12	質疑応答	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書をしながら進めます。具体的な事例を提示する際にはDVDを用います。

■スクーリング 評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配布資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング講義内容として示した12回は、基本的に教科書の章単位でまとまりが作られています（複数章にまたがる場合があります）。どの回がどの章なのか事前に対応させる作業を行い、それぞれの回のキーワードをチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① (序章、1章-2)	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：パルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか② (1章-3、4、5)	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、Bronfenbrenner、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論 (3章-1)	ピアジェの発達理論について理解する キーワード：ピアジェ、シュマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達 (4章-3、4)	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差について理解する。
5	幼児期①：言葉と表象 (5章-1、2、3)	言葉の発達の基盤についての理解 キーワード：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	幼児期②：自己の発達 (6章-1、2、3、4)	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて キーワード：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 (7章-1、2)	社会性の発達の理解、特に他者の意図の理解について キーワード：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：子どもと学校 (8章-1)	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から キーワード：前操作期、自己中心性(中心化)、保存課題、3つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。
9	青年期の発達①：自己認知 (9章-1、2)	青年期の発達の理解、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係 (9章-3、4)	青年期の発達の理解、特に同年代他者との関係から キーワード：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達 (10章-1、2)	青年期の発達の理解、特にアイデンティティの形成という観点から キーワード：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティと何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステータス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人期中期から後期①：世代性、職業・キャリア発達 (11章-1、2)	成人期中期以降の発達についての理解、特にキャリア発達の観点から キーワード：世代性、アイデンティティ再体制化、メンタリング	成人期中期以降の発達の变化について、 ①アイデンティティの再体制化とは何か ②世代性とは何かを理解する。
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 (12章-1、2)	老年期の発達の理解、特に認知機能について キーワード：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達の变化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	発達をつまづき ① (13章-1、2)	発達をつまづき、特に発達障害の理解 キーワード：発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症(学習障害)、個別支援、環境調整、二次障害	①発達をつまづきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し、基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
15	1回目から14回目までの振り返り	生涯にわたる発達の变化的まとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。
16	発達するとはどういうことか③ (1章-1)	発達とはどういうことと考えられてきたか キーワード：発達観、発達のゴール上昇的变化	①発達とはどういうことかを理解するうえで、昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方と現在の生涯発達心理学での発達の考え方の相違点を明確にする。
17	胎児期 (2章)	胎児の特徴を学ぶ キーワード：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
18	乳児期② (3章-2、3)	認知機能の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：目と手の協応、選択注視法、馴化-脱馴化法、対象の永続性、社会性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究方法を理解する。
19	乳児期③：乳児-養育者間コミュニケーション (4章-1、2)	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑	乳児の対人関係形成の基盤について理解する。
20	幼児期④：遊びの発達 (5章-4)	遊びの発達についての理解 キーワード：機能遊び、象徴遊び、並行遊び、連合遊び、協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ、遊びの変遷を理解する。
21	幼児期⑤：社会性の発達、仲間関係 (7章-3)	社会性の発達、特に同年代関係について キーワード：ギャング・グループ、社会的比較、ねたみ	仲間(同年代他者)との関係の中でみられる社会性の発達を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
22	幼児期⑥：自己制御の発達 (6章-5)	自己の発達の理解、特に自己制御について キーワード：自己制御、自己主張、自己抑制、文化差、しつけ、発達期待	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する要因について理解する。
23	児童期②：認知機能の発達 (8章-2、3、4)	児童期の認知機能の発達、特にメタ認知という観点から キーワード：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、動機づけ、メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
24	青年期の発達③：親子関係 (9章-5)	青年期の発達の理解、特に異年代との関係から キーワード：心理的離乳、脱衛星化、自立、対立的関係、分離と統合	青年期における親子関係の変化について、 ①心理的離乳という概念 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ捉えてよいか、よくない場合にはどのようなとらえ方が可能なのかを理解する。
25	青年期から成人期へ②：キャリアの選択 (10章-3)	成人期前期の発達の理解、特にキャリアという観点から キーワード：やりたいことへのこだわり、キャリア、主体的形成	キャリア形成という観点から「青年期から成人期への移行」について理解する。
26	成人期初期 (10章-4、5)	成人期前期の発達の理解、特に家庭生活という観点から キーワード：晩婚化、非婚化、ライフコース、性役割観、ライフイベント	ライフコースの選択と見直しという観点から成人期前期の発達、及びその時代的変遷について理解する。
27	成人期中期から後期②：親としての発達 (11章-3、4、5)	成人期中期以降の発達、特に親役割の変化という観点から キーワード：養護性、親の成長、子どもの自立、夫婦関係の見直し、子育て不安、介護、ジェネレイショナル・ケア、親役割	成人期中期以降の発達の变化について、 ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
28	老年期②：パーソナリティの発達、サクセスフルエイジング (12章-3、4)	老年期の発達の理解、特に「人生の統合」という観点から キーワード：ライフレビュー、老年的超越、サクセスフル・エイジング、ソーシャルネットワーク、コンボイ、死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。
29	発達をつまづき② (13章 3、4、5)	発達をつまづき、ある発達期に特徴的なつまづきの理解 キーワード：リスク要因、プロテクト要因、不登校、ひきこもり、反社会的障害、摂食障害、喪失、認知症、生活環境、可塑性	①発達期のそれぞれに特有のつまづきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
30	16回目から29回目までのふり返り	生涯にわたる発達的变化のまとめ	<p>① 1回目から15回目で学んだ発達の各時期、発達の諸側面の内容と16回目から29回目までの内容を結び付けておく。</p> <p>② 幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。</p> <p>③ 幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「対人関係」「同年代関係」「異年代関係」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。</p>

■レポート課題

1 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者—子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という2つの側面からまとめること。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。なお、2018年3月までの単位未修得者は、4月上旬に、1単位めと3単位めの評価を入れ替えます。すでに『レポート課題集2017』記載の課題で1・3単位めレポートの作成に取り組んでいる方で、提出が4月以降になる場合は、事前にご相談ください。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書1つをとってもある事柄が説明されている箇所は1か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位め
アドバイス

この課題は「4章」「5章」が中心となりますが、「2章3」「13章3」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、エリクソンのいう「基本的信頼感対不信」という心理社会的危機の説明、ボウルヴィが提唱した「アタッチメント」概念の説明が中心になります。それに加えて「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己、そしてその幼児期にかけての発達の変化」、「『養育者一子の安定した関係』をベースに広げる対人関係」「養育者一子の不安定な関係と関係する問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたいうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「5章2」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者一子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者一子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

旧教科書の方は、「5章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達的变化」が中心となりますが、「3章Ⅲ」「4章Ⅱ」「9章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

3単位め
アドバイス

この課題は教科書の「1章」が中心となりますが、「序章」「12章2」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつかないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどういうものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のじっくりくる説明を探してみましょう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう（心理学辞典・事典に載っている）「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づききっかけになるかもしれません。

旧教科書の方は、「序章1」「1章Ⅱ、Ⅳ」を中心に、教科書以外から「バルテス」という生涯発達心理学者の発達の定義・とらえ方について調べて、レポートをまとめてください。

2・4単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

■レポート 評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』6章（2017版以降は4章1節）「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して回答におりこむことができると評価が高まります。

児童青年心理学

科目コード

FD2516・
FD2527

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	半澤 利一

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※スクーリングは2019年度まで開講予定です。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更となります。

※科目コード FD2516 2017年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）

FD2527 上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

児童青年心理学は、人間の児童期と青年期における発達のと特徴、発達にかかわる要因の分析やそのメカニズム等を明らかにすることを中心におく発達心理学の一分野です。児童は狭義には学童期をさしますが、広義には、人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの青年にいたる前の発達期をすべて包含します。そして、学童期に続く青年期にある個人の心理・行動を研究するのが青年心理学です。したがって、児童青年心理学で扱う対象は、児童期・青年期としておきます。

児童期・青年期の示す種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、そのような発達をもたらす要因や条件の分析、発達の制御や発達過程を明確にするための理論の構築と検証、そして理論の適用へと児童青年心理学の課題は進展してきました。

それらを解明するためには、単に児童や青年を対象とする心理学だけではなく、心理学の他の領域—家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学—はもちろんのこと、近接領域の科学—社会学、経済学、生物学、文化人類学—などとも、ますます密接に関係をもつ必要性がでてきています。児童・青年の理解とその行動科学のために、基礎的な知識と理論を学んで欲しいと思います。

■到達目標

- 1) 児童期と青年期について、他の発達時期の相違点を、領域別に説明できる。
- 2) 児童期を学校生活の低学年（1－2年生）、中学年（3－4年生）、高学年（5－6年生）に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。
- 3) 今日の社会における児童期や青年期の特徴や問題点、発達のみずきや節目について説明できる。
- 4) アイデンティティの形成プロセスや意義を理解し、4つのステータスのそれぞれの特徴を比較説明できる。
- 5) 概念形成や思考作用に必須となる言語習得のプロセスについて説明できる。
- 6) 感情が分化して発達し、自己の行動や対人関係に及ぼす影響について説明できる。

■教科書

- 1) 心理科学研究会編『小学生の生活とこころの発達』福村出版、2009年（1・2単位め）
- 2) 菊池武尅監修 沼山博編集『トピックス 思春期・青年期と向き合う人のための心理学』中央法規出版、2004年（3・4単位め）

（最近の教科書変更時期）2007年4月より、2）の教科書が変更になり、2010年4月より、1）の教科書が変更になりました。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 心理科学研究会編『心理科学への招待』有斐閣、2004年
- 2) J. コールマン・L. ヘンドリー著 白井利明ほか訳『青年期の本質』ミネルヴァ書房、2003年
- 3) 浦上昌則・三宅章介・横山明子著『就職活動をはじめの前に読む本』北大路書房、2004年
- 4) 遠藤由美著『青年の心理 ゆれ動く時代を生きる』サイエンス社、2000年
- 5) 齊藤誠一編『青年期の人間関係』培風館、1996年
- 6) 白井利明・都筑学・森陽子著『やさしい青年心理学』有斐閣、2002年
- 7) 白井利明著『大人へのなりかた——青年心理学の視点から』新日本出版社、2003年
- 8) 徳田安俊著『青年心理学入門——発達の課題とその理解』川島書店、1982年

*生涯発達心理学の教科書・参考文献も「使える」はずです。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

児童期は、他の発達時期に比べて比較的安定した時期と見られているが、小1プロブレム、9・10歳の壁と言われるつまずき、ギャングエイジに代表される友達関係の変質、発達加速現象など、知らなければならぬことが多い。また、青年期を理解するために、アイデンティティという概念やキャリア形成という捉え方が特に重要となる。自分の児童期を振り返りながら学び、その後の人生を形づくる青年期の意義についても理解を深めてもらいたい。

■講義内容

※2018年度より、8コマ（スクーリング単位1単位）で開講します。

回数	テーマ	内容
1	児童期に至るまで	愛着と感情及び言葉の発達
2	児童期とは	児童期の発達的特徴
3	低学年と中学年	各段階の発達的特徴と教育課題
4	高学年と思春期	各段階の発達的特徴と教育課題
5	子どもらしさを捉える	子どもを取り巻く社会とその変化
6	青年期とは	青年期の発達的特徴と教育課題
7	アイデンティティ	アイデンティティとキャリア形成
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を使用し、適宜ビデオ教材も活用して講義を進めます。教科書も参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（100%：持込は自筆ノートのみ可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書1）の第2部と第3部、教科書2）の第1章と第4章を読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント（児童心理学＝教科書1）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	児童期とは① (教科書1) 第1部第1章)	児童期という発達期の位置づけについて理解する。 キーワード：学校文化への参入、授業における学習、発達課題としての勤勉性	児童期は、発達段階の中でどのような特徴を持っているのでしょうか？ 学校生活が始まり、次第に親から離れ、学校を中心とした勉強に打ち込み、また交友関係の広がりもみられ、人格を形成していきます。小学生の生活を理解するために、子どもたちを取り巻く社会環境と自然環境の中で、子どもたちの見せる柔軟さ・潜在力はどんな風に発揮されるのか考えてみましょう。
2	児童期とは② (第1部第2章)	幼児期から児童期・思春期へと連続的な時間の流れの中で経験する非連続な発達の節目について理解する キーワード：子どもを取り巻く生態学的環境、客観的・科学的認識、防衛機制	幼児期と青年期の間の児童期は、罹病率が低く、子ども同士で遊ぶことができ、比較的安定した時期と言われてきました。しかし、現実には発達段階の移行期におけるさまざまな問題を乗り越えていかなければなりません。その鍵と言えるのが、子どもの発達が、縦と横の“つながり”の中で見守られ、支えられ、促進されることで充実していくことが必要であることを理解してください。
3	1年生－2年生① (第2部第1章 1.1・2)	幼児期から児童期への移行は、発達プロセスとしてどのように特徴づけられるのかについて、説明できるようにする。 キーワード：幼児の認知発達段階、自己中心性、前操作期、	小学校入学は、日課、活動スタイルなどがそれまでの就学前の幼稚園・保育所と大きく異なり、小学校入学は、異質な文化システムへの参入といえます。ここでは、移行期の教育上の留意点を知るために、幼児期の発達について理解してください。
4	1年生－2年生② (第2部第1章 1.3・4)	「小1プロブレム」と幼保小連携・接続の問題を理解する。 キーワード：書きことば、2次言語の獲得、科学的思考への移行期	幼児期から児童期へ、幼稚園・保育所から小学校への移行期の発達の理解、遊びという活動の捉えなおし、安心できる人間関係づくりが「小1プロブレム」を乗り越えるために大切なことであることを理解し、説明できるようにしてください。
5	1年生－2年生③ (第2部第1章2・3・4)	低学年の学級の荒れへの対策とそこで必要な見方について理解し、適切な関わりができるようにする。児童期の自然に対する認識の変容を理解する。 キーワード：7歳の壁、素朴生物学の変化、小1プロブレム、学級集団作り、自己の客観視	小学校低学年の学級の荒れへの対策を考えるとき、原因追求は適切でない場合が少なくありません。どうしたらうまく関係をつなげられることができるか考えることが必要です。小学校と就学前教育、教師と子ども、子ども同士、教師と保護者や地域をつなぐことが、荒れへの対策としてまず重要であることを理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	3年生－4年生① (第2部第2章1)	知的好奇心旺盛で、友達仲間同士で世界を広げてゆく活力のあふれる中学年の子どもの特徴を説明できるようになる。 キーワード：仲間関係の発達、ギャングエイジ、規範意識	児童期において重要なことは、仲間関係の形成です。仲間関係が本格的に作られるのは、小学4年生以降のことです。こうした他者との関係を築く資質や能力に基づく人格発達の側面を理解してください。
7	3年生－4年生② (第2部第2章2・3)	9、10歳の節が児童期一般に関わる発達過程であると考え、ことば、思考、人格の3つの側面からその特徴を理解する。 キーワード：知的リアリズム、視覚的リアリズム、落ちこぼれ、望ましい集団活動に必要な5つの心	9、10歳の節は、聴覚障害児における学力形成上の困難さを示す「9歳の峠」という呼称が起源です。状況依存的な言語に起因する発達上の困難、学力形成を支える思考の問題、つまり現象の背後に潜む過程に分け入る思考の問題、おとなから一定程度自立して自分の頭で考えて行動し、結果について責任を引き受ける、これが児童期の人格形成の課題です。9、10歳の節について、理解を深めてください。
8	5年生－6年生① (第2部第3章1)	児童期の後期に位置する思春期について、理解する。 キーワード：第2次性徴、発達加速現象、マージナルマン、青年期の自己意識、自己肯定感、社会的視点取得能力	「まだ子ども」であると同時に、「もう大人」として扱われることも多くなる思春期。一般的には、児童期の後期に位置づけられるとともに、身体的には第2次性徴を迎えて思春期に入っていくという、不安定な移行期です。社会化と個性化の狭間で、展開されるこの時期の子どもの特徴を理解し説明できるようになってください。
9	5年生－6年生② (第2部第3章2)	高学年は思春期の入り口です。児童期から青年期への過度期は、「発達の危機」を抱え込んだ年齢として説明されることもあります。 キーワード：形式的操作期、科学的思考の育成	この時期は、人々のまなざしに映った自己像や自分が体験したことを経験したこととの振り返り、推量的なメタ認知が可能となり、他者や環境といった「外的な評価に対する敏感性」が反映されやすい時期です。この時期の特徴を自己意識から説明できるようになってください。
10	中学生への移行 (第2部第3章4)	小学6年生にとって、慣れ親しんだ小学校生活から、中学校という新しい学校環境へと移行する際に不安はつきまとう。子どもたちの移行期の意識の変化を理解し、説明できる。 キーワード：小学校を卒業すること、中1プロブレム	小学校から中学校への学校移行。中学校への進学に際して「～したい」という具体的な期待感を強く持つと同時に、その裏返しとして「うまくやっっていけるか」という不安感も同時に強く感じるでしょう。小学生より中学生の方が、将来への希望を抱かなくなるのは、自分や自分の周囲の世界について客観的、現実的に眺めることができるようになる時期であるから、発達の変化をこのような将来展望から考えてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	子どもらしさを捉える① (第3部第1章3)	文化と人間発達との関係を探る。 キーワード：社会的認識	人間の学習・発達の仕組みには、優れた観察と模倣の能力を持つ子どもと、それをうまく活用してコミュニティの活動に導く年長者とが、互いに影響し合って構造化していくという基本過程が見えてきます。現代の日本社会にこうした基本過程が十分に機能する環境があるか、大人と子供の活動が分離されないことが文化的発達には重要であることを理解してください。
12	子どもらしさを捉える② (第3部第3章)	社会生活の基礎となる生活リズムの形成過程について説明できるようになる。 キーワード：サーカディアンリズム、ノンレム睡眠、レム睡眠、睡眠教育	子どもを取り巻く環境が夜型化しています。子どもの心身の発達の理解において、基礎的で重要な問題の一つは、子どもが生物学的な存在から社会的存在へと質的に変容する過程です。睡眠と生活リズムを考慮した睡眠教育の普及について説明できるようにしてください。
13	個性の理解と発達支援① (第3部第1章2)	子どもの臨床的問題へのアセスメントと介入効果について理解し、実施できるようになる。 キーワード：情緒障害、児童期の行為障害	発達とはその展開の内部に正負両面をあわせもちつつ進行する矛盾に満ちた過程であると認識することが必要です。発達が内包する矛盾に関するもう一つの視点は、通常<良い>と思われる能力はいつも<良い>行為として現れるわけではありません。他者の内面を理解することは、健常児か障がい児かを問わず社会化には重要な要素であることを理解してください。
14	個性の理解と発達支援② (第1部第2章1、コラム6)	通常、発達障害のある子どもたちの発達上の困難さを通して、子ども達の個性の幅を理解する キーワード：自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムという概念は、これまでの発達障害も健常児も一直線量の量的問題で捉えようとしたものです。子どもの発達支援には、子どもの理解が前提として行われる必要から、子どもの個性についていろいろな側面から把握することができるようになってください。
15	子どもの権利としての子どもらしさ (第3部第5章1)	子どもの権利としての子どもらしさについて理解を深め、子どもの権利を守る大人の役割について、説明できる。 キーワード：人権、子どもの権利、支援と教育	子どもにとっては、労働から解放され、学校に通い学習することが制度化されたこと、遊び等の子ども文化が生まれたことなどが現代の「児童期」を特徴づけています。しかし、禁止されたり強制される行動もあります。子どもは大人を乗り越えていく存在でもあります。このように子どもらしさの歴史的社会的性格と2面性とをふまえながら、子どもらしさの発達の意義について理解してください。

■在宅学習15のポイント（青年心理学＝教科書2）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	青年期とは① (教科書2) 1章1・4)	青年期という発達期の位置づけについて理解する。 キーワード：思春期、通過儀礼、モラトリアム、ライフイベント	他の発達期と青年期はどのような点で異なるのでしょうか？ 特に青年期の前後の時期との「境目」をどう考えておけばよいのでしょうか？ まずは「青年期」という時期を大づかみにでも理解してください。
2	青年期とは② (1章2・3)	青年期の身体的・生理的側面について理解する。 キーワード：発達加速現象、生活習慣、第二次性徴	青年期ならではの身体的特徴、変化の特徴を踏まえたうえで、「身体の変化」が「こころの変化」と関連していることを理解してください。
3	青年期とは③ (1章5、4章1)	発達課題という概念を理解し、特に青年期の発達課題を明確にする。 キーワード：発達課題、進路選択	社会は青年期に相当する年齢の人間に対して何を求めているのでしょうか。社会がこの時期に対して何を課題とし設定するのか、何を達成した上で次の時期へと進んでいってほしいと考えているのかということ、 「青年期の前後の時期との項目」について考える1回目のテーマとも関連しています。
4	青年期とは④ (1章7、5章1)	親子関係の変化から青年期の特徴を理解すると共に、「疾風怒涛」と表現される青年期の意味づけの是非について考える。 キーワード：心理的離乳、個性化、疾風怒涛、第二次反抗期	「反抗期」という言葉から青年期は「荒れる時期」と連想する向きもあるかもしれませんが、果たしてそうなのでしょうか？ 「荒れなければ青年期ではない」かのような言説は正しいのでしょうか？
5	アイデンティティ形成① (1章8・6)	エリクソンの提唱した「青年期の心理的危機」としての「アイデンティティ」概念と、マーシャの提唱した「アイデンティティ・ステイタス論」を理解する。 キーワード：自己概念、アイデンティティ、アイデンティティ・ステイタス	この回は特に重要です。青年期に対する代表的な言説としての「アイデンティティ」について十分に理解してください。また、自己概念というものが人間にとってどのように重要なのかということもここで理解してください。
6	アイデンティティ形成② (1章9、2章7)	自己のありよう、自己の捉え方が以下に心身の健康に影響するか理解する。 キーワード：自己評価、社会的比較、原因帰属	5回目「自己概念の重要性」の続きとなる部分です。アイデンティティには「自己の一貫性、統合性」が大きな要素となります。自己の捉え方という問題は、どのようなアイデンティティが形成されるかということへとつながっていきます。ボディイメージという事項は7回目へとつながる要素です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	アイデンティティ形成③ (3章3、2章8)	摂食障害を例に、自己の捉え方と心身の健康状態の関連を理解する。 キーワード：摂食障害、メディア、メディア・リテラシー	青年期（の女性）に特に問題になりやすい摂食障害という問題に、自己概念という観点からはどのような説明ができるのかという点がポイントです。また、メディアの問題をとりあげることで、次回以降の事項である「青年期をとりまく他者、社会」の問題へとつながっていきます。
8	青年と社会との関係①（1章10、2章4）	青年期の友人関係、同年代関係の特徴を理解する。 キーワード：ギャング・エイジ、重要な他者、アイデンティティのための恋愛	4回目に「親子関係の変化」を取り上げましたが、では「親から離れた」後に誰とどのような対人関係を築いていくのか、その対人関係はアイデンティティの形成にどのように影響するのかといった点について理解してください。
9	青年と社会との関係②（2章1・3）	メールというコミュニケーションツールに焦点を当てた説明から、友人関係の維持・（再）構築の意義を考える。 キーワード：移行、（環境）適応、（対人関係の）希薄化	青年期では何度も環境移行が行われます。環境が変わり人間関係も変わる中で「環境適応の基盤のための人間関係」をどう築いていくのか、という点が1つのポイントです。次に、青年の対人関係が希薄化しているとの言説もありますが果たしてそうなのか、コミュニケーションツールという観点から考えてみてください。
10	青年と社会との関係③（3章4、5章6）	非行という現象に対して、特に「青年と社会の関係」に着目して説明を行っている理論の概要を理解する。 キーワード：学習、社会的絆、準備性	「非行」とはそもそもどんな現象なのか、なぜ非行を行うのかということについて「社会」という要因を重視した理論を学ぶことにより、8回目と9回目に学んだ「青年と社会との関係」の理解を深めてください。
11	青年と社会との関係④（3章5・6）	青年期に生じやすい問題行動を理解すると共に、問題をどのように捉えるかという視点を理解する。 キーワード：反社会的行動、非社会的行動、アンビバレント	7回目から10回目まで「裏テーマ」となっていたのが「青年期の問題行動」でした。それらの回で理解したことを改めて「問題行動」として整理し直し、併せて「対応」の際の留意点について理解してください。
12	青年期のキャリア発達① (4章4・8)	キャリア概念を理解し、キャリア発達の中での青年期の位置づけを理解する。 キーワード：ライフキャリア、役割間葛藤、（選択の）プロセス	この回も特に重要となります。3回目に「発達課題としての職業選択」を取り上げましたが、ここから最終回までは「キャリア選択」に焦点をあてて青年期及びアイデンティティ形成への理解を深めます。そのための基盤としてここで正しく「D.E. スーパーによるキャリアに関する言説」を理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	青年期のキャリア発達② (4章5・9)	キャリア選択に必要な自己理解及び職業理解に関する青年期の特徴を理解する。 キーワード：マッチング、職業適合性、パーソナリティ・タイプ、職業認知	学校段階を終え社会人になるということは「青年期の終わり」を特徴づける重要な事項となります。次の進路を選ぶ際には自分及び社会を理解して選択の材料とすることが必要になりますが、これらの理解に関する問題点を理解してください。
14	青年期のキャリア発達③ (4章6・7)	「青年期を終える時点の問題」ではなく「青年期を通じての一貫した課題」としてのキャリア・職業選択のありようを理解する。 キーワード：(選択の) プロセス、意思決定、調査的決定	13回目に「選択の材料としての理解」をポイントとしましたが、理解した材料をどう扱うのか、どうやって材料を集めるのかということも大きなポイントとなります。青年期を通じてその課題に取り組み続けることの必要性を理解してください。
15	青年期のキャリア発達④ (4章10・12)	キャリア形成・選択のつまづきとその対応を理解する。 キーワード：自分探し、モラトリアム、やりたいこと志向、自己実現	必ずしも「フリーターは問題ある青年」ということではありませんが、12回目から14回目までの内容について「つまづきを示して」フリーターとなっている場合もあります。どんな点で選択プロセスが滞ってしまうのか、ある種のフリーター像を例に考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	児童期における知的機能の発達の特徴を述べなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	【説明型レポート】 次の①～③の概念を、それぞれ400字以上600字以内で説明しなさい。 ①心理的離乳 ②自己概念と自己評価 ③モラトリアム
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題での提出は2017年9月で締め切りました。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の2・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

各課題について、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で、理解された内容をまとめるように心がけてください。その際、自分が大人になっていく道筋を振り返り、手

がかりとするのもいいでしょう。経験科学である心理学を学ぶことは、自分を含めて周囲の人や出来事を科学化することでもあります。

1単位め アドバイス

心身の急激な発達や発育が見られる乳幼児期に比べ、児童期は比較的安定した時期だと言われます。心身がゆるやかに成長する中でも、知的操作は自己中心性を脱して具体的操作段階へ、さらには形式的操作段階へと移行します。その過程で何をどう学び、どう発達して行くのか、ピアジェの理論を軸にして具体的に考えてください。

3単位め アドバイス

単に辞書的な定義を書くだけではなく、用語解説としてわかりやすくなるように気をつけてください。①～③とも、テキストの該当部分のみではなく、他の事項も参照し、さらに参考文献などからも情報を取り入れて自分の言葉で記載してください。

2・4単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

記号選択の設問においては正しい記号が選択されている場合のみ正答としています。

記述問題においては「①課題で問うている内容の理解」「②問いの形式に応じた回答の記述」という2点が評価ポイントであり、記述量はあくまで副次的な評価ポイントです（つまり、課題に直接関連しないことが多く述べられていたとしても評価されません）。

老年心理学A 2018~

科目コード **FD2544**



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	1 年以上	吉川 悠貴

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、本科目とあわせてp. 146「老年心理学B」（科目コード：FD2545、2単位、履修方法：RorSR）も参照してください。

科目の概要

■科目の内容

これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、対人関係、死の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。

スクーリングでは、最新の統計資料等を用いながら、上記の内容を具体的に考えていきます。

レポート学習では、知識としての基本事項を確認した上で、実生活に即して理解します。

■到達目標

- 1) 高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。
- 2) 高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。
- 3) 言語習得や感情理論、感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を、加齢との関係を含めて理解する。
- 4) 高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べることができる。

■教科書

加藤伸司編『介護福祉士養成テキストブック10 発達と老化の理解』ミネルヴァ書房、2010年（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、「老年心理学B」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%の按分で評価を行う。

■参考図書

- 1) 内田伸子編著『誕生から死までのウェルビーイング 老いと死から人間の発達を考える』金子書房、2006年
- 2) 谷口幸一・佐藤眞一編著『エイジング心理学 老いについての理解と支援』培風館、2007年
- 3) 下仲順子編『高齢期の心理と臨床心理学』培風館、2007年
- 4) 原千恵子・中島智子著『老年心理学（心理学の世界 専門編2）』培風館、2012年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	加齢の考え方と高齢期の捉え方	加齢と高齢期を捉えるための諸概念と現状
2	加齢と関係する心身の変化①	加齢と身体的変化、認知機能の変化
3	加齢と関係する心身の変化②	加齢と記憶、知能、言語機能の変化
4	高齢期における適応①	高齢期の適応と生涯発達及び環境変化
5	高齢期における適応②	高齢期の適応とパーソナリティ
6	高齢期における適応③	高齢期と死の問題及び現代的課題
7	スクーリング試験※	

※連続で「老年心理学B」も受講する方は、「老年心理学A」でのスクーリング試験はありません。「老年心理学B」の最終コマに2科目分の試験を受験します。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第1章の概要を把握しておくといでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、高齢期の捉え方や高齢者の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人間の成長と発達① 発達のさまざまな理論（第1章）	「発達」とは何か、どのようにとらえられるものかについて学ぶ。また人間の発達を理解するための基礎的な理論にはどのようなものがあるかを理解する。 キーワード：発達、相互作用説、生涯発達心理学、発達段階、発達課題	とかく誕生から成人までの時期がイメージされやすい「発達」という概念について、「生涯発達」という視点を踏まえて基本的なとらえ方や基礎的な理論を理解しましょう。自身や近親者などのこれまでの歴史を振り返りながら考えると理解の助けになります。
2	人間の成長と発達② 乳幼児期・児童期（第1章）	乳幼児期、児童期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：乳幼児期、児童期、言語、発達課題	各時期において生じる様々な変化について、概要を理解しましょう。特に、言語発達をはじめとする諸機能の発達や、心理社会的な側面からとらえてみましょう。
3	人間の成長と発達③ 青年期から成人期（第1章）	青年期、成人期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：青年期、成人期、自我、適応	青年期・成人期それぞれの理解に加えて、青年期から成人期への移行までを含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
4	人間の成長と発達④ 成人期から高齢期（第1章）	高齢期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：成人期、高齢期、受容、適応	特に高齢期については、成人期からの移行を含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
5	加齢に伴うからだの変化の特徴① 老化と加齢に伴う生理的变化（第2章）	「加齢」と「老化」の違い、及び老化に関する主要な仮説について理解する。その上で、加齢に伴って生じる生理的变化の概要を学ぶ。 キーワード：加齢、老化、生理的变化	生涯発達の観点を持った上で、「老化」がどのようにとらえられるか考えてみましょう。また、加齢に伴って生じやすい変化を概要として総体的に理解しましょう。
6	加齢に伴うからだの変化の特徴② 身体に生じやすい変化（第2章）	身体の部位や器官（骨・関節、筋力、循環器、呼吸器、内分泌系、消化器、泌尿器、神経系、感覚器）ごとに、具体的な加齢変化や生じやすい疾患、生活への影響について理解する。 キーワード：加齢変化、疾患、生活への影響	加齢に伴って身体に生じやすくなる変化について、なるべく具体的に理解していきましょう。また、個々の生活行為から高齢期全体の過ごし方まで含めて、生活（人生）への影響についても考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	加齢に伴うこころの変化の特徴 ① 感覚・知覚、注意・反応（第3章）	感覚・知覚、及び注意・反応における加齢変化の実際を学ぶ。またそれらの変化が高齢期の生活にどのような影響を与えるか理解する。 キーワード：感覚、知覚、注意、反応	人間の生活行為を支える感覚・知覚、及び注意・反応について、具体的にどのような変化が生じ、日常生活に影響を与えるかについて考えましょう。高齢期的に理解し、必要な配慮を行うにはどうしたらよいか、という視点を持つとよいでしょう。
8	加齢に伴うこころの変化の特徴 ② 記憶（第3章）	記憶機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 キーワード：記憶、知能	まず、記憶機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。
9	加齢に伴うこころの変化の特徴 ③ 知能（第3章）	知的機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 キーワード：記憶、知能	まず、知的機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。
10	加齢に伴うこころの変化の特徴 ④ 感情、パーソナリティ（第3章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化について概要を理解する（感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を含む）。 キーワード：感情、性格、人格（パーソナリティ）	高齢期におけるこころの変化について、感情や性格、パーソナリティの観点から理解しましょう。
11	加齢に伴うこころの変化の特徴 ⑤ こころの健康、適応（第3章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化を踏まえて、こころの健康・心理的適応の観点から、変化や影響を与える要因について学ぶ。 キーワード：精神的健康、葛藤、適応	高齢期におけるこころの変化について、個人差を踏まえて理解しましょう。また、適応（心理的な意味での健康）に影響を与える要因について、具体的な内容として影響のしかたを考えましょう。
12	高齢期の発達と成熟① 生涯発達の考え方（第4章）	生涯発達の視点による高齢期の理解について、より詳しく学ぶ。 キーワード：生涯発達、発達段階	生涯発達心理学の考え方、及びその中での高齢期という発達段階の位置づけについて整理しましょう。またその上で、「高齢期」が人生の中でどのように位置づけられるか、改めて考えてみましょう。
13	高齢期の発達と成熟② 生涯発達と高齢者をとりまく環境（第4章）	生涯発達の視点を踏まえて、高齢期に生じる社会的な関係の変化やそれらに関係する喪失体験等について学ぶ。 キーワード：生涯発達、役割、関係、喪失体験	高齢期に生じやすい家庭・職業生活、あるいは地域生活における変化、殊に対人関係やその中で役割の変化について考えていきましょう。またそれらが高齢者の心理にどのように影響しうるか、具体的に想定してみましょう。
14	高齢期の発達と成熟③ 高齢期における適応1（第1・4章）	老いの受容、サクセスフルエイジングの考え方を中心に、高齢期の適応について概要を学ぶ。 キーワード：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティブリティ、生活史、適応	老いの受容や、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジングの考え方について理解しましょう。特に、「あるべき論」と心理的過程の違いを考えながら整理してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	高齢期の発達と成熟④ 高齢期における適応2（第1・4章）	老いの受容、サクセスフルエイジング、生活史、セクシャリティなどの観点から、高齢期の適応について総合的に学ぶ。 キーワード：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	「発達と老化の理解」のまとめとして、高齢期の適応について総合的に理解するよう努めましょう。適応が困難な場合やセクシャリティなど、普段触れにくい視点を含めて考えられるとよいでしょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのように捉えられるかについて、「生涯発達」および「心理的な適応」の観点から、これまで示されてきた考え方を整理した上であなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス 教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス 教科書第1章第1節・第6節、第2章第1節、第3章第5節・第6節、及び第4章を中心に読み、高齢期が人間の生涯の中でどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」や心理過程としての「適応」という観点から教科書等で示されている考え方を整理した上で、自分の考えを述べるようにしてください。「適応」については、サクセスフルエイジング等の考え方をよく検討してください。具体的な例や現代社会の状況等を示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけでなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということ意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかを求めており、これらが記述されているかどうか評価の基準となる。

老年心理学B

2018～

科目コード

FD2545



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	吉川 悠貴

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、本科目とあわせてp. 141「老年心理学A」（科目コード：FD2544、2単位、履修方法：RorSR）も参照してください。

科目の概要

■科目の内容

わが国では、認知症の人の増加に伴い、認知症の人の生活をどのように支えていくのかということが、社会の大きな課題となっています。その一方で、認知症という病気や認知症の人の心理、適切なケアのあり方等については、未だ十分な理解に至っていないのが現状です。本科目では、これらの問題について、特に心理学的な観点を中心に、系統的に学習していくことをねらいとしています。具体的には、認知症を取り巻く現代社会の状況や制度・施策、認知症という病気や症状に関する基礎的な知識を得た上で、認知症の人の心理や心理に影響する要因を理解したケアのあり方等を考えていきます。また、認知症の人を介護する家族等の心理についても理解していきます。

■到達目標

- 1) 認知症を取り巻く現状、認知症という病気やその症状について、基本的な事項を説明できる。
- 2) 認知症の人の心理や心理に影響する要因について、具体的に解説できる。
- 3) 認知症に関係する言語や感情の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を理解する。
- 4) 認知症の人や介護する家族等の心理を理解した上でのケアのあり方について、自分の意見を述べることができる。

■教科書

本間昭編『介護福祉士養成テキストブック11 認知症の理解 第2版』ミネルヴァ書房、2013年（第2版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2013年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、「老年心理学A」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%の按分で評価を行う。

■参考図書

- 1) 日本認知症ケア学会編『認知症ケアの基礎知識』ワールドプランニング、2008年
- 2) 加藤伸司著『認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか（増補新版）』河出書房新社、2016年

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「老年心理学A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	認知症の基礎知識①	認知症を取り巻く現状、制度や施策
2	認知症の基礎知識②	認知症の原因疾患と症状
3	認知症の心理とケア①	中核症状と本人の心理、及びケアの原則
4	認知症の心理とケア②	中核症状と行動心理症状の関係、及びケアの原則
5	認知症の心理とケア③	本人の心理を踏まえた権利擁護、リスクマネジメント
6	介護者の心理と支援	介護者の心理と危機、及び支援のあり方
7	全体のまとめと質疑応答	
8	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第1章の概要を把握しておくといでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、認知症を取り巻く現状や認知症の人の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	認知症の基礎知識① (第1章)	認知症、及び認知症の人を取り巻く現状について、概要を理解する。 キーワード：認知症、歴史、対策	わが国における高齢者ケア・認知症ケアの歴史を踏まえて、現状を理解していきましょう。また、認知症とはどのような病気であるか、自分のこれまでのイメージと照らし合わせながら整理していきましょう。
2	認知症の基礎知識② (第1章)	認知症の定義や症状、アセスメント等の基本的な事項について学ぶ。 キーワード：認知症、定義、原因疾患、症状、アセスメント	認知症の基本的な理解として、定義や症状の概要、アセスメント領域について理解しましょう。
3	認知症の基礎知識③ (第1章)	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ（主に原因疾患について）。 キーワード：病態、原因疾患、若年性認知症	認知症の原因疾患を中心に、病態・症状を整理しましょう。変性疾患、血管性以外については、暗記するというよりは、分類の構造を理解するようにしましょう。また、若年性認知症についても理解しましょう。
4	認知症の基礎知識④ (第1章)	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ（主に治療・予防について）。 キーワード：病態、発症機序、危険因子（予防因子）、軽度認知障害	発症機序や危険因子（予防因子）等について理解した上で、予防や治療として現在どのような対応が行われているか考えていきましょう。薬物療法以外の治療的対応、発症以前の予防という視点も含められるとよいでしょう。
5	認知症ケアの基本 (第2章)	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、及び基本的なケアの方向性を学ぶ。 キーワード：認知症ケア、コミュニケーション	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と基本的なケアについて、枠組みを把握しましょう。また、具体的な声掛けや配慮等の対応場面を想定しながら考えましょう。
6	認知症ケアの基本 (第2章)	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、方向性を踏まえて、その実現のために必要な、認知症の人や症状の理解のしかたについても学ぶ。 キーワード：認知症ケア、アセスメント、生活援助	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と方向性を踏まえて、アセスメントや生活支援の内容を具体的に考えていきましょう。
7	認知症ケアに関する行政施策 (第3章)	わが国の認知症施策について、今後の動向を含めて理解する。 キーワード：認知症施策、オレンジプラン、新オレンジプラン	認知症施策の流れや概要をつかみましょう。なお、オレンジプランは内容を更新して「新オレンジプラン」として再整理されていますので、厚生労働省ウェブサイト等から情報を補足することをお奨めします。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	認知症の人とのコミュニケーション (第4章)	認知症の人とのコミュニケーションについて、基礎的な事項を理解する。 キーワード：コミュニケーション	認知症の人とのコミュニケーションについて、どのような姿勢で臨むべきか考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
9	認知症ケアにおけるチームケア (第5章)	チームケアの考え方や実際について理解する。 キーワード：チームケア	チームケアのプロセスや実際について、認知症ケアにおける必要性を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
10	居住環境と地域 (第5章)	認知症の人にとっての居住環境、及び地域におけるサポート体制の重要性を、地域包括ケアの観点から理解する。 キーワード：環境、地域包括ケア、コミュニティ	認知症の人の、在宅での具体的な生活を想定して、居住環境や地域という観点からのサポートのあり方について、本人の心理を踏まえて考えてみましょう。
11	認知症ケアにおけるリスクマネジメント (第5章)	認知症ケアにおけるリスクマネジメントについて、基本的な事項と必要性・方向性を理解する。 キーワード：リスク、リスクマネジメント、身体拘束、高齢者虐待	認知症ケアという特性を踏まえて、リスクマネジメントの考え方を理解しましょう。また、関係する大きな問題として、虐待や身体拘束の問題についても理解しましょう。
12	家族への支援① (第6章)	認知症の人を介護する家族の心理や支援について、基本的な事項を理解する。 キーワード：家族、受容、家族支援	認知症の人を家族として介護する、という状況について、家族の心理過程を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
13	家族への支援② (第6章、及び第5章3-4)	家族支援における社会資源の活用について、地域包括ケア、虐待防止の観点を含めて理解する。 キーワード：社会資源、地域包括ケア、高齢者虐待	家族支援という観点から、制度利用(フォーマル資源の利用)からインフォーマルな資源の利用まで、社会資源の活用方法や効果を考えてみましょう。またそのことの地域包括ケアや高齢者虐待防止としての意味についても考えてみましょう。
14	権利擁護① (第7章)	認知症の人の権利擁護について、制度の概要を学ぶ。 キーワード：権利擁護、成年後見、日常生活自立支援事業	権利侵害の実態やリスクマネジメントの考え方を理解した上で、権利擁護を行うための制度について理解していきましょう。
15	権利擁護② (第7章)	認知症の人の権利侵害被害として、高齢者虐待の問題について理解を深める。 キーワード：高齢者虐待、高齢者虐待防止法	認知症の人が虐待等の権利侵害を受けやすい状況や、受けた場合の支援のあり方等を考えながら教科書の内容をみていきましょう。第5章、第6章も適宜振り返りながら進めるとよいでしょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	認知症の症状について、中核症状と行動・心理症状という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

教科書の第1章第2節・第3節・第6節を中心によく読み、第2章なども参考にしながらまとめてください。単に症状や影響要因を列記するのではなく、中核症状と行動・心理症状（周辺症状）という区分を理解した上で、影響しうる要因がどのように作用し、どのように症状があらわれるのかを説明してください。特に、中核症状がある状態から、どのようにして行動・心理症状があらわれるのか、という観点や、本人の心理的なプロセスを重視してください。具体的な例などを示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということ意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかを求めており、これらが記述されているかどうか評価の基準となる。

老年心理学

～2017

科目コード

FD2517



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	吉川 悠貴

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「老年心理学A」「老年心理学B」の2科目の内容を学ぶため、下記記載の「■講義内容」「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.141「老年心理学A」(科目コード:FD2544、2単位、履修方法:RorSR)とp.146「老年心理学B」(科目コード:FD2545、2単位、履修方法:RorSR)の2科目をあわせて参照してください。

※数年後に、同一年度に8コマのスクーリング2回の受講が必要になる予定です。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	加齢の考え方と高齢期の捉え方	加齢と高齢期を捉えるための諸概念と現状
2	加齢と関係する心身の変化①	加齢と身体的変化、認知機能の変化
3	加齢と関係する心身の変化②	加齢と記憶、知能、言語機能の変化
4	高齢期における適応①	高齢期の適応と生涯発達及び環境変化
5	高齢期における適応②	高齢期の適応とパーソナリティ
6	高齢期における適応③	高齢期と死の問題及び現代的課題
7	認知症の基礎知識①	認知症を取り巻く現状、制度や施策
8	認知症の基礎知識②	認知症の原因疾患と症状
9	認知症の心理とケア①	中核症状と本人の心理、及びケアの原則
10	認知症の心理とケア②	中核症状と行動心理症状の関係、及びケアの原則
11	認知症の心理とケア③	本人の心理を踏まえた権利擁護、リスクマネジメント
12	介護者の心理と支援	介護者の心理と危機、及び支援のあり方
13	全体のまとめと質疑応答	
14	スクーリング試験	

■レポート課題

1 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのように捉えられるかについて、「生涯発達」および「心理的な適応」の観点から、これまで示されてきた考え方を整理した上であなたの考えを述べなさい。
2 単位め	認知症の症状について、中核症状と行動・心理症状という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2017』記載の4単位めの論述式課題に合格した方は、2単位めの課題は『レポート課題集2017』の課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書第1章第1節・第6節、第2章第1節、第3章第5節・第6節、及び第4章を中心に読み、高齢期が人間の生涯の中でどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」や心理過程としての「適応」という観点から教科書等で示されている考え方を整理した上で、自分の考えを述べるようにしてください。「適応」については、サクセスフルエイジング等の考え方をよく検討してください。具体的な例や現代社会の状況等を示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということ意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

2単位め アドバイス

教科書の第1章第2節・第3節・第6節を中心によく読み、第2章なども参考にしながらまとめてください。単に症状や影響要因を列記するのではなく、中核症状と行動・心理症状（周辺症状）という区分を理解した上で、影響しうる要因がどのように作用し、どのように症状があらわれるのかを説明してください。特に、中核症状がある状態から、どのようにして行動・心理症状があらわれるのか、という観点や、本人の心理的なプロセスを重視してください。具体的な例などを示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということ意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポー

トとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

3・4単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

教育・学校心理学 A (教育心理学) 2018~		科目コード	FE2547
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	1 年以上	白井 秀明



※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 161「教育心理学」(科目コード：FE2513)を履修登録してください。科目の内容は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「人はなぜ忘れるのか？」という発想で、記憶や忘却のメカニズムをはじめ科学的に研究したからです。一方、「教育心理学」では、「どうしたら忘れなくなるか？」という発想をします。この発想の違い、つまり“学ぶ人の味方になって考える”ことが、教育心理学的に考えるということです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきっと本人なりの理由があるにちがいない、その“言いぶん”にじっくり耳を傾けてその対策を考える、というわけです。

本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方ではなく、“学ぶ人の味方”という考え方や発想を生んだ研究が数多く紹介されています。ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考えとつきあわせると同時に、「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人の味方になっているな」などと、ご自分の日常生活、仕事等の体験の中で生じる問題解決方法の“ヒント探し”をしながら読み進めていただければ、と思います。

■到達目標

- 1) 人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。
- 2) 「教育と発達の関係」について、2つの大きく異なる考え方を学び、どちらが“学ぶ人(子ども)の味方”になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。
- 3) 「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。
- 4) 学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。

■教科書

永野重史編著『教育心理学—思想と研究』放送大学教育振興会、1997年

(スクーリング時の教科書) スクーリングでは教科書に沿った進め方はしません。配付資料やビデオを使って進めます。教科書を持参して授業中に自分で線を引く、書き込むなどは自由になさってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%の配分で総合的に評価します。

■参考図書

園田富雄監修・著 山崎史郎編著『新版教育心理学ルック・アラウンド——わかりたいあなたのための教育心理学』ブレーン出版、1992年

教育心理学の主な領域の内容が網羅されています。初学者が、教育心理学の全体的な骨格を知るには適書だと思います。

宇野忍編『授業に学び授業を創る教育心理学 第2版』中央法規出版、2002年

題名からわかるように、授業実践の実例を豊富に取り上げながら教育心理学の諸問題について書かれてあります。と同時に、学習者の味方になって授業を創っていこうという姿勢が貫かれている、とも言えるでしょう。教員志望の方にはぜひともお読みいただきたい一冊です。

永野重史著『教育心理学通論——人間の本性と教育』放送大学教育振興会、2001年

教育心理学の再入門のために書かれた本です。「教育」「学習」「発達」などに関するご自分の考えをさらに整理する目的でお読みいただけたら、と思います。

スクーリング

■スクーリングで学んで欲しいこと

「教育」について再考する心理学的な視点を学んで欲しいと思います。そのためには、「教える」「学ぶ」という普段何気なく使っていることばの意味について、各自が自分で再吟味する必要があります。そこで、授業の目標を「到達目標」に掲げる4点に絞ります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	「教育」ってなんだろう？	①「人間らしさ」とは何か ②人間には、「少年」「少女」という「教育の時代」がある ③人間は、集団で生活する「社会的動物」である
2	「教育」をうばうとヒトはどうなるのか？	①「社会的隔離児 FとGの事例」から学ぶ ②「社会的隔離児 アヴェロンの野生児」から学ぶ ③これらの事例からわかること
3	「教育」ってなんだろう？ リターンズ	①学校外教育と学校教育の違い ②学校外教育の重要性 ③再び学校教育の意味を問い直す
4	教育と発達の関係	①発達って？ ②発達は何によってもたらされるのか？ ③2つの対照的な発達観 ③-1 J.ピアジェの発達段階説 ③-2 J.ピアジェの発達段階説の特徴 ③-3 J.ピアジェの「発達段階説」の呪縛から解放されるために ③-4 L.S.ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」 ③-5 発達の最近接領域が子どもによって違うのはなぜか
5	ヴィゴツキーとピアジェの「教育と発達の関係」の比較	①ヴィゴツキーの「教育観」とは ②ピアジェの発達段階という考え方の弱点 ③ヴィゴツキーから教育を捉え直す
6	「教える」とは…その根底にある態度・考え方	①学習者の「つまずき」を理解する ②「子どもの味方になる」とは ③学習者のつまずきを支援するには？ ④学習意欲の正体？ 学習意欲を引き出すには ④-1 外発的動機づけを利用する ④-2 内発的動機づけを利用する
7	教育評価について	①今の自分の考えを書いてみよう！ ②目的的活動と評価活動について ③再び「評価」とは ④授業の改善と調整のための教育評価 ⑤教師が収集すべき情報について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

自作の（書き込むための余白を多めにとった）プリント教材と資料、さらにビデオ教材を使いながら授業を進めます。スクーリングの中で2つのレポート課題のエッセンスもお話しします。

■スクーリング 評価基準

スクーリング最終授業で授業の要点の振り返りと試験を行います。スクーリング評価の基準は、最終授業で行われる試験100%で評価します。スクーリングの内容から2題。「授業の感想」も書いてもらいます。授業での学びが日頃の仕事や生活のこととどのように結びつけられるようになったのかを自身の授業の自己評価として知りたいからです（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書『教育心理学—思想と研究』の第1章から第8章を中心に一読してきてください。わかるところもあるし、わからないところもたくさんあるな、と思ってもらえれば結構です。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	教育心理学とは何か（第1章）	教育心理学は、考えることだけに頼りがちな哲学とは異なる方法で人間にアプローチする学問であることを知る。また、誕生当初の立った研究の概要から、教育や社会に役に立つ体系的な知識を求めて教育心理学がスタートしたことを知る。	教育心理学は、一般心理学とは異なり“2つの応用”という側面を持った心理学だと書いてあります。その意味について、誕生当初の諸研究を、社会や教育に役立つ知識を得るためにどういう方法で研究し、実際そういう知識が得られたのか、という視点から再検討してください。
2	心理学者の考え方のスタイルと教育観（第2章）	クロンバック（L. J. Cronbach）が提唱した心理学についての3つの考え方の違いを知る。また、エルカインド（D. Elkind）の2つの教育観の違いを知る。それらにより、教育心理学は「よい教育とは」という価値から離れることはできないことについて考える。	人間観（人間とはどういう存在か）、研究観（研究にとって何が大切か）によって、心理学を大きく3つにわけています。大きく2つにわけた教育観は、それらの3つのどの考えに強く影響されているのかについて整理してください。さらに、ご自分の考え方がどれに近いのか考えてみると楽しくなります。
3	行動主義の学習心理学とその応用（第3章）	2種の条件付けの違いについて具体例を挙げて説明する。また、行動主義の技法の応用の実際を知り、メリットとデメリットについて考える。特に、プログラム学習と「応答的な環境」の相違点について説明できる。	2種類の条件付けの違いは、もともになる反応が「受動的か、積極的か」です。さらに、「できる」を少しずつ積み重ねていくことがプログラム学習の特徴ですが、「応答的な環境」は、賞を期待したり罰を避けることによって行動を形成する学習ではありません。大切なことですので、両者の異同についてじっくりと考察してください。
4	学習の認知理論（第4章）	「認知主義の学習」は、第3章の「少しずつ行動を変化させる」という「行動主義の学習」とは何が異なるのか説明できる。人間や人間に近い動物は、部分のみを、機械的に記憶する、試行錯誤（行き当たりばったり）するなどよりも、心のなかにある仕組みを使ってうまく行動できることを知る。	「見る」という感覚から情報を入力するだけで捉えがちなことが、心の仕組みを使って「考える」とそれほど明確に区別がつかないことに気がついて欲しいです。今まで出会ったことのない「問題」を解決するのも同じことですね。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	発達心理学①発達 の考え方の変遷 (第5章)	ピアジェ (Piaget, J.) が想定している「認知構造の発達段階」について、普遍性の高い理論をつくらうとしたことからくる特色や問題点を説明できる。また、さまざまな観点から検討課題が残されていることについて知る。	子供は大人とは違った見方、考え方を示したことが、ピアジェの最大の貢献です。しかし、人間の発達を考える上で検討課題も多々残したことも事実です。それぞれ具体的に説明できるようになって欲しいです。
6	発達心理学②新しい 発達の考え方 (第6章)	ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) が想定した人間の発達についての考え方について知り、人間がつくり出してきた文化、社会そして教育と人間の子供が発達する過程が、どういう関係にあるのか説明できる。特に、ピアジェの考え方とどこが異なるのか自分なりに説明できる。	ヴィゴツキーの発達理論は、教育（文化、言語、等の獲得）が発達をつくるという考えです。発達段階に合わせて（丁度いい段階に来るまで待つ）教育をする、というピアジェの考え方とは大きく異なりますね。
7	動機づけの 心理学 (第7章)	動機づけの考えの基になった「ホメオスタシス」という生理的なメカニズムについて知る。また、そこから考え出された「社会的強化」という動機づけによって説明できる行動もあるが、「好奇心」や「達成動機」など他の心の働きによっておきる行動の方が多いいことを、それら用語の意味と共に具体的に説明できる。	「ホメオスタシス」という生理的な平衡状態を保つメカニズムを手本にした「社会的強化」では、人間の心の中にある「やってみよう」「おもしろい」「楽しい」を説明しようとしても、上手くいかないことに気づいてください。どうしても、「好奇心」や「達成動機」等の他の心の働きに言及しないと説明できない行動があるのです。
8	自主性と意欲 (第8章)	「自己原因性」という言葉の意味について理解を深める。その上で、達成行動における2種類の目標と行動の特徴と2種類の知能観について、対比的かつ具体的に説明できる。	人間は誰かに言われてする（やめる）ことが生来的に嫌いなのであり、本来は自分の行動の原因主体であることを望んでいる、という考えに対する理解を深めてください。他者に対する自分の行動の振り返りの視点になります。
9	人間観と教育① (第9章)	3つの人間観があることを知り、その上で時代や社会の構造の変化と、その時代に求められた人間観の変化に対応関係があることについて説明できる。	「いくつもの教育心理学がある」というのがこの教科書の立場です。それら「いくつも」の違いが出てくる根本にあるのが「人間観の違い」です。①では行動主義的な人間観について注目して、教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
10	人間観と教育② (第10章)	3つの人間観があることを知り、各自が持つ人間観が異なることによって、知識、学習、動機づけ、学習環境、教育評価、教師といった教育に登場するキーワードに対する意味づけが異なっていることについて意識でき、その違いを対比的に説明できる。	②では、認知主義、状況主義の人間観から見た場合の教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	教育評価とは何か (第11章)	教育評価には大きな2つの目的があることを知る。また、手段としての教育測定について測定結果を表現する2つの準拠方法の違いについて説明できる。	形成的評価、総括的評価、あるいは相対的評価、絶対的評価など、意味の曖昧な用語が教育の中で使われているのが現状です。ここで言う2つの準拠方法の違いや評価の利用計画、評価方法、評価主体、評価結果を利用する人等の違いによって、それらを整理できるようになって欲しいです。
12	記憶の心理学と教育 (第12章)	無意味綴りを用いた記憶のメカニズム(第1章pp. 16-18参照)や記憶過程のモデルを「研究」しただけでは、私たちが日常使っている言葉や経験したことを使って考えるための記憶研究にはならないことを知る。	教育に役立つ記憶の研究には、普段私たちがする「考える」「推論する」「創造する」などの心の働きと切り離れた「記憶のみ」の研究では不十分であることに気づいて欲しいです。
13	知能と創造性 (第13章)	「知能」は多面的、多角的に捉える必要があることを知る。知能テストについて実施目的や結果の使われ方が歴史的に変わってきたことを知る。創造性についても、さまざまなとらえ方があることを知る。	「知能」や「創造性」という言葉で表そうとしている心の働きは、まだまだ心理学の中で共通した考え方はありません。両者を区別することも賛否両論です。対象となる課題分野やその人が育ってきた文化などに影響を受けない「知的な能力」を測るテストなどそう簡単にはつくりえないことに気づいて欲しいです。
14	道徳性の心理学と教育 (第14章)	「道徳性」という心の働きの質的な変化としての発達や変化を起こすための経験や環境の与え方(広い意味での教育)などについて、どのような研究がなされてきたかを知る。	「道徳性」を、きまりにしたがう、先生や親のいうことにしたがうなど、広い意味で「考える」という心の働きと切り離して捉えることはできないことに気づいて欲しいです。
15	教育方法の分析 (第15章)	発見学習をめぐる議論から、2つの異なる「方法」による「学習」の成果を比べるという研究だけでは、教え方の善し悪しを判断するのは難しいことを知る。学習に影響を与える4つの要因について知る。	教育について議論するには「学習の方法」だけでは十分でなく、何を学習したのか、どんな学習をしたのか、といった「学習の内容」についても考えていく必要があるということに気づいて欲しいです。

■レポート課題

※2017年よりワープロ・パソコン印字での提出も可能とします。みなさんのレポートのやりとりは「授業」に相当すると考えています。みなさんの「表情」を読み取ることが少しでも可能な「手書きレポート」を読むことができなくなるのはとても残念なので、できる限り手書きにて作成していただくことを強く希望します。

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」は、どんなところが“学ぶ人の味方”になっている考え方か。ピアジェの「発達段階説」と対比させて説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

レポートを書くにあたって、教科書だけに頼るのではなく、教科書や文末に紹介されている参考文献などからの“輸入”は大歓迎です（“輸入元”はレポートに明記してください）。“わかること”と“わからなくなること”が交互に繰り返される、それが何かを学ぶ筋道だと考えるからです。

ポイントは、「発達」に対する「教育」の役割を、両者がどう考えているかです。もちろん、ここでいう教育とは、学校教育だけでなく、社会的・文化的経験などを含めたもっと広い意味での教育活動のことです。間違いやつまずきを示す、いいかえると、発達が滞っている人に対して教育活動を受動的・消極的にとらえているのはどちらでしょうか。能動的・積極的にとらえているのはどちらでしょうか。まず、「教育」と「発達」の関係に対する両者の考え方の違いを対比的に示して欲しいのです。そして、両者の「教育」と「発達」の関係に対する考え方とご自分の考えとつきあわせた結果、自分は「教育」「発達」についてどう考えるか（考えられるようになったか）も、ぜひお書きいただきたいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- ・問題によって設定されたこと（異同点を延べよ、違いを明確にせよ等）について、的確な言葉を使って論理的に説明されているか。
- ・具体例を挙げて、となっている設問には、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

教育心理学

～2017

科目コード

FE2513



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	1 年以上	白井 秀明

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 154「教育・学校心理学A（教育心理学）」（科目コード：FE2547）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、科目の内容はp. 154「教育・学校心理学A（教育心理学）」（科目コード：FE2547）を参照してください。

※2018年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教職に関する科目」として使用することはできません。

また、2017年度以降は、2014年度以前入学者でも「教職に関する科目」としての履修は原則としてできません。何らかの事情で希望する方は書面で通信教育部事務室に連絡し、指示を受けてください。

教育・学校心理学B（学校心理学） 2018～		科目コード	FE3548
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	2 年以上	中村 恵子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は2018年度は履修登録できません。

※本科目のスクーリングは、2017年度以前入学者にはp. 254「特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）」(科目コード：FT2604、単位数：1、履修方法：S)として開講されます。

科目の概要

■科目の内容

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム援助が求められる時代になりました。本科目では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例から学校不適應によって生じる問題と、その適応支援の方法論を学びます。レポート学習では、教科書を読んで適応支援の方法と課題についての学びを深めます。

■到達目標

- 1) 教育現場において生じる問題を説明できる。
- 2) 教育現場において生じる問題の背景を説明できる。
- 3) 学校適応条件を説明できる
- 4) 学校不適應の子ども支援の方法を説明できる。

■教科書

中村恵子編著『学校カウンセリングー問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション 第2版』ナカニシヤ出版、2011年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

教育臨床では、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%

■参考図書

田上不二夫著『不登校の子どもへのつながりあう登校支援: 対人関係ゲームを用いたシステムズ・アプローチ』金子書房、2017年

水野治久・石隈利紀他著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013年

田上不二夫著『実践 グループカウンセリングー子どもが育ちあう学級集団づくり』金子書房、2010年

小林正幸著『事例に学ぶ不登校の子への援助の実際』金子書房、2004年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	教育現場において生じる問題とその背景	不登校の増加と長期化およびその課題
2	教育臨床に有効なカウンセリング技法	発話を促す基本技法
3	教育臨床に有効な集団援助技法	対人関係ゲームの理論と演習
4	学校適応に求められる要因	学校適応の条件
5	学校適応に求められる発達課題	愛着形成～嫉形成～母子分離
6	学校不適応の理解	不登校事例の問題分析
7	学校不適応への援助方法	不登校事例の介入計画作成
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。
- ・授業では事例を提示し、グループでのディスカッションを中心に読み解きます。

■スクーリング 評価基準

- ・とくに学校適応条件についての理解を問います（教科書・配付資料持込可）。
- ・授業への参加態度30%＋スクーリング試験70%（論述式）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：3～10時間）

教科書の1章～3章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	学校カウンセリングの役割	P. 1～3 学校カウンセリングの目的は子どもの学校適応上の問題解決にある	個別支援と集団支援の両方が求められる
2	チームでの協働支援	P. 3～6 チームで解決をはかる児童生徒支援システム	共通理解が必要な専門用語を学ぶ
3	教師とスクールカウンセラーのコラボレーション	P. 6～9 集団支援の専門家＝教師 個別支援の専門家＝カウンセラー	教師とスクールカウンセラーの専門性を生かす
4	校内支援体制と教育コラボレーション	P. 9～12 児童生徒支援システム	システム理論
5	教育コラボレーションによる再登校支援(1)	P. 12～17 チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
6	学校適応の条件	P. 35～36 学校生活を支える適応条件	学校環境と家庭環境
7	学校適応のための発達課題	P. 36～38 学齢期までの発達課題	対人関係の発達
8	価値のトライアングルと学校適応	P. 38～40 価値観のバランス	価値観の偏り
9	学校環境への適応システム	P. 40～42 学校環境と家庭環境のはざままでバランスをとろうとする子ども	個人と環境の相互影響
10	学校環境と問題解決システム	P. 42～45 不登校生徒への再登校支援	学校適応条件
11	学校不適応をつくる問題システム	P. 45～46 問題システムの構成要因	子ども・学校環境・家庭環境の相互影響
12	問題解決フォーミュレーション	P. 46～51 学校環境と家庭環境それぞれのフォーミュレーション	当事者支援と支援者支援
13	教育コラボレーションの意義	P. 53～54 コラボレーションの極意	教育コラボレーション
14	教育コラボレーションによる再登校支援(2)	P. 54～57 チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
15	教育コラボレーションの役割と効果	P. 58～59 チーム支援の条件	チーム支援の役割

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	教科書 p. 12～17の事例から、チーム支援に必要な条件を論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

(1) 書き方について

レポートは、以下の順序で最初に結論を述べてください。

- 1) 結論 チーム支援に必要な条件として以下のことがあげられる（箇条書き）
- 2) 本論 箇条書き条件の説明
- 3) 総括 これらの条件を用いることの意義と効果
- 4) 事例についての感想

1)～3) まだが小論文形式のレポートの書き方です。論文の価値は、論点の正確さと論理の明瞭さにおかれます。ここに個人の意見や感想を交えてはいけません。論文では、必ず文献（本や論文）を読み、そこにどのように書かれていたから、このようなことが考えられると、根拠を示してそこから導かれる結論を述べるのが求められます。また、直感による個人的な意見や感想を交えず、複数の文献による根拠から結論を導くことを「論じる」といいます。この論理の客観性と明瞭性が論文の価値の決め手になるのです。文献ではなく直感のおもしろさによる個人の意見や感想に価値がおかれるものは、随筆と呼ばれ、論文とは本質的に異なります。このレポートでは、4) で感想を求めておりますので、ご自身の意見や感想はこの欄にまとめて記述してください。解釈がおもしろいほど論理の展開もおもしろくなるはずなのです。

論文では、客観性と明瞭性を高めるために、できるだけ箇条書きでまとめることをお勧めします。箇条書きでの結論を導く場合は、通常3項目程度にまとめます。5項目を超えると、箇条書きでまとめるまでもなく冗長で焦点が絞られないものになってしまいがちだからです。仮に4項目以上の条件を考えた場合は、さらにその項目を3項目以内に整理統合し、本文で条件の内容を説明してください。ただし、文献からの引用の場合は、読者の解釈で勝手に整理統合するわけにはいきませんから、文献を明示してそのまま引用してください。引用では、たとえば中村（2011）は、…（本文の引用）…もしくは、…（本文の引用）…（中村、2011）などと出典を明示し、巻末に引用文献を、本の場合①著者②出版年③タイトル④出版社の順で、論文の場合①著者②出版年③タイトル④研究誌名⑤巻号⑥掲載ページの順でお書きください。教科書の本文と巻末の引用文献をご覧いただくと、書き方が理解できるのではないかと思います。また、文献からの引用をそっくり結論に持ち込むのは、論じていることになりませんから、必ずそれを参考にして3項目以内に結論としてまとめ、その論拠として文献の内容を示してください。

次に、本文では、その条件とはどのような内容なのか、なぜそれが必要と考えたのか、そこにはどのような意味があるのかを説明してください。また、もしそれをういかなかった場合は、どのようなことになるのか、用いた場合はどのような効果が期待できるのかを説明し、論拠を示してください。この内容の豊かさが論文の質的価値をつくります。

そして、最後に意味と役割について説明して総括してください。

(2) 内容について

テーマである「チーム支援」は、教科書9～12ページに「教育コラボレーション」としてまとめられています。

コラボレーションとは、異なる立場の専門家が、対等な立場で同じ目標や問題解決に向けて共同作業を行うことをいいます。学校カウンセリングの目的は、学校に不適応を起こしている子どもの適応支援にあります。学校適応とは、相談室や保健室など個別支援に対する適応ではなく、学級での集団に対する適応のことを指します。そのため、不適応状態にある子どもの適応支援をするためには、まず不適応によって傷ついている子どもに対する個別の立ち直り支援が必要です。そして、子どもの状態が回復したら学級復帰のための支援を行うことで完結されます。しかし、子どもが適応感を得られないまま我慢させて学級に復帰させる事態は避けなければいけません。さらに子どもの傷を深くするからです。

それでは、子どもの適応支援として何をすればよいのでしょうか。そのためには、個別支援の専門家であるスクールカウンセラーと、集団支援の専門家である担任教師とのコラボレーションが必要です。また、コラボレーションのためには、教師とスクールカウンセラーを結びつけるコーディネーター役割も重要です。そこで、以下を参考に異なる立場の専門職について理解し、教職員がチームを組み協働で支援することの意味と役割を論じてほしいのです。

- ①担任の専門性 59～61ページ
- ②コーディネーターの専門性 63～66ページ
- ③スクールカウンセラーの専門性 67～69ページ

また、コラボレーションの意義と極意については53～54ページを参考にしてください。

(3) レポートを書こうとしてもやる気がわかないとき

空腹のときは、脳に栄養がいきわたらないせいかやる気が起きません。しかし、逆に満腹のときもなぜかやる気が起きません。また、脳に栄養を与えるとやる気がわくような気になることも稀にあります。受験生は、脳に栄養を与えるためにあめやチョコレートやブドウ糖をポケットにしるのぼせると効果的だと才色兼備のほまれ高い某高学歴女優がテレビで語ってくれました。筆者の経験では、チョコレートはないとやる気がわきません。芋けんぴとおせんべいも必須です。それに睡魔との闘いになるので、コーヒーも不可欠です。そして、ここまでやったら寝ても良いというゴールの設定もないとイヤになってしまいます。そして、ゴールまでできたら苦悶の心身をアルコールで潤し、よく寝て明日の苦戦に備えましょう。

これを読むと、健全な読者ほど「病んでいる」と思われるかもしれません。論文は、美容と健康と社交の大敵だとしみじみ思います。なぜ、こんなつらくてかなしい論文を書く道が好き好んで選んでしまっているのでしょうか。しかし、きっとそれが研究者に与えられた宿命なのです。皆様も、レポートに苦しむほ

ど、よりリアルに研究者のつらさ苦しさを実感していただけることと思います。皆様の善戦を心からお祈りしております。

科目修了試験

■評価基準

- ・評価の観点は、理解の正確さです。
- ・教科書や解説文を良く読んで対策してください。

障害児の心理

～2017

科目コード

FE3518



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	木村 進

※この科目は、2017年度以前入学者を対象に2018年度まで開講します。スクーリング受講、レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です（新規履修登録はできません）。

※この科目の会場スクーリング、オンデマンド・スクーリングは、2018年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

「障害」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象や感想を持つのでしょうか。「心身障害児」とか「障害者」とよぶ以上、そこには何か意味があるはずですが。保育や教育の場面に例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということを意味していると思われまます。障害をもった子どもの保育・教育が的確に行われるためには、「障害」についてきちんと理解し、「障害をもつ人」の心理について基本的な認識を深める必要があります。

ここでは、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもや大人がどのような心理状態に陥りやすいかということを学習します。

■到達目標

- 1) 「障害」の意味をさまざまな角度から考察し、特に、その社会的な意味について自分の考えを述べることができる。
- 2) さまざまな種類の障害について理解し、学習前に抱いていた障害についての知識や考えとの異同を具体的に明らかにすることができる。
- 3) 特に、「発達障害」についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ（育児・保育・教育）のあり方について具体的に考えることができる。
- 4) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。
- 5) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮（条件）が必要であるかについての考えを述べるすることができる。

■教科書

田中農夫男・木村 進編著『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009年
(最近の教科書変更時期) 2010年4月

(スクーリング時の教科書) 前ページの教科書と資料(当日配付)を使用します。以前の教科書『障害者心理～その理解と研究法』の持参でも可。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価70%+スクーリング評価 or 科目修了試験30%

■参考図書

- 1) 中司利一著『障害者心理——その理解と研究法』ミネルヴァ書房、1988年
- 2) 小池敏英・北島善夫著『知的障害の心理学——発達支援からの理解』北大路書房、2001年
- 3) 熊谷公明著『発達障害の基礎』日本文化科学社、1999年
- 4) 栗田広編著『広汎性発達障害』全国心身障害児福祉財団、1998年
- 5) 池田勝昭・目黒達哉編著『障害者の心理・「こころ」』学術図書、2007年

※その他「発達障害」関係の文献はたくさん出ています。図書館や書店でさがしてみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「私の子どもは障害児ですか？」と母親から尋ねられることがある。「アスペルガー障害は治らないんですよ」と担任の教師から尋ねられた。私は、40年近く障害を持った子どもやその親、あるいは担任の教師たちとつきあってきた。発達心理学者の立場で、障害をどのように理解し、それにどのようにアプローチしてきたかということを土台に、障害児についていろいろな角度から考えてみたい。

講義では、まず「障害」ということをどのように理解したらいいかということから始め、具体的な障害の理解を促進し、そして障害をもつ子どもの心理的特徴を論じた後で、どのように働きかけたらいいかについて考えてみたい。受講生一人一人の障害児との関わりは異なると思われるので、ここでは初心者向けの内容を取り上げる予定である。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	「障害」とは何か	授業のオリエンテーション／①WHOの見解 ②発達心理学からの考察
2	「障害」と発達・教育	①発達とは何か ②教育とは何か ③障害児の発達の理解 ④障害児教育のあり方

3	知的障害の理解	①知的障害の定義 ②知的障害児の心理的特徴 ③知的障害児の理解
4	運動障害の理解	①運動障害（肢体不自由）とは ②運動障害の症状 ③運動障害の心理的特徴
5	言語障害の理解	①言語障害の定義と理解 ②心理的な視点からの言語障害 ③言語障害への支援
6	心因性情緒障害の理解	①心因性情緒障害とは ②心因性情緒障害の症状 ③心因性情緒障害の原因と治療
7	自閉症スペクトラム障害の理解	①自閉症とは（診断基準） ②自閉症の理解 ③自閉症児の心理的特徴
8	ADHDの理解	①ADHDとは（診断基準） ②ADHDの症状 ③ADHDの理解と支援
9	LDの理解	①LD（学習障害とは（診断基準） ②LDの症状 ③LDの発見と支援
10	幼年期の障害	①幼年期の障害をどのように捉えるか ②幼年期に 起こりがちな障害 ③「気になる子」の理解
11	障害児の理解	①障害児を理解するとは ②障害を持つ人への生涯 発達の視点からの支援のあり方
12	まとめの話と質疑応答	①障害を理解するとは（まとめの話） ②質疑応答
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書にもとづいて講義を進める。必要に応じて資料を配付する。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（100%：持込は自筆ノートのみ可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書については、特に次のところを予習してきてください。

2010年度以降配本の教科書『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』序章2、3章、5章、6章、7章、8章、9章、15章、19章。

2009年度以前配本の教科書『障害者心理—その理解と研究法』Ⅰ（全）、Ⅱ（全）、Ⅲ（1・2・6）。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害とは (序章2)	障害という言葉の意味の理解 キーワード：障害、統計基準、生活基準、WHO、ICIDH、ICF、ノーマライゼーション、行動の障害、発達の障害	①教育場面を想定した定義を理解する。 ②WHOの障害の捉え方を理解する。③障害に関する発達心理的視点を理解する。
2	知的障害の理解① (6章)	①知的障害の定義の理解 ②心理的特徴の理解 ③知的障害児の支援のあり方の理解 キーワード：知的機能、適応行動、知能検査、ダウン症候群、知覚、注意、記憶、インリアルアプローチ	①AAMRの定義を理解する。②知的障害の原因を理解する。③知的障害児の知覚・認知記憶および言語の特徴を理解する。④生涯発達の視点から、知的障害者への支援について総合的に理解する。
3	知的障害の理解②：老年期の知的障害 (20・21章)	①老年期の知的機能の特徴についての理解 ②認知症の理解 キーワード：言語性IQ、動作性IQ、認知能力、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、見当識、実行機能、妄想、パーソンセンタードケア	①老年期における記憶を含む認知機能の変化について理解する。②認知症について理解しその行動特徴を知る。③認知症高齢者の介護のあり方について考察する。
4	運動障害・肢体不自由の理解① (5章)	①運動障害の定義の理解（原因疾患も含めて） ②運動障害児の心理的困難についての理解 ③運動障害児への支援についての理解 キーワード：肢体不自由、脳性まひ、骨関節疾患、図と地、摂食・嚥下障害、器官劣等感、身体像、AAC	①運動障害とは何かを理解した上で、主な原因疾患である脳性まひと骨関節疾患について調べて理解する。②コミュニケーション・運動・認知・学習面における困難さを理解する。③それぞれの困難さに対する支援について理解する。
5	運動障害とは②：動作法 (15章)	①動作法(心理学リハビリテーション)の考え方の理解 ②動作法による援助の視点の理解 ③動作法のプログラムの理解 キーワード：動作法、意図一努力、課題動作、とけあい動作法、コミュニケーション・ループ	①動作法の歴史を理解し、基本となる考え方を理解する。②いろいろな障害を対象とした動作法の支援の視点を理解する。③動作法の基本的なプログラムを理解する。
6	言語障害とは (3章)	①言語障害の定義の理解 ②コミュニケーションの手段としての言語の特徴の理解 ③言語障害の種類を踏まえて、援助のあり方の考察 キーワード：言語障害、ことばの鎖、言語と話しことば、失語症、音声障害、吃音	①コミュニケーションの過程を踏まえて言語障害の意味について理解する。②言語障害の3つの特徴を理解する。③言語障害者への支援について、周囲の人への働きかけを含めて考察する。
7	学習障害とは (7章)	①学習障害の具体的理解（類型を含む） ②学習障害の随伴症状の理解 ③学習障害の判定の理解 ④学習障害児への教育的取り組みの理解 キーワード：学習障害、LD、中枢神経系、協応運動、社会的知覚、スクリーニングテスト、除外条項、LDサスペクト、通級学級	①類型を踏まえて、学習障害を具体的に理解する。②学習障害の主症状と随伴症状の両方を理解する。③早期発見から判定への流れとして理解する。④通級学級について調べた上で、学習障害児への教育的取り組みについて考察する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	注意欠陥多動性障害とは (8章)	①ADHDの診断基準の理解 ②ADHD児の行動特徴の理解 ③ADHD児の保育・教育のあり方についての理解 キーワード：ADHD、不注意、多動性、衝動性、自尊感情、ペアレントトレーニング、PDSC、自己効力感、二次的障害	①診断基準の理解を踏まえて、ADHDの症状について具体的に理解する。二次的障害についても理解する。②ADHD児の保育・教育について理解する。その際、接し方と働きかけ方に分けて理解するように努める。
9	自閉症スペクトラム障害とは (9章)	①自閉症の診断基準の理解 ②自閉症の症状の理解 ③スペクトラムというものの理解 キーワード：自閉症スペクトラム障害、アスペルガー障害、心の理論、高機能自閉症カナー、アスペルガー、ウィング	①診断基準については、DSM-5において大幅な改定が行われているが、自閉症を理解する上ではテキストに載っている古い基準でも大丈夫だと思われる。診断基準を通して主な症状について理解する。②スペクトラムという捉え方について、ウィングの考えを理解する。
10	幼年期の障害 (18章)	①幼年期における障害の捉え方の理解 ②「気になる子」という捉え方の理解 ③発達アセスメントと保護者支援の理解 キーワード：代謝性障害、発達障害、確定診断、状態像の変化、気になる子、虐待、注目欲求、記憶範囲、発達アセスメント、行動観察、心理検査、保護者支援	①幼年期に特有の障害はないので、幼年期における障害をどのように捉えるかという視点での理解を図る。②なぜ「気になる子」という表現をするのかを理解した上で、支援について考察する。③発達アセスメントを具体的に理解するとともに、移行支援、保護者支援のあり方について考察する。
11	視覚障害／聴覚障害とは (1・2章)	①視覚障害の基礎的理解 (判定を含む) ②視覚障害者の職業の理解 ③視覚障害についての基礎的理解 (判定を含む) ④手話と口話についての理解 キーワード：視覚障害者、正眼者、点字、墨字、鍼灸、難聴、聾、健聴者、九歳の壁、手話、口話	①生活を通して視覚障害者の特徴を理解する。②歴史的視点から視覚障害者のする職業を理解する。③日常行動を通して聴覚障害を理解する。④手話と口話を土台にして、聴覚障害者のコミュニケーションについて考察する。
12	特別支援教育 (19章)	①特別支援教育とは何かの理解 (対象も含む) ②特別支援学校・特別支援学級／通級指導教室における教育の理解 ③通常学級における教育についての考察 キーワード：特別支援教育、特殊教育、発達障害、病弱・身体虚弱、ソーシャルスキルトレーニング、個別の指導計画	①特殊教育から特別支援教育の流れを踏まえて理解する。②それぞれの特別支援教育の場における教育の特徴を理解する。③通常学級に在籍する特別支援教育対象者の教育について具体的に考えてみる。
13	障害児をもつ家族 (11章)	①家族および家族の機能についての一般的理解 ②障害児をもつ家族の問題の理解 キーワード：家族、家族機能、社会化モデル、情緒安定、核家族化、母性行動、性別役割分業、養育態度、ライフステージ、危機、ライフイベント、エンパワメント	①家庭の機能について一般的に理解するとともに、現代における家庭の特徴を母子関係の変容を中心に理解する。②障害児を持つ家庭の問題点について、それぞれの時期 (ライフステージ) を前提にして理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	障害児をもつ家庭支援(12章)	①障害のある子どもを持つ家庭における情動的反応の理解 ②障害のある子どもの存在に関連する家庭内の問題の理解 ③障害のある子どもを持つ家庭への支援に関する考察 キーワード：情動的反応、慢性的悲嘆、放任、強制、過保護、葛藤、対立、孤立、複雑化、多様化、長期化、共感、傾聴、養育	①家庭支援を考える前提として11章4節をまず理解する。②具体例を参考にしながら、情動的反応の変化について理解する。③家庭内に起こり得るさまざまな問題について、支援を意識しながら理解する。④支援のあり方について、対象者を中心にした理解を図る。
15	まとめ：障害児の理解(序章1・16章)	①障害の意味についての再考 ②障害者の心理的特徴の総合的理解 障害者の生活の質という視点から、支援のあり方の再考 キーワード：新しい呼び方、五感、バリアフリー、介護保険、ADL、IADL、QOL、EMB、メンタルヘルス、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己評価、自己決定能力	①1回目の学習(序章2)を振り返りながら改めて障害の意味について考える。②障害が与える心理的影響について総合的に考える。③障害のある人のQOLについて考察し、それを踏まえて支援のあり方を考える。

■レポート課題

1 単位め	「心身障害児」などという場合の「障害」の意味について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)
2 単位め	「知的障害児」の心理的特徴と学童期の指導について説明しなさい。
3 単位め	「発達障害」とは何かについて説明しなさい。
4 単位め	障害のある子どもをもつ家庭への支援についてまとめなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、この課題集と教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくことが第一に重要です。該当する箇所は1カ所とは限りませんから、課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。

2016年度以前入学者は『学習の手引き』序章に「レポートの書き方」を載せてありますので、もう一度読んで、作業手順を確認してから、レポート作成にとりかかってください。

課題はすべて、基本的には教科書に書いてあることについてまとめ、それに参考文献等で肉付けをするという形で書けるはずですが、教科書をまとめるだけでは不十分ですので、必ず教科書以外の参考文献の内容も加えて書いてください。

1単位め アドバイス

最初のレポートは、「障害」ということの定義を書きなさいという課題です。これは「序章2」の内容をまとめることが中心になりますが、「序章1」の内容や他の研究者の定義なども含めて内容を充実させることが望まれます。定義について考察することにより、「障害とは何か」ということについての理解を確立することが目標です。そして、それらを総合して、できれば、自分なりの定義としてまとめてください。他の課題も同様ですが、教科書を含めて、参考文献を明記することを忘れないでください。

2単位め アドバイス

2単位めは「知的障害」がテーマです。教科書の内容を踏まえて、足りない分は他の文献で調べてください。内容としては、①知的障害とは何か（定義）、②知的障害をもたらす原因についてコンパクトにまとめてから、③心理的特徴について説明し、さらに、④学童期における指導について論じてください。①～③は、教科書をまとめることで書けますが、④は、教科書だけでは内容が不十分ですので、他の文献を捜してください。なお、④は、「学童期」に限定していることに留意してください。また、④の内容は、「支援」ではなくて「指導」となっています。この指導という意味は、「学習指導」と解釈してください。

「知的障害」はもっとも数の多い障害といえると思います。もし将来障害児・者関係の仕事をするとしたら、知的障害の子どもや大人を相手にする可能性が高いので、このレポートでしっかり学習してください。長い間「精神薄弱」とよばれ、その後「精神遅滞」とよばれるようになり、最近は「知的障害」が使われることが多くなりましたが、この呼称の変遷は、「障害」ということを理解する上でも興味深いことだと思われまます。

このレポートの中心はあくまで③と④であることに注意してください。

3単位め アドバイス

この課題は、「発達障害」というものについての理解を深めるために設定したものです。障害児教育の歴史を見てみると、障害児（特に知的障害児）が「教育可能」「訓練可能」などと分類された時代があり、ある程度以上重い障害児は教育の対象になっていなかった時期がありました。その後、1979（昭和54）年に「障害児の全員就学」が実現し、重い障害の子どもにも教育の光が当たるようになりました。そして、現在は、通常学級に在籍するLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害などの発達障害をもつ子どもたちの教育をどうするかということが課題になってきています。こういう状況を受けて、ここでは、そういう「発達障害児」についての学習を進めることが課題です。

具体的には、上記のLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害のそれぞれについて、①定義、②そのような障害が起きる原因、③主な特徴（症状）、④基本的な教育（指導）のあり方の4点をレポートしてください。この課題は、「第7章」「第8章」「第9章」を読んでまとめるという作業になります。大体的内容は教科書で間に合うはずですが、教科書以外にも手を広げて、充実した内容にしてください。

他のレポートについても同じですが、あなたがたは、レポートを書くことによってそのことについての理解を深めるということが目標なので、自分で書いたレポートの中に専門用語など、言葉としては知っていても意味の理解が不十分な単語や言い回しが出てきたら、それについて[注]をつけて解説することやってみてください。そうすれば、何よりも自分にとってわかりやすいレポートになります。

●参考——発達障害の定義・診断基準の1つ = DSM-5の変更

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」（ディーエスエム）と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）として発表されました。教科書には掲載されていませんので、ここで補足しておきます。

DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム（障害）」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

また、「自閉症スペクトラム（障害）」の診断は「社会的コミュニケーション」と「限定した興味と反復行動」の2つから判定され、「アスペルガー障害」「小児崩壊性障害」などの下位分類がDSM-5からはなくなっています。

もちろん「広汎性発達障害」や「アスペルガー障害」の呼び方がなくなるわけではありません。また、このような変更が今後、教育分野でも採用されていくのか現状ではわかりませんが、今後、発達障害の診断とそれともなうかわり方について、引き続き学習を深めていってください。

4単位め アドバイス

この課題では、障害のある子どもをもつ家庭への支援のあり方について学習します。テーマの中心は「支援のあり方」ですが、適切な支援をおこなうためには、そのような家庭についての確に理解しておく必要があります。したがって、まず、「11章」の内容から「家族関係」というものについての基本的な理解をして、それに基づいて「12章」前半の「家族の心理」を論じ、最後に「支援のあり方」を考えるとという内容になると思われます。

受講生の中には、さまざまな立場で、障害児をもつ家庭への支援に携わっている方もいると思われます。的確な支援を行うためには、障害の理解、発達の理解と並んで、この支援のあり方について考えおよび支援のスキルが問題になります。この課題は、支援についての考えを問うものですが、他の文献も参考にして、支援スキルにまで言及することが望まれます。「支援」という言葉に含まれる意味はかなり広いと思われますが、ここでは、家庭あるいは家族に直接支援するということを前提に内容を考えてください。つまり、あなたが、直接相談を受けるとか親を指導する立場であるとか、あるいは、育児カウンセラー的な立場であるとか、そういうことを想定してレポートをまとめてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 応用問題はありせん。教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。
- 3) 教科書に書いてあることの中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）がしっかりと書けているかどうか採点のポイントになります。キーワードを覚えましょう。

感情・人格心理学

2018～

科目コード

FF3550



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	皆川 州正

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 182「人格心理学」(科目コード：FF2511・FF2528、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

心理学は、行動の説明と予測、適応や成長、自己実現などを目的としています。日本神話の素戔鳴尊(スサノオノミコト)は、高天原で、乱行を続けます。なぜでしょうか。そして、天照大神は乱行が続くことを予測し、天岩戸に引き籠もりました。素戔鳴尊は髪の毛も爪も切り落とされ、惨めな姿で高天原を追放されました。誰にも相手にされない中、大気津比売神(オオゲツヒメノカミ)がご馳走します。ところが、素戔鳴尊は、短気を起こし、大気津比売神を斬り殺してしまいます。素戔鳴尊は、ただ一人やさしくしてくれた大気津比売神を思ひだし、涙を流して後悔します。そのとき、大気津比売神の目から稲が育ち、黄色く実ります。粗暴だった素戔鳴尊には優しさで知恵が備わりました(成長)。その後、八岐大蛇を退治し、奇稲田姫と結ばれ、草薙剣を手にし、天照大神に献上します(自己実現)。

素戔鳴尊の行動は短気という感情によって影響され、その感情は大気津比売神への認知によって変わりました。そこで、人格理解の基礎となる認知と感情と行動の関係、心理学における人格の概念、人格の発達や変化、人格に関するさまざまな理論(類型論、特性論など)を学びます。

■到達目標

- 1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。
- 2) 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。
- 3) 人格の概念及び形成過程について説明できる。
- 4) 人格の類型、特性等について概説できる。

■教科書(教科書2)は「福祉心理学」と共通

- 1) 岡田斉編『社会福祉士シリーズ2 心理学理論と心理的支援 第3版』(第9章の1・2、第3章など) 弘文堂、2018年(第3版でなくても可)
- 2) 小松紘・木村進編『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』(第3部第1章第2節、第2章など) 八千代出版、2009年

(最近の教科書変更時期) 2018年4月

※教科書2)は「福祉心理学」で配本のため、この科目では教科書1)のみ配本いたします。

(スクーリング時の教科書)

上記教科書1)『心理学理論と心理的支援』は必ず所持ください。

■履修登録条件

この科目は「福祉心理学」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

加藤孝義著『パーソナリティ心理学—自分を知る・他者を知る』新曜社、2001年

河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館、1967年(※ユングの類型論について詳しい)

前田重治著『図説 臨床精神分析学』誠信書房、1985年

諸富祥彦著『カール・ロジャーズ入門—自分が“自分”になるということ』コスモスライブラリー、1997年

諸富祥彦『自己成長の心理学—人間性/トランスパーソナル心理学入門』コスモスライブラリー、2009年

A. H. マズロー著 小口忠彦訳『人間性の心理学—モチベーションとパーソナリティ』(改訂新版)産能大出版部、1987年

A. H. マズロー著 上田吉一訳『完全なる人間—魂のめざすもの』(第2版)誠信書房、1998年

本明寛他編『性格心理学新講座』全6巻、金子書房、1989~1990年(「性格の理論」「性格形成」「適応と不適応」「性格の理解」「カウンセリングと心理治療」「ケース研究」)

大淵憲一・堀毛一也著『パーソナリティと対人行動』誠信書房、1996年

小川捷之・詫摩武俊・三好暁光編『パーソナリティ』(臨床心理学大系第2巻)金子書房、1990年(※自我・自己、人格の障害について詳しい)

小野直広編『生徒指導』(新教育心理学体系3)中央法規出版、1993年(※人格の理解の方法について詳しい)

M. セリグマン著 山村宜子訳『オブティミストはなぜ成功するか』講談社、1994年

島井哲志編『健康心理学』(現代心理学シリーズ15)培風館、1997年

清水弘司著『はじめてふれる性格心理学』(ライブラリ心の世界を学ぶ3)サイエンス社、1998年

杉山憲司・堀毛一也編『性格研究の技法』福村出版、1999年

瀧本孝雄著『性格のタイプ—自己と他者を知るための11のタイプ論』サイエンス社、2000年

詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版、1988年

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊編『性格心理学への招待（改訂版）—自分を知り他者を理解するために』サイエンス社、2003年

詫摩武俊・鈴木乙史・清水弘司・松井豊編『人間と性格』シリーズ全 8 巻、ブレーン出版、1999～2001年（「性格の理論」「性格の発達」「性格と対人関係」「性格の変容と文化」「性格研究の広がり」「性格の測定と評価」「性格の不適応」「性格の病理」）

丹野義彦著『性格の心理—ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』サイエンス社、2003年

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子著『グラフィック性格心理学』サイエンス社、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学は、個人や集団の理解、行動の予測、適応や成長の援助などを目的としています。とりわけ、人格心理学は、その人らしさをどう理解するのか、そしてその人の行動をどの程度予測することができるのか、その人らしさの強みを活かし、弱みを補って適応や成長を図るにはどうしたらよいかのかが問われているでしょう。また、そのためにさまざまな見方や理論が展開されています。そのような問題意識をもって学んでほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人格・性格・気質とは	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違い、研究の課題と臨床における応用について学ぶ。
2	クレッチマーのタイプ論、ユングのタイプ論	タイプ論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的なタイプ論として、クレッチマーの類型論とユングの類型論を取り上げて、その考え方と応用について学ぶ。
3	タイプA・C、アイゼンクのタイプ論	人格と健康の関連として、タイプAとタイプC、アイゼンクのタイプ論について学ぶ。
4	キャッテルとアイゼンクの特性論、特性5因子モデル	特性論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的な特性論として、キャッテルとアイゼンクの特性論、特性5因子モデルを取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
5	状況論・相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人—状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について学ぶ。人の行動に影響を及ぼしている状況の力やナラティブ（物語）についても学ぶ。
6	フロイトの力動論	代表的な力動的構造論として、フロイトの精神分析理論を取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
7	アドラー心理学、ユング心理学、アサジョーリの精神統合理論	無意識について、フロイトとは異なる視点からとらえたフロイトの弟子たちの考え方とその応用について学ぶ。

8	総括と質疑応答	これまでの人格理論について総括し、補足する。質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。途中、人格理解のためのワークも行います。教科書と視聴覚教材も適宜使用します。

■スクーリング 評価基準

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います（持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書1）の第3章と教科書2）の第3部第2章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	人格の定義	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違いについて学ぶ。	日常生活で用いている「人格」の意味と心理学で用いている「人格」の意味の違いについて考えてみましょう。
2	感情に関する理論及び感情喚起の機序	感情に関する理論（ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、シャクターの理論など）、感情がどのようにして喚起されるのかについて学ぶ。	「悲しいから泣く」「泣くから悲しい」「笑顔を見ると幸せな気持ちになる」。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
3	感情が行動に及ぼす影響	感情（抑うつ、怒り、高ぶりなど）が行動に及ぼす影響について学ぶ。	抑うつではやる気が出ず、怒りから事故や事件になることもあります。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
4	類型論	類型論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、クレッチマーの類型論とシェルドンによる研究、ユングの類型論、その他の類型論について学ぶ。	クレッチマーの着想は臨床経験から、ユングの着想はフロイトとアドラーの見方の違いがどこからくるのかと考える中で生まれました。理論が生まれた背景のエピソードにも目を向けるとよいでしょう。自分自身の類型について考えてみましょう。
5	特性論	特性論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、キャッテルとアイゼンクの研究、特性5因子モデルについて学ぶ。	人格特性はオルポートによって提唱されました。オルポートはフロイトのもとを訪れ、失望したことから、新たな理論が作られました。特性論は因子分析という統計的手法によって発展し、今日盛んとなっている質問紙法の人格検査をもたらしました。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	状況論と相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人-状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について理解する。	ミッシェルは、平和部隊としてナイジェリアに派遣される若者達の派遣後の適応などをロールシャッハ・テストや特性質問紙人格検査によって予測しましたが、結果は思わしくありませんでした。そのことから、人格の定義そのものに疑問を投げかけました。
7	力動的構造論	力動的構造論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、レヴィンの場の理論、フロイトの精神分析理論、ユング心理学、アドラー心理学、アサジョーリによる精神統合理論について学ぶ。	力動とは、2つの力のぶつかり合いを意味します。そこで、まず、その人が心の中でどのような葛藤をいだいているのか、考えてみましょう。
8	交流分析理論	交流分析における自我状態の構造分析、脚本分析（禁止令とドライバー）、交流パターン分析、ゲーム分析、ストローク理論、基本的構え、時間の構造化などについて学ぶ。	交流分析では、自律的な人間をめざし、そのためには「気づき」「自発性」「親密性」の要素を高めることが必要と考えています。交流分析によって、気づき、自発性、親密性がどのように高められるのかを考えてみましょう。
9	人間性心理学	代表的な理論として、マズローの欲求階層説と自己実現論、ロジャーズの自己理論について学ぶ。	人間性心理学が生まれた背景にも目を向けながら学ぶとよいでしょう。そして、自分自身の欲求の段階、経験と自己概念の不一致について考えてみましょう。
10	学習論、認知論	恐怖症、攻撃行動、無気力、社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。認知の個人差が課題解決や社会的感受性、不安や抑うつと関連していることを学ぶ。	自らの認知や行動について自己観察し、認知や行動の変容が生じやすいような工夫を考えてみましょう。
11	自我・自己	自我・自己の概念と分類、自我・自己の形成、自我・自己の機能、自我の強さ（成熟度）について、学ぶ。	自分という意識が行動にどのように影響しているか、自己観察してみましょう。「これでいいんだ」「これも成長のための経験、学ぶ機会」と自己受容してみましょう。
12	自己実現	自己実現・自己超越のとらえ方、自己実現の成長過程、自己実現の留意点について学ぶ。	歴史上の人物や有名人の自己実現について考えてみましょう。 吉田松陰は「私心さえ除き去るならば、進むもよし退くもよし、出るもよし出ざるもよし」といいました。私心について考えてみましょう。
13	人格の形成・発達と変化	人格の形成における遺伝的要因、個体内要因、環境的要因、主体的要因について学ぶ。人格の変化と役割性格の変化について学ぶ。	リンカーンは「40歳を過ぎたら、自分の顔に責任を持たなくてはならない」といいましたが、人格も生涯発達することが可能です。自らの人格形成について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	人格の障害・病理	葛藤と欲求不満、防衛機制について学ぶ。パーソナリティ障害について、症状やタイプの違いについて学ぶ。	問題行動の背後にある葛藤や欲求不満について考えてみましょう。パーソナリティ障害はパーソナリティの偏りを意味します。タイプごとに歴史上の人物や有名人を考えてみましょう。
15	人格と健康との関連	タイプAとタイプC、H因子とD因子、うつ病親和性性格、ハーディネスとレジリエンシーについて学ぶ。	人格とストレスが相まって健康に影響を及ぼすことが知られています。心疾患になりやすい人、癌になりやすい人、うつ病になりやすい人、ストレスに強い人、ストレスに打ちひしがれても回復する人について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

教科書1)の第3章の2のD(力動的構造からみる)と第11章の1のA(精神分析と分析心理学)あるいは第11章の1のE(交流分析)をよく読んで取り組んでください。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもあります。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などをとりあげて理解を試みてください。そして、教科書を参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解が一番のポイントになる。また、キーワードの記載、記述の分量(1問あたり400~1,200字程度)も評価の対象となる。

人格心理学

～2017

科目コード

FF2511・
FF2528



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	皆川 州正

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 176「感情・人格心理学」(科目コード：FF3550、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 176「感情・人格心理学」(科目コード：FF3550)を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

※科目コード FF2511 2017年までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)
FF2528 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。
4 単位め	人格諸理論の視点から自己分析を試みて、その感想とコメントを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題での提出は2017年9月で提出を締め切りました。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月より1・2単位めのレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

人格の研究方法として、伝記・日誌法、フィールドワーク、実験法、自然観察法、面接法、観察法(客観的評価法)、尺度・質問紙法、投影法などがあります。人格について理解を深める際も、単に知識として学ぶだけでなく、人格の研究法を参考に実際の日常生活場面での人格にアプローチして考えていくことが望まれます。その際、認知と感情と行動の関係及び他人の性格に対する私たちのとらえ方の癖や歪み

(寛大化傾向、中心化傾向、接誤差、対比誤差、年功誤差、ハロ一効果、論理的誤謬、傾性帰属傾向など)についてよく知っておくことが大切です。前者については、テキスト1)の第9章の1のAの情緒の障害及び2の情動を、後者についてはテキスト1)の第5章の1のBの[1]の(1)帰属と(2)印象形成も参照してください。また、あいまいな状況では、評価者の善悪の価値・期待・願い・恐れ・不安なども無意識に投影されて理解されがちです。

テキスト1)の第3章の2では、人格のさまざまなとらえ方について述べてありますので、よく読んで、その背後にある人間観の違いについても考えてみてください。

レポートの作成にあたっては、テキストをよく読んで、その内容をよく理解してください。その際、①知識の理解、②具体的な場面での理解、③テキストの執筆者の見方や意図の理解、④家庭・仕事・教育・臨床などの場面での応用を心がけるとよいでしょう。また、知識の理解に際しても、心理学的な見方や考え方に目を向け、理論や学説が生まれた経緯や背景も考えながら読み進めるとよいでしょう。さらに、テキストだけでなく、各自でいろいろ調べて深めてください(3単位め課題については、テキスト以外に少なくとも2冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください)。

※以下、このアドバイス欄であげたテキストの章立てで指示のないものは教科書1)のもので。

1・2単位め アドバイス

教科書1)2)をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め アドバイス

テキストの第3章の2のD(力動的構造からみる)と第11章の1のA(精神分析と分析心理学)あるいは第11章の1のE(交流分析)をよく読んで取り組んでください。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもありません。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などをとりあげて理解を試みてください。そして、テキストを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

4単位め アドバイス

人間の目は前についていて外を向いています。ある人は、このことから、自分を振り返り、自分の内に目を向ける人は少ないといえます。また、ソクラテスは「汝自身を知れ」といい、己の無知さをまず知ることを説きました。他方、インドには、ソクラテスを訪ねた修行者が「あなたの哲学は何か」と問うたところ、ソクラテスは「自分自身を知ること」と答えたので、その修行者は「人間の本質を知らずして自分自身を知るなんて不可能」と思い、早々に帰ってきたという話が伝わっているそうです。それほど自分自身を知ることは難しいものです。

自分自身を知ることが難しい理由を心理学的にみた場合に、防衛機制と自我関与の働きがあります(加藤、2001)。自己分析に際して、防衛機制が働くと、知的に理解することで無意識に自分の感情に直面することを避けたり、○○だから仕方がないとあきらめたりするようになります。また、自我関与が働くと、自分のことだけを考えて、相手がどんな気持ちでいるかをなかなか考えられなくなったり、考えても自分の都合のいいように考えてしまったりします。そうすると、自分の感情(葛藤する感情や隠れた動機

など)を見つめること、相手の気持ちに目を向け、相手の気持ちにそって考えることで自己分析の幅も広がるでしょう。

自己分析を行う際には、まずテーマをしぼります。最近イヤなこと、恥ずかしかったこと、癪に障ったこと、ガックリきたこと、あわてたことなどを思い出して、焦点をしぼって、そのときの自分の気持ちや動機について分析を行います(加藤、2001)。また、相手や周囲がどんな気持ちでいたか、自分の言動によってどんな気持ちになったかを考えます。

次に人格諸理論の視点から自己分析を行います。テキストの第3章だけでなく、第11章も読むと役立つと思います。以下に要点を述べますので、参考にしてください。

- (1) 類型論：自分の類型について知るとともに、相手の類型の良さを生かせる状況作りを図ったかどうか、相手の類型の短所を補うように助けたかどうかを振り返ります。
- (2) 特性論：自分の特性や相手の特性の病理的特徴を一般的特徴に言いかえてみます(たとえば、「臆病な人」は「とても控えめな人」というと印象が変わる)。そして、その特性を認め、その特性を十分にさせる状況や新たな行動の付加を考えてみます(たとえば、立食パーティでは大いに控えめにしているので、周囲をよく観察してコップや料理の皿が空になっている人にはそっとビールをついだり料理を届けたりするなど)。
- (3) 力動的構造論：精神分析理論によれば、現実生活での外傷的体験やストレスを振り返るとともにそれ以前(主に子どもの頃)に性的(愛情・依存)欲求や攻撃欲求などで葛藤し、抑圧してこなかったかどうかを振り返り、抑圧してきた欲求を社会的に認められる形で満たす方法を考えます。ユング心理学によれば、症状や問題行動を無意識の補償作用や個性化の過程としてとらえ直し、生き方を変えていきます。個人心理学によれば、問題行動を通して自分は本当には何を望んでいるのか(行動の目的)を振り返り、問題行動以外で目的を達するやり方を考えます。交流分析理論(p. 40、p. 186~189)によれば、自我状態をとらえ、高い自我状態での行動に偏っていないかどうかを振り返り、低い自我状態を高めるようにします。また、自分が繰り返しやすいゲームのパターンや人生脚本に気づき、ゲームからの脱却や再決断を行います。
- (4) 学習理論：自分の問題行動について先行する手がかり刺激や強化について振り返ります。そして、段階的に目標行動に向かうことや目標行動の誘導の工夫(マークをつける、自己会話(「落ち着け」など)をするなど)、社会的スキルの訓練、役割遂行や自己選択による自己効力感の向上、セルフ・モニタリング(自ら毎日測定記録をつける)などを図ります。
- (5) 人間性心理学：自己概念を振り返り、経験していること(自分の感情や欲求など)に目を向けるようにします。
- (6) 認知論：認知スタイルや認知の歪みについて振り返り、別の考え方や取り組みを図ります。

なお、第3章のジェネリックポイントの人生の意味の探究や自分についての物語、第11章の1のDの[3]のソリューション・トークも、新たな視点や問題行動と偽解決の悪循環パターンから抜け出すヒントを与えてくれるので、参照してください。

レポートでは、複数的人格理論の視点を取りあげて考察してください。

心理的アセスメントⅠ

2018～

科目コード

FF3553



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	渡部 純夫

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 191「心理アセスメント」(科目コード：FF2519)を参照してください。

※この科目の仙台会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度は開講しません(次回開講予定は2019年度)

※オンデマンド・スクーリングと新潟会場でのビデオ・スクーリングは2018年度開講します。

科目の概要

■科目の内容

悩みを抱えているクライアントに心理的援助を行おうとするとき、クライアントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライアントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライアントへの接近を試みることになります。そのとき大事なことは、クライアントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うことになります。

■到達目標

- 1) 心理面における正常・異常の違いについて説明できる。
- 2) 心理アセスメントの3本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。
- 3) アセスメントにおいて、倫理面を十分に配慮した報告書を書き、報告することができる。

■教科書

日本健康心理学会編『健康心理アセスメント概論』実務教育出版、2002年
(スクーリング時の教科書)教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 鈴木睦夫著『TATの世界』誠信書房、1997年
鈴木睦夫著『TATパーソナリティ』誠信書房、2000年
成瀬悟策著『動作療法』誠信書房、2000年
村瀬嘉代子著『心理療法のかんどころ』金剛出版、1998年
片岡安史著『改訂 新・心理診断法』金子書房、1987年
河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店、1992年
岡堂哲雄著『心理テスト』講談社現代新書、1994年
藤掛明著『描画テスト・描画療法入門』金剛出版、1999年
岡堂哲雄編集『心理査定プラクティス』（現代のエスプリ別冊）至文堂、1998年
C・コッホ著『バウム・テスト』日本文化科学社、1970年
野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
下山晴彦・松澤広和編『実践心理アセスメント』日本評論社、2008年
村上宣寛・村上千恵子著『臨床心理アセスメントハンドブック [改訂版]』北大路書房、2008年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理アセスメント」では、臨床心理学的視点から、対象となるクライアントをどのようなことに注意を払って捉えていくのかを話していきます。そのためには、「正常と異常」の捉え方や、心理学モデルからの見立て、さらには言語的・非言語的な面からの評価をどうすればよいか、身につける必要があります。講義では、日ごろの人との接し方を思い起こしながら、学んでほしいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	正常と異常の判断方法	平均的規準、病理的規準、価値的規準、民俗的規準、発達の規準
2	心理臨床家の視点	身体と心理、問題の捉え方、社会的視点、病理の捉え方
3	アセスメント①	面接法のポイント
4	アセスメント②	観察法のポイント
5	アセスメント③	検査法のポイント
6	アセスメントと見立て	問題の心理的テーマのほり下げ方

7	アセスメントと目標	短期目標・長期目標
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

資料は用いずに、アセスメントの考え方をわかりやすく伝えていきたいと思います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

試験では、アセスメントの基本について問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「面接法」「観察法」「検査法」についての内容を、教科書を中心に調べ、自分が他人を評価するときの特徴についてまとめてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	アセスメントの意義と役割 (第1章)	健康心理アセスメントとは、アセスメントの意義と役割 キーワード：情報性、弁別性、刺激性・治療性、科学性・客観性 など	アセスメントのもっとも重要なポイントとアセスメントとは何かを理解する。その上で、4つの意義と役割について学ぶ。
2	アセスメントのターゲット① (第2章)	健康心理学の目標と活動分野・活動領域とアセスメント キーワード：健康科学、心理学、生物心理社会的視点、生涯発達心理学的視点	アセスメントを行うための視点について、領域ごとに必要な条件を理解し、深く洞察する。
3	アセスメントのターゲット② (第2章)	医療・職場場面におけるアセスメントターゲットの概略、女性の健康心理学 キーワード：医療、職場、女性	実際の場面におけるアセスメントの事例を踏まえ、社会生活における他の場面への応用についても考えてみる。
4	アセスメントの方法 (第3章)	面接法、観察法、質問紙法、検査法、心理生理学的測定、調査 キーワード：構造化面接、行動観察、知能検査・適性検査、人格検査	アセスメントの方法で重要な「面接法」「観察法」「検査法」等について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	アセスメント法の必要条件 (第4章)	信頼性、妥当性、基準(標準化)、実用性(費用対効果) キーワード: 内容的妥当性、構成概念妥当性	アセスメントを行うにあたって「信頼性」「妥当性」の必要条件を理解し、深く洞察する。
6	アセスメントの留意点 (第5章)	心理アセスメントの展開と健康心理学、選択およびバッテリー構成上の留意点、実施上の留意点、採点上の留意点、解釈・評価・診断上の留意点 キーワード: 生活習慣の健康、一般性など	「アセスメント」を行うにあたって、実的な留意点について深く理解する。
7	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用① (第6章)	パーソナリティ、健康度・健康観 キーワード: 直接的アセスメント、間接的アセスメント など	「アセスメント」において、人間の全体性を意味する「パーソナリティ」とのつながりについて深く理解する。
8	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用② (第6章)	QOL、タイプA キーワード: QOL、タイプA行動パターン、虚血性心疾患	「生活の質」や「人生の質」について、「アセスメント」をどのように活用するか学び、日本人の性格特性である「タイプA」との関係も考える。
9	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用① (第7章)	ストレッサー、ストレスコーピング、バーンアウト キーワード: セリエ、ラザルス、ストレッサーなど	「ストレス」に伴う関連要素について、その意味や使い方について考える。
10	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用② (第7章)	不安・怒り・神経症傾向、気分(抑うつ、など) 「痛み」の測定 キーワード: 神経症、気分障害、痛み	「ストレス」と連動して問題化する、「不安や怒り」「抑うつ」「痛み」などについて理解する。
11	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用① (第8章)	ライフスタイル,食行動 キーワード: 生活習慣、食行動	人間の「ライフスタイル」や「食行動」をどのようにアセスメントするか考える。
12	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用② (第8章)	リスク行動 キーワード: リスク要因、リスク行動	日常生活を営むにあたって「リスク」をどのように考え、どうかかわるかについて、「アセスメント」するための方法について考える。
13	「社会関係」のアセスメントの種類と活用① (第9章)	ソーシャル・サポート、人間関係 キーワード: ソーシャル・サポート、介入、愛情	「ストレス」軽減のために有効である、「ソーシャル・サポート」「人間関係」の「アセスメント」について学ぶ。
14	「社会関係」のアセスメントの種類と活用② (第9章)	社会的スキル キーワード: 不適応、社会性、自我	「社会適応」するためのスキルをどのように見つけることができるかについて「アセスメント」のあり方について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	アセスメントにおける倫理的諸問題(第10章)	問題と課題 キーワード：倫理違反、問題点	「アセスメント」を行うにあたって、「倫理的配慮」が必要になる。「アセスメント」と「倫理」の関係について深く学ぶ。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	クライアントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」を的確に活用し、クライアントの人格像が見えるように整理しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

クライアントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の3つの方法について学習を深めていき、総合的なクライアント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント(=検査法)も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせさせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライアントのパーソナリティの問題をあげることができません。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることにより、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

- (1) テキスト『健康心理アセスメント概論』の第1章・第2章・第3章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性和意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができれば、アセスメントの方法に進んでください。
- (2) アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせ

て学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。

- (3) それらを、実際の場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) アセスメントの意義を体系的に理解しているか。
- 2) 心理テストの内容を学習しているか。
- 3) アセスメントの応用ができるか。
- 4) 現代社会の心理的問題の背景に対し自分の考えを持っているか。
- 5) 対象としてのクライアントが見えているか。

心理アセスメント

～2017

科目コード

FF2519



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	渡部 純夫

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p.185「心理的アセスメントⅠ」（科目コード：FF3553）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.185「心理的アセスメントⅠ」（科目コード：FF3553）を参照してください。

■レポート課題

1 単位め	クライアントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」を的確に活用し、クライアントの人格像が見えるように整理しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

クライアントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の3つの方法について学習を深めていき、総合的なクライアント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント（＝検査法）も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせさせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライアントのパーソナリティの問題をあげることができます。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることにより、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

1単位め
アドバイス

- (1) テキスト『健康心理アセスメント概論』の第1章・第2章・第3章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性和意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができれば、アセスメントの方法に進んでください。
- (2) アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせて学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。
- (3) それらを、実際的な場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

ライフサイクルと福祉心理学

科目コード

FF2522



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	渡部 純夫

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2018・2019年度開講予定です。

■スクーリング受講にあたっての留意事項

事前に「福祉心理学」のスクーリングを受講するか、またはレポートを提出してから受講されることをお奨めします。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き様や家族のことを考えながら学んでいただきたいと思います。

■到達目標

- 1) エリクソン心理社会的発達 の 8 段階が正確に説明できる。
- 2) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。
- 3) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	家族における発達の視点からの人格形成を理解する	エリクソンの心理社会的発達の8段階の特徴と意味について発達プロセスの時間軸をもとに学ぶ。
2	家族と福祉を結ぶもの	家族の中で起こる問題のメカニズムと、なぜ福祉的援助が必要かについて学ぶ。
3	親子関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	親子関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
4	夫婦関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	夫婦関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
5	兄弟姉妹関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	兄弟姉妹関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。

6	乳幼児の問題と福祉心理学的アプローチ	虐待や児童の福祉について学ぶ
7	児童の問題と福祉心理学的アプローチ	いじめ・不登校などの問題について学ぶ。
8	思春期・青年期の問題と福祉心理学的アプローチ	自立と大人になることなどの問題について学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

重要な点は板書しますが、口頭にて説明を行っていきます。

自分で大事だと思われる点はノートにまとめてください。

可能であればロールプレイを入れます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（ノートのみ持込可）。試験では、特に到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書第3章、第4章、第5章、第10章を読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版

今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい

石隅利紀・藤生英行・田中輝美編『生涯発達の中のカウンセリングⅡ 子どもと学校を援助するカウンセリング』サイエンス社

小俣和義編著『こころのケアの基本』北樹出版

臨床心理学

～2017

科目コード

FF3503



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	清水 めぐみ

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度のスクーリング受講者までスクーリング単位2単位(12コマ)ですが、2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

科目の概要

■科目の内容

臨床心理学 (clinical psychology) の「臨床」という語は、ギリシャ語の「寝台(クリネー)」から生じた語といわれています。かの時代に僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手を差し伸べ、魂の世話をしたことに由来すると見る人もいます。魂の世話(卑近なことばでいえば心のケア)が必要なのは、何も死を目前にしている人たちだけではないと現代では考えられています。人はだれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときに、その人が自分らしい未知を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。まずは、臨床心理学が何であるのかを概観してみましよう。この段階で、教科書の後半にある現代におけるさまざまな領域での心理援助の実践を知り、現在に至る臨床心理学の成り立ちを俯瞰して、臨床心理学の成り立ちについて学びます。

ところで、では心理学的な援助はどのように提供することができるのでしょうか。どんな人にどんな援助が適切かを見極めることも必要です。とすると、相手について理解しようとするのが不可欠ですから、次に、そのための「臨床心理アセスメント」について学びます。そして、19世紀以降発展してきた臨床心理学の理論を学ぶことで、心理学的な援助の礎となる考え方を概観します。これらを通じて、自分自身を理解しようとする姿勢を培い、自分の心を通じて他者を理解していこうとすることについて、理解を深めていきます。

■到達目標

- 1) 臨床心理学の成り立ちについて、説明することができる。
- 2) 臨床心理学の代表的な理論を説明することができる。

■教科書

杉江 征・青木佐奈枝編『スタンダード 臨床心理学』サイエンス社、2015年
(最近の教科書変更時期) 2017年4月
(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

※2018年度のスクーリングまでは、以前の教科書『心理臨床の基礎と実践』（樹村房）の所持でも可とします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」と「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価or科目修了試験70%

■参考図書

- 1) 伊藤良子編著『臨床心理学－全体的存在として人間を理解する』ミネルヴァ書房、2009年
- 2) カーン著（妙木浩之監訳）『ペイシック・フロイト』岩崎学術出版社、2017年
- 3) 沼 初枝著『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2010年
- 4) 山上敏子・下山晴彦『山上敏子の行動療法講義with東大・下山研究室』金剛出版、2010年

■受講上の注意

臨床心理学は心理学の応用分野の科目です。心理学の基礎的な理論を十分に消化してから受講してください。

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「臨床心理学」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「福祉心理学」「心理学概論」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからの受講をお奨めいたします。そのため、4月新入生が入学後すぐの5月のスクーリングを受講することをご遠慮ください。

■スクーリングで学んでほしいこと

心理臨床の実践では、他者と場を共有することであらゆる感覚を駆使し、そこで伝達されるものが重視されます。スクーリングでは、あらゆる感覚を駆使して臨床心理学のさまざまな方法論や理論を学ぶことはもちろんのこと、自分の心を通じて他者を理解しようすることがどのようなことであるのか体得するための糸口をつかむ機会としていただきたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	臨床心理学とは	自分のこととしての臨床心理学

2	心理臨床活動の実際①	教育・子育て領域における心理支援
3	心理臨床活動の実際②	医療領域における心理支援
4	「無意識」ということ①	精神分析
5	「無意識」ということ②	分析心理学
6	精神力動的発達理論	精神分析的な発達とこころの動き
7	行動論・認知論	学習理論、行動理論、認知論
8	人間性心理学	クライアント中心療法
9	心理アセスメント①	心理アセスメントの概要
10	心理アセスメント②	心理検査
11	援助専門家の力	援助に際しての「善意」の功罪
12	質疑応答	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。また、教科書を参照します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング初日に試験問題を提示します。講義で得たことを消化して自分のことばで記述することを評価します。(持込不可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

教科書を概読し、講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを思い描いてきてください。

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：20～25時間)

スクーリング受講後速やかにレポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	臨床心理学とは (第1章 1・1、 1・2)	臨床心理学とは何であるのか。成り立ちと展開から概観し、理解する。	臨床心理学とはどのような学問であるのかを理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	臨床心理学の研究法（第1章 1・3、1・4）	臨床心理学の研究法・方法論と臨床心理学に包含される心理学について知り、理解する。	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。
3	臨床心理アセスメント（第2章）	臨床心理アセスメントの方法と視点を概観し、理解する。	臨床心理アセスメントとはどのような営為であるのかを理解する。
4	心理検査法（第3章）	臨床心理アセスメントのうち特に心理検査法について概観し、その使用に際しての留意点も含めて理解する。	心理検査法の成り立ち、種類、使用に際しての注意点を把握する。
5	精神分析・力動論（フロイト）（第4章）	力動的な観点から心を理解するための概念について概観し、理解する。	フロイトに先んじる思想、フロイトの理論、フロイト後の展開を把握する。
6	行動論・認知論（第5章）	いわゆる心理学的な理論から展開した、行動の変容のための理論と方法を概観し、理解する。	学習理論から認知療法への展開を理解し、さまざまな方法の背景にある理論を把握する。
7	人間性心理療法・来談者中心療法（第6章）	来談者中心療法の成り立ちとその人間観と理論を概観し、その後の展開も含めて理解する。	来談者中心療法について知り、その方法を学ぶ。
8	催眠とそこから生まれた療法（第7章）	心理療法の源流としての催眠について概観し、催眠から発展した方法を知り、理解する。	催眠の歴史と展開について、歴史的な視点から学ぶ。
9	多様な心理療法（第8章）	第5回から第8回までで触れられなかった心理療法のいくつかについて学び、理解する。	対人関係をキーワードとして、多様な心理療法について知る。
10	教育・子育て領域における心理支援（第9章）	教育・子育ての領域における心理支援について、その領域の特徴を踏まえた方法を知り、理解する。	心理支援における周辺環境との関わり方の視点を持ち、支援の特徴を知る。
11	医療領域における心理支援（第10章）	医療領域における心理支援の実際について知り、その活動内容を概観し理解する。	チームにおける専門家としての位置づけと技能、チームワークについて知る。
12	産業・司法領域における心理支援（第11章）	産業領域、司法領域それぞれの心理支援の実際について知り、この領域における臨床心理学の役割について理解する。	他職種との連携における心理支援の課題について考え、心理支援活動の倫理について理解する。
13	臨床心理領域の知識と活用（第12章）	臨床心理学に関連する学際領域のいくつかを知る。特に、倫理について考え、理解する。	臨床心理学に関わる法律のいくつかの事項を知り、特に倫理面について把握する。
14	まとめ① 臨床心理学とライフサイクル	臨床心理アセスメントと心理療法のつながりを知り、理解する。	臨床心理アセスメントと心理療法の基盤をなす人間理解の理論とのつながりを理解する。
15	まとめ② 心理臨床の実践領域	各実践領域に共通する課題と問題点を挙げ、心理臨床における留意点を理解する。	実際の心理支援における姿勢を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	「(心理的) アセスメント」とは何であるかを記述したうえで、その主たる3つの方法を挙げ、それぞれについて説明してください。また、医療領域における心理アセスメントにおいて、心理検査が使われる状況をひとつ想定し、その際に使用する心理検査を心理アセスメントの目的に合わせて選択し、それを選択した理由を述べよ。
4 単位め	会議を「はじめます」と言うべきところを「おわります」と言ってしまった場面を想定し、精神分析の第一局所論に基づき「意識」と「無意識」の二語を使用し、加えてここで作用している防衛機制についても言及しつつ、このような言い間違いが生じた心の動きを説明してください。さらに、会議中に眠気に襲われた場面を想定し、精神分析の第二局所論(構造論)に基づき「自我」「エス」「超自我」のそれぞれの動きを説明し、この状況に折り合いがつくまでの過程を記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

出典の明示なく教科書からの抜粋を記述しているものは、剽窃とみなされ、評価の対象になりません。引用する際には、ルールに則って記述し、必ず出典を明示してください。

まず、教科書全体にひととおり目をとおり、次いでレポート作成に必要と考えられる部分をよく読んでください。一つのレポート作成に教科書の複数の部分に関連しますので、全体を概観することが重要になります。「自分の」レポートを作成するために、教科書以外の複数の文献にあたって、教科書の記述を確認したり、新たな視点や考え方を得た上で、課題で求められている点をもらさずに、自分のことばで記述してください。

1.2単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め アドバイス

心理アセスメントについて、全体像を把握します。さらに医療領域における心理アセスメントについて、具体例を想定し、特に心理検査の必要な場面について考えます。心理検査の選択にあたっては、各心理検査の特徴を踏まえて、心理アセスメントの目的に合うかを考慮することになります。実際の心理アセスメントにおける心理検査の選択にあたっては、心理検査のどのような特徴からそれを選択したのかだけではなく、クライアントの状態や状況なども考慮する必要があります。

4単位め
アドバイス

精神分析の理論は、日常生活で垣間見られるさまざまなエピソードに反映されている人の心の動きを説明するのに有用です。そんなつもりではないのにやってしまったことを説明するために、第一局所論の観点を、そうするのは好ましくないことをしたくて仕方がないときの対処を説明するために、第二局所論の観点をを用いて、それぞれ心にどのような動きが生じ、どのような過程を経ていくのかを記述しましょう。

■レポート 評価基準

複数の文献にあたって、自分のことばでまとめられたレポートを評価します。教科書以外の文献を参照していない場合や引用や要約の出典が明示されていない場合は再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

臨床心理学を学んだことを通じて、学ぶ前に思い描いていたものとは異なる、実践にあたっての新たな視点や考え方が獲得されているかが問われます。教科書に記載されている学術用語を適宜用いて、正確に論述できているかという観点から評価します。

心理療法

～2017

科目コード

FF3520



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	秋田 恭子

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※12コマのスクーリングは2018年度が最終開講です（2019年度以降は、同一年度に8コマのスクーリングを2回受講する必要があります）。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

科目の概要

■科目の内容

心理療法学は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域ではありますが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。

人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のまとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法学とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法学も多種多様となります。

そこでここでは、心理療法学の基本的枠組みと各種心理療法学の特徴等を学習することを目的とします。

■到達目標

- 1) 代表的な心理療法学並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について説明できる。
- 2) 訪問による支援や地域支援の意義について説明できる。
- 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。
- 4) 倫理および相談者のプライバシーへの配慮について説明できる。
- 5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について解説できる。
- 6) 心の健康教育について説明できる。

■教科書

水島恵一・岡堂哲雄・田畑治編著『カウンセリングを学ぶ（新版）』有斐閣、1987年

※この教科書は名著ですが、発行から年数がたっているため、たとえばp. 59～「大学での養成の問題点」

についての記述は、臨床心理士をはじめとした課程ができていいる現在にはあてはまりません。
(スクーリング時の教科書) レジユメの配付により、教科書は使用しない。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

[第1章から第4章]

- 1) E. H. エリクソン著 西平直・中島由恵訳『アイデンティティとライフサイクル』誠信書房、2011年
- 2) 妙木浩之著『フロイト入門』ちくま新書、2000年
- 3) 河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館、1967年
- 4) 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970年
- 5) 河合隼雄著『コンプレックス』岩波書店、1971年
- 6) 神田久男編 飽田典子・宇田川一夫ほか著『心理臨床の基礎と実践』樹村房、1998年
- 7) 前田重治編『カウンセリング入門』有斐閣選書、1986年
- 8) 鑓幹八郎著『アイデンティティの心理学』講談社、1990年
- 9) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『カウンセリングと心理療法』(ロジャース主要著作①巻) 岩崎学術出版社、2005年
- 10) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『ロジャースが語る自己実現の道』(ロジャース主要著作③巻) 岩崎学術出版社、2005年
- 11) 村瀬孝雄著『フォーカシング事始め——こころとからだにきく方法』金子書房、1996年
- 12) 村瀬孝雄・阿世賀浩一郎「体験過程とフォーカシング」上里一郎・鑓幹八郎・前田重治編著『臨床心理学大系8 心理療法2』金子書房、1999年
- 13) 鑓幹八郎著『心理臨床と倫理・スーパーヴィジョン』ナカニシヤ書店、2004年
- 14) 鈴木晶著『フロイトからユング』日本放送出版協会、1999年

[第5章から第7章]

- 15) 氏原寛・成田義弘共編『臨床心理学①カウンセリングと精神療法』[心理治療] 培風館、1999年
- 16) 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970年
- 17) 瀧本孝雄著『カウンセリングへの招待』サイエンス社、2006年
- 18) 窪内節子・吉武光世共著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003年
- 19) 佐治守夫・飯喜一郎編『ロジャースクライアント中心療法』有斐閣、1988年
- 20) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『クライアント中心療法』(ロジャース主要著作②巻) 岩崎学術出版社、2005年

- 21) 上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編『臨床心理学大系7 心理療法1』金子書房、1990年
- 22) 山上敏子著『方法としての行動療法入門』金剛出版、2007年
- 23) 土居健郎著『新訂 方法としての面接』医学書院、1992年
- 24) 妙木浩之著『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年
- 25) 妙木浩之監訳、秋田恭子・清水めぐみ訳『ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考—』岩崎学術出版社、2017年

[第8章から第10章]

- 26) こころのケアセンター編『災害とトラウマ』みすず書房、1998年
- 27) 西澤哲著『子どものトラウマ』講談社、2003年
- 28) 村山正治著「エンカウンター グループ」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治著『臨床心理学大系8 心理療法2』金子書房、1999年
- 29) 畠瀬稔著『エンカウンター グループと心理的成長』創元社、1990年
- 30) ロジャース、C. R. 著 畠瀬稔・畠瀬直子訳『エンカウンター・グループ』創元社、1982年
- 31) 近藤喬一・鈴木純一編著『集団精神療法ハンドブック』金剛出版、2000年
- 32) ドナ・C. アギュララ著 小松源助・荒川義子翻訳『危機介入の理論と実際——医療・看護・福祉のために』川島書店、1997年

[第11章から第14章]

- 33) 笠原嘉著『青年期』中央公論社、1977年
- 34) 乾吉佑著『思春期・青年期の精神分析的アプローチ 出会いと心理臨床』遠見書房、2009年
- 35) 鍋田恭孝編『思春期臨床の考え方・すすめ方』金剛出版、2007年
- 36) 河合隼雄・岩井寛・福島章著『家族精神療法』金剛出版、1984年
- 37) 団士郎著『不登校の解法 家族のシステムとは何か』文春新書、2000年
- 38) 村山正治・山本和郎編『スクールカウンセラー——その理論と展望』ミネルヴァ書房、1995年
- 39) 栗原和彦著『心理臨床家の個人開業』遠見書房、2011年
- 40) 亀口憲治著『家族療法（心理療法プリマーズ）』ミネルヴァ書房、2006年

(サブテーマ)

- 41) 鈴木龍監訳『まんがサイコセラピーのお話』金剛出版、2013年
- 42) 秋田恭子他訳『サポーター・サイコセラピー入門』岩崎学術出版社、1997年
- 43) 河合隼雄著『箱庭療法入門』誠信書房、1969年
- 44) 吉田弘道・伊藤研一著『遊戯療法——二つのアプローチ』福村出版、2010年
- 45) 森谷寛之著『コラージュ療法実践の手引き その起源からアセスメントまで』金剛出版、2012年
- 46) 岩井寛著『森田療法』講談社現代新書、1986年
- 47) 三木善彦著『内観療法入門』創之社、1976年
- 48) 吉田弘道著『心理相談と子育て支援に役立つ 親面接入門』福村出版、2013年
- 49) 福本修監訳『フロイトを読む—年代順に紐解くフロイト著作』岩崎学術出版社、2013年
- 50) 村上伸治著『現場から考える精神療法—うつ、統合失調症、そして発達障害』日本評論社、2017年

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「心理療法」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「心理学概論」「人格心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「カウンセリングⅠ・Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」のなかから4科目程度以上学習を終えていない方は申込みをご遠慮ください（学習を終えているとは、たとえばSR履修ならば、スクーリング受講済+レポート提出済、R履修ならばレポート提出済+科目修了試験受験済にしておくことが望ましい）。

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な心理療法があり、それぞれの理論的背景、アプローチの違いを習得してほしい。

■講義内容

	テーマ	内容
1)	心理療法の概要と実際①	歴史、精神分析
2)	心理療法の概要と実際②	クライアント中心療法
3)	心理療法の概要と実際③	認知行動療法、ビデオ学習
4)	心理療法の実際	カール・ロジャースの面接のビデオによる学習
5)	心理療法の概要と実際④	箱庭療法、ビデオ学習
6)	心理療法の概要と実際⑤	遊戯療法、ビデオ学習
7)	心理療法のワーク体験①	受講者に実際のワークを体験してもらう
8)	心理療法のワーク体験②	受講者に実際のワークを体験してもらう
9)	心理療法の概要と実際⑥	ワークの振り返り、森田療法、ビデオ学習
10)	心理療法の概要と実際⑦	内観療法、ビデオ学習・サポーターティブ・サイコセラピー
11)	心理療法の概要と実際⑧	倫理について、ビデオ学習、面接の経過
12)	まとめ	レポートについて、心理療法の講義のまとめ
13)	スクーリングの試験	スクーリングを通して学習したことの再確認

■講義の進め方

配付レジュメを用いて講義を進めます。実際の両方場面のビデオを見たり、7・8コマめではグループに分かれてワークを行い、理解を深めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に行うテスト（100%：自筆ノートのみ持込可）。

テストには、スクーリング中に見ていただくカール・ロジャースの面接場面のビデオについての出題が含まれます。そこには、到達目標にある、クライアント中心療法の特徴を捉えた上で、自分自身の見解を

どれぐらい論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書には目を通してきてほしい。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリングの現代的・人間的課題 なぜカウンセリングが求められるのか (第1章)	カウンセリングとはどういうものか、なぜ人はカウンセリングを求めるとのかについての基本的な知識を歴史を踏まえながら学ぶ。	これから学ぶカウンセリングの概要を身につける。
2	カウンセリングの理論的視点 (第2章)	力動的立場、ロジャースを代表とする人間性心理学の立場と学習理論の3つの立場の違いを学ぶ。	人間の心をどうとらえるか、症状についてどう理解するかによってカウンセリングのアプローチ方法が異なるのでそれぞれの理論的視点を理解する。
3	クライアント カウンセリングを求め る人 (第3章)	カウンセリングを求めてくるクライアントとはどのような状況にあるかについて学ぶ。	クライアントが置かれている発達上、状況的な危機について一般的なことを理解するとクライアントの抱えている問題を理解しやすくなる。
4	カウンセラー カウンセリングを受け持 つ人 (第4章)	カウンセラーの基本的な資質、研修方法について学ぶ。	カウンセラーに求められるものはなにか、さらによりよいカウンセラーになるにはどのような研修が求められるのかを理解する。
5	クライアント中心の カウンセリング (第5章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここではロジャースの創始したクライアント中心療法について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
6	分析的カウンセリング (第6章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここではフロイトの創始した精神分析療法について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
7	行動カウンセリング (第7章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここでは、行動分析について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
8	グループ・アプロ ーチ (第8章)	個人に対するカウンセリングのほか、グループに対してカウンセリングを行うこともある。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
9	クライシス・イン ターベンション (第9章)	クライシス・インターベンションの概念を学ぶ。	クライシス・インターベンションの歴史とその基本的な考え方と方法について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	交流分析（第10章）	交流分析について学ぶ。	交流分析の基本的な考え方およびその方法について理解する。
11	家庭生活とカウンセリング（第11章）	家族の危機、夫婦の危機について理解し、夫婦カウンセリング、家族療法について学ぶ。	個人療法のほかに、夫婦や家族単位でカウンセリングを受けることもあるがその方法について理解する。
12	学園生活とカウンセリング（第12章）	幼稚園、小学校、中学校、高校、大学とその年代ごとにある悩みについて学ぶ。	それぞれの年代の悩みを学んだうえでどのようなカウンセリングの進め方がよいのか理解する。また具体的にどんな相談機関があるのか理解する。
13	職業生活とカウンセリング（第13章）	職場での悩みについて学ぶ。	企業内カウンセリングについて具体的な事例を基に理解する。
14	病気とカウンセリング（第14章）	肉体的な病気を持ったクライアントとのカウンセリングについて学ぶ。	肉体的な病気を抱えている人に対してどのようなカウンセリングが適切かについてビネットを通して理解する。
15	カウンセリングをより深く理解するために	上記までの章では取り上げられなかったがカウンセリングに必要な知識を学ぶ。	遊戯療法、心理劇、芸術療法、ゲシュタルト療法、内観法、森田療法、ソーシャルワークなどの心理療法に加えて、異常心理学についての基本的なことについて理解する。

■レポート課題

1 単位め	<p>第1章より第4章まで——次の4つの課題から1つを選び、レポートしなさい。その場合、どの課題を選んだのか、課題欄に明示しなさい。</p> <p>(1) フロイト、アドラー、ユングの3人が理論化した「心の構造」の共通点と相違点について論述しなさい。</p> <p>(2) クライアント中心療法とジェンドリンの体験過程の共通点と相違点について論述しなさい。</p> <p>(3) エリクソンは、フロイトの発達理論をどのように修正し、自分の発達理論を発展させていったのか、論述しなさい。</p> <p>(4) クライアントと呼ばれる人とはどのような人なのか、またカウンセラーに求められていることについて論述しなさい。</p>
2 単位め	<p>第5章より第7章まで——フロイトによる精神分析と行動分析カウンセリング（行動療法）とクライアント中心療法の中から1つ選んでください。あなたが選んだ療法について明記した上で以下のことを必ず盛り込んでまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> その心理療法が確立された背景 その心理療法を創始した人 その心理療法の心や症状の捉え方などその心理療法の特徴 その心理療法の方法、特にカウンセラー（あるいはセラピスト）のあり方 現在、その心理療法はどのように発展し、どのような症状や場面などで主につかわれているのか あなたのその心理療法についての見解

3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	<p>第11章より第14章まで——次の文章は、ある事例の要約です。この文章を読み、下記の課題をレポートしなさい。</p> <p>(※レポート用紙の課題記載欄は、下2行の課題の記載のみでよい。)</p> <p>ある両親が、中2の子どもの不登校のことで来談された。家族は、祖父母、両親、長女、長男、次女、次男(本人)である。父親は、一流企業の役員をしているが、祖父に頭が上がらず、家計は祖父母が管理している。そのためか、嫁姑の関係は悪い。本人は、末っ子のこともあり、家族から溺愛されて育ってきた。不登校になるまでひとりで留守番することができなかった。また、2階の自分の部屋にひとりで行けなかったので、家族の誰かがその都度ついて行った。祖父母も両親も社会的地位や名誉には敏感で、上の兄弟は一流の学校を卒業し、一流の企業に就職をしている。本人は、小学校の時も不登校気味であったが、家庭教師をつけたこともあり、一流の中学校に入学したが、不登校に陥った。現在の本人は、テレビゲームを中心に昼夜逆転した生活をしており、家族とのかかわりを回避している。時々気に入らないことがあると両親に暴力を振るい始めているが、風呂にも入らず、無気力な生活を送っている。祖父母は、こうなったのも両親の育て方が悪いからだと言っているが、夫婦でそのことについての話し合いはない。他の兄弟も本人のことに触れないようにしている。祖父母と両親の共通点は、本人が今の中学校を卒業して、有名高校に入学することを願っていることだ。</p> <p>課題 発達のカウンセリングの視点も考慮に入れて、どのようにファミリー・カウンセリングをおこなっていったらよいか、論述しなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月より3単位めのレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

ここで使用している教科書は、「心理療法」を初めて学ぶ人を前提に選択しました。本書では、代表的な心理療法を取り扱っていますが、各心理療法を創始した創始者の生育歴や時代背景をとりあげ、読む側にとっては、それぞれの心理療法の形成過程と特徴について理解を深めることを容易にしています。教科書は、レポートを書く前提としての基礎的知識を習得する本として位置づけています。入門的で平易な文章ではありますが、それぞれの文章には深い意味が込められています。この点を学んでもらいたくレポート課題を課しています。したがって、教科書のみでは、各レポート課題をまとめていく点が多々あります。教科書の基礎的知識をもとに各レポート課題の中から興味ある課題を選択し、下記にとりあげた参考書等を読み砕き、レポートを作成してください。また、心理療法に興味をもったなら各参考書に載っている本・文献や各自が見つけた本等を読み進めてください。

引用・参考文献が、テキストだけのものは、必ず再提出にしています。テキスト以外に利用した本を最低1冊以上はあげてください。

なお、レポートは、教科書、参考書、インターネット情報等の「抜粋」や「切り張り」や「内容の要約」、「あらすじの説明」ではなく、教科書と参考書等を熟読し、それを学習者自身の創意にもとづいて理論的に組み立て、作成してください。また、心理療法という科目の性質上、個人的体験談等を書きたくありませんが、提出されたレポートは成績をつけるものですので、個人的体験談等は評価の対象にはなりません。

ん。あくまでも心理療法という学問についてレポートをしてください。

1単位め
アドバイス

(1) フロイト、アドラー、ユングの3人は、それぞれの独自の心理療法を創始しました。心理療法の目的は、クライアントの人格の変容です。そこでまずそれぞれの心理療法は、人格（心の構造）をどうとらえているのかを理解する必要があります。独自の心理療法の理論と技法を創始した3人は、人格をどのようにとらえているのかを理解した上で、3人の「共通点」と「相違点」を中心にレポートしてください。

なお、それぞれの理論を中心にレポートを作成すると課題である「共通点と相違点」が、書ききれなく恐れがあります。3人の理論を理解した上で、「共通点と相違点」を中心にレポートしてください。

(2) ロジャースは、クライアント中心療法を創始しました。ロジャースの弟子であるジェンドリンは、クライアント中心療法を基礎にフォーカシング（体験過程）技法を創始しました。この2人のカウンセリングの「共通点」と「相違点」を中心にレポートを作成してください。

なお、クライアント中心療法と体験過程の説明を中心としたレポートは、2人の「共通点と相違点」の課題が希薄になります。2人の理論を理解した上で、両者の「共通点と相違点」を中心にレポートを作成してください。

(3) 精神分析を創始したフロイトは、独自の発達理論を構築しました。まず、精神分析の発達理論の理解が必要です。その発達理論をもとにしながらエリクソンは、フロイトの発達理論をどの点を批判し、どのように修正を加え、そして独自の発達理論を構築していったかを中心にまとめてください。

フロイトとエリクソンのそれぞれの発達理論の記述がレポート課題ではなく、エリクソンがフロイトの発達理論をどのような点を批判し、それをどのように修正をして、彼独自の発達理論を構築したかがレポート課題です。

(4) クライアントと呼ばれる人は、どのような精神・身体症状や問題行動等に悩み、苦しんでいるのか、を理解する必要があります。そのためには、発達の危機と精神医学的診断名の理解が必要です。また、このようなクライアントにカウンセリングをおこなうカウンセラーは、どのような資質や条件が求められるのか（または、どのような人は不向きなのかも含めて）、またどのような責任性や倫理性等が求められているのか、どのような研修方法がもとめられているのか、をレポートしてください。

クライアントとカウンセラーの記述は、同等の分量でまとめてください。

2単位め
アドバイス

フロイトによる精神分析、クライアント中心療法、行動分析カウンセリング（行動療法）は、代表的な心理療法です。

現在たくさんある心理療法はこの3つの心理療法から発展していきましたので、これらの心理療法を深く知ることは心理療法を理解する上で大切です。1から6の項目を必ずいれて論述してください。項目ごとの記述ではなく、6項目に必ず触れてください。1つでも欠けた場合には再提出とします。

3単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

4単位め アドバイス

ひとつの事例を今まで学習してきた心理療法の知識をもとに考察してもらう課題です。

「発達のカウンセリング」についてですが、この事例は、中学2年の男子です。中学2年という年代は一般的には、どんな年代でしょうか？ 心の状態、親との問題、人との関係など、子どもから大人になる時期です。このことは、すでに様々な研究者が指摘しているので、それを参考にして、具体的な研究者の理論をあげながら（理論をくわしく紹介する必要はない）、まずはその年代の発達の特徴を捉えてください。その上で、その特徴と比較して、この事例の中学生はどうでしょうか？ 例えば、「ひとりで留守番できない」「ひとりでは自分の部屋に行けない」など他にもこの中学生の状況について書かれた部分がありますが、そのことと一般的中学生の状態と比較してこの事例の中学生はどんな成長を遂げており、あるいは遂げていないのでしょうか？ その視点を織り交せてこの事例を考察してください。これが、発達のカウンセリングの視点ということになります。

また、このような家族に心理的援助をしていく場合、ファミリー・カウンセリングの視点がカウンセラーに求められます。なお、ファミリー・カウンセリングは、その名称からただ「家族」に行うカウンセリングと理解しがちですが、今日では「家族療法」の名称が一般的です。家族療法にもいろいろな立場があります。その中で興味ある家族療法（ファミリー・カウンセリング）の視点から、この面接のあとの面接でこの家族にどのようにアプローチしていくか論述してください。なお、今回は両親が来談したが、この後の面接に関してはどの家族メンバーを面接に呼ぶかなども考察してみてください。

上記の2つの視点を織り交せて、この事例を考察してください。

なお、発達心理学の一般的説明とファミリー・カウンセリングの一般的説明で事例を考察するのは、事例に則した考察というより「一般的説明」の要約に陥ります。たとえばエリクソン理論の内容を細々と要約して紹介する必要はないので、あくまでこの事例に即して考えてください。

現段階で得られている情報をもとに、①中学2年の男の子の発達心理学の視点からのアセスメント、②この家族のかかえていると思われる問題、③ ①と②をふまえた上でこの家族に適切とおもわれる家族療法の選択を行い、その家族療法の具体的な技法をあげながら、どのようなアプローチが良いかを記述する、④そのアプローチを行う上での留意点や問題点を最後にまとめる、という流れで論じてください。

科目修了試験

■評価基準

教科書を何回も読み専門用語の説明が出来るようにしてください。その際には、自分で一度は書いてみることをおすすめします。

心理療法各論

～2017

科目コード

FF3521



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	2年以上	日笠真理子

履修方法：R レポート提出後、科目修了試験の申込み・受験を忘れずに行ってください。

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

科目の概要

■科目の内容

カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当な数があり、それぞれに異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、広く知っている必要があります。一つの理論では、到底理解、対応しきれないのが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の背骨となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。

この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではくわしくとりあげられなかった「特性因子理論」、「認知行動療法」、「精神分析療法（交流分析、ゲシュタルト療法）」、「人間学的アプローチ」、「家族療法」、その他の療法を学んでいただこうと思います（精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます）。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。

■到達目標

- 1) 心理療法の主要な諸理論（特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法、その他の療法）について解説することができる。
- 2) 心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。
- 3) 産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べることができる。

■教科書（「カウンセリングⅠ」などと共通）

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）』日本産業カウンセラー協会、2013年 第5章「カウンセリングの諸理論」

※「カウンセリングⅠ」で配本のため、この科目での教科書配本はありませんが、専用レポートを配付します。

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングI」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

「心理療法」「臨床心理学」の単位修得後、学習することが望ましいものです。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+科目修了試験50%

■参考図書

《辞典・事典》

国分康孝編『カウンセリング辞典』誠信書房、1990年

※具体的な例が添えてあり、説明が分かりやすいです。最初に目次つきの領域別項目一覧が載っていて、辞典でありながら、体系的に学習するのにも役立ちます。

氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕編『心理臨床大事典』培風館、1992年

※各項目がかなり詳しく説明されています。また、それぞれの項目の最後に参考文献が載せてあるため、更に知識を深めたいときにも役立ちます。

日本産業カウンセリング学会監修『産業カウンセリング辞典』金子書房、2008年

※各項目に参考文献が載せてあります。

《書籍》

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005年

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリング理論の歴史的位置づけ (第5章 5-1)	カウンセリング理論の5系統と、その歴史的位置づけについて理解する。	数多くあるカウンセリング理論は大きく5系統に分類されます。指示的なものから人間学的なものに順番に並べ、年代順に整理し、カウンセリング理論の全体像を理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	特性因子理論—カウンセリングの夜明け (第5章 5-2)	カウンセリングの始まりが20世紀初頭の心理アセスメントを活用した職業指導運動であったことを理解する。	特性因子理論では、パーソナリティは人間の特徴を表すいくつかの特性と因子の組合せによって成り立っていると考えられています。心理検査により職業適性を調べ職業指導を行うという指示的な面接がカウンセリングの始まりでした。
3	認知行動療法① (第5章 5-3-1~5)	行動療法の基礎となっている2つの学習理論(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)と社会的学習理論について理解する。	行動療法では、学習理論を応用させた技法が用いられています。古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論を応用した技法とその具体例を考えてみましょう。
4	認知行動療法② (第5章 5-3-6~8)	論理療法と認知療法について理解する。これらが行動療法と理論統合し、認知行動療法へ発展したことを理解する。	論理療法や認知療法で、どのように「起きている事実の受け止め方」の歪みを修正するのか具体的に考えてみましょう。
5	交流分析・ゲシュタルト療法 (第5章 5-4-2~3)	交流分析とゲシュタルト療法について理解する。	交流分析の中の4つの分析方法とゲシュタルト療法の技法について、自分の例を実際に当てはめながら考えてみると理解しやすいでしょう。
6	人間学的アプローチ (第5章 5-5)	実存主義的カウンセリングや実存分析(ロゴセラピー)について理解する。	実存主義的カウンセリングや実存分析の考え方を自分が真に持つことができるとどのような気持ちになるか、逆に持てないどのような気持ちになるのかイメージしてみましょう。
7	家族療法 (第5章 5-6)	家族療法、短期療法、ナラティブセラピーについて理解する。	個人に注目する療法と家族システムに注目する療法の違いを具体例を思い浮かべて考えてみると理解しやすいでしょう。
8	その他のカウンセリング理論 (第5章 5-7)	現実療法、森田療法、内観療法について理解する。	森田療法と内観療法は日本で創始された独自の心理療法です。それぞれの考え方や実施方法について知りましょう。森田療法の「あるがまま」を大切にすることはどういうことか自分の例をあてはめて考えてみましょう。

■レポート課題

別紙(専用レポート用紙)の問題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書以外の参考文献を併せて読むと、教科書の内容が理解しやすくなります。「急がば回れ」で是非読んでみてください。

その際、自分自身のこと(悩み・ストレス・家族関係・学校や職場の人間関係・性格・ものの考え方・

過去の経験など)を当てはめ、実際にその療法を受けるところを想像してみてください。そうすることで、血の通った理解になります。それぞれの理論は、カウンセラーと来談者という生身の人間同士の出会いの中から生まれ、育ち、そして、それに共感する大勢の人たちによって今日まで引き継がれているのだということを忘れないでください。

参考図書以外にも多くの文献が出版されています。将来の実践のために、興味を惹かれたものから、どんどん学習を深めていってください。

科目修了試験

■評価基準

内容を正しく理解していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全般的な説明の両方が的確に記述されていることが、評価されます。

司法・犯罪心理学

科目コード

FF3551



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(講義)	2年以上	半澤 利一

※2018年度に「犯罪非行心理学」（科目コード：FF3524）から科目名が変更されました。これから学習される場合は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

司法・犯罪心理学（「犯罪非行心理学」から科目名変更）は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問であると言えます。「犯罪」と「非行」という使い分けは、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階の違いから、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざまに異なる側面があることを意味します。また、犯罪と非行は刑事司法が司りますが、この科目ではさらに民事司法の中で、離婚や子どもの親権をめぐる争いなど家庭内紛争の理解と融和を目指す、家庭裁判所における家事事件の扱いを学びます。

■到達目標

- 1) 犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。
- 2) 再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べることができる。
- 3) 離婚や子をめぐり争いなどの家庭内紛争の構図について説明できる。

■教科書

河野莊子・岡本英夫 編著『コンパクト犯罪心理学―初歩から卒論・修論作成のヒントまで―』北大路書房、2013年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価50%

■参考図書

1) 司法・犯罪心理学概論

細江達郎著 『図解雑学 犯罪心理学』 ナツメ社、2001年（図解入りで分かりやすい。初心者向け。）

原田隆之著 『入門 犯罪心理学』（ちくま新書）筑摩書房、2015年（包括的な内容がコンパクトにまとめられており読みやすい。）

大淵憲一著 『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』（心理学の世界 専門編）培風館、2006年（さまざまな概念や理論について広く詳しく紹介されているが、やや難解で読み応えがある。）

廣井亮一著 『司法臨床入門（第2版）：家裁調査官のアプローチ』日本評論社、2012年

2) 司法・犯罪心理学各論

越智啓太著 『Progress & Application 犯罪心理学』サイエンス社、2012年（捜査心理学、防犯心理学、犯罪種別ごとの心理などが紹介されている。）

生島浩・村松励編著 『非行臨床の実践』金剛出版、1998年（非行臨床についての実務家のノウハウが満載。）

生島浩著 『悩みを抱えられない少年たち』日本評論社、1999年（非行少年の心理について洞察が鋭い。）

藤岡淳子著 『非行少年の加害と被害—非行心理臨床の現場から』、2001年（非行臨床についての考察が深い。）

小西聖子著 『犯罪被害者の心の傷』白水社、2006年（被害者の理解と支援についての名著。）

廣井亮一編 『家裁調査官が見た現代の非行と家族～司法臨床の現場から』創元社、2015年

■参考サイト

①「平成27年版犯罪白書」の第3編/第1章/第1節（下のURL参照）「少年による刑法犯」「1検挙人員」http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/62/nfm/n62_2_3_1_1_1.html

その他、公的機関による犯罪関連の統計には「矯正統計」「少年矯正統計」「保護統計」「警察白書」などがあります。また、青少年をめぐる問題について「子供・若者白書（旧：青少年白書）」なども参照されます。

②YouTube「法務省チャンネル」心のリレー・第2部『保護観察官の仕事』

<https://www.youtube.com/watch?v=tizdroA7rW8>

③YouTube「法務省チャンネル」更生保護紹介動画「更生保護～立ち直りを支える地域のチカラ～」

<https://www.youtube.com/watch?v=3LihVMdoOzQ>

④「犯罪被害者の方々へ」（「法務省」HP>「各組織の説明」>「特別の機関」）

http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji_keiji11.html

⑤全国の「被害者支援センター」一覧（「公益社団法人全国被害者支援ネットワーク」HPから）

<http://nnvs.org/shien/list/#04>

※「公益社団法人みやぎ被害者支援センター」

<http://www1a.biglobe.ne.jp/zzm66262/>

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	犯罪心理学とは何か	犯罪をどう捉えるか、少年非行の動向とその原因
2	犯罪の原因と法	犯罪社会学と法律学における捉え方
3	非行臨床について	少年事件の審理、司法的機能と福祉・教育的機能
4	施設内処遇と社会内処遇	保護観察や少年院について
5	非行少年と家族を理解する	非行少年の心性と家族の特徴
6	家事事件とは何か	家庭内紛争の類型と理解
7	被害者の心理と支援	トラウマティック・ストレスとその対応
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配布資料を中心に板書をしながら講義を進めます。教科書や参考図書『司法臨床入門（第2版）：家裁調査官のアプローチ』および動画教材も参考程度に利用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（教科書・配布資料・ノート可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の2章・4章・5章を復習し、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	犯罪心理学とは① (第1章第1節、第2節)	犯罪非行心理学の研究对象は「犯罪」と「非行」であり、それぞれをどう定義して考える学問なのか、またどういう研究領域があるのかを理解する。	犯罪心理学とは何をどのように研究して行くのかを理解します。特殊な事件を解明するスリリングな活動ではなく、事実や現象についてデータを元にして分析し、法律学や社会学などの知見をも参照して、改善策を考える学問であることが分かります。
2	犯罪心理学とは② (第1章第3節)	犯罪心理学のさまざまな調査法の一つに犯罪データを利用する方法がある。教科書では限定的な意味での「犯罪データ」(公的記録)について説明されるが、国の機関が毎年発表する「白書」はインターネット上での閲覧も可能である。実際の犯罪データを見てその読み方を体験する。	一般の立場で犯罪者や非行少年を直接研究对象とすることはできませんが、公表されている「犯罪統計」を使えば、その推移や動向などが分かります。ここでは、インターネットで閲覧できる「平成27年版犯罪白書」(参考サイト①)の「少年による刑法犯・1検挙人員」を利用します。参考図書などを手がかりに、その変動の原因を探ってみましょう。
3	犯罪の原因① (第2章第1節、第2節)	犯罪の原因を解明する理論を学ぶ。社会的要因と生物的要因のレベルで犯罪の形成を見る。	自分の体験や過去の事件報道についての知識を手がかりに、個人を取り巻く社会が反社会的行動の形成にどう影響するかについて考えましょう。また生物学的要因は、教科書に記載されているもの、他、先天的な心身の特徴や障害、疾患が影響することもあります。参考文献などで調べてみましょう。
4	犯罪の原因② (第2章第3節、第4節)	セルフコントロール、敵意帰属バイアスなどが心理的要因であることを知る。	狭義の犯罪心理学の中心的なテーマで、犯罪者や非行少年のパーソナリティ特性を知る部分です。それぞれが犯罪に至った要因は様々でも、ある程度共通する特性や傾向が窺えることもあります。参考文献などを手がかりにして、他にどんな心理的要因があるかを調べましょう。
5	犯罪の原因③ (第2章第5節、第6節)	犯罪や非行の形成には、家庭環境や学校適応、友人関係などが関わることを理解する。	性格形成や生活態度に大きな影響を与える、一番身近な社会的要因を捉えます。いずれも犯罪や非行の一因となると同時に、更生に向かう時にも影響を及ぼします。
6	犯罪の捜査① (第3章第1節)	社会的な視点で犯罪を見いだすプロファイリングには、FBI方式、リバプール方式、地理的プロファイリングなどの手法があることを理解する。	犯罪捜査に寄与する心理学的な方法を学びます。犯罪行動の痕跡から、いかに犯罪者を効率的・効果的に探り当てるかを心理学的に捉えます。
7	犯罪の捜査② (第3章第2節、第3節)	虚偽検出や目撃証言の吟味は、犯罪を構成する事実を個人から見出すことであることを理解する。	捜査段階では、犯罪者の生理的反応や言語的反応をどう捉え、どう扱うのかを理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	非行・犯罪者の心理アセスメント① (第3章第4節1.～3.)	非行や犯罪は、単一の要因だけで説明がつくことはなく、それぞれに生物的次元・心理的次元・社会的次元の各次元の特徴とその特徴間の関係や影響が生み出す特徴が本人の反社会的態度や犯罪行動につながっていることを理解し、各機関ではどのようにアセスメント(査定)するのかを理解する。	「非行・犯罪臨床」とは、初めて目にする言葉だと思います。既に学習したとおり、いずれも法的に定義された反社会的行動を対象とし、一般の心理臨床の対象となる精神疾患や生活上の問題とはさまざまな点で異なる特徴を持つことから、対応も特殊なものとなります。その具体的な方法を概観します。
9	非行・犯罪者の心理アセスメント② (第3章第4節4.～6.)	少年鑑別所は、非行少年の資質鑑別(資質面の精査)を行う専門機関であり、法務技官(矯正心理職)が主に面接や心理検査を行い、法務教官が観護しながら行動観察を行うことを理解する。	少年鑑別所は、家庭裁判所が受理した少年事件の審理中に少年を収容して心身の鑑別をする機関です。ここでは資質鑑別と呼ばれる、専門的な心理アセスメントについて、その視点や方法を学びましょう。また、非行少年の心理特性についても具体的に理解し、それらがどう非行につながるのかを考えてみましょう。
10	犯罪からの立ち直り① (第4章第1節)	「立ち直り」とはどのような状態を指すのか、何が必要で、どうしたら良いのか、周囲は何をしたら良いのかを考える。	前項で学んだ心理アセスメントは、それのみで終結するのではなく、立ち直りを援助するための情報として活用されます。立ち直りの考え方や方法について、過去の研究や理論から探りましょう。
11	犯罪からの立ち直り② (第4章第2節1.)	非行・犯罪臨床の特徴の一つである施設内処遇について学ぶ。他の臨床領域では見られない、強制力を伴う、長い期間身柄を拘束する処遇となるが、ここでさまざまな教育プログラムや方法を執ることで、非行性や犯罪性の進んだ人々には有効な処遇となることを知る。	成人向けの刑事施設や非行少年を収容する少年院は、刑事裁判中に被疑者を収容する拘置所や家裁の審理中に少年を収容する少年鑑別所とは異なる、処遇の専門機関です。ここでどのような処遇が行われるのか、具体的に学びましょう。
12	犯罪からの立ち直り③ (第4章第2節2.)	非行・犯罪臨床は、これまでに挙げられた各機関が単独で行うものではなく、アセスメントや処遇が一つの機関で完結することはない。施設での処遇が行われた後も、社会内処遇(対象者を住居に住まわせ、学校や職場に復帰させて指導をすること。)が続くが、その中心となるのが保護観察所の行う保護観察である。	教科書に記載された内容をより詳しく知るために、YouTubeの「法務省チャンネル」から紹介ビデオを2つ取り上げます(参考サイト②、③)。保護観察官は具体的にどのような仕事をしている立場の人なのか、また地域はどのように支援できるのか紹介されています。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	被害者の心理① (第5章第1節1.～3.)	2005年に「犯罪被害者等基本法」が施行された。犯罪者に対する刑事手続の中での被害者への対応や支援の詳しくは参考サイト④を参照する。教科書には被害者が事件直後に呈する特徴的な心理状態や深刻化した状態などについて解説されているが、それがどのようなものなのかを理解する。	事件や事故が毎日のように報道されますが、その陰には痛ましい心を抱えた被害者やその家族がいます。取り返しのつかない事態に遭った被害者や遺族は特別な心理状態からなかなか回復できないものです。その心理を理解し、支援の基本を学びましょう。
14	被害者の心理② (第5章第1節4.～6.)	被害者の心理的ケアの基本は「まずは被害者に寄り添うこと」に尽きる。他に薬物療法や長時間曝露療法について紹介されているが、被害者は過敏な状態にあるのであくまで基本を守る。被害者の心理と支援について参考図書などから詳しく理解する。	各都道府県に開設されている「被害者支援センター」は参考サイト⑤で一覧できます。センターが他にどのような業務を行うのかも調べましょう。また「全国被害者支援ネットワーク」のホームページでは、被害者支援の歴史やさまざまな関係機関による取り組みが紹介されていますので参考にしましょう。
15	防犯について (第5章第2節)	環境犯罪学の主な理論である、割れ窓理論、犯罪パターン理論を理解し、防犯意識を高める。	犯罪者の行動傾向や犯罪を誘発しやすい状況などについて知ることで、防犯対策についての知識を得ましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	非行少年とされる未成年者はどのような性質を持った若者なのかについてまとめ、また再び非行や犯罪を起こすことなく正業に就いて自活させるために、周囲はどのような働きかけをすれば良いのかについてあなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

**2 単位め
アドバイス** さまざまな角度から非行を捉え直して考えるためには、まず課題を読み解くための手がかりとなる理論や概念を教科書などから探しましょう。それを読み込んであなたの言葉に翻訳して枠組みを自分のものとし、自分なりに情報を整理して自分の言葉で表現してください。参考図書やホームページなどを積極的に参照することを推奨しますが、それらを丸写ししたり、コピー＆ペーストした情報の切り貼りでは学習効果は望めません。理解した内容をあくまで自分の言葉で論理的に構成するように心がけてください。

一般に、非行少年には反抗的な態度や感情統制の悪さ、気まぐれで継続性のない態度などが認められる

ことから、周囲が偏見を強めたり対人的な距離を置いたりします。本人なりに、まじめにやろう、周囲の人々とうまくやっっていこうと実は思っている、なかなかうまくいかない「生きづらさ」を抱えているものです。そういう本人のつらさや努力を、偏りのないまなざしで肯定的に見守るのが非行臨床の第一歩と言えるでしょう。どんな人間でも、自分を理解してくれて温かい言葉を掛けてくれる人には敵意を向けないものです。しかし、対人的な不信感や劣等感が強い人間はなかなか心を開こうとせず、不信の目や怒りを向けてくるかも知れません。それを受け止めながら、なおも肯定的な関心を向け続け、問い掛けます。そして、生きづらさを抱え続けた結果である反社会的行動に至った本人なりの道筋を聴いていくことが大切です。そこから非行少年の理解が始まるのです。教科書に書かれた非行少年の性格的な特徴やそれと関わる社会的要因（家庭環境、交友関係、学校等）の特徴などを手がかりにして、自分なりにモデルケースを想定し、更生のための社会的な支援のポイントなども含めてまとめてください。

犯罪非行心理学 ～2017

科目コード **FF3524**



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR (講義)	2 年以上	半澤 利一

※2018年度から、科目名・科目コードが「司法・犯罪心理学」（科目コード：FF3551）に変更されました。レポート課題も2課題に変更されています。

※これから履修登録される場合は、p. 214「司法・犯罪心理学」を履修登録してください。

※2017年度に「犯罪非行心理学」を履修登録した方で、2018年3月までに単位未修得の場合は、4月上旬に「司法・犯罪心理学」に変更されます。

※論述式レポートに合格していてスクーリングが未受講の方は、客観式レポート課題に解答してください。

※2017年度に単位修得した方は、科目名「犯罪非行心理学」のままです。

カウンセリングⅠ			科目コード	FG2682
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S (講義)	1 年以上	渡部 純夫・末富 美貴	

※「カウンセリングⅠ・Ⅱ」の履修の順序の指定はありません。Ⅰ・Ⅱのいずれを先に受けていただいても大丈夫です。

科目の概要

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な援助活動があり、昨今「カウンセリング」という言葉自体が様々な使われ方をしている。心理学を基盤としたカウンセリングの専門的な理論と方法について学んでいく基礎として、カウンセリングの意味や特質などを学び、自分自身の人間観を理解することにより、援助者としての心構えを理論的理解から自分自身を振り返ることを目指してもらいたい。

■到達目標

- 1) カウンセリングの定義や特質を理解し、カウンセリングのベースになるものを説明できる。
- 2) カウンセリングの効果を理解し、援助する際の留意事項を説明できる。
- 3) 来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの基本①	傾聴の意義と技法
2	カウンセリングの基本②	カウンセリングの意義
3	カウンセリングの基本③	カウンセリングのプロセス
4	カウンセリングの基本④	カウンセリングの効果
5	来談者中心療法と人間性心理学①	来談者中心療法の理論
6	来談者中心療法と人間性心理学②	来談者中心療法の方法
7	来談者中心療法と人間性心理学③	人間性心理学
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。途中、グループ

ワークを行い理解を深めていただきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度 20% + スクーリング試験 80% (指定テキスト・配付物・自筆ノート持込可)

■スクーリング時の教科書（「産業カウンセリングI」などと共通）

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）』日本産業カウンセラー協会、2013年 第3章 第4章

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト第3章 傾聴の意義と技法 p. 39～p. 64

テキスト第4章 カウンセリングの基本 p. 65～p. 96 を一読してくること。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義のポイントである「傾聴」の意義と技法を理解してください。

自己理解を深めていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、を身につけてほしい。

■参考図書

小松 紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年

カウンセリングⅡ			科目コード	FG2683
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S(講義)	1 年以上	中村 恵子	

科目の概要

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの目的は、問題解決にあります。カウンセラーは、質問とあいづちによって面接の流れをコントロールし、問題解決をマネジメントします。本講義では、基本的なあいづち技法と問題の本質にフォーカスする問題焦点化技法を学び、面接援助の土台づくりを目指します。

■到達目標

- 1) 基本的あいづち技法を会話に活用できる。
- 2) 問題焦点化技法を説明できる。
- 3) 問題焦点化技法を使うことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの意義と役割	方法論開発の歴史と背景
2	基本的傾聴技法	あいづち技法の解説と演習
3	基本的介入技法	問題解決技法の解説と演習
4	集団援助技法	対人関係ゲーム理論
5	心理的侵入度の調整	対人関係ゲーム演習
6	問題焦点化技法の理論と方法	基礎技法の解説
7	問題焦点化技法の演習	基礎技法の演習
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義と演習を中心にグループで学習を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度30% + スクーリング試験70% (持込可、論述式)

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で提示される参考図書を学習してください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」「自己理解に基づくセルフコントロール力」「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

カウンセリング演習Ⅰ

科目コード

FG3695

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(演習)	2年以上	末富 美貴ほか

※2017年4月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になりました。

※上記にともない、科目コードを「FG3695」に変更しました。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3685」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

自分自身が人を援助する際に自分はどのような人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないかに気づき素直に認める自分があるかを認識してほしい所です。そのうえでカウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現できることができるよう練習を課します。

■到達目標

- 1) カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。
- 2) 傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。
- 3) 自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	体験過程学習①	自己理解ワーク
2	体験過程学習②	グループワーク
3	体験過程学習③	傾聴基本的技法の演習
4	体験過程学習④	グループワーク
5	体験過程学習⑤	基本的態度と技法の応用演習
6	体験過程学習⑥	グループワーク
7	カウンセリングプロセスの理解	DVD視聴等
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

ロールプレイを行いながら、グループでの体験過程学習を行います。またグループメンバーでフィード

バックを行いカウンセリングの基本的な学習を行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度 20% + スクーリング試験 80% (指定テキスト・配布物・自筆ノート持込可)

■スクーリング時の教科書(「カウンセリングⅠ」などと共通)

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング(産業カウンセラー養成講座テキスト)』日本産業
カウンセラー協会、2013年 第3章

※「カウンセリングⅠ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングⅠ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録で
きます。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安:5~10時間)

テキスト第3章 傾聴の意義と技法 p.39~p.64 を一読してくること。

※「カウンセリングⅠ」スクーリングを受講していることが望ましい。

■スクーリング事後学習(学習時間の目安:20~25時間)

傾聴の基本的態度を理解し技法に頼らず他者とのコミュニケーションで活かして行ってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけ
てほしい。

■参考図書

小松 紘・木村 進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年

カウンセリング演習Ⅱ

科目コード

FG3696

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(演習)	2年以上	菊住 彰

※2017年4月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になりました。

※上記にともない、科目コードを「FG3696」に変更しました。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3686」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワークング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。

■到達目標

- 1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。
- 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。
- 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。
- 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らす環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの姿勢①	クライアントに向き合う心構えの再考
2	カウンセリングの姿勢②	クライアントに向き合う態度の再考
3	カウンセリング技術の応用	さらに心を開いてもらうために
4	事例場面から学ぶ	映像教材と逐語録から検討
5	ロールプレイ①	基本的なやりとりを駆使する演習
6	ロールプレイ②	実際の場面設定での演習
7	カウンセリングの視点	何を目標に取り組むか
8	まとめと質疑応答	

■講義の進め方

座学だけではなく、実際の面接の場面を映像で見ながら検討したり、参加者どうしでロールプレイを行ったりして、実践的な内容となります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式。持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

福島脩美著『カウンセリング演習』金子書房, 1997年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は読んできてください。授業ではそれを前提に、実際のクライアントとかかわる場面を想定した練習に比重をおきます。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活に少しずつでも取り入れる努力を続けてください。繰り返し行って、意識せずに実行できるくらいになれば、本来の免許皆伝です。

■スクーリング推奨受講条件

本講義は原則的に「カウンセリングⅠ」または「カウンセリングⅡ」のスクーリングを受講されるなど、カウンセリングの基礎知識をお持ちの方を対象としています。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授

知覚・認知心理学

2018～

科目コード

FH3560



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	柴田 理瑛

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 235 「認知心理学」(科目コード：FH3510・FH3530、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、生体が外界にある対象を知覚し、その対象が何かを判断したり解釈したりする過程や仕組みについて学びます。各テーマの代表的な研究だけでなく、応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して認知心理学についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■到達目標

- 1) 人の感覚・知覚等の機序及び障害について理解し、説明できる。
- 2) 人の認知・思考等の機序及び障害について理解し、説明できる。
- 3) 認知の基本的な仕組みについて理解する。
- 4) 代表的な実験結果について図表をもとに読み解くことができる。

■教科書

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋著 『認知心理学 (New Liberal Arts Selection)』 有斐閣、2010年

(最近の教科書変更時期) 2018年4月

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

- ・スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフトス、クリステル・ルッツ編、内田一成監訳 『ヒルガードの心理学（第16版）』 金剛出版、2015年
- ・道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学著 『認知心理学一知のアーキテクチャを探る 新版』 有斐閣、2011年
- ・乾敏郎・吉川左紀子・川口潤編 『よくわかる認知科学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』 ミネルヴァ書房、2010年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	視知覚と認知	視覚系の基本構造に触れながら、視覚の基本属性とその知覚と認知について学ぶ。
2	恒常性と順応	環境の変化によらずに知覚を一定に保つための働きについて学ぶ。
3	パターン認知	図の識別に関する仕組みと働きを学ぶ。
4	注意	情報の選択に関する仕組みと働きを学ぶ。
5	視覚的注意	視覚的探索に関する注意の仕組みと働きを学ぶ。
6	感情と認知	感情と認知に関する代表的な理論を学ぶ。
7	社会的認知	社会的認知に関する代表的な理論を学ぶ。
8	まとめと質疑応答	これまでの内容の総括と質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の1・2・4・12・13・16章は読んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の1・2・4・12・13・16章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	1章：認知心理学の歴史とテーマ	認知心理学の歴史とテーマについて概観する。	認知心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	2章：視覚認知	視覚とその認知について学ぶ。	視覚系の基本的な構造や仕組みを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
3	4章：注意	情報を選択する働き（注意）について学ぶ。	注意の基本的な働きや、神経基盤について理解し、特色を説明できるようにしましょう。
4	5章：ワーキングメモリ	情報の格納と操作に関するワーキングメモリについて学ぶ。	記憶の構造や代表的な記憶モデルを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
5	6章：長期記憶	長期記憶について学ぶ。	長期記憶の構造や仕組みを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
6	7章：日常認知	日常認知について学ぶ。	日常認知について、自伝的記憶などの主なトピックを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
7	8章：カテゴリー化	カテゴリー化について学ぶ。	カテゴリー化の働きと代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
8	9章：知識の表象と構造	知識の心の中の表現（表象）とその構造について学ぶ。	知識の表象と構造について代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
9	11章：問題解決と推論	問題解決と推論について学ぶ。	知性と思考の多様性について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
10	12章：判断と意思決定	判断と意思決定について学ぶ。	選択や判断の歪みについて、代表的な理論を理解し特色を説明できるようにしましょう。
11	13章：認知と感情	認知と感情について学ぶ。	喜怒哀楽はどのように認知されるのかについて、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
12	14章：認知進化と脳	認知進化と脳について学ぶ。	ヒトの認知はどのように形成されてきたかについて、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
13	15章：認知発達	認知発達について学ぶ。	子どもが感じる世界や知る世界について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
14	16章：社会的認知	社会的認知について学ぶ。	他者の理解や認知について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	18章：メディア情報と社会認識	メディア情報と社会認識について学ぶ。	メディア効果論の展開について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	注意とカクテルパーティ効果について説明し、代表的な実験結果に触れながら初期選択説と後期選択説の違いを説明すること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。

論述式レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

2単位めのレポートでは、特に教科書の4章がレポート課題に関係します。また、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報がある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

まずは、第4章1節を読み、認知心理学で言う注意についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う注意とは～のことである」が良いでしょう。さらに、「今回のレポートでは注意のいくつかの機能のうち、情報の選択に関する機能について考察する」という文言を入れてください。次に、段落を変えて、第4章2節のカクテルパーティ効果の説明を始めてください。書き出しは「カクテルパーティ効果とは～のことである」という表現が良いと思います。カクテルパーティ効果の日常における具体例が挿入してあると尚良いです。次に、段落を変えて、チェリーの実験やブロードベントの実験についてまとめましょう。次に、段落を変えて、モレイの実験についてまとめましょう。最後に、段落を変えて、初期選択説と後期選択説についてまとめ、違いを考察しましょう。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。



認知心理学 ~2017			科目コード	FH3510・ FH3530
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	2 年以上	柴田 理瑛	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学したは、p. 230「知覚・認知心理学」(科目コード：FH3560、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 230「知覚・認知心理学」(科目コード：FH3560)を参照してください。

※2018年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。今年度以降の学習には、2018年度の教科書の所持が必要になります。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

※科目コード FH3510 2017年までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)
FH3530 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	注意とカクテルパーティ効果について説明し、代表的な実験結果に触れながら初期選択説と後期選択説の違いを説明すること。
4 単位め	期待効用理論とその限界について述べ、プロスペクト理論とフレーミング効果について具体例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者)『レポート課題集2017』記載の課題での提出はできません。必ず上記課題で提出してください。

■アドバイス

教科書では、図表がたくさん使用されています。文章だけではなく、図表を通した研究内容や実験結果の理解にも努めましょう。論述式レポートをまとめる際、一文が長いと思ったら、一度句点(。)で文章を切ってください。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られてい

ない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

3・4単位目のレポートでは、特に教科書の4章、12章がレポート課題に関係します。また、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位目のレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1・2単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め アドバイス

まずは、第4章1節を読み、認知心理学で言う注意についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う注意とは～のことである」が良いでしょう。さらに、「今回のレポートでは注意のいくつかの機能のうち、情報の選択に関する機能について考察する」という文言を入れてください。次に、段落を変えて、第4章2節のカクテルパーティ効果の説明を始めてください。書き出しは「カクテルパーティ効果とは～のことである」という表現が良いと思います。カクテルパーティ効果の日常における具体例が挿入してあると尚良いです。次に、段落を変えて、チェリーの実験やブロードベントの実験についてまとめましょう。次に、段落を変えて、モレイの実験についてまとめましょう。最後に、段落を変えて、初期選択説と後期選択説についてまとめ、違いを考察しましょう。

4単位め アドバイス

まずは、第12章1節を読み、認知心理学で言う意思決定についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う意思決定とは～のことである」が良いでしょう。その後、いくつかの意思決定研究のアプローチについてまとめます。次に、段落を変えて、期待効用理論の説明と限界を述べます。期待効用理論の限界については、第12章1節の期待効用理論の侵犯の部分まとめてください。次に、段落を変えて、第4章2節のプロスペクト理論の説明を始めてください。書き出しは「プロスペクト理論とは～のことである」という表現が良いと思います。次に、段落を変えて、フレーミング効果についてまとめましょう。プロスペクト理論とフレーミング効果の段落では、それぞれに関連する日常の具体例が挿入してあると良いです。最後に、段落を変えて、本レポートを通して分かったことをまとめましょう。



学習・言語心理学 2018～			科目コード	FH3561
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2 年以上	柴田 理瑛	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 242「学習心理学」(科目コード：FH3512)を履修登録してください。科目の内容は、本科目を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは2018・2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2018～2020年度も開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶に関する研究、人間の言語に関する研究の3つの流れがありました。この3つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。

■到達目標

- 1) 人の行動が変化する過程について理解し、説明できる。
- 2) 言語の習得における機序について理解し、説明できる。
- 3) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。

■教科書

山内光哉・春木豊著『グラフィック学習心理学—行動と認知』サイエンス社、2001年

(最近の教科書変更時期) 2018年4月

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

篠原彰一著『学習心理学への招待—学習・記憶のしくみを探る（新心理学ライブラリ）』サイエンス社、2008年

森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学（心理学の世界 基礎編2）』培風館、2011年

スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフタス、クリステル・ルッツ、内田一成（翻訳）『ヒルガードの心理学（第16版）』金剛出版、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、生体が自己の経験を通して行動を変容させていく過程や仕組みについて学びます。初めに、生体が特定の環境に曝されることによって誘発される学習と、生体が環境に働きかけることで誘発される学習について学び、次に記憶の構造や様々な技能の獲得について学んでいきます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して学習についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	古典的条件づけ	条件刺激、条件反射、パブロフの犬について
2	オペラント条件付け	スキナー箱、強化、強化スケジュールについて
3	条件づけの制約	刷り込み、生物学的制約について
4	技能学習	運動、認知、知覚技能の習熟について
5	記憶	多重貯蔵庫モデル、ワーキングメモリについて
6	記憶の変化	1セントコイン実験や事後情報効果について
7	言語の習得	外言と内言の習得機序について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述でき

るかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の1・2・3・6・7・8章は読んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の1・2・3・6・7・8章は読み直してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	序章： 行動と認知の 学習	学習心理学の歴史とテーマについて概観する。	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	1章： 古典的条件付 けの基礎①	古典的条件付けについて学ぶ。	古典的条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
3	1章： 古典的条件付 けの基礎②	古典的条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	古典的条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
4	2章： オペラント条 件付けの基礎 ①	オペラント条件付けについて学ぶ。	オペラント条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
5	2章： オペラント条 件付けの基礎 ②	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
6	3章： 技能学習①	技能学習の基礎について学ぶ。	技能学習における学習曲線や結果の知識について理解し、説明できるようにしましょう。
7	3章： 技能学習②	技能学習における転移について学ぶ。	技能学習における転移について理解し、説明できるようにしましょう。
8	4章： 社会的学習①	社会的学習における模倣学習について学ぶ。	社会的学習における模倣学習について理解し、説明できるようにしましょう。
9	4章： 社会的学習②	社会的学習における観察学習について学ぶ。	社会的学習における観察学習について理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	5章： 問題解決と推 理①	問題解決と推理について学ぶ。	問題解決における特徴や推理の発達的変化を理解し、説明できるようにしましょう。
11	5章： 問題解決と推 理②	創造性と熟達者の境地について学ぶ。	創造性と熟達者の境地に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
12	6章： 概念過程と言 語獲得①	概念の形成と言語の獲得について学ぶ。	概念の構造や言語の獲得に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
13	6章： 概念過程と言 語獲得②	言語と思考、言葉と脳について学ぶ。	言語と思考の関連について、ピアジェやヴィゴツキーらの理論を理解し、説明できるようにしましょう。
14	7章： 記憶と忘却	記憶と忘却について学ぶ。	記憶と忘却に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
15	8章： 有意味材料の 記憶と表象	有意味材料の記憶と記憶の表象について学ぶ。	有意味材料の記憶と記憶の表象に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法を具体的に述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

特に教科書の7章がレポート課題に関係します。この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

2単位めのレポートでは、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1単位め
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め
アドバイス

まずは、第7章1節を読み、学習心理学における記憶について、記憶の3つの過程に触れながらまとめてください。書き出しは、「学習心理学で言う記憶とは～のことである」が良いでしょう。次に第7章4節の記憶の二過程説（多重貯蔵庫モデル）の説明を始めてください。書き出しは「記憶の二過程説とは～のことである」という表現が良いと思います。さらに、「今回のレポートでは持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法について考察する」という文言を入れてください。

次に、段落を変えて、記憶の3つの過程や二過程説に関連づけながら記憶力を高める方法について論述してください。次に、段落を変えて、第7章9節を参考に、忘却の仕組みについてまとめ、忘却を防ぐ方法について論述しましょう。最後に、段落を変えて、本レポートにおけるあなた自身の結論を述べて終了となります。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

学習心理学

～2017

科目コード

FH3512



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	2 年以上	柴田 理瑛

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 237 「学習・言語心理学」(科目コード：FH3561) を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、科目の内容はp. 237 「学習・言語心理学」(科目コード：FH3561) を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは2018・2019年度の開講後は、2021年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2018～2020年度も開講予定です。

※2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

卒業研究			科目コード	ZZ5991
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
8	卒業研究	4年	本学専任教員	

■科目の内容

卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。

必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。

■教科書

各自で研究テーマに応じて準備。福祉心理学科の方は『福祉心理学科スタディガイド』VI章は必読。

■卒業研究の流れ

① 研究テーマの決定

(1) 問題意識の具体化・明確化

一般に論文を書く場合、まず第1に、テーマをどのようなものにするかが問題となります。テーマは、かなり漠然とした興味や関心から出発することが多いものです。また、講義や実習・実験の中で、こういうことを研究したいという、ある程度具体的な問題意識を持つ場合もあるでしょう。しかし、いざ自分の研究として進めていこうとすると、どこから手をつけてよいか、方向づけに迷いがちなものです。したがって、研究を進めていく第一歩は、問題をできるだけ明確にし、一定期間内でまとめあげられるように絞り込んでいくことです。そのためにはまず、自分の興味・関心に関連のある文献を読むことが必要です。また、この段階で可能ならば通信教育部事務室を通して然るべき先生に相談し、指導を仰ぐことも、問題意識を深める上で非常に役立つはずですが、はっきりした問題意識の方向がなかなか定まらない場合に、文献を読むことによって、おもしろそうな問題を発見することもあると思われます。

(2) 関連文献を調べること

問題意識がある程度具体化してきたら、関連のある文献を読み始めます。文献とは、単行本だけではなく、オリジナルな論文（専門誌・学会誌や紀要など＝『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』p.210～211参照）も含まれます。文献は、まず、最も新しいものを読み、それからさかのぼって読んでいくのがいいと思いますが、1つの論文を読むと、それに関連した文献が、参考文献（references）の欄に挙げられていますから、その文献を次々に読んでいくのが効率的です。

関連論文が見つかったら、自分なりの文献目録を作ります。そうすると、後で本格的に文献を整理する時に効果的です。

(3) 仮テーマ（仮題）の決定＝卒業研究の受講申込み

＝通信教育部への提出（3月卒業希望者）4月5日必着／（9月卒業希望者）10月5日必着

(1)、(2)により、ある程度問題意識が明確になったら、その問題の方向に従って、仮テーマを決定し、本冊子巻末の「卒業研究 申込用紙」に必要な事項を記入して、大学に提出していただきます。各自の提出したテーマを検討し、大学で指導教員を決定します（各自の提出したテーマを検討し、大学で担当教員を決定しますので、希望の教員と異なる場合があります）。

この段階でp. 247～248の「卒業研究の受講条件」を満たしていることが必要です。また、テーマや主旨が明確でない方は、卒業研究の受講ができない場合もありますので、ご了承ください。

(4) 指導教員の決定

通信教育部から書面で連絡 5月初旬／11月初旬に発送予定。なお、指導教員が決まったら、できるだけ早く面接指導でも通信指導でもよいので、初回の指導を受けてください。

(5) テーマ（論題）の最終決定

指導教員が決定したら、その指導、助言のもとに、具体的なテーマを決定します。テーマは、研究の具体的な内容が理解できるように、できるだけ具体的かつ簡潔なものであることが望まれます。また、やや抽象的なメインテーマに、具体的なサブテーマをつける方法もよく使われています。

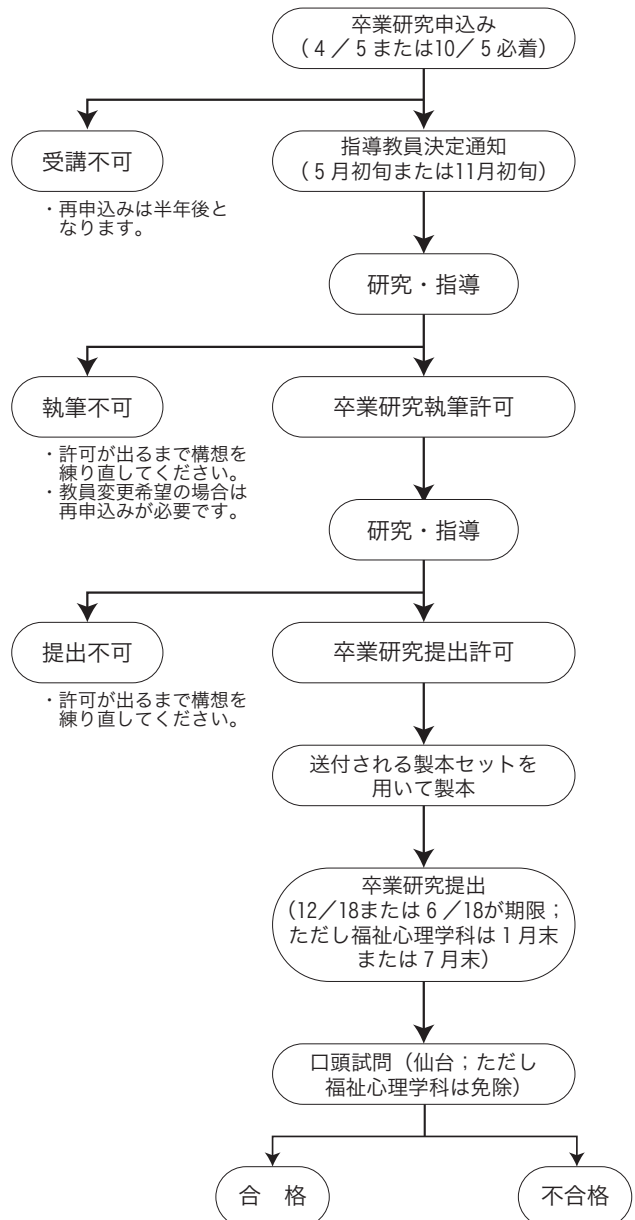
② 研究を進める

研究を進めるプロセスとしては、①文献研究、②データ・資料の収集・分析、③執筆などが考えられますが、指導教員の指導を十分に受けてください。研究・執筆の過程で、最低限2回の面接指導、3回の通信指導を受けることが必要です。ただし面接指導の回数が2回より多くなる場合は、通信指導はその分減らすことができます。

なお、口頭で構いませんので指導教員から、執筆の前には卒業研究執筆許可を、提出の前には卒業研究提出許可をもらうようにしてください。

また、調査やインタビューなどを実施する前には、必ず指導教員の上承を得る必要があ

—— 申込以降の流れ ——



ります。福祉心理学科の場合は、指導教員の了承を得たうえで、調査に協力をいただく機関ないし個人に「調査依頼状」を提出してください。「調査依頼状」の書式見本は、『福祉心理学科 スタディガイド』第1版p.135、第2版p.165、第3版p.194に掲載されています。ご自身で作成した「調査依頼状」に指導教員の署名・捺印をいただいたうえで、ご自身で調査依頼先に提出してもらいます。なお、書式フォーマットを希望される方は通信教育部卒業研究担当までご連絡ください。

(1) 通信指導（3回以上）

通信指導は、卒業研究の進行状況に応じたレジュメ（要旨・要約）などを作成・提出することにより指導教員に指導を受けるものです。指導は、一般的には通信教育部事務室経由で郵送で行っていただきますが、指導教員によっては学生－教員間で直接やりとりを行っていただきます。

また、指導教員の許可があればスカイプなどのWeb会議システムを利用した指導を受けることも可能です。なお、Web会議システムを利用した指導の場合、面接指導に替えることもできます。希望者は、卒業研究係までメールでご相談ください（電子メールアドレス ua@tfu-mail.tfu.ac.jp）。

(2) 面接指導（2回以上）

面接指導は、担当教員と直接会い、指導を受けるものです。原則として、本学の演習室か教員研究室で行います。面接指導には、事前の申込みが必要です。申込みは、(1)通信教育部事務室経由で行う場合、(2)指導教員と直接相談して決めていただく場合があります。

通信教育部事務室経由で行う場合は、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「面接指導」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお申込みください。同様の内容を記入していただいて、電子メールでの申込みも可能です。

■到達目標

- 1) 卒業研究のテーマを見つけることができる。
- 2) テーマに関連した文献をレビューできる。
- 3) 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。
- 4) 仮説を立てることができる。
- 5) 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。
- 6) 結果について統計処理ができる。
- 7) 考察を行い、論文としてまとめることができる。

■在宅学習30のポイント（通信指導3回以上・面接指導2回以上の受講は必須）

回数	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	関心のあるテーマで、研究として成り立つものを設定する。
2	文献の収集① 先行研究	テーマに沿った先行研究を探す。
3	文献の収集② 文献検索	テーマに沿った文献を、インターネットで検索し収集する。
4	文献の整理① 項目整理	収集した文献の内容を項目ごとにまとめカード化する。
5	文献の整理② 全体把握	カードについてKJ法などを用いて全体性をつかむ。

回数	テーマ	内容
6	再度文献の収集	不足している文献の収集を行う。
7	再度文献の整理	付け加えた文献の整理を行う。
8	文献のレビュー	整理した文献についてのレビューを行う。わかっていることとわからないことを確認する。
9	研究の目的	研究の目的を決定する。
10	独立変数と従属変数	独立変数と従属変数の関係について検討する。
11	仮説の生成	研究で明らかにしたいことを踏まえた仮説を設定する。
12	研究の整合性	研究の整合性が保たれているか、検討を行う。
13	統計の方法	どのようにして統計処理を行うか、具体的に検討する。
14	尺度の設定	どの尺度を使用するかを検討と決定を行う。
15	質問紙作成に向けてのチェック	ここまでの工程を振り返り、不備がないかどうかの確認作業を行う。
16	質問紙の作成	実際に質問紙を作成する。
17	質問紙の最終チェック	調査のための質問紙に不備がないかどうか最終チェックを行う。「調査依頼状」の作成・提出。
18	アンケートの実施	本調査を実施する。調査を依頼するときの配慮や依頼の仕方に十分注意すること。
19	データの入力	調査データを間違えのないよう入力する。
20	データの分析	入力したデータを統計分析する。
21	結果の整理	分析の結果を整理する。
22	仮説の検討	結果を元に仮説が妥当かどうか検討する。
23	卒論の執筆準備	構成として先行研究のレビューを行う。
24	卒論執筆① 目的・仮説	目的、仮説を書く。
25	卒論執筆② 方法	方法として、対象、質問紙の構成、調査の実施の手続きを書く。
26	卒論執筆③ 結果	結果にどのような統計分析を行ったかについても書く。
27	卒論執筆④ 図表	図表を作成する。
28	卒論執筆⑤ 考察	仮説についての考察を行う。予防や援助につながる点からの考察を望む。
29	卒論執筆⑥ 文献	引用文献、要約、資料などについて、書き方にしたがってまとめる。
30	卒論完成	論文をしっかりと通読し、最終の推敲を行ったうえで提出する。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、手順が異なります。

■在宅学習の留意点

- 1) 卒業研究の取り組みは、原則として、自分なりの取り組んだ時間が学習になる。
- 2) 卒業研究の執筆方法のための参考文献をよく読むこと。
- 3) テーマに関連した文献を最低でも30以上読むこと。
- 4) 独立変数と従属変数との関係から、仮説を立てること。
- 5) 研究の流れを考え、どのような統計分析を使うかを見極めること。
- 6) あせらないためにも、早め早めの取り組みを行うこと。
- 7) 図表や引用文献の書き方を習得しておくこと。
- 8) 研究全体を通して倫理には最大限の配慮を行うこと。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、留意事項が若干異なります。

■卒業研究 評価基準

提出された卒業研究をもって行う。

■提出の方法

- (1) 400字詰原稿用紙で50枚以上100枚以内の分量が必要です。もちろん卒業研究としてふさわしい論文の内容でないと合格することはできません。
- (2) パソコンの場合は、下記のスタイルに統一してください。
 - ・ A 4判の用紙ヨコ書 左右40字×天地30行 マージン上下左右各30mm
 - ・ 文字サイズは本文10.5ポイントを原則としてください。見出しは、適宜大きいポイントにしたり、太字にしてください。
- (3) ページ数を頁下部に記入または印字してください。
- (4) 本文以外に、論文のスタイルにそって①目次や②注または引用・参考文献などをつける必要があります。
- (5) 3月卒業希望者の論文提出締切は12月18日（ただし福祉心理学科は1月末）、9月卒業希望者の論文提出締切は6月18日（ただし福祉心理学科は7月末）前後となり、1～2月、7～8月の口頭試問に合格することが必要です（福祉心理学科は口頭試問なし）。提出の際の「製本」仕様については受講者にご案内します。なお、論文は正副あわせて2部提出していただきます。
- (6) 論文は本学通信教育部事務室などで公開されます。プライバシー侵害などのないようにし、個人情報の記載は行わないでください。

■卒業研究の受講条件

- (1) 正科生・4年生以上で、受講申込締切日（4/5 or 10/5）までに、卒業見込となる単位数（1年次入学者は90単位以上、2年次編入学者は60単位以上、3年次編入学者は28単位以上）を修得済みであること。
- (2) 自身で研究したいテーマがあり、論文の構想が申込み時に作成できていること。指導教員は、希望する研究テーマにもとづき大学側で決定されます。

- (3) 執筆の過程で、最低2回以上の面接指導、3回以上の通信指導を受けられること。
- (4) 福祉心理学科で「卒業研究」を受講するためには、下記①～③の条件を満たす必要があります。
- ① 受講申込締切日までに「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「統計情報を見る眼」の単位が修得済であること。
 - ② 実験・研究法・特講科目・S科目を除く福祉心理学科 専門必修科目・専門選択科目A群の16科目のうち10科目以上の単位を修得しているか、学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済orスクーリング受講済）していること。
 - ③ 「卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。
- ※2018年度入学者が2019年度に卒業研究を受講するための条件②は、福祉心理学科 専門必修科目、専門選択科目A群から「心理学実験ⅠA・ⅠB」「統計情報を見る眼」の3科目を含む15科目以上の単位修得とします（ただし、S科目は含まれない）。条件③は上記と同様です。条件①については、自身で「心理学研究法」「心理学統計法」を学習しておく必要があります。
- ※2020年度以降に卒業研究を受講するための条件は、2019年度の『レポート課題集』でご案内します。

■福祉心理学科・卒業研究ガイダンス

福祉心理学科で卒業研究の受講を考えている方を対象に、事前に2回の「卒業研究ガイダンス」を行っています。なお、以下のガイダンスに出席したから必ず「卒業研究」に取り組まなければならないということはありません。

※卒業研究指導教員とガイダンス担当教員は異なる場合があります。

(1) 卒業研究第1回めガイダンス

卒業研究の概要について説明されるものです。この内容は、「TFUオンデマンド授業」視聴の要領で自宅のパソコンで視聴することができます（科目名「福祉心理学科・卒業研究ガイダンス」）。また、「心理学研究法Ⅱ」スクーリング開講日1日目講義終了後などにビデオ視聴することができます。第1回めガイダンスの受講申込みは不要です。

(2) 卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）

3年生以上の方が、希望するテーマをもとに教員と個別、または少人数のグループで相談するものです。

第2回めガイダンス（事前個別相談）は、毎年3・8・12月ごろに実施します。第2回めガイダンスは、下記の要領で申込みが必要です。

・卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）の申込方法

卒業研究第2回めガイダンスは、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「ガイダンス」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAX（FAXで返信可の場合のみ）または郵送でお申込みください。同様の下記の内容を記入していただき、卒業研究係あての電子メールでの申込みも可能です（電子メールアドレス ua@tfu-mail.tfu.ac.jp）。

メールの件名 卒業研究2回めガイダンス申込み

メール本文 下記①～⑩を箇条書きに記入してください。

- ① 卒業研究 2 回めガイダンス申込み
- ② 氏名
- ③ 学籍番号
- ④ 住所
- ⑤ 連絡先電話番号・FAX・携帯番号
- ⑥ 電子メール アドレス
- ⑦ 卒業研究で取り組んでみたいテーマ（簡単で可）
- ⑧ 希望日時（期間内ですできるだけ多くの候補をあげてください）
- ⑨ 希望教員の有無（ない場合はなしで可。ある場合は第 1 希望・第 2 希望）
- ⑩（あれば）質問

・卒業研究第 2 回めガイダンス（事前個別相談）の実施期間および申込締切日

申込締切日	連絡予定日	第 2 回めガイダンス期間
7 月第 1 月曜日必着	7 月 20 日すぎ	8 月 1 ～ 25 日ごろ
11 月第 1 月曜日必着	11 月 20 日すぎ	12 月 1 ～ 25 日ごろ
2 月第 1 月曜日必着	2 月 20 日すぎ	3 月 1 ～ 25 日ごろ

■社会福祉学科 卒業研究ガイダンス

社会福祉学科の方のための全体ガイダンスもTFUオンデマンド授業の方法（名称「卒業研究ガイダンス」）で視聴が可能です。

社会福祉学科の方で、取り組んでみたいテーマはあるが研究方法がわからないなどご質問・ご相談のある方は、(1)学籍番号、(2)氏名、(3)卒業研究テーマ、(4)質問内容を記入し、郵送・FAX・電子メールなどの書面で通信教育部までお問い合わせください（電子メールアドレス ua@tfu-mail.tfu.ac.jp）。

■諸注意

卒業研究を途中で断念する場合は、通信教育部または指導教員まで文書にて（様式自由）ご連絡ください。

卒業研究は 1 年で終えなくても継続して取り組むことができます。

卒業研究を「科目等履修生」として履修することはできません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

大学での学修の総まとめとして、ディプロマポリシーに示されている力すべてを身につけるように取り組んでほしい。

■参考図書

1) 論文執筆全般に関するもの

吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第 2 版）』ナカニシヤ出版、

2004年

新堀聡著『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』同文館出版、2002年
慶應義塾大学通信教育部編『卒業論文の手引<新版>』慶應義塾大学出版会、2003年
山田剛史・林創著「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房、2011年
白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年
奥田統巳ほか著『読みやすく考えて調べて書く（第2版）』学術図書、2003年

2) 社会福祉学関連

川村匡由著『福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規出版、2002年
久田則夫著『ノリさんの楽々レポート作成術』大揚社、1995年
平山尚ほか著『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003年
斎藤嘉孝著『社会福祉調査 ワードマップ』新曜社、2010年
立石宏昭著『社会福祉調査のすすめ』ミネルヴァ書房、2005年
畠中宗一・木村直子著『社会福祉調査入門』ミネルヴァ書房、2004年
岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣、2006年
鈴木庄亮ほか著『保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方 [改訂第2版]』南江堂、
2006年

3) 歴史学関連

歴史科学協議会編『卒業論文を書く』山川出版社、1997年

4) 心理学関連

「福祉心理学科 卒業研究作成のしおり」の文献欄参照（『福祉心理学科スタディ・ガイド』所収）
新しいものとしては、下記の書籍がある。

板口典弘・山本健太郎著『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで（ステップアップ心理学シリーズ）』講談社サイエンティフィック、2017年
小塩真司・宅香菜子著『心理学の卒業研究ワークブック』金子書房、2015年
松井豊著『心理学論文の書き方（改訂新版）』河出書房新社、2010年
都筑学著『心理学論文の書き方』有斐閣アルマ、2006年
杉本敏夫著『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社、2005年

※統計の基礎を学ぶものとしては、下記の書籍がお勧めです。

櫻井広幸・神宮英夫著『使える統計 Excelで学ぶ実践心理統計』ナカニシヤ出版、2003年
吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年
B. ファインドレイ著『心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで』北大路書房、1996年
岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
浦上昌則・脇田貴文著『調査系論文の読み方』東京図書、2008年
近藤宏ほか著『Excelでかんたん統計分析』オーム社、2007年

福祉心理学科 卒業研究指導教員一覧（五十音順）

『 』内は過去の指導論文タイトルの一例。

△＝主として大学院の修士論文の指導を行う教員

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
大 関 信 隆	発達障害・認知機能に関する実験心理学的研究 情動・ストレスに関する実験心理学的研究 『通園施設における園内活動が養育者の心理的变化に及ぼす効果に関する研究』、 『音楽を媒介した知的発達障害に伴う自閉症者支援の可能性に関する研究』
河 地 庸 介	実験心理学、認知心理学、脳科学
菊 池 陽 子	臨床心理学 『言語表記方法変更に伴う視覚的の文字イメージの差異－「がん・癌」「かぜ・風邪」の2疾患による文字イメージの考察』
佐 藤 俊 人	主として乳児期から青年期までを対象とし、その発達や心理に及ぼす環境の影響について調査、実験を通して検討します。 『成人のストレス対処についての研究～「癒し」の視点から～』、『冬のソナタ』と韓流ブームとの社会的な要因・背景を探る』
清 水 めぐみ	臨床心理学、深層心理学、心理療法に関する卒論の指導を行います。 『難聴者における難聴の程度及びアサーティブネスと「健聴者の世界との葛藤」の関係についての研究』
白 井 秀 明	「教えること」「学ぶこと」「動機づけ」に関わる分野 『青年期における父親への抵抗の表出と心理的離乳との関係－父親の態度との関連から－』、『看護教員初年度における小児看護学実習指導に関する一考察～看護実践を学ぶためのよりよい実習過程の実現に向けての取り組み～』、『看護師の自我同一性及び自律性の発達と終末期患者の自己決定に対する援助傾向の認識の関係について』、『看護師が抱く看護肯定感と看護職を続けていくうえでの支えに関する調査』、『学習行動の主体性に及ぼす学習動機と内的矛盾の感性の影響』、『フィンランドの教育について～子どもたちの心の中で何が起きているのか～』
内 藤 裕 子	学校保健、臨床心理学
中 村 修	発達心理学、健康心理学分野 『福祉系大学1年生における福祉職の選択意思に及ぼす福祉体験の影響～大学入学前の福祉体験と入学後の実習体験を中心に～』、『働く人々の生きがい感に影響を与える要因－成人期初期を対象として－』
中 村 恵 子	学校心理学・カウンセリング分野 『社会人学生の自ら学ぶ意欲とワーク・エンゲイジメントの関連』 『青年期と成人期における自尊感情と対人ストレスイベントおよび精神的回復力との関連』
半 澤 利 一	犯罪心理学・家族心理学分野（非行、家族、思考と感情、心理査定、心理社会的支援）
平 川 昌 宏	生涯発達心理学、発達臨床分野 『保育経験年数が保育観と保育場面における働きかけに及ぼす影響～保育専攻学生及び保育経験の異なる保育者間比較を通じた検討～』

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
皆川 州 正△	<p>青年心理学、家族心理学、臨床心理学（適応やパーソナリティに関する分野を含む）の領域の実証的研究</p> <p>『非合理的なものへの関心と精神的健康に関する研究』、『自己受容の要因についての研究—達成動機・ソーシャルサポートとの関連を中心として—』、『秋田県の自殺率ワースト1 更新の要因を探る』、『宗教意識と生きがい感の関連—大学生と成人の比較を通して—』</p>
山口 奈緒美	<p>社会心理学分野（寛容性、対人葛藤、葛藤解決）</p> <p>『文化的自己観の違いが対人葛藤場面における罪悪感喚起に及ぼす影響』</p>
吉田 綾 乃	<p>社会心理学分野（自己、対人行動、集団行動など）</p> <p>『成功体験の意味づけと振り返りが自己及び他者への肯定的感情に及ぼす影響—在米高校生の組織キャンプにおけるリーダー経験に基づく検討—』、『職場の復職支援のあり方に関する研究：職場復帰において管理職が考える支援と復職者本人の職場に対する期待感のずれに着目して』、『社会人の友人関係と社会適応の関連性について：内面的類似性・対人コンピテンスの観点から』、『援助者の依存性と共感性および被援助者のライフストーリーの有無が援助行動に及ぼす影響』、『社会人のナショナル・アイデンティティ、関係効力感と差別意識の関連性について』ほか</p>
渡部 純 夫	<p>臨床心理学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院臨床…病院における心理療法のあり方と効果 カウンセリング技法 ・学校心理学…スクールカウンセリングの枠構造 チームアプローチの効果的技法 ・芸術療法…箱庭療法、描画療法 <p>『心身の健康に及ぼす主観的健康統制観について』、『高校生における親に対する信頼感に関する研究—基本的信頼感及び対人的信頼感に関連して』、『集合同一化と対人ストレスの相関関係について』、『高校生の風景構成法を通じた不登校傾向』</p>

特講・福祉心理学

●特講科目のスクーリング

特講科目は、原則として同じ科目は次年度以降開講いたしません（一部隔年開講をしている科目があります）。

科目名	開講日	履修・申込 (取消)締切	受講料 納入期限
特講・福祉心理学 4 (スクール・カウンセリング)	2019. 2/16・17	12/24	2019. 1/9
特講・福祉心理学 5 (自分さがしの心理学)	10/20・21	8/22	9/5
特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)	11/23・24	10/24	11/14
特講・福祉心理学17 (認知行動療法)	11/3・4	8/22	9/5

特講科目と他の科目とで手続きが異なる点は、2016年度より下記2点となります。

●締切日までに取消連絡をすれば特例で履修取消が可能

スクーリングに出席できない方は、上記に定めるスクーリング申込締切日前ならば、履修登録の取消が可能です。取消を希望される方は、書面（メール・FAX・郵送）でご連絡ください。ただし、超過履修費を納入したことがある方は原則として履修取消はできません。

●教科書がある科目はスクーリング受講料納入後に送付

履修登録・スクーリング申込み後、スクーリング受講料を期限までに納入した方に発送いたします。履修登録時には発送いたしません。

特講・福祉心理学 4 (スクール・カウンセリング) ~2017		科目コード	FT2604
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S	1 年以上	中村 恵子

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※この科目は2019年2/16・17の仙台会場のスクーリング受講が必要です。受講希望者は12/24までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

※2019年度以降はこの特講科目は開講されず、2017年度以前入学者が同様の内容を学びたい場合は「教育・学校心理学B(学校心理学)」(p.162参照)の履修が可能になる予定です。2018年度までのこの特講科目の単位修得者が「教育・学校心理学B(学校心理学)」を履修した際のスクーリング合格成績の移行などの扱いは決まり次第、『With』などでご連絡します。

■スクーリングで学んでほしいこと

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム援助が求められる時代になりました。本講義では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例から学校不適応によって生じる問題と、その適応支援の方法論を学びます。

■到達目標

- 1) 教育現場において生じる問題を説明できる。
- 2) 教育現場において生じる問題の背景を説明できる。
- 3) 学校適応条件を説明できる
- 4) 学校不適応の子ども支援の方法を説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	教育現場において生じる問題とその背景	不登校の増加と長期化およびその課題
2	教育臨床に有効なカウンセリング技法	発話を促す基本技法
3	教育臨床に有効な集団援助技法	対人関係ゲームの理論と演習
4	学校適応に求められる要因	学校適応の条件
5	学校適応に求められる発達課題	愛着形成～嫉妬形成～母子分離
6	学校不適応の理解	不登校事例の問題分析
7	学校不適応への援助方法	不登校事例の介入計画作成
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。
- ・授業では事例を提示し、グループでのディスカッションを中心に読み解きます。

■スクーリング 評価基準

- ・とくに学校適応条件についての理解を問います。(教科書・配付資料持込可)
- ・授業への参加態度30%+スクーリング試験70% (論述式)

■スクーリング時の教科書

中村恵子編著『学校カウンセリングー問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション 第2版』ナカニシヤ出版、2011年 は必ず持参してください。

※教科書はスクーリング受講料納入後に送付します。

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：3～10時間)

教科書の1章～3章は読んできてください。(学習時間の目安：3～10時間)

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：20～28時間)

下記および授業で提示される参考図書を学習してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

教育臨床では、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

田上不二夫著『不登校の子どもへのつながりあう登校支援：対人関係ゲームを用いたシステムズ・アプローチ』金子書房、2017年

水野治久・石隈利紀他著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013年

田上不二夫著『実践 グループカウンセリングー子どもが育ちあう学級集団づくり』金子書房、2010年

小林正幸著『事例に学ぶ不登校の子への援助の実際』金子書房、2004年

特講・福祉心理学 5 (自分さがしの心理学)			科目コード	FT2605
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S	1 年以上	菊住 彰	

※この科目は10/20・21の仙台会場のスクーリング受講が必須です。受講希望者は8/22までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

皆さんは自分がどういう人間なのか、よくご存知でしょうか。どんな性格を持ち、他者からもそれを認められているでしょうか。長所を短所と思い込んでいませんか。この講義では心理テストを多用し、皆さん自身が被験者となって、自己イメージを客観的に明らかにしていきます。自立性、責任感、外向性、対人関係の特性、家族観など、心の様相が浮き彫りになってくることでしょう。思考や行動、人間関係のパターンを確認し、自分らしさを自覚することによって、自己実現のヒントを得る。それがこのスクーリングの目的です。

■到達目標

- 1) 自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。
- 2) 対人関係を築くうえで改善していく目標を、3つあげることができる。
- 3) 自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	主観的自己像と客観的自己像①	他者は自分をどう見ているかを知る
2	主観的自己像と客観的自己像②	自己イメージは本当に正しいかを確認する
3	ものの見かたの癖と個人差①	思い込みや決め付けの強さを再認識する
4	ものの見かたの癖と個人差②	“常識”は十人十色であることを知る
5	対人関係のパターン①	他者と関わる時の自己流のルールに気付く
6	対人関係のパターン②	快適で安心な交わりかたを考える
7	自分らしさの発見	自分を好きになるヒントを探す
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

心理テストを使った自己分析などは座学で行いますが、身体感覚や使い方の特徴を知るワークや、簡

単なロールプレイを通して第三者の目に自分がどう映るかなどの客観的なイメージを知るワークを行ったりもします。見る・聞く・話すを、それぞれ多用する講義とお考えください。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）

■スクーリング時の教科書

レジュメと心理テストをスクーリング中に配布するので、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

特別な予習は必要ありません。座学だけではなく、グループワークをたくさん行いますので、新しい仲間との対話を楽しむ心のゆとりをもって参加してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で知り得た自分の長所を、実際の生活で生かす努力を続けてください。また、短所が繰り返して表出しないように、これまで常習化していた思考や行動のパターンを崩す工夫を試みてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授

特講・福祉心理学 8 (ストレスとつきあう心理学)			科目コード	FT2608
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S	1 年以上	菊住 彰	

※2018年度は開講しませんが、2019年度に開講する可能性が高いため、掲載いたします。

※2019年度に開講する場合は、履修登録は2019年2月から可能となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きなくてはいけないのだろうと嘆く方。どうせストレスなんかなくなると耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもったり、燃え尽き（バーンアウト）症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事する方だけでなく、日常の生活ストレスに悩んでいる方にも、気付きと対処スキルを得ていただければと願っています。

■到達目標

- 1) ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。
- 2) 人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも3つあげることができる。
- 3) ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を3つ以上持つ。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	ストレス概論	ストレスと「つきあう」とは
2	リラクゼーション	ストレスを抱えた身体の状態に意識を向ける
3	性格と行動のチェック①	落ち込みや燃え尽きやすさを知る
4	性格と行動のチェック②	認知や行動のパターンを知る
5	人間関係のスキルアップ①	想いを伝えるコツを学ぶ
6	人間関係のスキルアップ②	適切な距離感を保つ
7	五感の活性化	右脳を使って取り越し苦労をやめる
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・ストレスを自己増幅してしまう思考パターンに気付き、その循環に歯止めをかける方法を考えていきます。その際に、座学による講義だけではなく、グループワークやロールプレイを取り入れます。
- ・理論や知識ばかりでなく、身体に働きかける対処法を体験していただきます。座ったり寝転んだりしやすい服装でご参加ください。フロアに寝転ぶこともありますので、ビニールシートをご用意ください。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング申込者に送付予定のチェックリストを事前に記入して、自己採点をしたうえで、講義当日にお持ちください。また、それらを含めて、第1章の1～3節と、第3章の1節は読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活で使ってみなければ、参加してくださった意味がありません。少しずつでも取り入れる努力を続けてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授

特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)			科目コード	FT2609
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S (講義)	1 年以上	田中 究	

※この科目は11/23・24の仙台会場のスクーリング受講が必要です。受講希望者は10/24までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

多くの心理療法や心理学は「個人」をベースとしますが、コミュニティ心理学は「個人とコミュニティ、システムとの関わり」に関心を持ちます。ですから、専門家であってもコミュニティの一員としてできることはなにか?と考えてアプローチします。本スクーリングでは、個人と環境をセットでとらえるコミュニティ心理学独自のスタンスについて、基礎的な理解を目ざしたいと考えています。

■到達目標

- 1) コミュニティ心理学の特色を説明できる。
- 2) コミュニティ心理学の発想は心理療法や心理的支援においてどのように活かされているか説明できる。
- 3) コミュニティ・アプローチと伝統的な個人心理療法の差異について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	イントロダクション	コミュニティ心理学と伝統的個人療法の比較
2	コミュニティ心理学の歴史	コミュニティ心理学の歴史と特徴
3	危機介入	危機介入の理論と方法
4	コンサルテーション	コンサルテーションの理論と方法
5	予防とネットワーキング	予防とネットワーキングの理論と方法
6	システムへのブリーフ・アプローチ	システムの視点とブリーフセラピーの活用
7	コミュニティ・アプローチの実際	スクールカウンセリング等における活用例
8	質疑応答	講義内容についての質疑応答
9	スクーリング試験	講義内容の理解度を問う試験

■講義の進め方

配付資料をもとに穴埋め作業をしながら進めます。板書、パワーポイントなどを用います。

■スクーリング 評価基準

授業へ参加の程度50%+スクーリング試験50%（持込可、論述式）

スクーリングへの参加度と最終時限に実施する試験結果とをあわせて総合的に評価します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

下記参考図書を読了後に授業にのぞむと、授業内容がよりよく理解できると思います。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付資料、参考図書等を用いてさらに理解を深めてください。また関心領域の自己学習や講義内でふれるアプローチの各論に目を向けてもいいでしょう。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

山本和郎著『コミュニティ心理学』東京大学出版会、1986年

特講・福祉心理学17 (認知行動療法)			科目コード	FT2617
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S (講義)	1年以上	中村 恵子	

※この科目は11/3・4の仙台会場のスクーリング受講が必要です。受講希望者は8/22までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

■スクーリングで学んでほしいこと

認知とは、ものごとに対する個人の解釈です。行動とは、刺激や解釈に対する反応です。認知行動療法では、不適応は問題行動によって起きるので、それを引き起こしている誤学習を修正すれば問題が解決するはずだと考えます。この授業では、不適応場面での問題行動をとらえ、その背景にある認知と行動の分析方法および誤学習の解除について学びます。

■到達目標

- 1) 認知とは何か説明できる。
- 2) 行動とは何か説明できる。
- 3) 学習行動について説明できる。
- 4) 誤学習について説明できる。
- 5) 誤学習の解除について説明できる。
- 6) 認知行動療法について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	行動療法の誕生	学習行動の発見、行動療法の開発
2	認知療法の誕生	行動の背景にある認知への注目
3	認知行動療法のなりたち	誤学習とその解除
4	行動分析	問題行動の同定と悪循環の構造
5	スキーマ(認知)分析	問題行動の背景にある認知の歪み
6	認知行動療法の実際①	不安に対する認知行動療法
7	認知行動療法の実際②	神経症に対する認知行動療法
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、具体的な事例の解説やグループワークを行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%+スクーリング試験70%（持込可）。

試験では、とくに機能分析とスキーマ分析についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに本を読んだり学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～30時間）

授業での配付資料や講義内容を基に、自分自身の問題行動を一つあげてください。そして、その機能分析とスキーマ分析を行い、誤学習の解除を試みてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

大野 裕著『はじめての認知療法』講談社現代新書、2011年

坂野雄二監修『60のケースから学ぶ認知行動療法』北大路書房、2012年

大野 裕監修・今谷鉄柱漫画『マンガでわかりやすい うつ病の認知行動療法—こころの力を活用する7つのステップ』きずな出版、2015年

玉井仁著、星井博文シナリオ制作、深森あき作画『マンガでやさしくわかる認知行動療法』日本能率協会マネジメントセンター、2016年

共通基礎科目・専門選択科目B群

「統計情報を見る眼」は心理学研究法を理解する上での基礎となる科目のため、ここにも掲載しています。

統計情報を見る眼			科目コード	DA3146・ AB1146
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR	1年以上	平川 昌宏	



※この科目は、2018年度より科目区分が変更されました。履修登録年度によって科目コードと科目区分が異なります。

2017年度以前履修登録者→科目コード：DA3146、科目区分：専門選択科目（B群）

2018年度以降履修登録者→科目コード：AB1146、科目区分：共通基礎科目

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2018年度の開講後は2020年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2018・2019年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。

本科目では、1) 統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、2) それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、3) 手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの3点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。

なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統

計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。

■到達目標

- 1) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。
- 2) データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。
- 3) 相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。
- 4) 統計的検定の思考法について説明できる。
- 5) 示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。

■教科書

神林博史・三輪哲著『社会調査のための統計学－生きた実例で理解する－』技術評論社、2011年
(最近の教科書変更時期) 2018年4月
(スクーリング時の教科書) スクーリングでは資料を配付します。上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価or科目修了試験40%

■参考図書

- 1) 青木繁信著『統計数字を読み解くセンス』化学同人、2009年
- 2) 飯田泰之著『考える技術としての統計学 生活・ビジネス・投資に生かす』日本放送出版協会、2007年
- 3) 大村 平著『統計のはなし (改訂版)』日科技連、2002年
- 4) 小島寛之著『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006年
- 5) ジョエル・ベスト著、林大訳『統計はこうしてウソをつくーだまされないための統計学入門』白揚社、2002年
- 6) 高橋信著『マンガでわかる統計学』オーム社、2004年
- 7) 谷岡一郎著『データはウソをつく』筑摩書房、2007年
- 8) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス、1968年
- 9) 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1999年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングは大きくは3つの内容から成り立っています。まず1つ目が「1つの変数の特徴を記述し、理解するための方法」についてです。ここでは、①変数を視覚化(グラフ化)し、その全体的な特徴

を理解することの重要性、②代表値と散布度で変数を記述することの重要性等について学びを深めてください。2つ目が「2つの変数の関係を理解し、変数間の関係を解釈する方法」についてです。ここでは、特に相関係数について、さらに、変数間の関係を解釈する際の留意点と多様な解釈の視点について学びを深めてください。そして、3つ目が「データの一般化」についてです。ここでは、特に統計的検定の考え方と手順について学びを深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	統計情報の有効性とその落とし穴	統計詐欺の3つのパターンを理解する。
2	1つの変数の特徴を記述する①	度数分布表による変数の特徴の把握。代表値によるデータの記述について学ぶ。
3	1つの変数の特徴を記述する②	データのばらつきを理解の重要性和散布度について学ぶ。
4	2つの変数の関係を記述する	相関関係と相関係数について学ぶ。
5	2つの変数の関係を解釈する	相関関係の多様な解釈について学ぶ。
6	データの世界から一般の世界へ	推測統計とサンプリングの重要性について学ぶ。
7	統計的検定	統計的検定の考え方、進め方について学ぶ。
8	まとめ	まとめとして、統計的思考の特徴について学ぶ。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

空欄穴埋め式の配付資料にそって、パワーポイントを提示しながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。(持込可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

皆さんの身の回りの統計情報について意識して目を向けるようにしておいてください。そして、スクーリングを受講した後で、その統計情報についての見方に変化があったかどうかを確かめていただきたいと思います。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	データと変数	「量的変数」と「質的変数」の違いについて学ぶ。	教科書第1章。変数の種類として「量的変数」と「質的変数」について理解してください。そして、身近な統計情報の中から「量的変数」と「質的変数」の具体例を幾つか挙げることで、理解を確認し、深めるようにしてください。
2	変数の特徴を分析しよう① 変数の分布とその視覚化(グラフ)	変数の特徴を理解する方法として「度数分布」とその視覚化(グラフ化)について学ぶ。	教科書第2章2-1～2-3。「度数分布」の理解が、変数理解の第1歩となります。また様々なグラフ(「ヒストグラム」など)の種類と(グラフで表現したいこと)との対応関係について、書籍や広告、インターネットで用いられるグラフを見直ししながら、理解を深めるようにしてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	変数の特徴を分析しよう② 変数の中心を理解する	量的変数の数値的な要約として「代表値」について学ぶ。	教科書第2章2-4・2-5。「代表値」として用いられる「平均」「中央値」「最頻値」がそれぞれどのような値なのかを整理してください。また、最も頻繁に用いられる「平均」について、その使用や解釈の際の留意点について説明できるように学びを深めてください。
4	変数の特徴を分析しよう③ 変数のばらつき	変数のばらつきを示す数値として「散布度」（特に「分散」と「標準偏差」）について学ぶ。	教科書第3章。特に、「分散」と「標準偏差」について、これらがどのような値なのかについて整理してください。また、データのばらつきを理解することの重要性について説明できるよう理解を深めてください。
5	変数の特徴を分析しよう④ 標準偏差の応用	標準偏差の応用の1つとして「標準化」について学ぶ。	データを「標準化」することの意義とその方法について整理してください。さらには、テストの結果を点数ではなく「偏差値」で表すことの意味について説明できるよう、学びを深めていってください。
6	変数の関係を分析しよう① クロス集計表	質的変数間の関係について理解する方法として、「クロス集計表」とその図示（グラフ化）について学ぶ。	教科書第4章（特に4-1~4-4）。「クロス集計表」について理解すると同時に、度数そのものではなく比率で分布を比べることの重要性について説明できるように学びを深めてください。
7	変数の関係を分析しよう② 平均値の比較と相関分析	質的変数と量的変数の関係、量的変数同士の関係について理解する方法について学ぶ。「相関係数」の特徴について学ぶ。	教科書第5章。特に、量的変数同士の関係について理解する方法（「散布図」による視覚化と「相関係数」による要約）について説明できるよう学びを進めてください。加えて、相関係数から2つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのか説明できるように学びを進めてください。
8	変数の関係をより深く考えよう① 見かけ上の関連	「因果関係」を解釈する際の基準、および、実際には因果関係はないが、統計上関係がみられる事象（「見かけ上の相関」・「擬似相関」）について学ぶ。	教科書の第6章6-1、6-2、第7章の7-5の1。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考に「擬似相関」の具体例をいくつか考えてください。なお、第8章では見かけ上の関連を考慮した統計分析の方法が紹介されています。難しい内容ですが、興味のある方は一読してみてください。
9	変数の関係をより深く考えよう② 媒介変数	原因と結果をつなぐものとして、「媒介変数」について学ぶ。	教科書の第6章6-3、第7章7-5の2。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考に「媒介変数」の具体例をいくつか考えてください。
10	変数の関係をより深く考えよう③ 交互作用効果	3つ以上の変数が組み合わさることで生じる複雑な因果関係の事象として「交互作用効果」について学ぶ。	教科書の第7章7-5の3。p.144の図7-5に「いろいろな交互作用のパターン」が図示されています。関連書籍やインターネットを参考に、これらのパターンに当てはまりそうな具体例を考えてください。
11	母集団と標本（サンプル）	「母集団」と「標本（サンプル）」の関係について学ぶ。また、「標本抽出（サンプリング）」の留意点について学ぶ。	教科書第9章。以降の学習において「母集団」と「標本（サンプル）」、および、その関係を理解することは大切になります。また、「9-2 誤った標本の危険性」を読み、「標本抽出（サンプリング）」の際の留意点について学びを深めてください。
12	部分から全体を知る① 推測統計とは	「記述統計」と「推測統計」のちがいについて学ぶ。また、「標準正規分布」について学び、「区間推定」の理論的背景を理解する。	教科書第10章。この回より学習の内容がさらに難しくなります。「推測統計」について、さらには、「区間推定」や「標準正規分布」について学び、推測統計の基本的な考え方について学びを進めてください。
13	部分から全体を知る② 統計的検定とは	「統計的検定」とは何か、また、「帰無仮説」と「対立仮説」について学ぶ。	教科書第11章11-1、11-2。「統計的検定」とは何か、さらには、その重要性について学びを進めてください。また、実際に統計的検定を行う上で重要となる「帰無仮説」「対立仮説」について説明できるよう学びを進めてください。
14	部分から全体を知る③ 統計的検定の手順	帰無仮説を棄却できるかどうかを確率的に判断する統計的検定の手順について学ぶ。	教科書第11章11-3、11-4、11-5。統計的検定の回りくどい手順について整理してください。また、「統計的に有意」とは何を意味するのかについて学びを深めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	部分から全体を知る④ 統計的検定の実際	幾つかの検定法について、その基本を学ぶ。	第12章・第13章。これらの章では「カイ2乗検定」「t検定」「分散分析」という3つの検定法が紹介されています。細かな数式までは理解しなくて良いので、各検定法の特徴、各検定法をどのようなときに用いるのかについて整理してください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	<p>以下の3つの設題から1題を選び、論じなさい。</p> <p>設題1 変数の中心を示す統計量として代表値があります。代表値について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 代表値として用いられる統計量として「平均」「中央値」「最頻値」があります。それぞれの値について説明し、性質の違いについて論じてください。 ii) 平均の使用・解釈の留意点について具体例を挙げて説明してください。その際、「外れ値」という用語を必ず用いること。 <p>設題2 2つの量的変数の関係を述べる際に相関という言葉が用いられます。相関について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 「正の相関関係」「負の相関関係」について具体例を挙げて説明してください。さらに相関係数の特徴について述べてください。 ii) 相関関係を解釈する際の留意点の1つとして「擬似相関」について具体例を挙げて説明してください。 <p>設題3 サンプルング（標本抽出）について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 統計学においてサンプルング（標本抽出）とはどのような手続きのことか、「母集団」と「標本（サンプル）」という言葉の説明し、論じてください。 ii) 標本抽出（サンプルング）の際の留意点について具体例を挙げながら説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

必ず3つの設題の中からどれか1つを選び、論述してってください。また、論述においてはi)とii)どちらも論じるようにしてください。

〈設題1について〉

「在宅学習15のポイント」の第3回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。まず、i)について取り組む中で、代表値として「平均」以外に「中央値」「最頻値」があること、それぞれが異なった性質を持ち、異なった観点から変数の中心を示してくれることについて理解を深めてください。

3つの統計値の中で、「平均」は最も使用頻度が高く私たちにとって非常になじみ深い統計値です。それゆえに、その特徴や留意点を理解した上でつきあっていく必要があると考えられます。ii)に取り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。具体例については、実際に「外れ値」が存在しており平均が変数の中心とは考えられない統計情報を挙げるか、自身で架空のデータを示し「外れ値」の有無によって平均の値が大きく変わることを説明するようにしてください。なお、以前スクーリングで「外れ値」について説明を行った際に、「私のボーナスの金額が報道されていた日本全体のボーナスの平均金額より低いことが納得できた」と感想に書いてくださった学生さんがいらっしゃいました。このような身近な事柄を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題2について〉

「在宅学習15のポイント」の第7回目・8回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。i)については、まず、「正の相関関係」「負の相関関係」について説明してください。具体例については「勉強時間の長さテストの成績」（「正の相関関係」の例：勉強時間が長ければテストの成績が良くなる）「鉛筆で書く字の数と鉛筆の長さ」（「負の相関関係」の例：書けば書くほど鉛筆は短くなる）などのように、「正の相関関係」や「負の相関関係」が成り立ちそうな事象を考え述べるようにしてください。さらに、相関係数についてはその算出の仕方や「共分散」について述べる必要はありません。相関係数から2つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのかという点について主に論じてください。

相関関係とは2つの変数に統計上関連があることを示すものであり、その関連が実質的に何を意味するかについては様々な観点から検討・解釈していく必要があります。ii)に取り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。擬似相関の具体例については、参考図書やインターネット等から探し論じるようにしてください。また、「ナマズが暴れると地震が起こる」のような民間伝承を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題3について〉

「在宅学習15のポイント」の第11回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。教科書のp.165に「母集団から標本を選ぶ方法が適切であること」と強調して書かれています。しかし、実際の調査においては標本を選ぶ方法やデータの偏りについて十分な検討がなされないまま、誤った主張がなされていることが少なくありません。レポート課題に取り組む中でその危険性について理解を深めると同時に、統計情報を理解、解釈する際に、標本抽出（サンプリング）の適切性やデータの偏りについて検討する視点を確かにしてもらえればと思います。具体例については、参考図書やインターネット等から選択バイアスの具体例を探し、論じるようにしてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験は論述式の試験を行います。「在宅学習の15のポイント」で「 」で書かれている専門用語、さらには、教科書の章の冒頭にあげられている「第○章のポイント」についての理解を問う問題を出題します。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかととまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問とは難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずですが、どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2018 C心理専門編

2018年3月1日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話 022-233-2211 <http://www.tfu.ac.jp>
印刷・製本 今野印刷株式会社

©Tohoku Fukushi University 2018 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複製複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

卒業研究ガイダンス・面接指導 申込書

FAX・電子メール可（郵送・FAXの場合はコピーして使用してください）

フリガナ 氏 名		学籍 番号	T
現住所	〒 ー	電話	
		FAX	
		携帯	
		Eメール	

■事前相談・2回目ガイダンス（指導教員決定前）

取り組んで みたいテーマ （簡単で可）			
第1希望	月 日（ ）	時間	： ～ ：
第2希望	月 日（ ）	時間	： ～ ：
第3希望	月 日（ ）	時間	： ～ ：
指導希望教員（あれば）	先生		

■面接指導（指導教員決定後）

教員指導	先生		
第1希望	月 日（ ）	時間	： ～ ：
第2希望	月 日（ ）	時間	： ～ ：

■連絡事項／相談・質問内容

(記入し ないで 下さい)	決 定 日	教 員	教員連絡	学生連絡	備 考
/	/				

B5版（またはA4版）用紙にコピーして使用してください

